

河南町
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
及び
在宅介護実態調査結果報告書



河南町のカナちゃん

令和3(2021)年3月

 **河南町**

目 次

I. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査方法	1
3. 回収状況	1
4. 報告書の留意点・見方	1
第2章 リスクの発生状況	2
1. 運動器機能の低下	2
2. 転倒リスク	4
3. 閉じこもり傾向	6
4. 低栄養状態	8
5. 口腔機能の低下	10
6. 認知機能の低下	12
7. うつ傾向	14
8. 生活機能全般の低下	16
9. IADL（手段的自立度）の低下	18
10. 知的能動性の低下	21
11. 社会的役割の低下	23
12. 生活機能総合評価の低下者	25
13. 事業対象者	27
第3章 調査結果	29
1. 回答者の属性	29
2. 家族や生活状況について	31
3. からだを動かすことについて	41
4. 食べることについて	51
5. 毎日の生活について	61
6. 地域での活動について	74
7. たすけあいについて	84
8. 健康について	99
9. 認知症にかかる相談窓口の把握について	108
第4章 資料編	111
1. 調査票	111

Ⅱ. 在宅介護実態調査

第1章 調査の概要	127
1. 回答者の属性	127
2. 調査の方法	127
3. 回収状況	127
4. 報告書の留意点・見方	127
5. 集計・分析における留意点	128
第2章 調査項目の集計結果（単純計算結果）	129
1. 要介護認定データ	129
2. 基本調査項目（A票）	135
3. 主な介護者の方用の調査項目（B票）	146
第3章 介護保険事業計画の策定に向けた検討（クロス集計結果）	151
1. 在宅限界点の向上のための支援	151
2. 仕事と介護の両立に向けた支援	160
3. 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源	174
4. 将来の世帯類型の変化に応じた支援	186
5. 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援	193

I . 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、高齢者の生活状況や保健・福祉に関するニーズを把握し、今後の高齢者保健福祉行政のより一層の計画的かつ効果的な推進と、令和3～5年度を計画期間とする次期高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定の基礎資料とするため、実施するものです。

2. 調査方法

調査対象者 : 町内在住の要介護認定（要介護1～5）を受けていない65歳以上の高齢者
対象数 : 1,000人 を無作為に抽出
調査期間 : 令和2年6月5日（金）～令和2年6月30日（火）
調査方法 : 郵送による発送・回収

3. 回収状況

図表 I-1-3-1 回収状況

発送件数			有効回収数	有効回収率
一般高齢者	要支援認定者	合計		
898	102	1,000	718	71.8%

4. 報告書の留意点・見方

- ・回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示しています。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方をしているため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

第2章 リスクの発生状況

1. 運動器機能の低下

下記の5設問について、3問以上該当する選択肢が回答された場合、運動器機能の低下している高齢者として判定しました。

図表 I-2-1-1 運動器機能の低下を判定するための項目

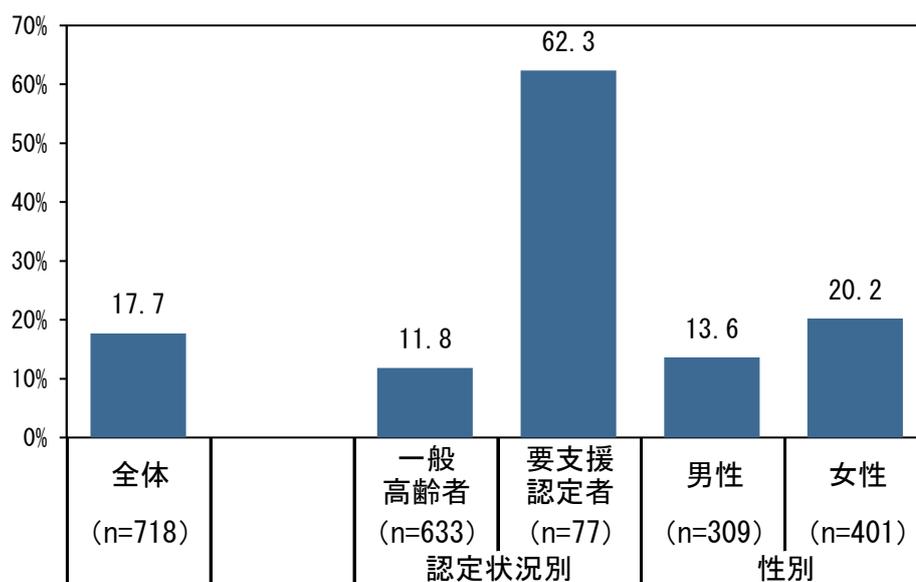
設問番号	設問	該当する選択肢
問2(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「3. できない」
問2(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「3. できない」
問2(3)	15分位続けて歩いていますか	「3. できない」
問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 「2. 1度ある」
問2(5)	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」 「2. やや不安である」

運動器機能が低下していると判定された高齢者の割合は、全体で17.7%となっています。

認定状況別でみると、該当者の割合は、一般高齢者が11.8%、要支援認定者が62.3%となっています。

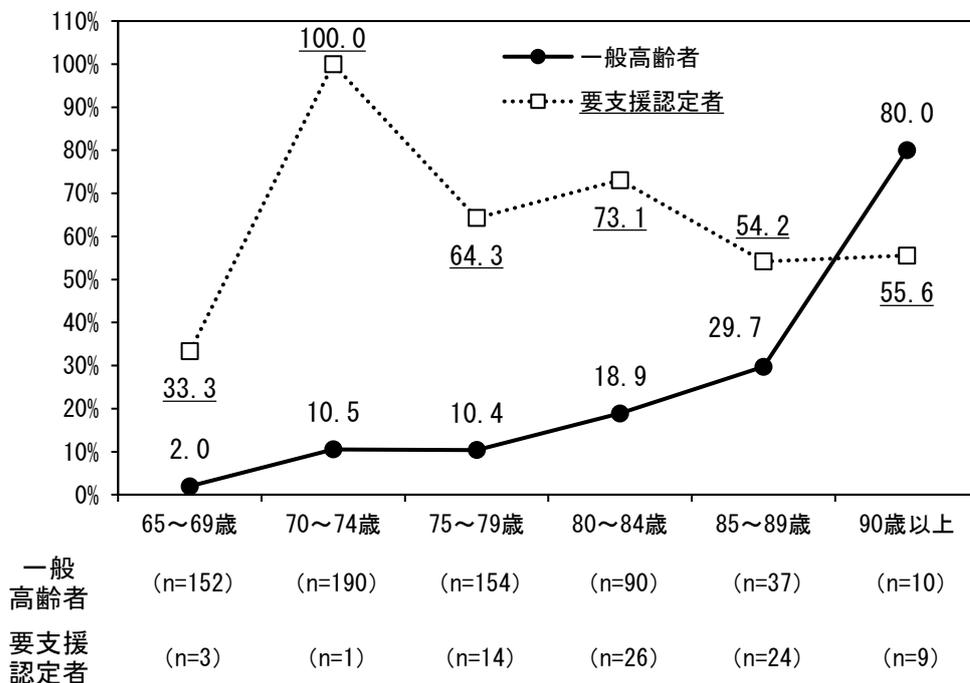
性別でみると、該当者の割合は、女性が20.2%で、男性(13.6%)よりも6.6ポイント高くなっています。

図表 I-2-1-2 運動器機能の低下 該当者の割合



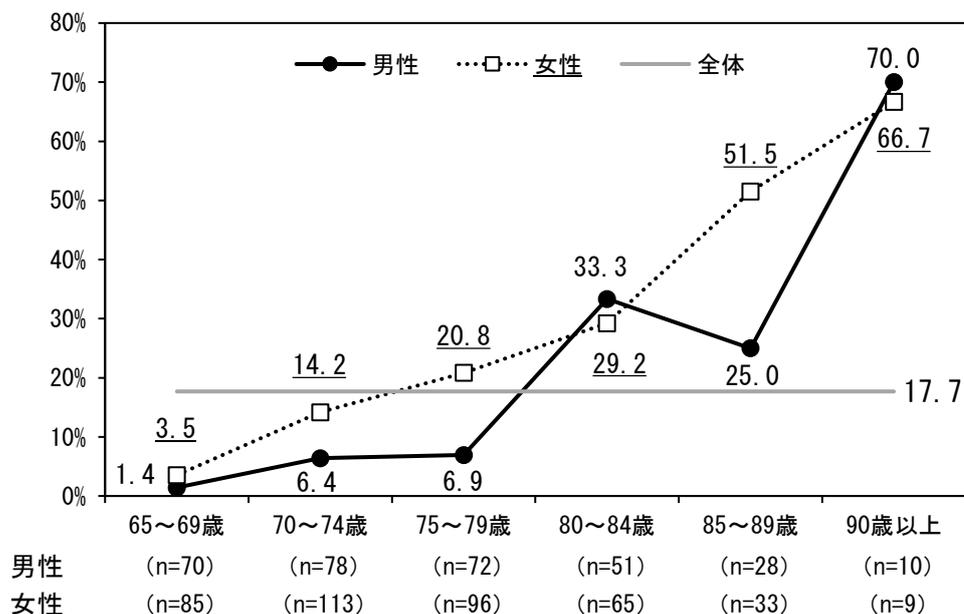
認定状況別・年齢別にみると、該当者の割合は、一般高齢者では年齢が上がるにつれて割合が概ね増加しており、90歳以上が80.0%で最も高くなっています。

図表 I-2-1-3 運動器機能の低下 該当者の割合 認定状況別・年齢別



性別・年齢別にみると、該当者の割合は、男性では85～89歳から90歳以上で大きく上昇しており、90歳以上が70.0%で最も高くなっています。また、女性では、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、特に80～84歳から85～89歳で大きく増加し、90歳以上が66.7%で最も高くなっています。

図表 I-2-1-4 運動器機能の低下 該当者の割合 性別・年齢別



2. 転倒リスク

下記の設問について、該当する選択肢が回答された場合、転倒リスクのある高齢者として判定しました。

図表 I-2-2-1 転倒リスクを判定するための項目

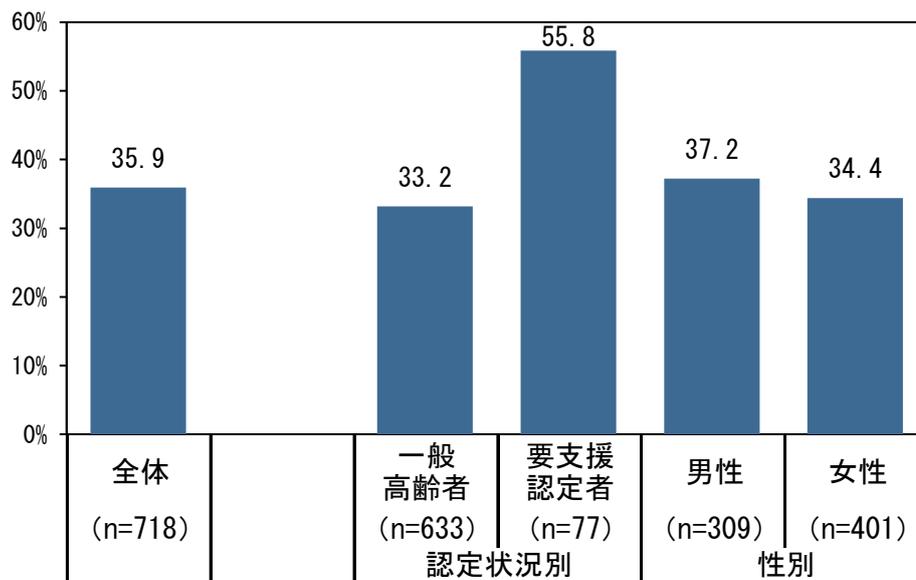
設問番号	設問	該当する選択肢
問2 (4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 「2. 1度ある」

転倒リスクがあると判定された高齢者の割合は、全体で35.9%となっています。

認定状況別でみると、該当者の割合は、一般高齢者が33.2%、要支援認定者が55.8%となっています。

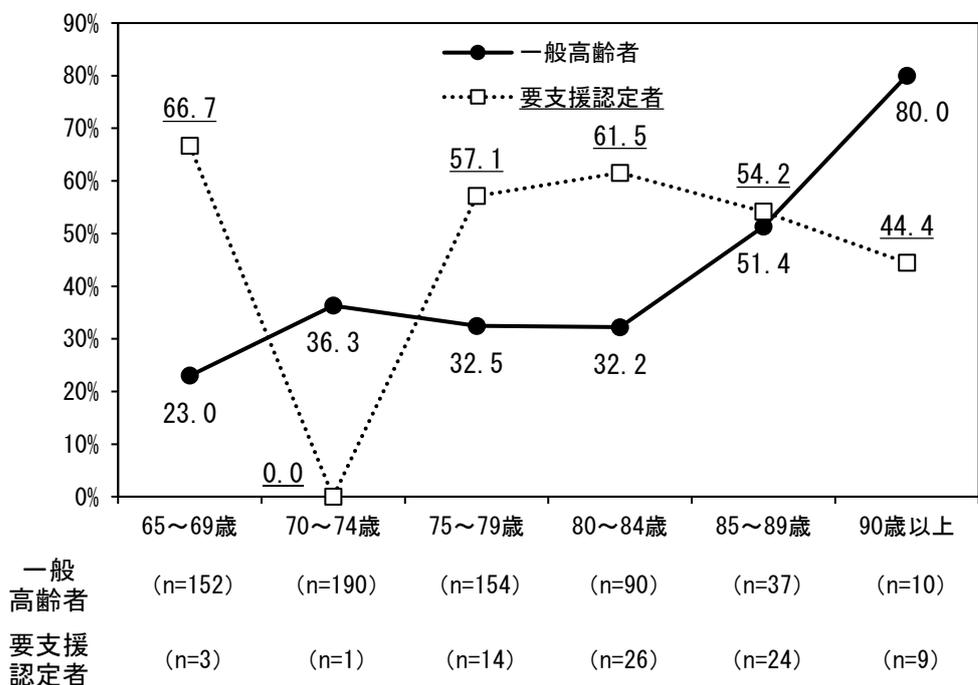
性別でみると、該当者の割合は、男性が37.2%で、女性(34.4%)よりも2.8ポイント高くなっています。

図表 I-2-2-2 転倒リスク 該当者の割合



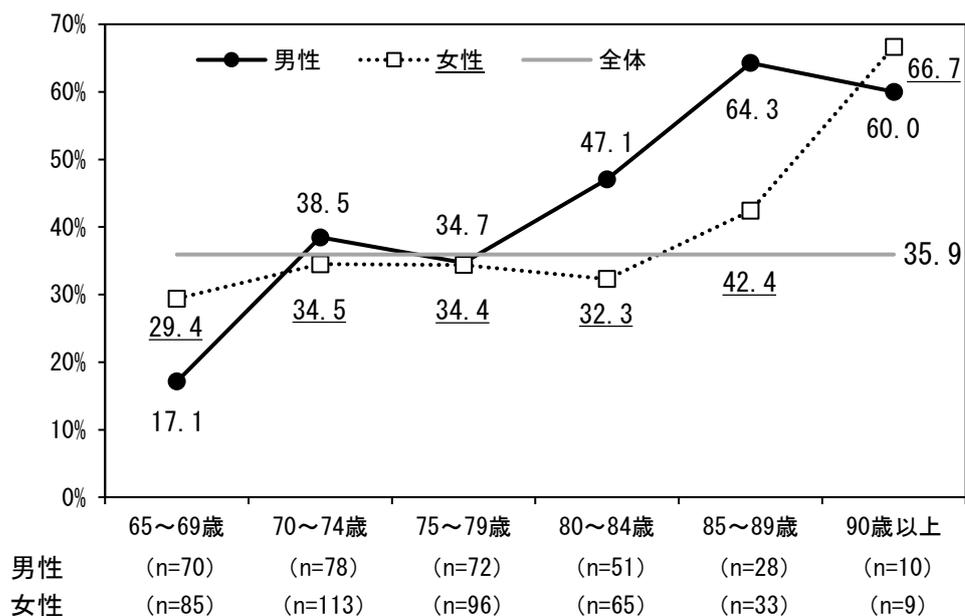
認定状況別・年齢別にみると、該当者の割合は、一般高齢者では80歳以上で年齢が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が80.0%で最も高くなっています。

図表 I-2-2-3 転倒リスク 該当者の割合 認定状況別・年齢別



性別・年齢別にみると、該当者の割合は、男性では85～89歳が64.3%で最も高く、女性では90歳以上が66.7%で最も高くなっています。

図表 I-2-2-4 転倒リスク 該当者の割合 性別・年齢別



3. 閉じこもり傾向

下記の設問について、該当する選択肢が回答された場合、閉じこもり傾向のある高齢者として判定しました。

図表 I-2-3-1 閉じこもり傾向を判定するための項目

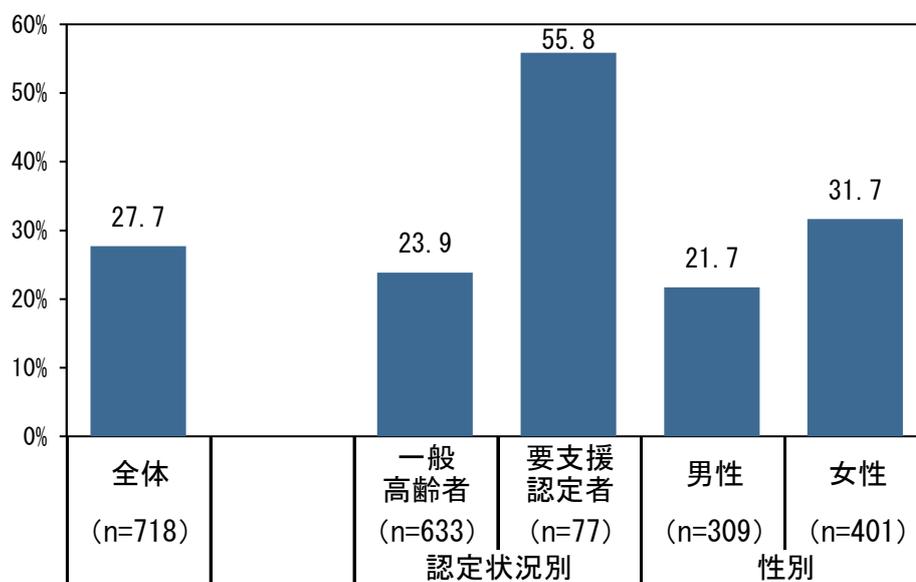
設問番号	設問	該当する選択肢
問2 (6)	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」 「2. 週1回」

閉じこもり傾向と判定された高齢者の割合は、全体で27.7%となっています。

認定状況別でみると、該当者の割合は、一般高齢者が23.9%、要支援認定者が55.8%となっています。

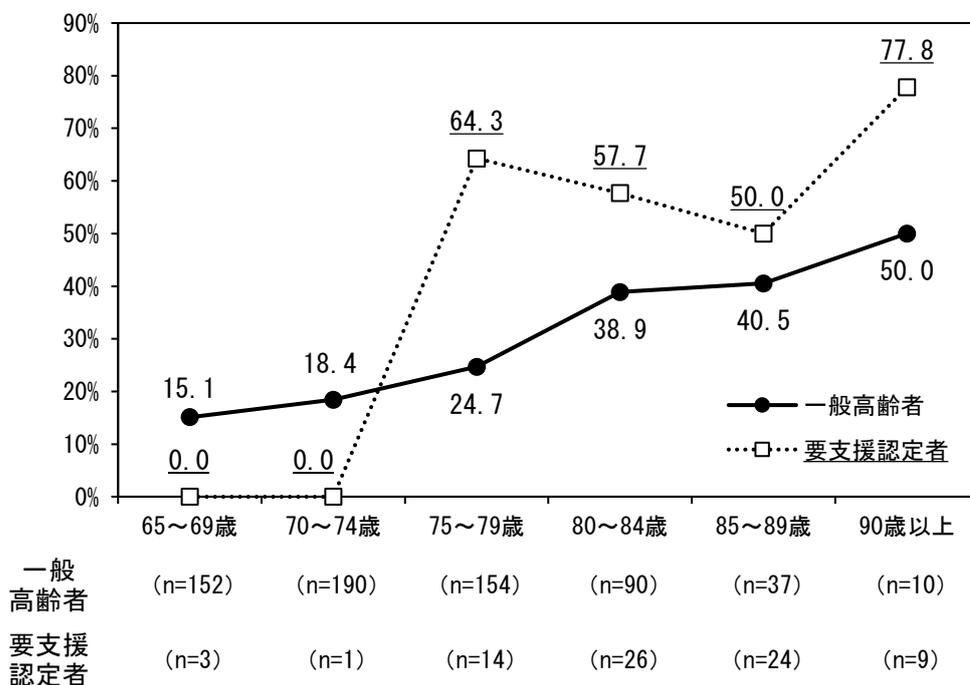
性別でみると、該当者の割合は、女性が31.7%で、男性(21.7%)よりも10.0ポイント高くなっています。

図表 I-2-3-2 閉じこもり傾向 該当者の割合



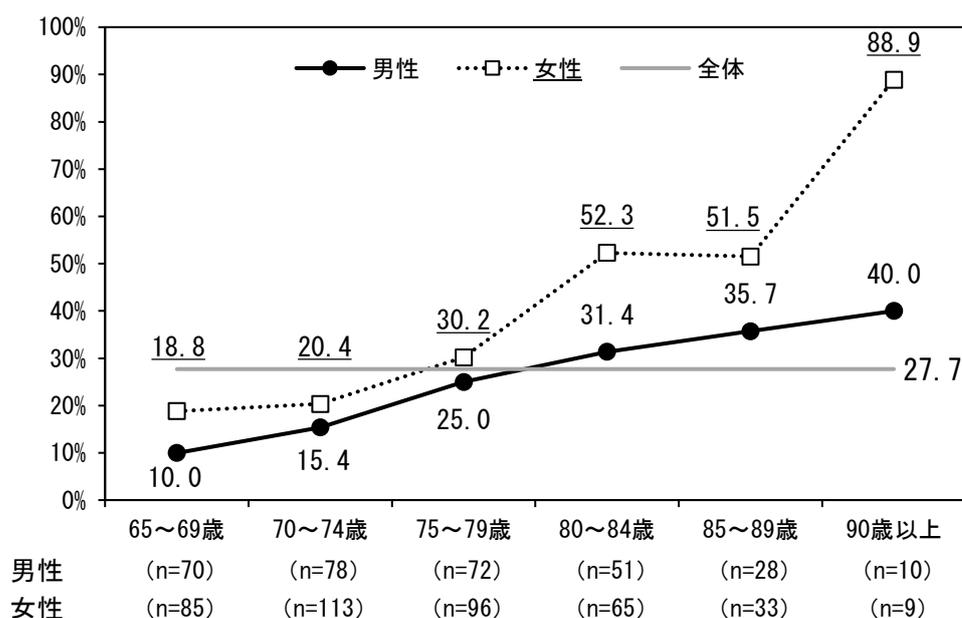
認定状況別・年齢別にみると、該当者の割合は、一般高齢者では年齢が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が50.0%で最も高くなっています。

図表 I-2-3-3 閉じこもり傾向 該当者の割合 認定状況別・年齢別



性別・年齢別にみると、該当者の割合は、全ての年齢階級で女性の割合が男性よりも高くなっています。また、男性、女性いずれも年齢が上がるにつれて割合が概ね増加しており、90歳以上の割合が最も高く、男性・90歳以上が40.0%、女性・90歳以上が88.9%となっています。

図表 I-2-3-4 閉じこもり傾向 該当者の割合 性別・年齢別



4. 低栄養状態

下記の2設問について、2設問ともに該当した場合、低栄養状態にある高齢者として判定しました。

図表 I-2-4-1 低栄養状態を判定するための項目

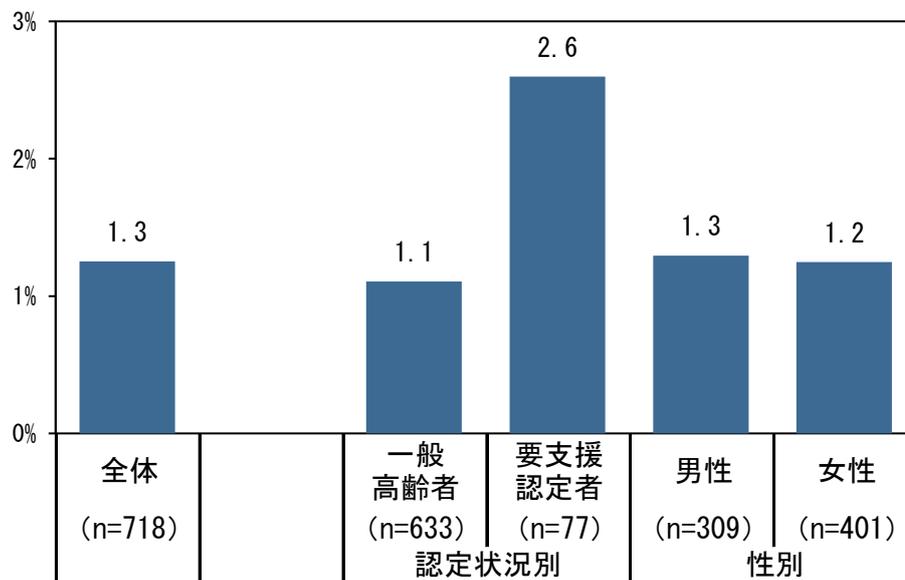
設問番号	設問	該当する選択肢
問3 (1)	身長・体重	身長・体重から算出されるBMI (体重(kg) ÷ {身長(m) × 身長(m)}) が18.5以下
問3 (7)	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」

低栄養状態にあると判定された高齢者の割合は、全体で1.3%となっています。

認定状況別でみると、該当者の割合は、一般高齢者が1.1%、要支援認定者が2.6%となっています。

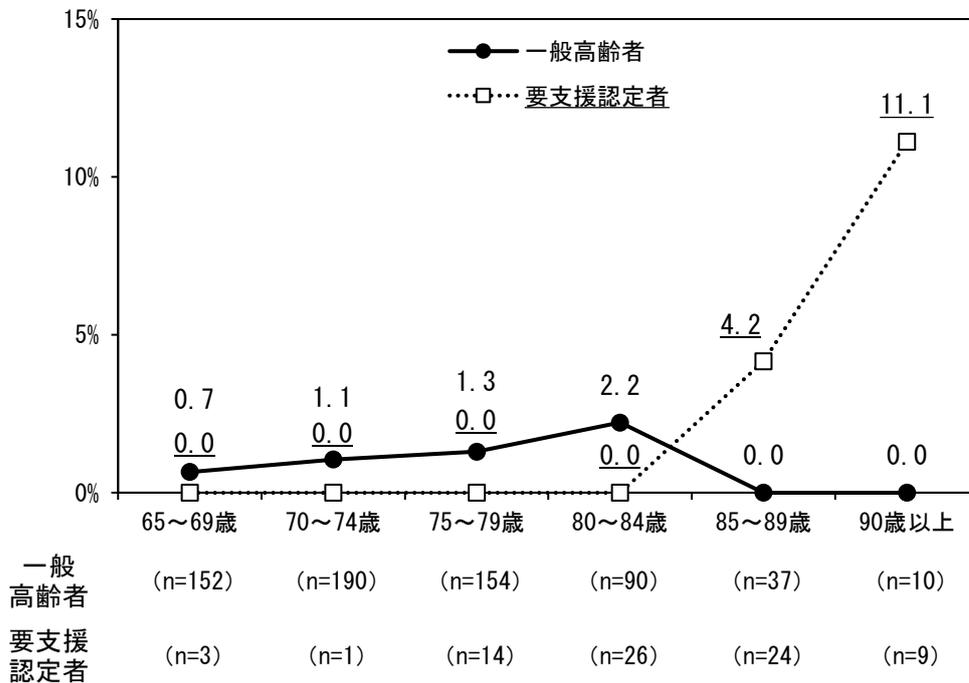
性別でみると、該当者の割合は、男性が1.3%、女性が1.2%となっています。

図表 I-2-4-2 低栄養状態 該当者の割合



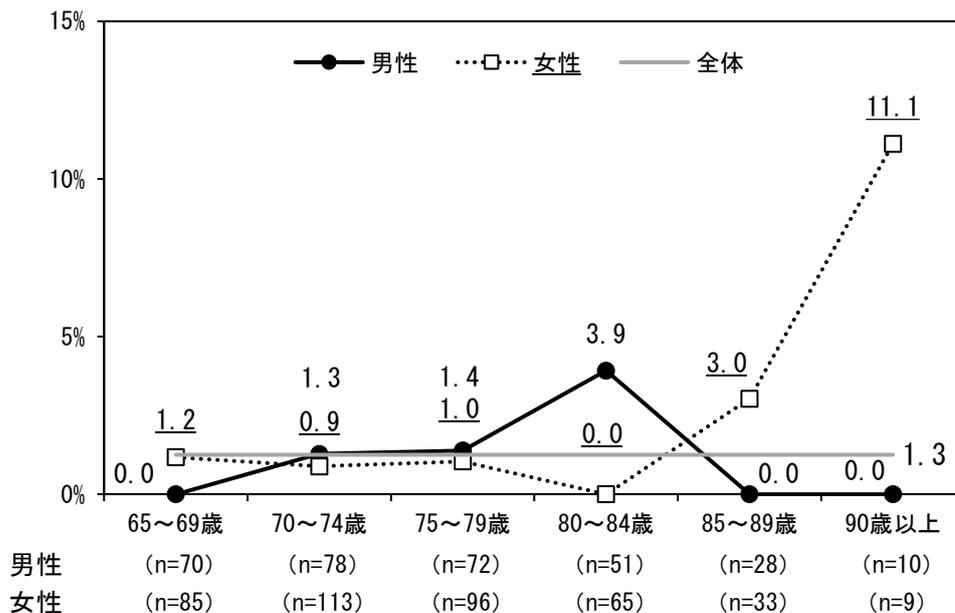
認定状況別・年齢別にみると、該当者の割合は、一般高齢者では80～84歳が2.2%で最も高く、要支援認定者では90歳以上が11.1%で最も高くなっています。

図表 I-2-4-3 低栄養状態 該当者の割合 認定状況別・年齢別



性別・年齢別にみると、該当者の割合は、男性では80～84歳が3.9%で最も高く、女性では90歳以上が11.1%で最も高くなっています。

図表 I-2-4-4 低栄養状態 該当者の割合 性別・年齢別



5. 口腔機能の低下

下記の3設問について、2問以上該当する選択肢が回答された場合、口腔機能の低下している高齢者として判定しました。

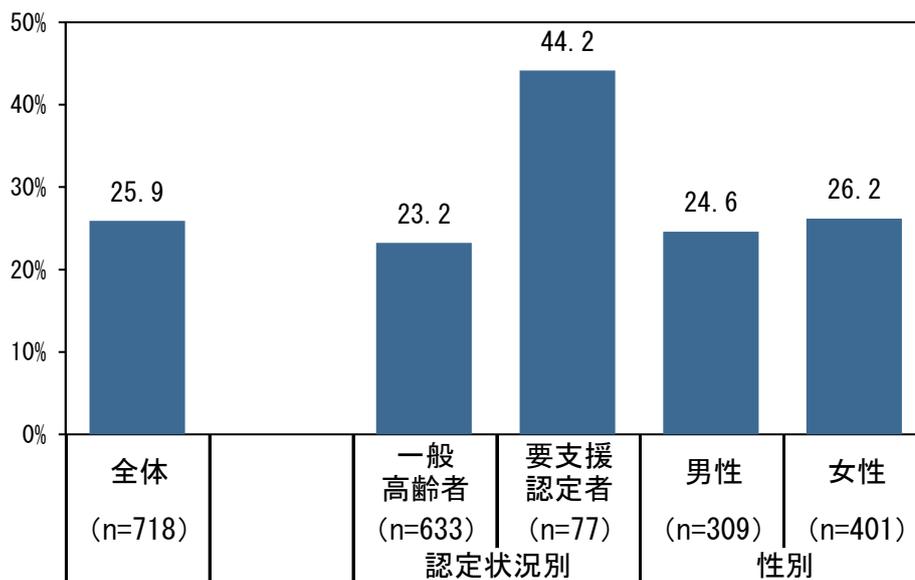
図表 I-2-5-1 口腔機能の低下を判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問3 (2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
問3 (3)	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
問3 (4)	口の渇きが気になりますか	「1. はい」

口腔機能が低下していると判定された高齢者の割合は、全体で25.9%となっています。認定状況別でみると、該当者の割合は、一般高齢者が23.2%、要支援認定者が44.2%となっています。

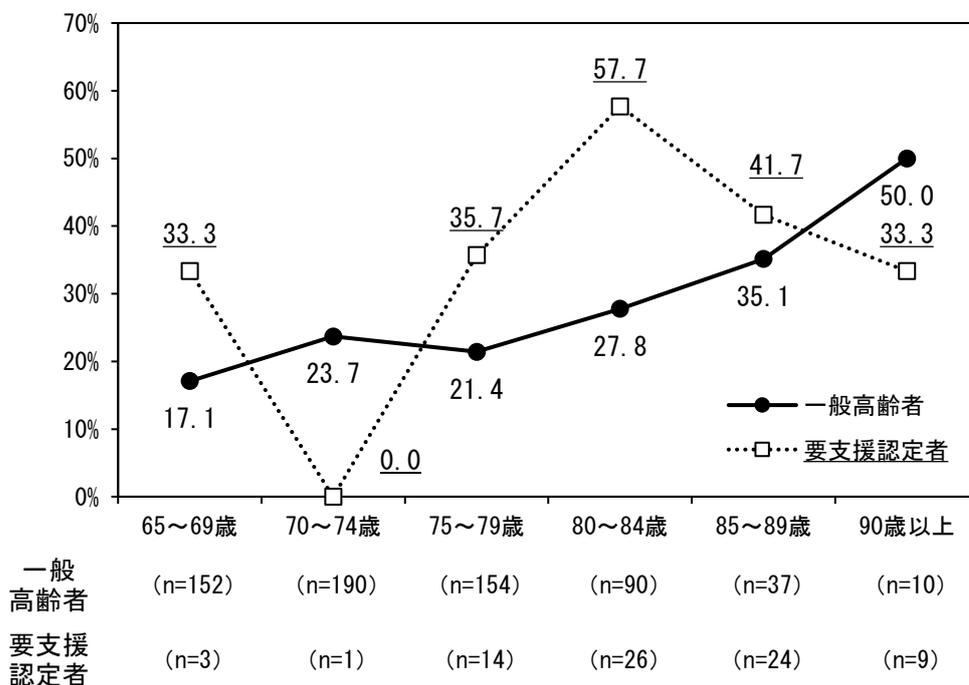
性別でみると、該当者の割合は、男性が24.6%、女性が26.2%となっています。

図表 I-2-5-2 口腔機能の低下 該当者の割合



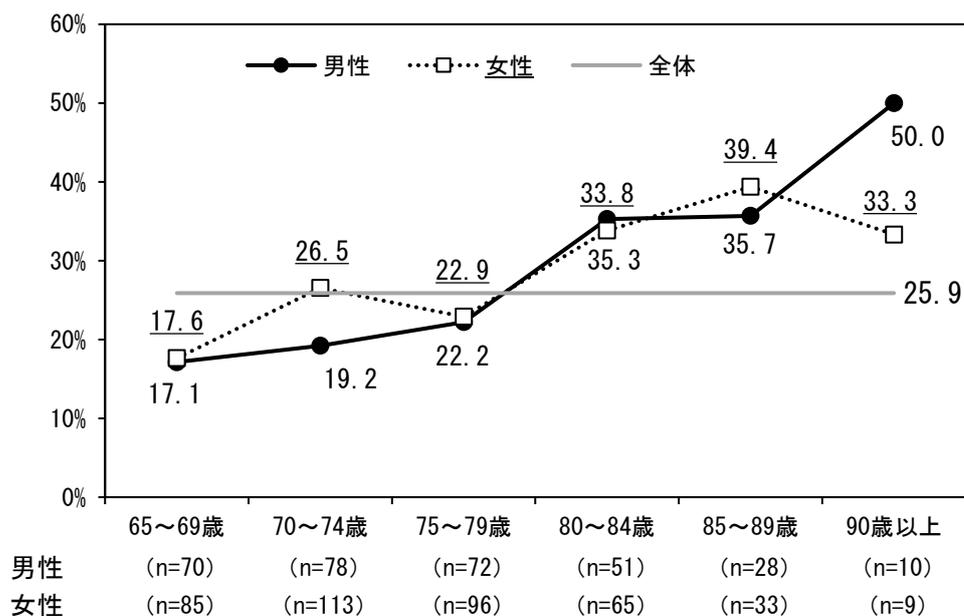
認定状況別・年齢別にみると、該当者の割合は、一般高齢者では75歳以上で年齢が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が50.0%で最も高くなっています。

図表 I-2-5-3 口腔機能の低下 該当者の割合 認定状況別・年齢別



性別・年齢別にみると、該当者の割合は、男性は90歳以上が50.0%で最も高く、女性は85～89歳が39.4%で最も高くなっています。

図表 I-2-5-4 口腔機能の低下 該当者の割合 性別・年齢別



6. 認知機能の低下

下記の設問について、該当する選択肢が回答された場合、認知機能が低下している高齢者として判定しました。

図表 I-2-6-1 認知機能の低下を判定するための項目

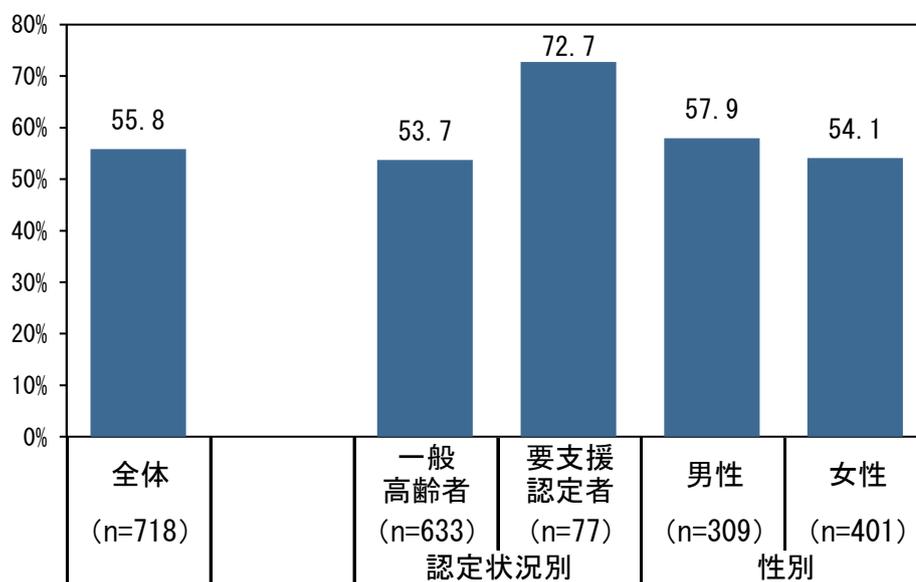
設問番号	設問	該当する選択肢
問4 (1)	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」
問4 (2)	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	「2. いいえ」
問4 (3)	今日が何月何日かわからない時がありますか	「1. はい」

認知機能が低下していると判定された高齢者の割合は、全体で 55.8% となっています。

認定状況別でみると、該当者の割合は、一般高齢者が 53.7%、要支援認定者が 72.7% となっています。

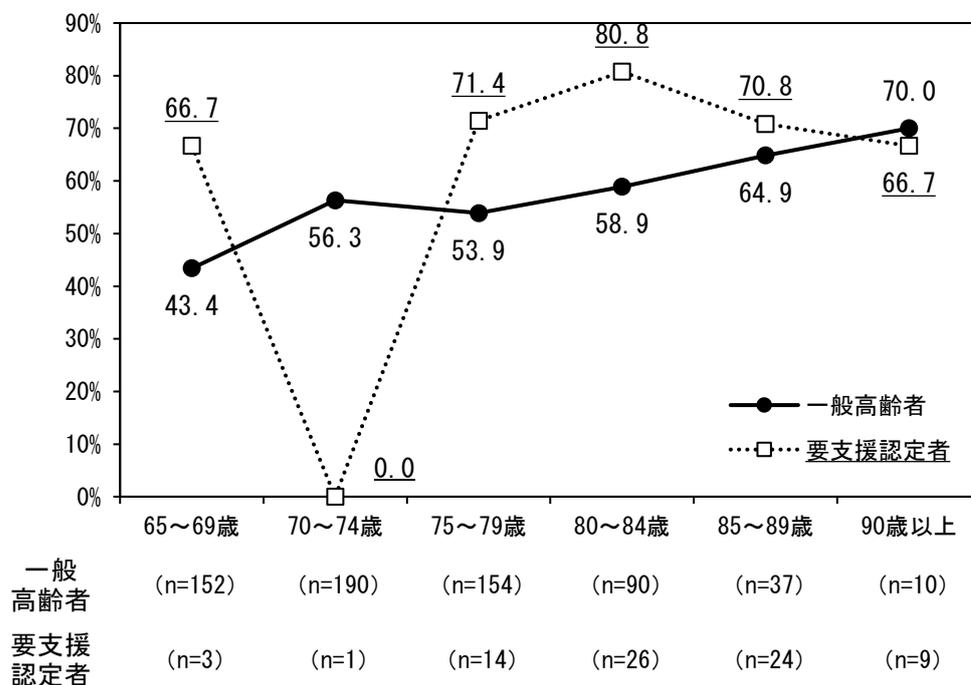
性別でみると、該当者の割合は、男性が 57.9% で、女性 (54.1%) よりも 3.8 ポイント高くなっています。

図表 I-2-6-2 認知機能の低下 該当者の割合



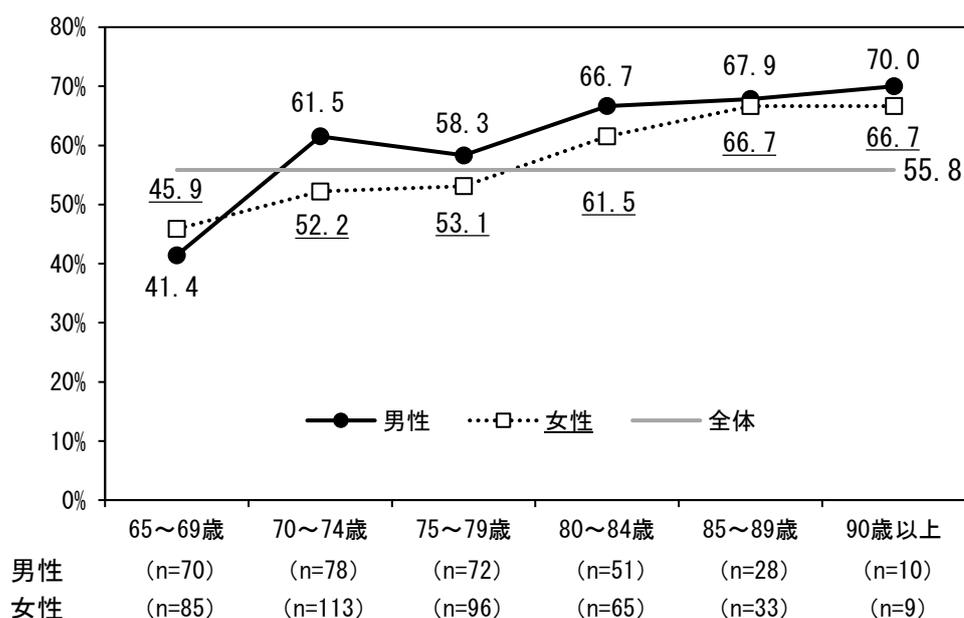
認定状況別・年齢別にみると、該当者の割合は、一般高齢者では75歳以上で年齢が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が70.0%で最も高くなっています。

図表 I-2-6-3 認知機能の低下 該当者の割合 認定状況別・年齢別



性別・年齢別にみると、該当者の割合は、70歳以上で男性の割合が女性よりも高くなっており、男性では90歳以上が70.0%で最も高く、女性では85～89歳、90歳以上がいずれも66.7%で最も高くなっています。

図表 I-2-6-4 認知機能の低下 該当者の割合 性別・年齢別



7. うつ傾向

下記の2設問について、いずれか1つでも該当する選択肢が回答された場合、うつ傾向の高齢者として判定しました。

図表 I-2-7-1 うつ傾向を判定するための項目

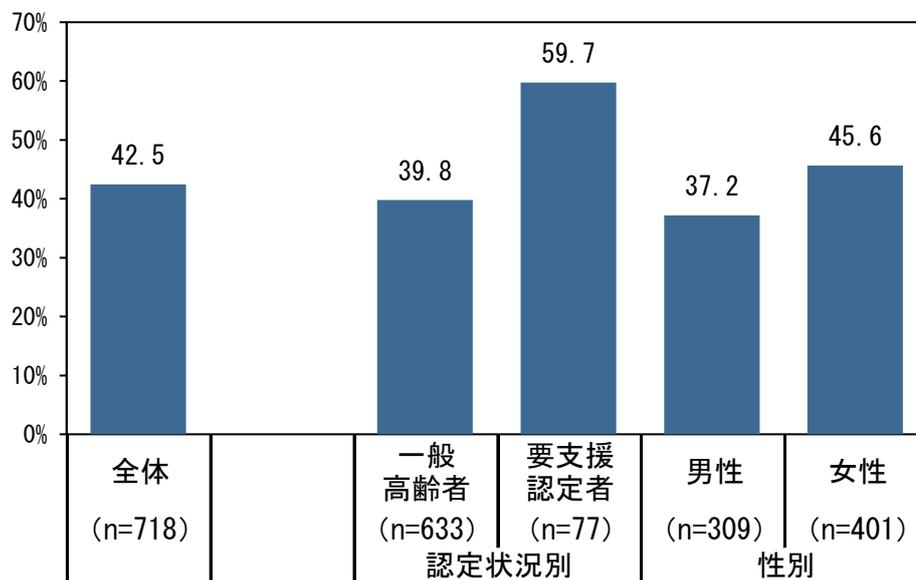
設問番号	設問	該当する選択肢
問7(3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「1. はい」
問7(4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	「1. はい」

うつ傾向と判定された高齢者の割合は、全体で42.5%となっています。

認定状況別でみると、該当者の割合は、一般高齢者が39.8%、要支援認定者が59.7%となっています。

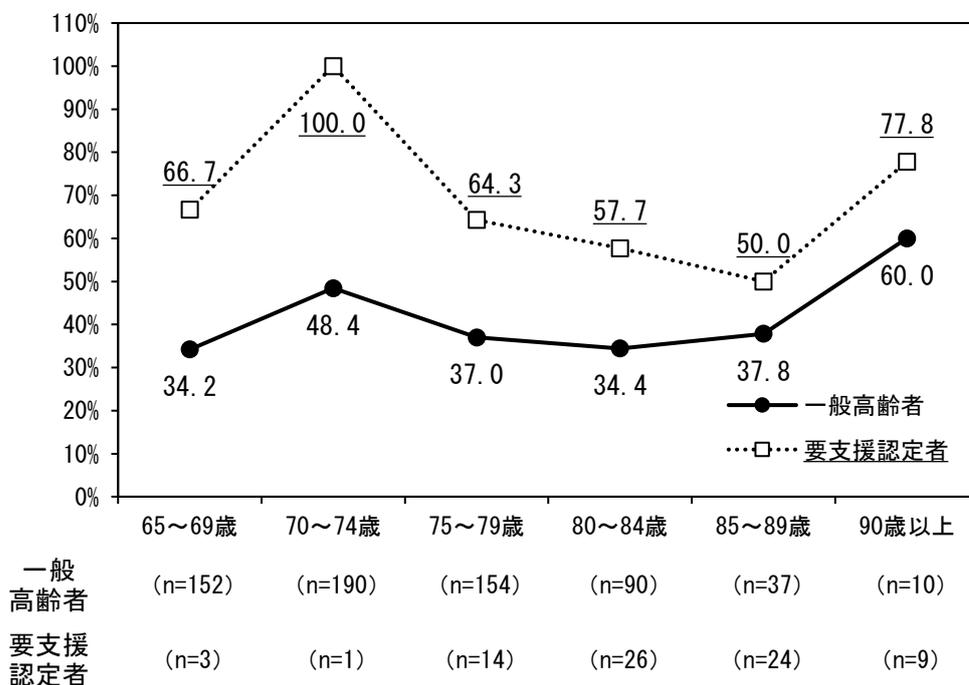
性別でみると、該当者の割合は、女性が45.6%で、男性(37.2%)よりも8.4ポイント高くなっています。

図表 I-2-7-2 うつ傾向 該当者の割合



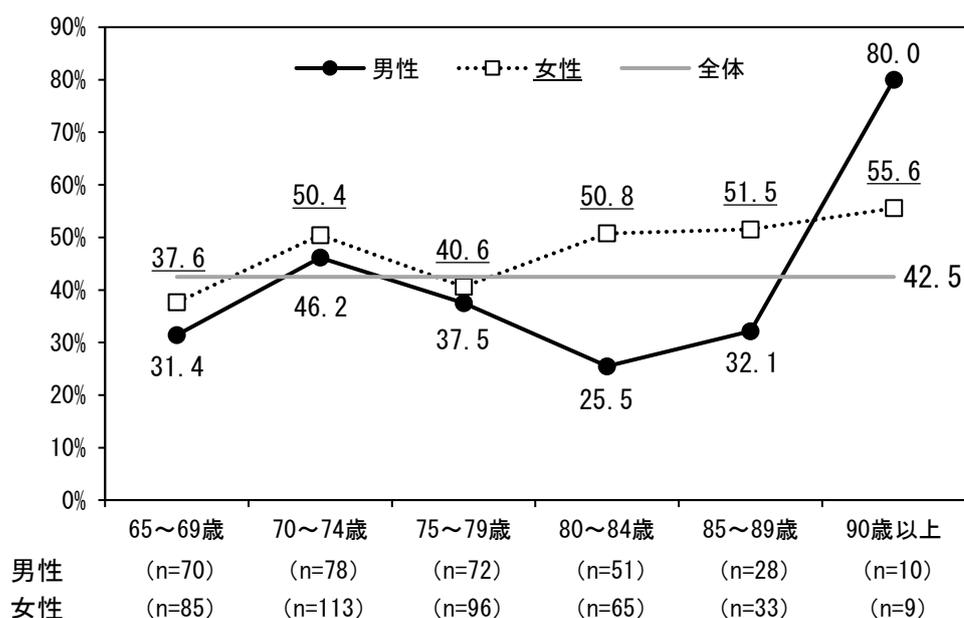
認定状況別・年齢別にみると、該当者の割合は、全ての年齢階級で要支援認定者の割合が一般高齢者よりも高くなっており、一般高齢者では、90歳以上が60.0%で最も高くなっています。

図表 I-2-7-3 うつ傾向 該当者の割合 認定状況別・年齢別



性別・年齢別にみると、該当者の割合は、89歳以下で女性の割合が男性よりも高くなっており、男性、女性いずれも90歳以上の割合が最も高く、男性・90歳以上が80.0%、女性・90歳以上が55.6%となっています。

図表 I-2-7-4 うつ傾向 該当者の割合 性別・年齢別



8. 生活機能全般の低下

下記の 20 設問について、各設問に該当する選択肢を回答した場合を 1 点として、20 点満点で評価し、10 点以上の場合、生活機能全般が低下している高齢者として判定しました。

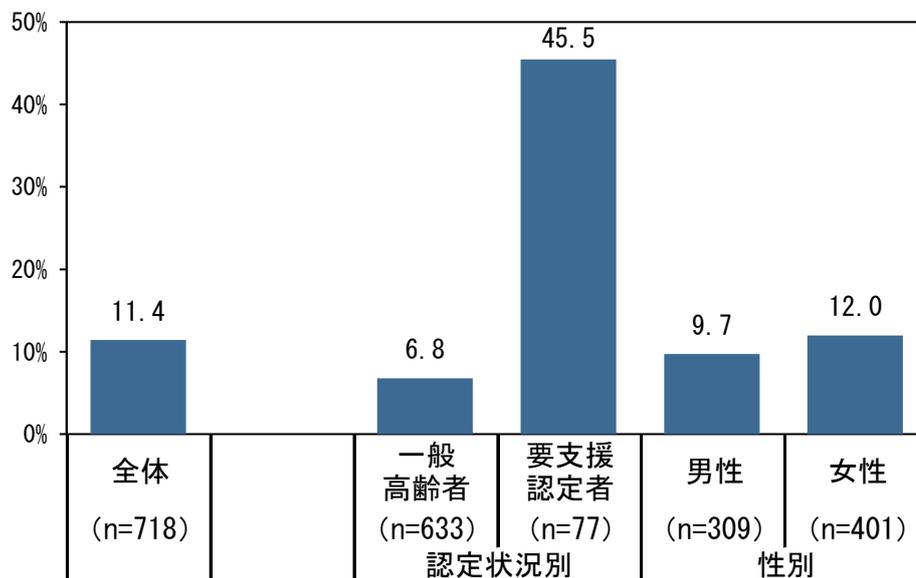
図表 I-2-8-1 生活機能全般の低下を判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問 2 (1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「3. できない」
問 2 (2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「3. できない」
問 2 (3)	15 分位続けて歩いていますか	「3. できない」
問 2 (4)	過去 1 年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 「2. 1 度ある」
問 2 (5)	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」 「2. やや不安である」
問 2 (6)	週に 1 回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」 「2. 週 1 回」
問 2 (7)	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	「1. とても減っている」 「2. 減っている」
問 3 (1)	身長・体重	身長・体重から算出される BMI (体重 (kg) ÷ {身長 (m) × 身長 (m)}) が 18.5 以下
問 3 (2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
問 3 (3)	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
問 3 (4)	口の渇きが気になりますか	「1. はい」
問 3 (7)	6 か月間で 2～3 kg 以上の体重減少がありましたか	「1. はい」
問 4 (1)	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」
問 4 (2)	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	「2. いいえ」
問 4 (3)	今日が何月何日かわからない時がありますか	「1. はい」
問 4 (4)	バスや電車を使って 1 人で外出していますか (自家用車でも可)	「3. できない」
問 4 (5)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	「3. できない」
問 4 (8)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	「3. できない」
問 4 (13)	友人の家を訪ねていますか	「2. いいえ」
問 4 (14)	家族や友人の相談にのっていますか	「2. いいえ」

生活機能全般が低下していると判定された高齢者の割合は、全体で 11.4% となっています。認定状況別でみると、該当者の割合は、一般高齢者が 6.8%、要支援認定者が 45.5% となっています。

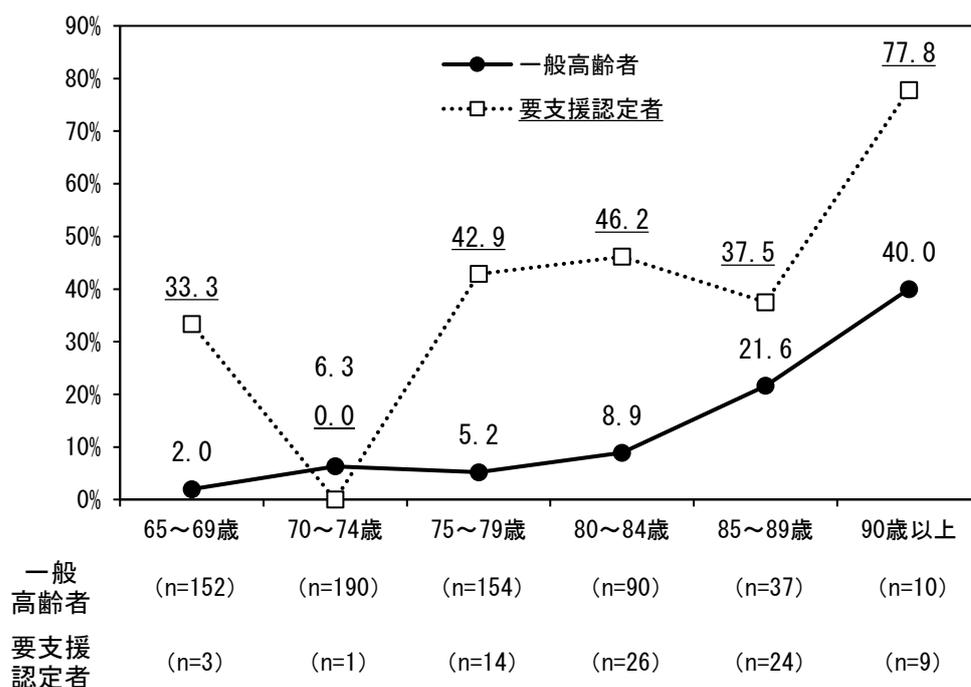
性別でみると、該当者の割合は、男性が 9.7%、女性が 12.0% となっています。

図表 I-2-8-2 生活機能全般の低下 該当者の割合



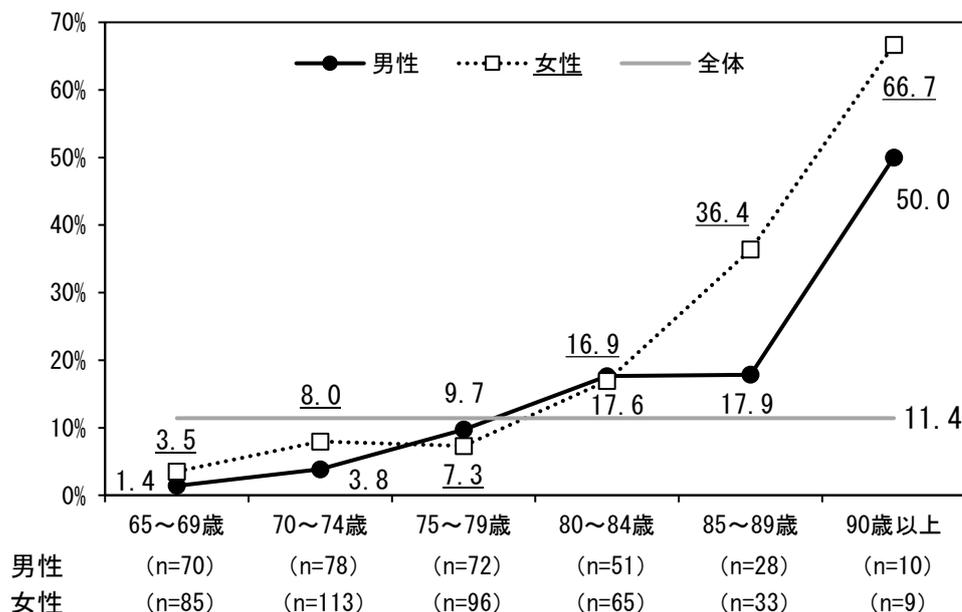
認定状況別・年齢別にみると、該当者の割合は、一般高齢者では 75 歳以上で年齢が上がるにつれて割合が増加しており、90 歳以上が 40.0% で最も高くなっています。

図表 I-2-8-3 生活機能全般の低下 該当者の割合 認定状況別・年齢別



性別・年齢別にみると、該当者の割合は、男性、女性いずれも年齢が上がるにつれて割合が概ね増加しており、特に85～89歳から90歳以上で大きく上昇し、90歳以上の割合が最も高く、男性・90歳以上が50.0%、女性・90歳以上が66.7%となっています。

図表 I-2-8-4 生活機能全般の低下 該当者の割合 性別・年齢別



9. IADL（手段的自立度）の低下

老研式活動能力指標に基づき、下記の5設問について、該当する選択肢を回答した場合を1点として、5点満点で評価し、4点以下の場合、IADLが低下している高齢者として判定しました。

IADL（手段的自立度）とは、買い物や洗濯、掃除等の家事全般や、金銭管理や服薬管理、外出して乗り物に乗ること、趣味のための活動などの自立度のことであり、食事を摂ることや排せつ、入浴などの日常生活動作（ADL）より複雑で高次の動作を行える自立度の程度のことです。

図表 I-2-9-1 IADLの低下を判定するための項目

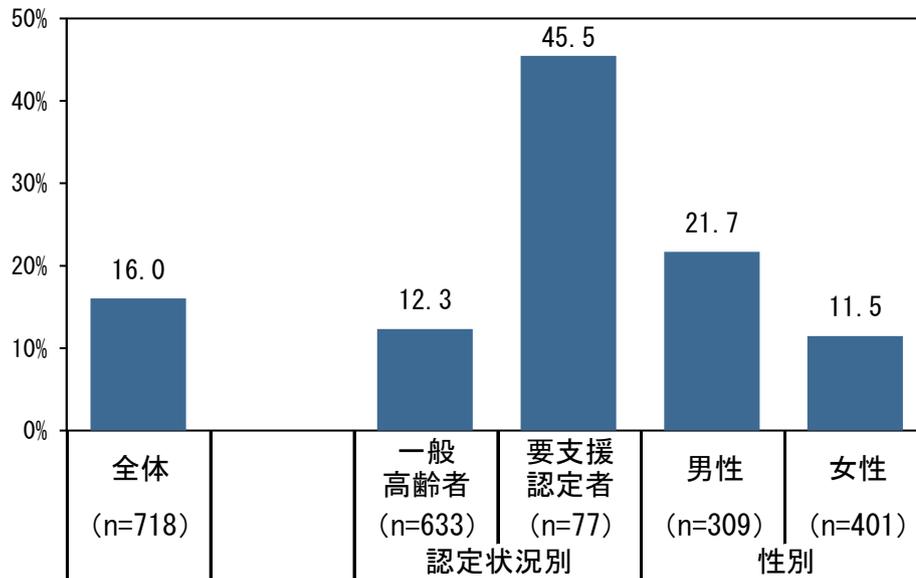
設問番号	設問	該当する選択肢
問4(4)	バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問4(5)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問4(6)	自分で食事の用意をしていますか	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問4(7)	自分で請求書の支払いをしていますか	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問4(8)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」

IADLが低下していると判定された高齢者の割合は、全体で16.0%となっています。

認定状況別でみると、該当者の割合は、一般高齢者が12.3%、要支援認定者が45.5%となっています。

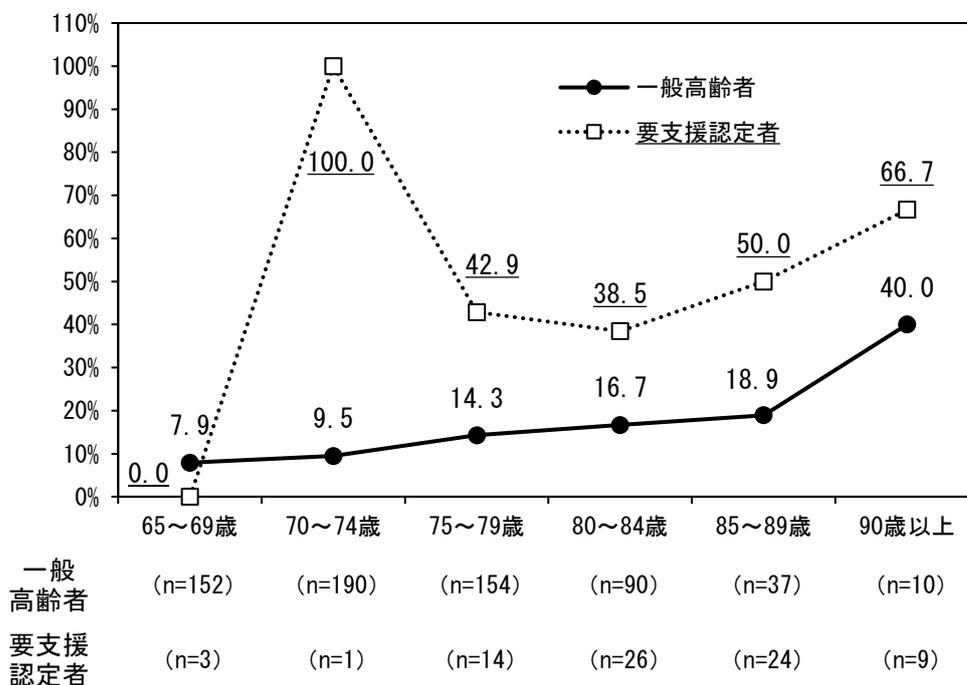
性別でみると、該当者の割合は、男性が21.7%で、女性(11.5%)よりも10.2ポイント高くなっています。

図表 I-2-9-2 IADLの低下 該当者の割合



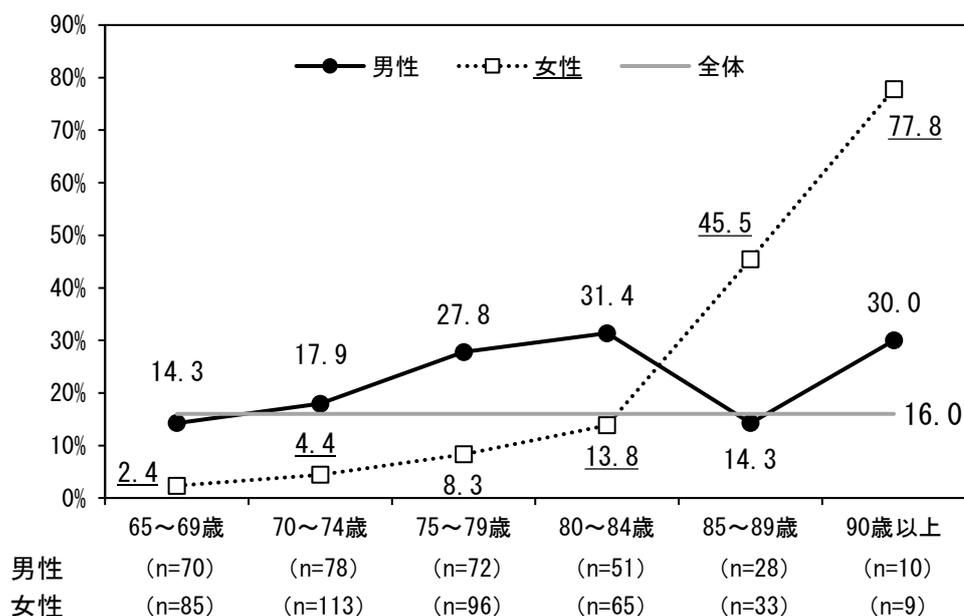
認定状況別・年齢別にみると、該当者の割合は、一般高齢者では年齢が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が40.0%で最も高くなっています。

図表 I-2-9-3 IADLの低下 該当者の割合 認定状況別・年齢別



性別・年齢別にみると、該当者の割合は、65～84歳では男性の割合が女性よりも高く、85歳以上では女性の割合が男性よりも高くなっています。また、男性では80～84歳が31.4%で最も高く、女性では年齢が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が77.8%で最も高くなっています。

図表 I-2-9-4 IADLの低下 該当者の割合 性別・年齢別



10. 知的能動性の低下

老研式活動能力指標に基づき、下記の4設問について、該当する選択肢が回答された場合を1点として、4点満点で評価し、3点以下の場合、知的能動性の低下している高齢者として判定しました。

知的能動性とは、書類などを書くことや、本や新聞を読むこと、物事に対する関心など、高齢者の知的活動の自立度の程度のことです。

図表 I-2-10-1 知的能動性の低下を判定するための項目

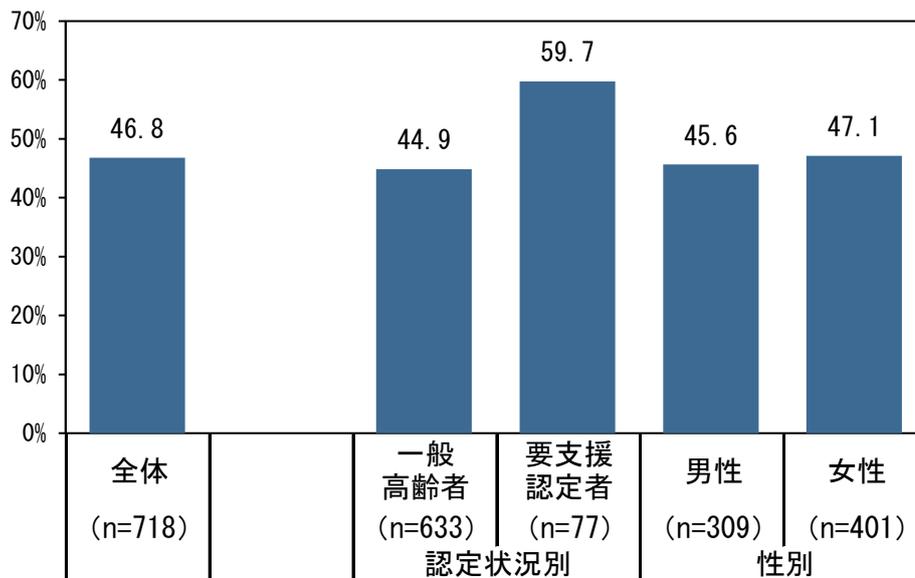
設問番号	設問	該当する選択肢
問4(9)	年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか	「1. はい」
問4(10)	新聞を読んでいますか	「1. はい」
問4(11)	本や雑誌を読んでいますか	「1. はい」
問4(12)	健康についての記事や番組に関心がありますか	「1. はい」

知的能動性が低下していると判定された高齢者の割合は、全体で46.8%となっています。

認定状況別でみると、該当者の割合は、一般高齢者が44.9%、要支援認定者が59.7%となっています。

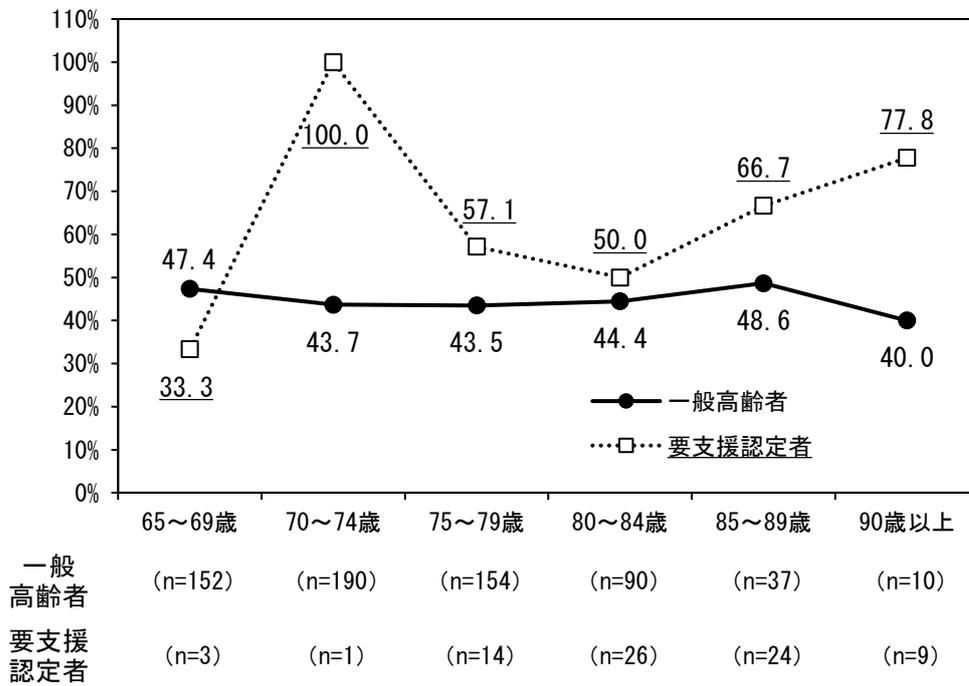
性別でみると、該当者の割合は、男性で45.6%、女性で47.1%となっています。

図表 I-2-10-2 知的能動性の低下 該当者の割合



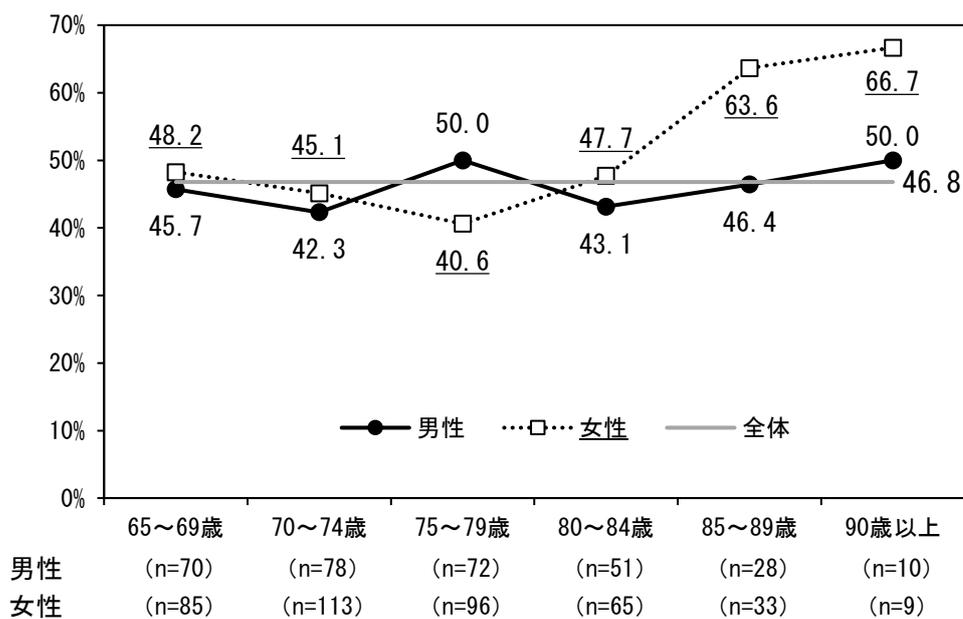
認定状況別・年齢別にみると、該当者の割合は、一般高齢者では全ての年齢階級で4割台となっており、85～89歳が48.6%で最も高くなっています。

図表 I-2-10-3 知的能動性の低下 該当者の割合 認定状況別・年齢別



性別・年齢別にみると、該当者の割合は、男性では4～5割台、女性では4～6割台となっており、男性は75～79歳、90歳以上がいずれも50.0%で最も高く、女性は90歳以上が66.7%で最も高くなっています。

図表 I-2-10-4 知的能動性の低下 該当者の割合 性別・年齢別



1 1. 社会的役割の低下

老研式活動能力指標に基づき、下記の4設問について、該当する選択肢が回答された場合を1点として、4点満点で評価し、3点以下の場合、社会的役割の低下している高齢者として判定しました。

社会的役割とは、友人宅を訪問することや家族や友人からの相談に応じることなど、高齢者の他者との関わりの程度や社会活動の自立度の程度のことです。

図表 I-2-11-1 社会的役割の低下を判定するための項目

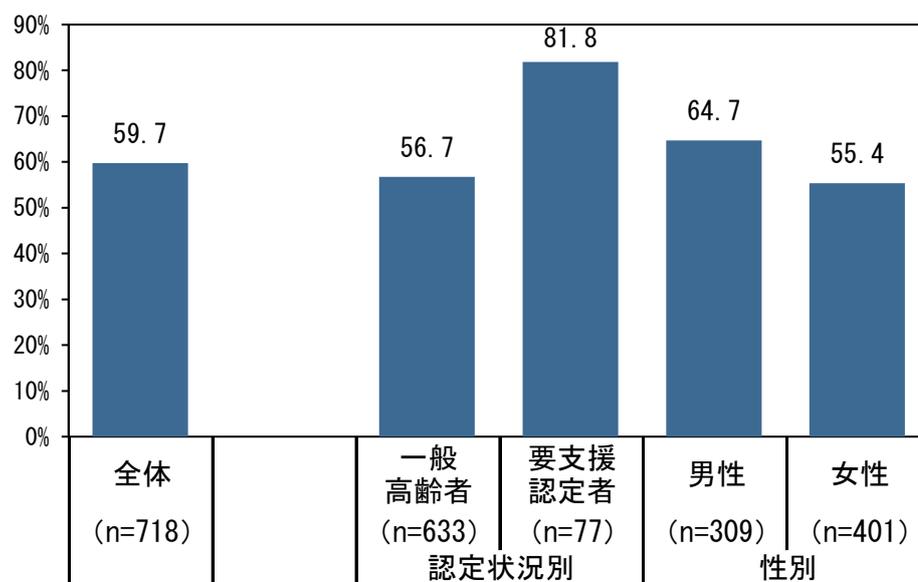
設問番号	設問	該当する選択肢
問4 (13)	友人の家を訪ねていますか	「1. はい」
問4 (14)	家族や友人の相談にのっていますか	「1. はい」
問4 (15)	病人を見舞うことができますか	「1. はい」
問4 (16)	若い人に自分から話しかけることがありますか	「1. はい」

社会的役割が低下していると判定された高齢者の割合は、全体で59.7%となっています。

認定状況別でみると、該当者の割合は、一般高齢者が56.7%、要支援認定者が81.8%となっています。

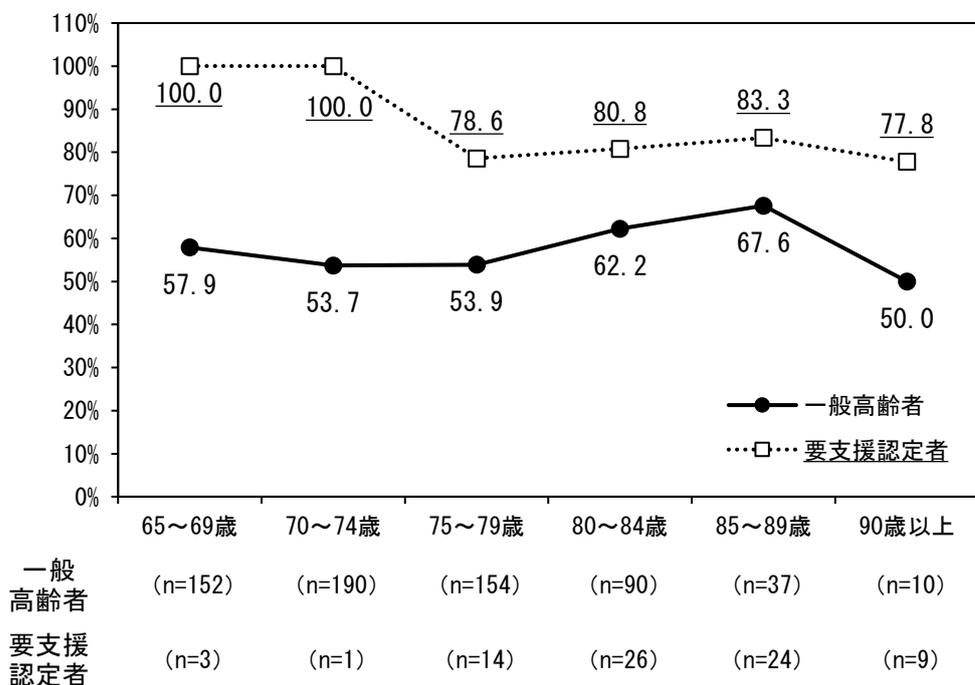
性別でみると、該当者の割合は、男性が64.7%で、女性(55.4%)よりも9.3ポイント高くなっています。

図表 I-2-11-2 社会的役割の低下 該当者の割合



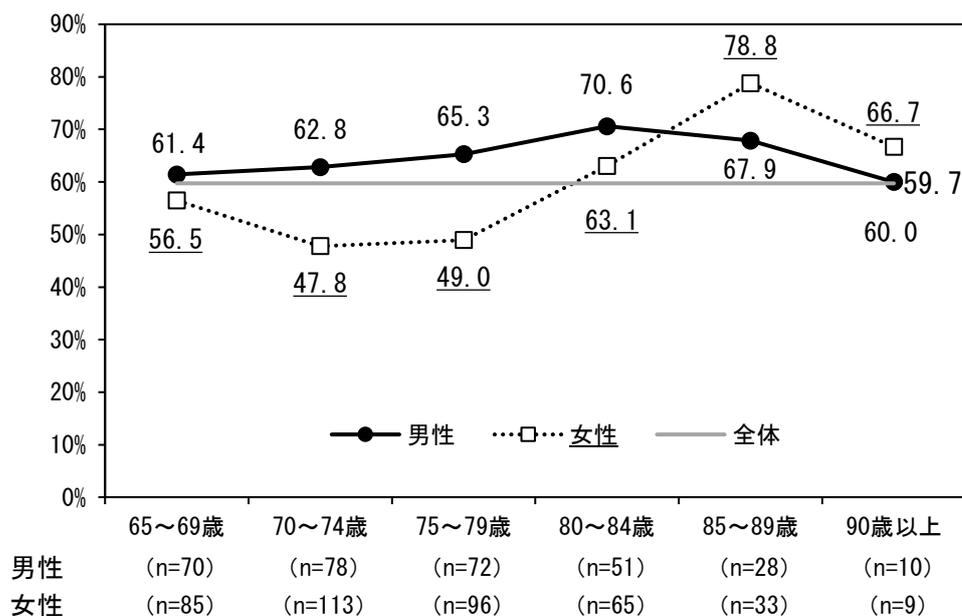
認定状況別・年齢別にみると、該当者の割合は、一般高齢者では70～89歳で年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85～89歳が67.6%で最も高くなっています。

図表 I-2-11-3 社会的役割の低下 該当者の割合 認定状況別・年齢別



性別・年齢別にみると、該当者の割合は、男性では80～84歳が70.6%で最も高く、女性では85～89歳が78.8%で最も高くなっています。

図表 I-2-11-4 社会的役割の低下 該当者の割合 性別・年齢別



1 2. 生活機能総合評価の低下者

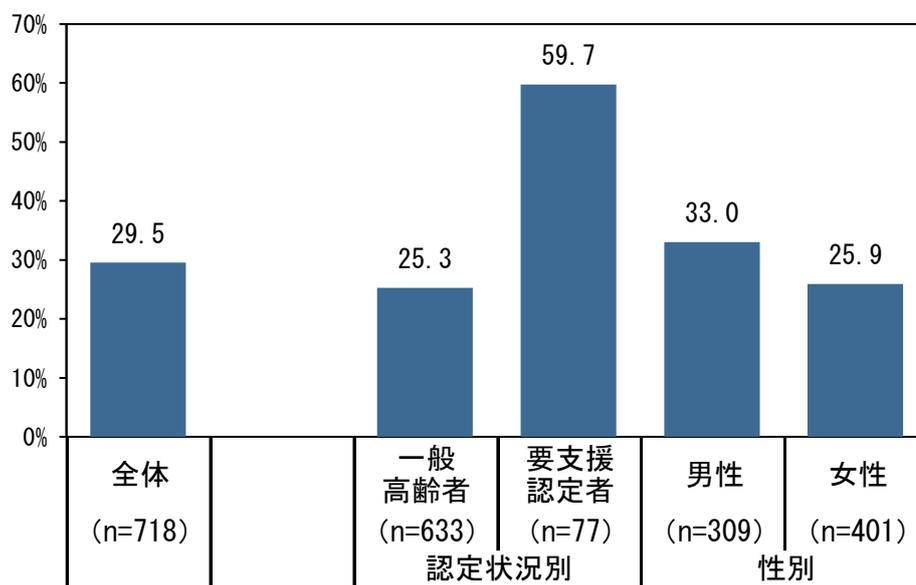
IADL（手段的自立度）に知的能動性、社会的役割を加えた老研式活動能力指標 13 項目で、13 点満点で評価し、11 点以上を「高い」、9・10 点を「やや高い」、8 点以下を「低い」とし、10 点以下を「低下者」として判定しました。

生活機能総合評価で低下者と判定された高齢者の割合は、全体で 29.5%となっています。

認定状況別でみると、該当者の割合は、一般高齢者が 25.3%、要支援認定者が 59.7%となっています。

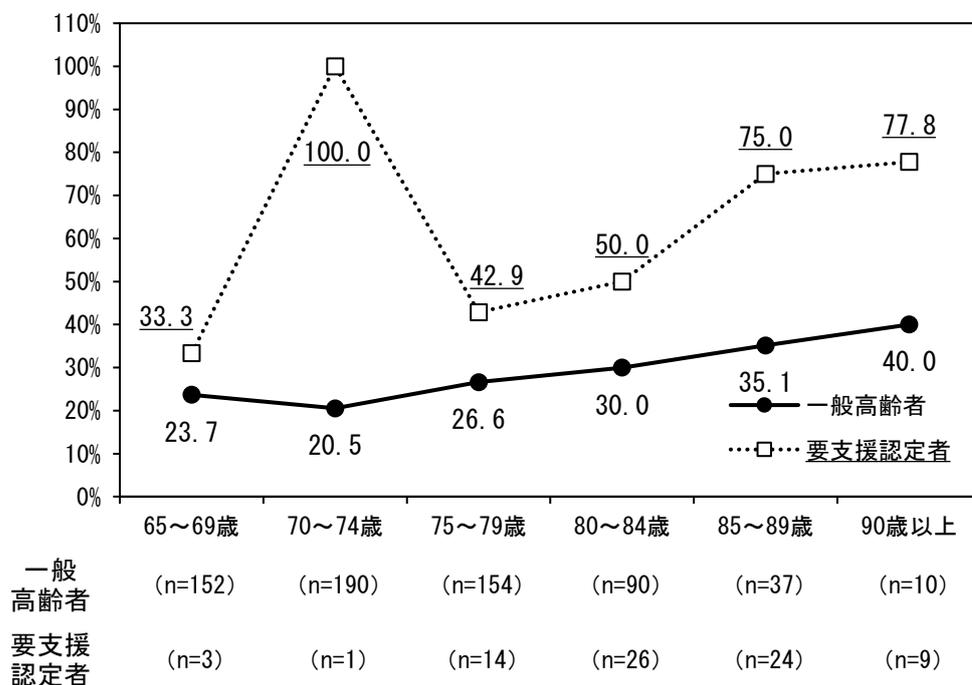
性別でみると、該当者の割合は、男性が 33.0%で、女性（25.9%）よりも 7.1 ポイント高くなっています。

図表 I-2-12-1 生活機能総合評価の低下者 該当者の割合



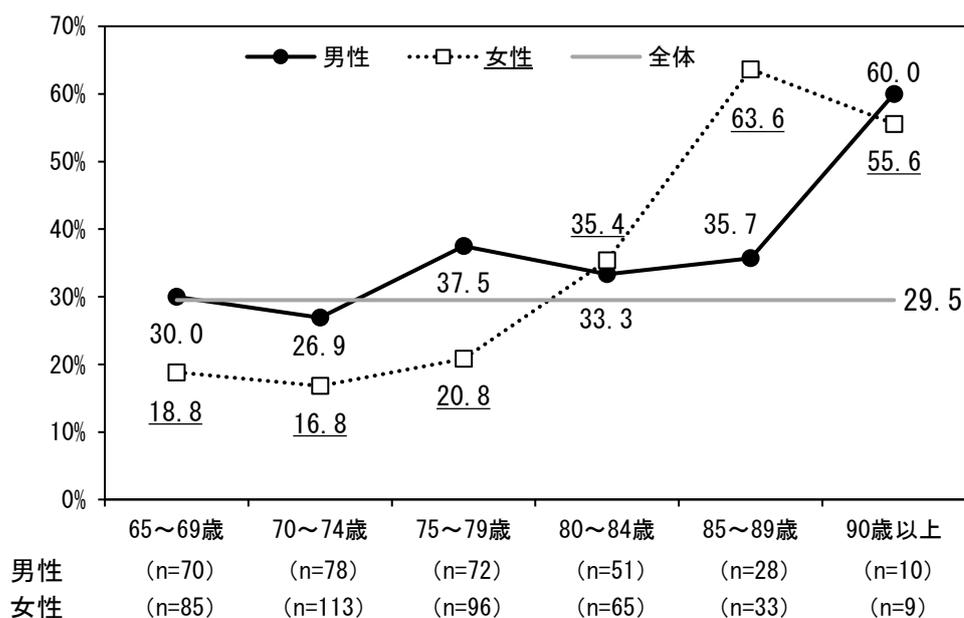
認定状況別・年齢別にみると、該当者の割合は、一般高齢者では70歳以上で年齢が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が40.0%で最も高くなっています。

図表 I-2-12-2 生活機能総合評価の低下者 該当者の割合 認定状況別・年齢別



性別・年齢別にみると、該当者の割合は、男性では90歳以上が60.0%で最も高く、女性では85~89歳が63.6%で最も高くなっています。

図表 I-2-12-3 生活機能総合評価の低下者 該当者の割合 性別・年齢別



13. 事業対象者

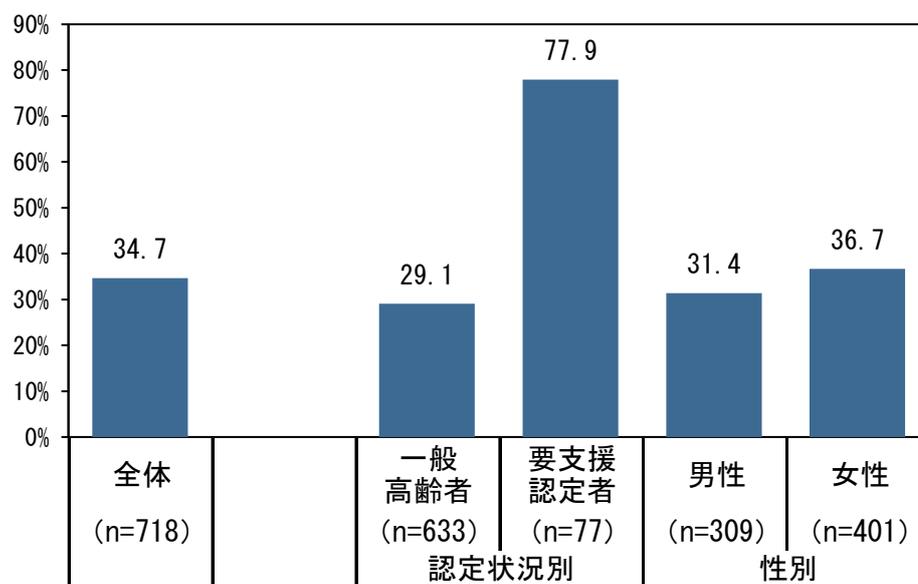
運動器機能の低下、低栄養状態、口腔機能の低下、生活機能全般の低下のいずれかに該当している場合、事業対象者として判定しました。

事業対象者と判定された高齢者の割合は、全体で 34.7%となっています。

認定状況別でみると、該当者の割合は、一般高齢者が 29.1%、要支援認定者が 77.9%となっています。

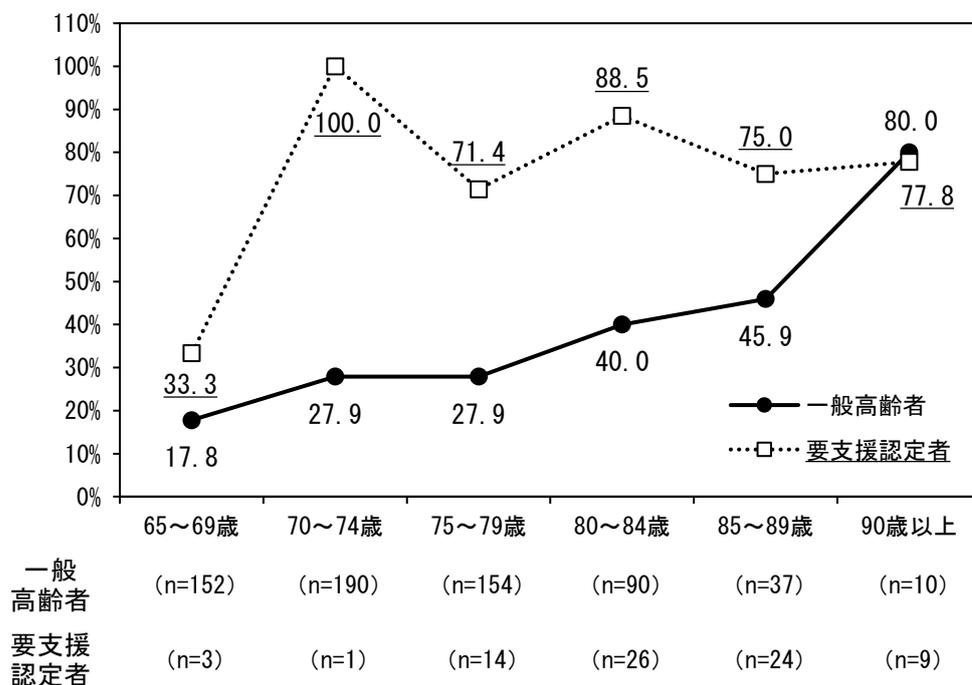
性別でみると、該当者の割合は、男性が 31.4%、女性が 36.7%となっています。

図表 I-2-13-1 事業対象者 該当者の割合



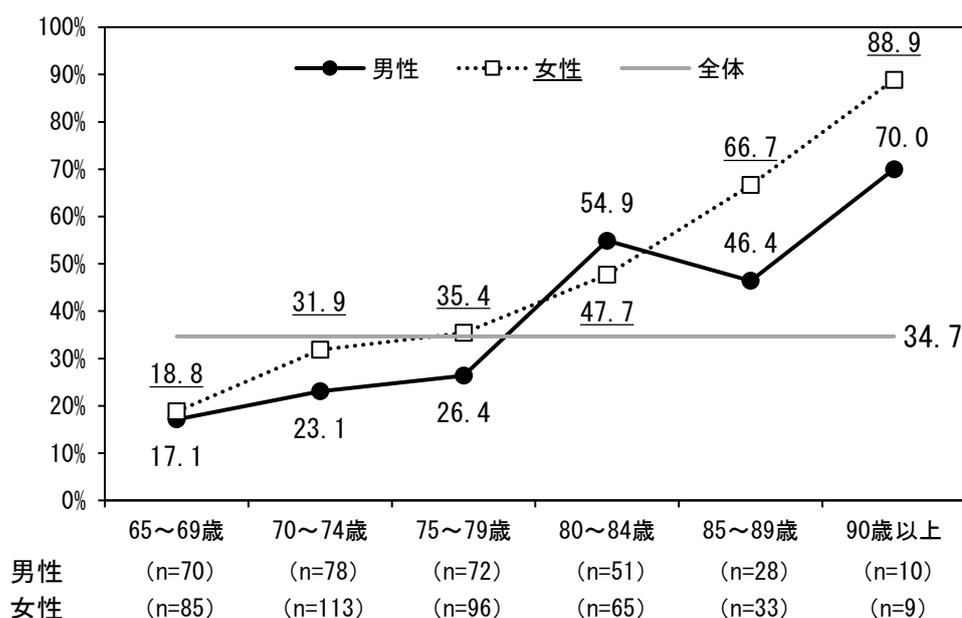
認定状況別・年齢別にみると、該当者の割合は、一般高齢者では年齢が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が80.0%で最も高くなっています。

図表 I-2-13-2 事業対象者 該当者の割合 認定状況別・年齢別



性別・年齢別にみると、該当者の割合は、80～84歳を除く全ての年齢階級で女性の割合が男性よりも高くなっており、男性、女性いずれも90歳以上の割合が最も高く、男性・90歳以上で70.0%、女性・90歳以上で88.9%となっています。

図表 I-2-13-3 事業対象者 該当者の割合 性別・年齢別

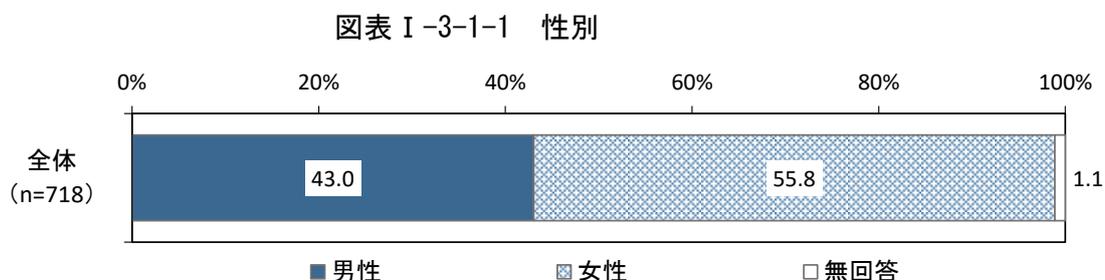


第3章 調査結果

1. 回答者の属性

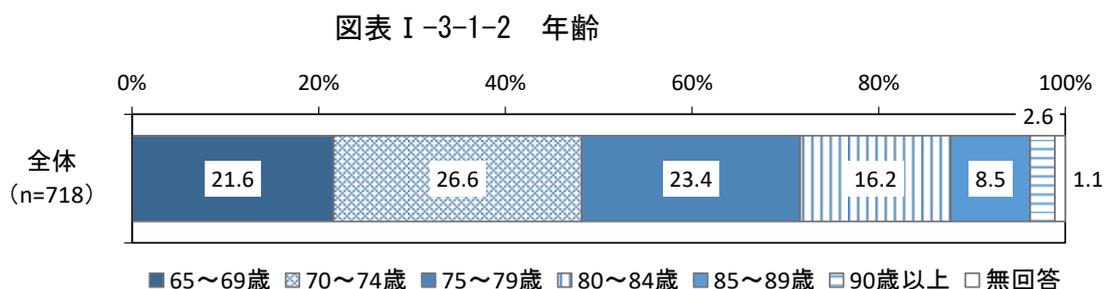
(1) 性別

性別については、「男性」が43.0%、「女性」が55.8%となっています。



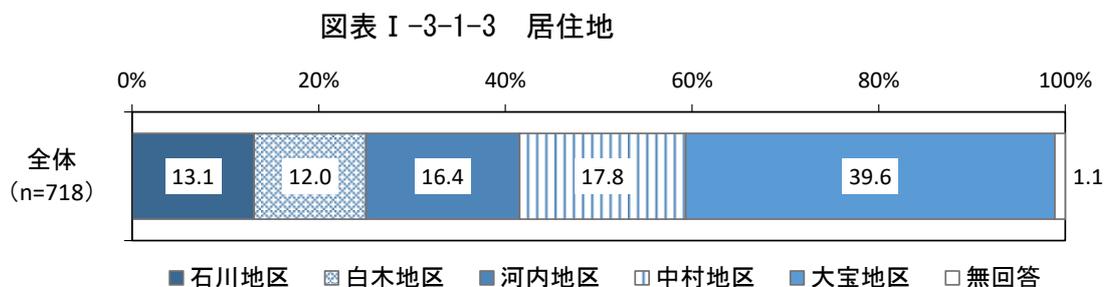
(2) 年齢

年齢については、「70～74歳」が26.6%で最も高く、次いで「75～79歳」が23.4%、「65～69歳」が21.6%と続いています。



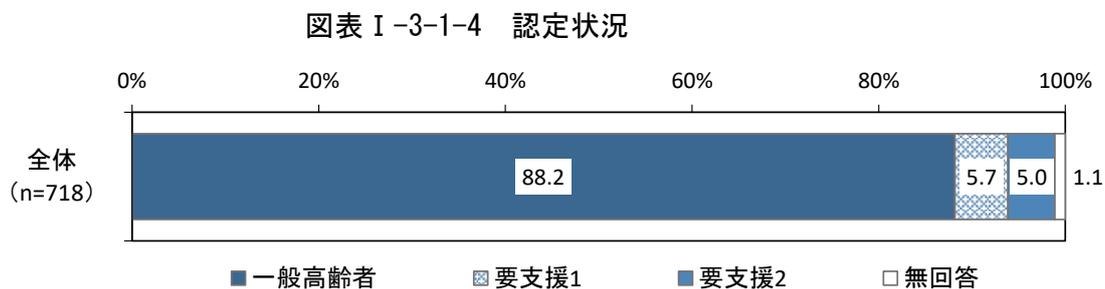
(3) 居住地

居住地については、「大宝地区」が39.6%で最も高く、次いで「中村地区」が17.8%、「河内地区」が16.4%と続いています。



(4) 認定状況

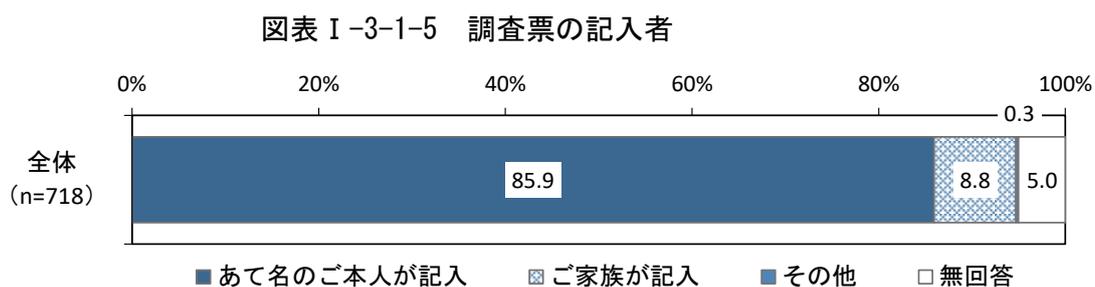
認定状況については、「一般高齢者」が88.2%で最も高く、次いで「要支援1」が5.7%、「要支援2」が5.0%となっています。



(5) 調査票の記入者

調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。

調査票の記入者については、「あて名のご本人が記入」が85.9%で最も高く、次いで「ご家族が記入」が8.8%、「その他」が0.3%となっています。



2. 家族や生活状況について

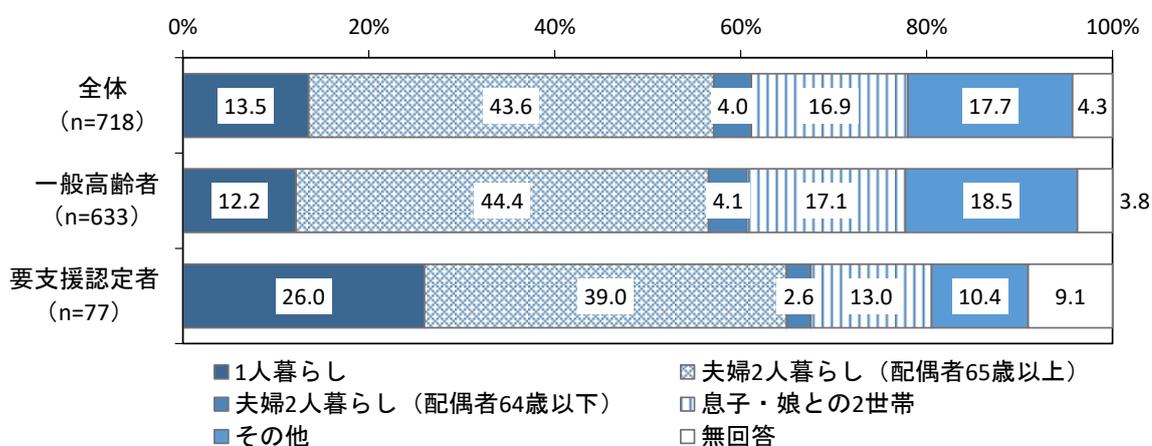
(1) 家族構成

問1 (1)	家族構成をお教えてください (〇はひとつ)
--------	-----------------------

家族構成については、「夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)」が43.6%で最も高く、次いで「その他」が17.7%、「息子・娘との2世帯」が16.9%と続いています。

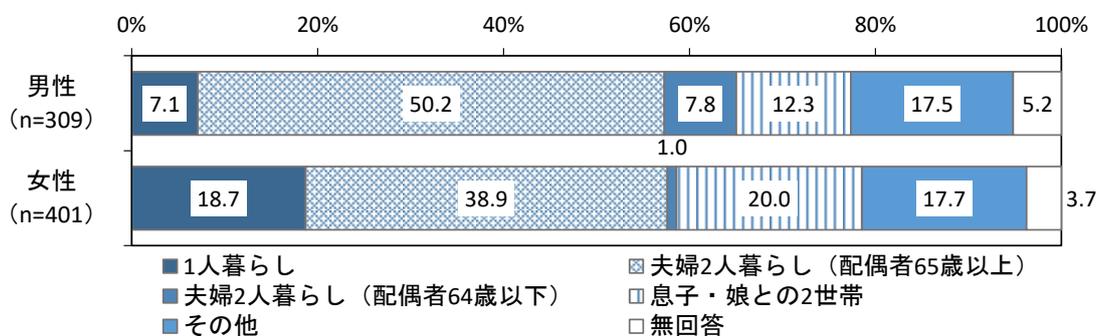
認定状況別でみると、一般高齢者、要支援認定者いずれも「夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)」の割合が最も高くなっており、「1人暮らし」では、要支援認定者が26.0%で、一般高齢者 (26.0%) よりも13.8ポイント高くなっています。

図表 I-3-2-1 家族構成



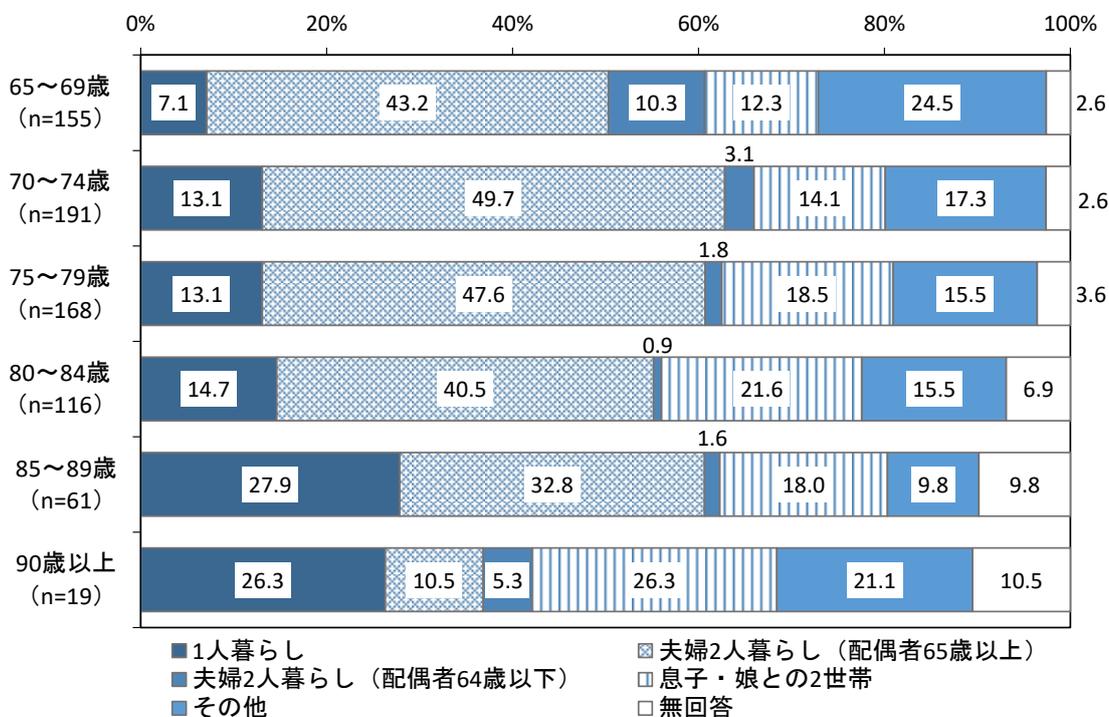
性別でみると、男性、女性いずれも「夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)」の割合が最も高くなっており、「1人暮らし」では、女性が18.7%で、男性 (7.1%) よりも11.6ポイント高くなっています。

図表 I-3-2-2 家族構成 性別



年齢別でみると、60～89歳では「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」の割合が最も高く、90歳以上では「1人暮らし」、「息子・娘との2世帯」が同率で最も高くなっています。また、「1人暮らし」では、89歳以下で年齢が上がるにつれて割合が概ね増加しており、85～89歳が27.9%で最も高くなっています。

図表 I-3-2-3 家族構成 年齢別



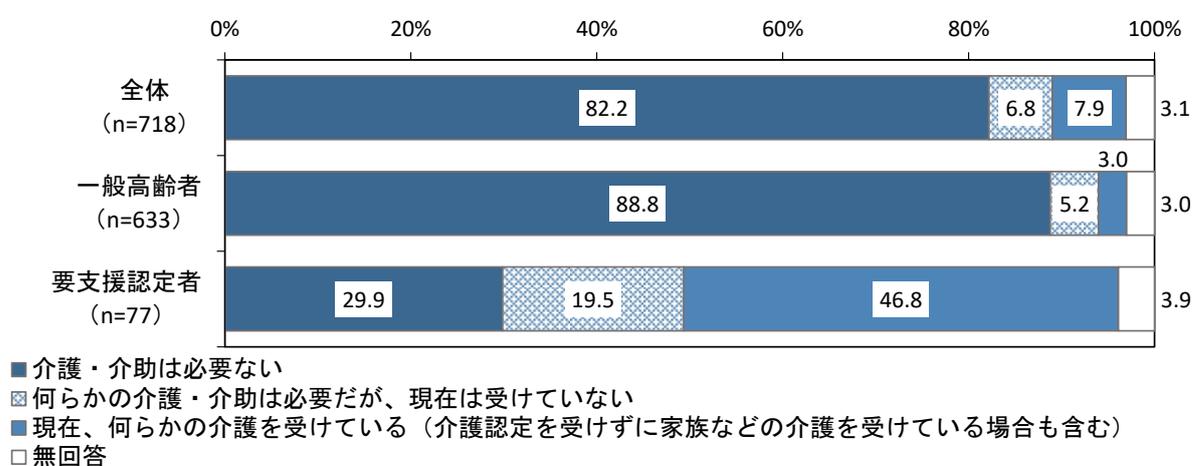
(2) 普段の生活で介護・介助が必要か

問1 (2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか (〇はひとつ)

普段の生活で介護・介助が必要かについては、「介護・介助は必要ない」が82.2%で最も高く、次いで「現在、何らかの介護を受けている (介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)」が7.9%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が6.8%となっています。

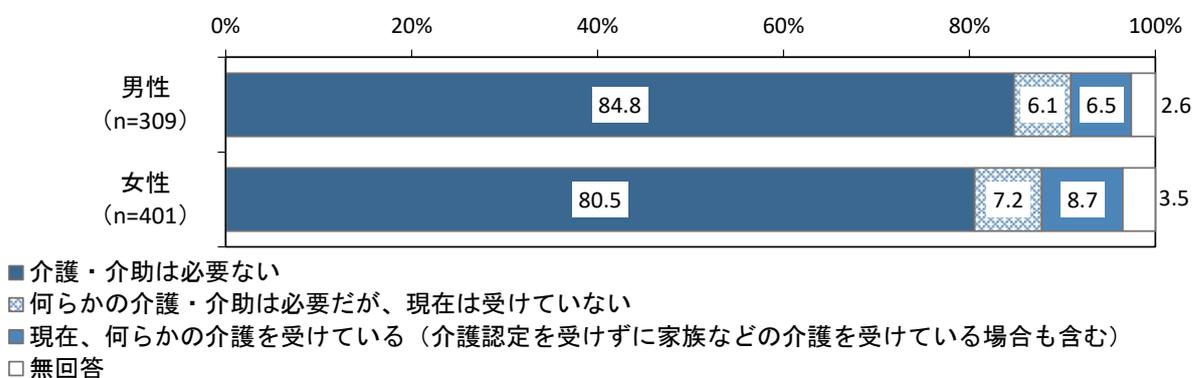
認定状況別でみると、一般高齢者では「介護・介助は必要ない」が88.8%で最も高く、要支援認定者では「現在、何らかの介護を受けている (介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)」が46.8%で最も高くなっています。

図表 I-3-2-4 普段の生活で介護・介助が必要か



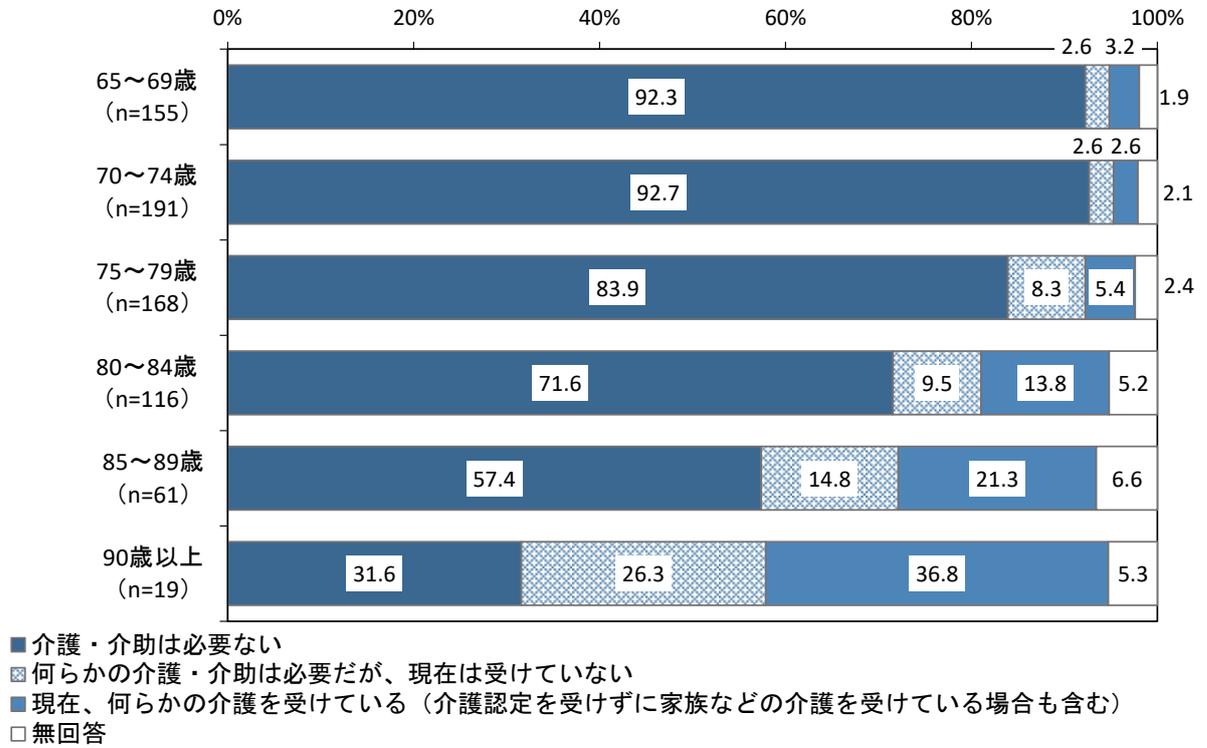
性別でみると、『介護・介助が必要』(「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と「現在、何らかの介護を受けている (介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)」の合計)では、男性が12.6%、女性が15.9%となっています。

図表 I-3-2-5 普段の生活で介護・介助が必要か 性別



年齢別でみると、「介護・介助は必要ない」では、年齢が上がるにつれて割合が概ね減少しており、90歳以上が31.6%で最も低く、『介護・介助が必要』は90歳以上が63.1%で最も高くなっています。

図表 I-3-2-6 普段の生活で介護・介助が必要か 年齢別



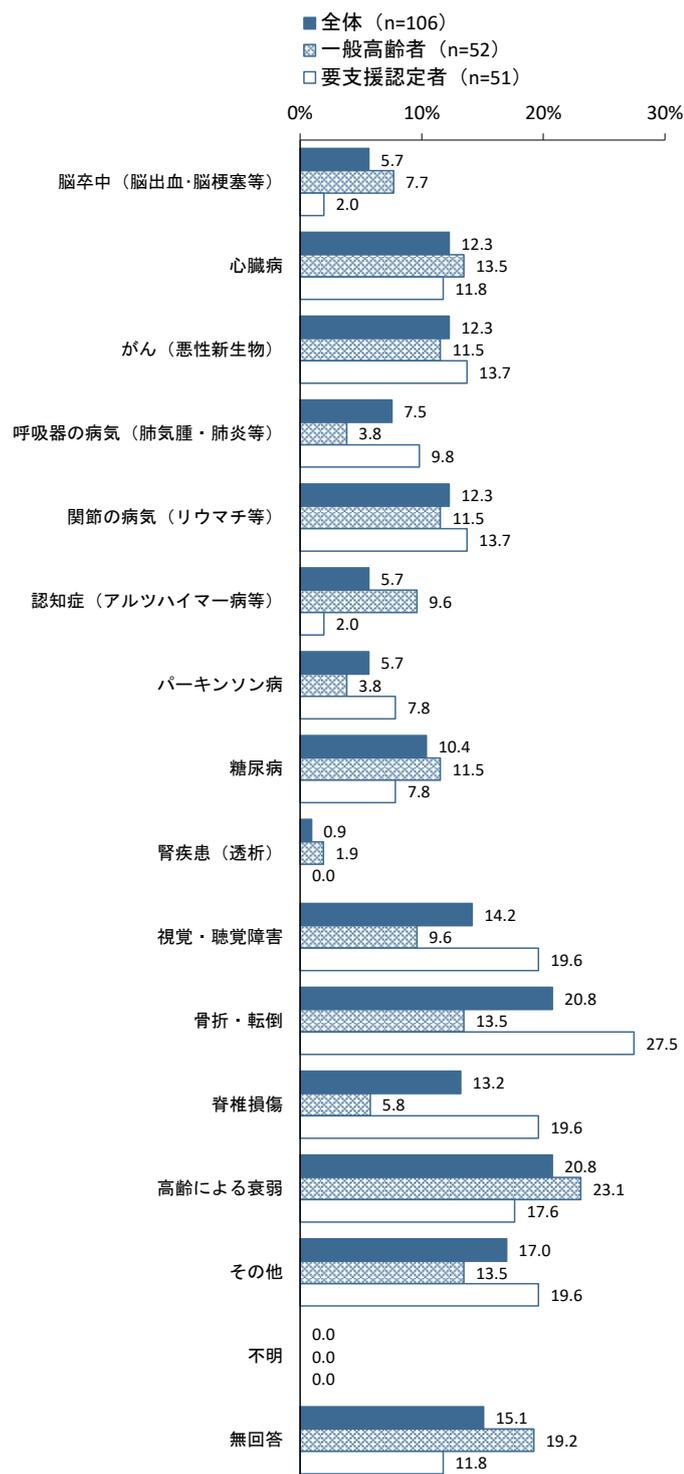
(3) 介護・介助が必要になった主な原因

問1 (2) ①	【問1 (2) で「介護・介助は必要ない」以外を回答した人】 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか (〇はいくつでも)
----------	--

介護・介助が必要になった主な原因については、「骨折・転倒」、「高齢による衰弱」がいずれも20.8%で最も高く、次いで「その他」が17.0%と続いています。

認定状況別で見ると、一般高齢者では「高齢による衰弱」が23.1%で最も高く、要支援認定者では「骨折・転倒」が27.5%で最も高くなっています。

図表 I-3-2-7 介護・介助が必要になった主な原因



性別でみると、男性では「高齢による衰弱」が28.2%で最も高く、女性では「骨折・転倒」が23.4%で最も高くなっています。

年齢別でみると、65～69歳では「その他」の割合が最も高く、70～74歳、80～84歳では「骨折・転倒」の割合が最も高く、75～79歳では「視覚・聴覚障害」、「脊椎損傷」が同率で最も高く、85歳以上では「高齢による衰弱」の割合が最も高くなっています。

図表 I-3-2-8 介護・介助が必要になった主な原因 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	等脳卒中（脳出血・脳梗塞）	心臓病	がん（悪性新生物）	呼吸器の病気（肺炎・肺気腫・肺炎等）	関節の病気（リウマチ等）	等認知症（アルツハイマー病）	パーキンソン病	糖尿病	腎疾患（透析）	視覚・聴覚障害
全体		106	5.7	12.3	12.3	7.5	12.3	5.7	5.7	10.4	0.9	14.2
性別	男性	39	7.7	17.9	12.8	15.4	12.8	7.7	5.1	12.8	0.0	25.6
	女性	64	3.1	9.4	12.5	1.6	12.5	4.7	6.3	7.8	1.6	7.8
年齢別	65～69歳	9	0.0	11.1	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2
	70～74歳	10	0.0	0.0	10.0	0.0	20.0	10.0	20.0	30.0	0.0	0.0
	75～79歳	23	4.3	8.7	8.7	8.7	13.0	13.0	13.0	13.0	0.0	21.7
	80～84歳	27	7.4	14.8	22.2	3.7	18.5	0.0	3.7	3.7	3.7	14.8
	85～89歳	22	9.1	18.2	13.6	9.1	4.5	0.0	0.0	13.6	0.0	13.6
	90歳以上	12	0.0	16.7	0.0	16.7	8.3	16.7	0.0	0.0	0.0	8.3

		合計	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他	不明	無回答
全体		106	20.8	13.2	20.8	17.0	0.0	15.1
性別	男性	39	15.4	15.4	28.2	10.3	0.0	12.8
	女性	64	23.4	10.9	15.6	20.3	0.0	17.2
年齢別	65～69歳	9	0.0	0.0	11.1	66.7	0.0	11.1
	70～74歳	10	40.0	10.0	20.0	30.0	0.0	0.0
	75～79歳	23	4.3	21.7	0.0	4.3	0.0	13.0
	80～84歳	27	33.3	22.2	29.6	11.1	0.0	11.1
	85～89歳	22	22.7	4.5	27.3	13.6	0.0	27.3
	90歳以上	12	16.7	0.0	33.3	8.3	0.0	25.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

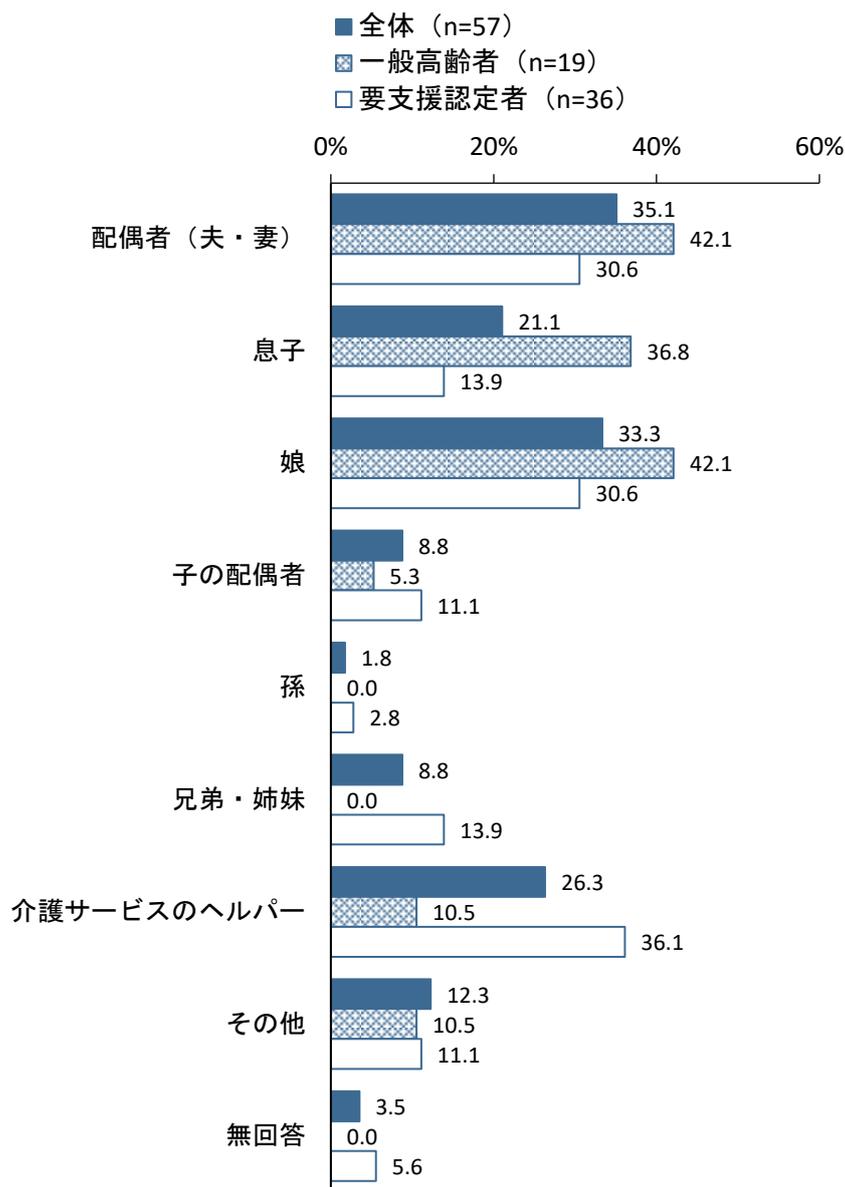
(4) 誰から介護・介助を受けているか

問1 (2) ②	【問1 (2) で「現在、何らかの介護を受けている」を回答した人】 主にどなたの介護、介助を受けていますか (〇はいくつでも)
----------	--

誰から介護・介助を受けているかについては、「配偶者 (夫・妻)」が 35.1% で最も高く、次いで「娘」が 33.3%、「介護サービスのヘルパー」が 26.3% と続いています。

認定状況別で見ると、一般高齢者では「配偶者 (夫・妻)」、「娘」がいずれも 42.1% で最も高く、要支援認定者では「介護サービスのヘルパー」が 36.1% で最も高くなっています。

図表 I-3-2-9 誰から介護・介助を受けているか



性別でみると、男性では「配偶者（夫・妻）」が55.0%で最も高く、女性では「娘」が34.3%で最も高くなっています。

年齢別でみると、65～69歳、75～79歳では「配偶者（夫・妻）」の割合が最も高く、70～74歳では「配偶者（夫・妻）」、「娘」の割合が同率で最も高く、80～84歳では「介護サービスのヘルパー」の割合が最も高く、85歳以上では「娘」の割合が最も高くなっています。

図表 I-3-2-10 誰から介護・介助を受けているか 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	配偶者（夫・妻）	息子	娘	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	介護サービスのヘルパー	その他	無回答
全体		57	35.1	21.1	33.3	8.8	1.8	8.8	26.3	12.3	3.5
性別	男性	20	55.0	20.0	35.0	5.0	0.0	10.0	20.0	0.0	5.0
	女性	35	22.9	22.9	34.3	11.4	2.9	8.6	31.4	17.1	2.9
年齢別	65～69歳	5	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	70～74歳	5	40.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0
	75～79歳	9	66.7	22.2	22.2	0.0	0.0	0.0	22.2	11.1	0.0
	80～84歳	16	37.5	31.3	12.5	12.5	0.0	18.8	43.8	6.3	12.5
	85～89歳	13	7.7	0.0	76.9	7.7	7.7	15.4	23.1	15.4	0.0
	90歳以上	7	14.3	28.6	42.9	28.6	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

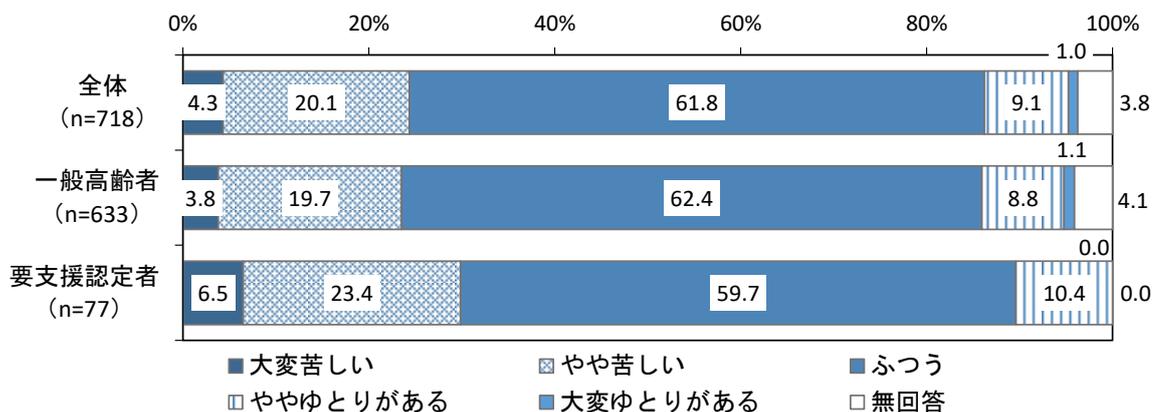
（５）経済的にみた現在の暮らしの状況

問1（3） 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか（○はひとつ）

経済的にみた現在の暮らしの状況については、「ふつう」が61.8%で最も高く、次いで「やや苦しい」が20.1%、「ややゆとりがある」が9.1%と続いています。

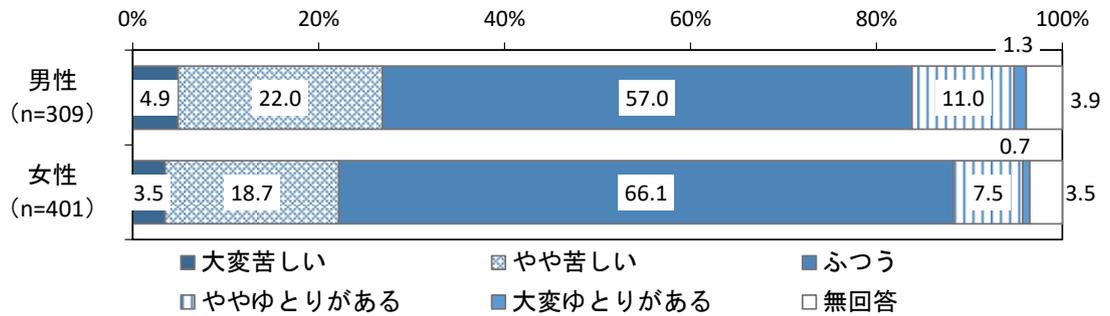
認定状況別でみると、一般高齢者、要支援認定者いずれも「ふつう」の割合が最も高く、『苦しい』（「大変苦しい」と「やや苦しい」の合計）では、要支援認定者が29.9%で、一般高齢者（23.5%）よりも6.4ポイント高くなっています。

図表 I-3-2-11 経済的にみた現在の暮らしの状況



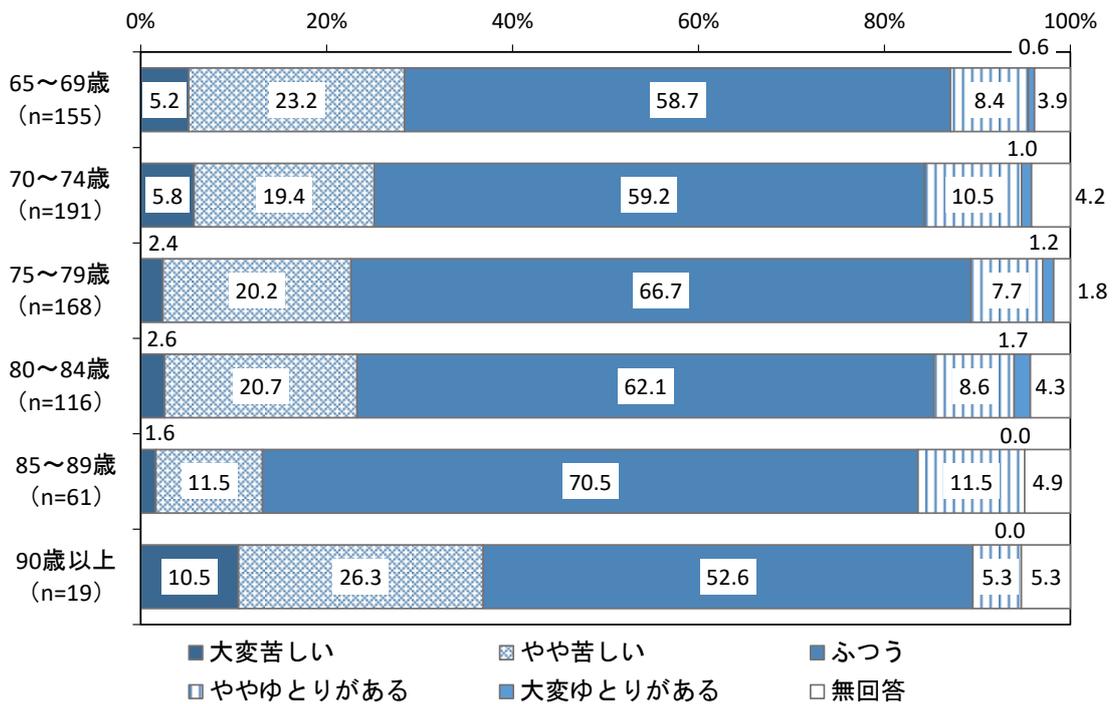
性別でみると、『苦しい』では、男性が26.9%で、女性（22.2%）よりも4.7ポイント高くなっています。

図表 I-3-2-12 経済的にみた現在の暮らしの状況 性別



年齢別でみると、『苦しい』では、90歳以上が36.8%で最も高く、『ゆとりがある』（「ややゆとりがある」と「大変ゆとりがある」の合計）では、70～74歳、85～89歳がいずれも11.5%で最も高くなっています。

図表 I-3-2-13 経済的にみた現在の暮らしの状況 年齢別



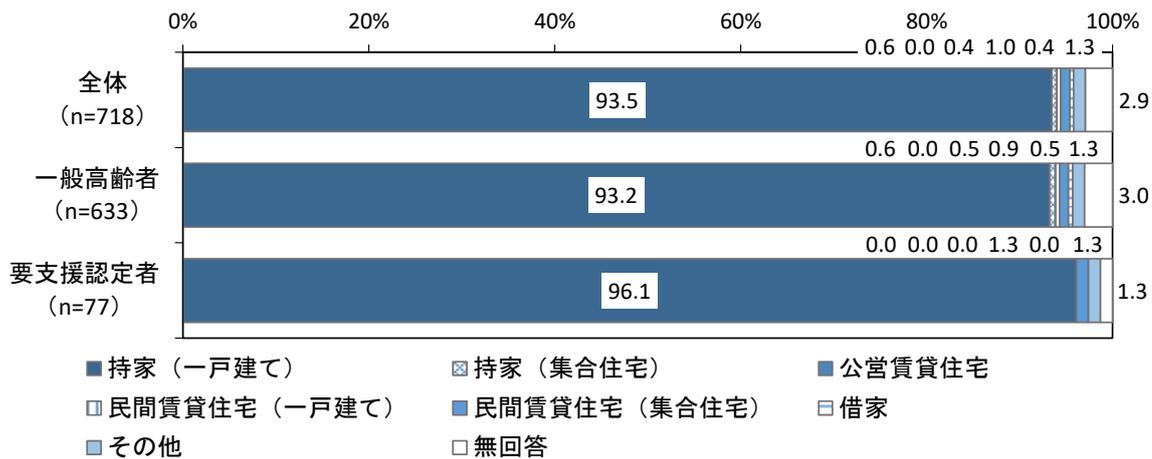
(6) 住まいの状況

問1 (4) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか (〇はひとつ)

住まいの状況については、「持家（一戸建て）」が 93.5% で最も高く、次いで「その他」が 1.3%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が 1.0% と続いています。

認定状況別でみると、「持家（一戸建て）」では、一般高齢者が 93.2%、要支援認定者が 96.1% となっています。

図表 I-3-2-14 住まいの状況



3. からだを動かすことについて

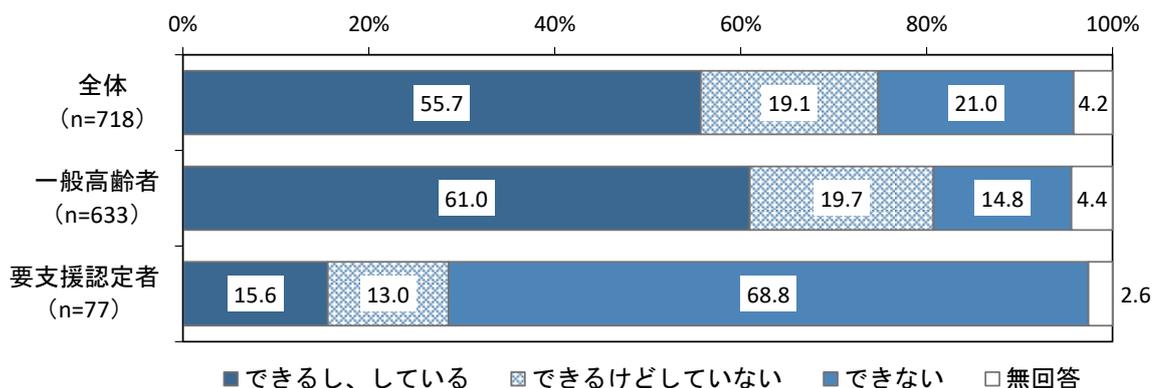
(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか

問2(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか(○はひとつ)
-------	------------------------------

階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかについては、「できるし、している」が55.7%で最も高く、次いで「できない」が21.0%、「できるけどしていない」が19.1%となっています。

認定状況別でみると、一般高齢者では「できるし、している」が61.0%で最も高く、要支援認定者では「できない」が68.8%で最も高くなっています。

図表 I-3-3-1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか



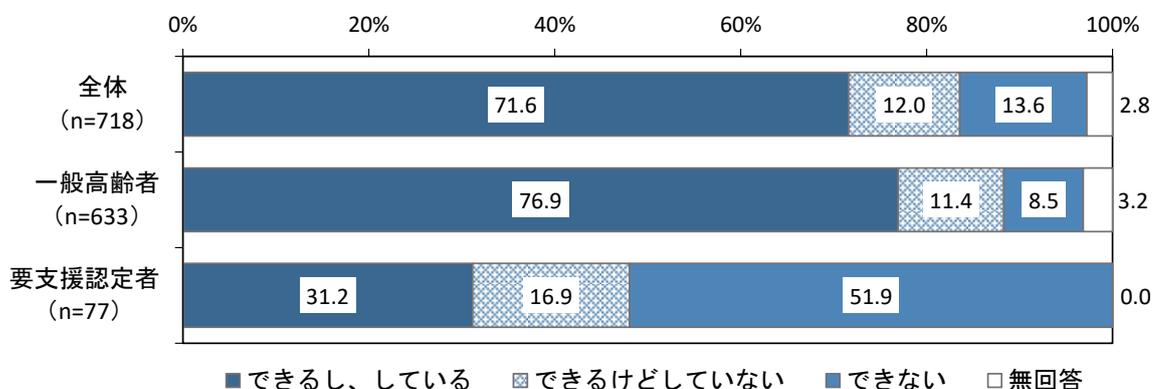
(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか

問2(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか(○はひとつ)
-------	-------------------------------------

椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているかについては、「できるし、している」が71.6%で最も高く、次いで「できない」が13.6%、「できるけどしていない」が12.0%となっています。

認定状況別でみると、一般高齢者では「できるし、している」が76.9%で最も高く、要支援認定者では「できない」が51.9%で最も高くなっています。

図表 I-3-3-2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか



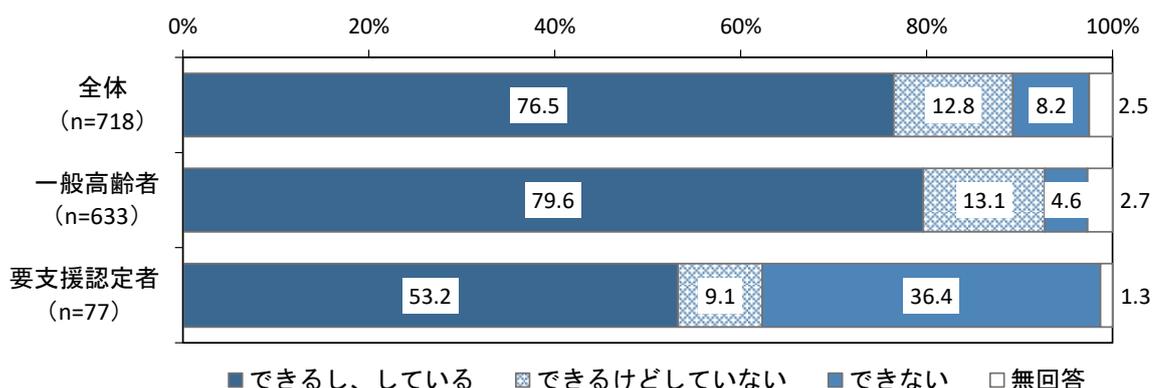
(3) 15分位続けて歩いているか

問2(3) 15分位続けて歩いていますか(○はひとつ)

15分位続けて歩いているかについては、「できるし、している」が76.5%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が12.8%、「できない」が8.2%となっています。

認定状況別でみると、一般高齢者、要支援認定者いずれも「できるし、している」の割合が最も高く、一般高齢者で79.6%、要支援認定者で53.2%となっています。

図表 I-3-3-3 15分位続けて歩いているか



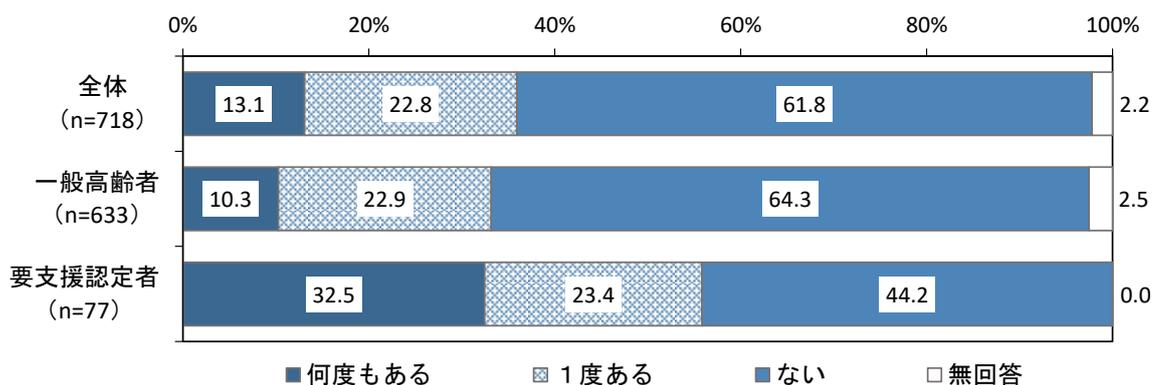
(4) 過去1年間に転んだ経験があるか

問2(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか(○はひとつ)

過去1年間に転んだ経験があるかについては、「ない」が61.8%で最も高く、次いで「1度ある」が22.8%、「何度もある」が13.1%となっています。

認定状況別でみると、「何度もある」では、要支援認定者が32.5%で、一般高齢者(10.3%)よりも22.2ポイント高くなっています。

図表 I-3-3-4 過去1年間に転んだ経験があるか



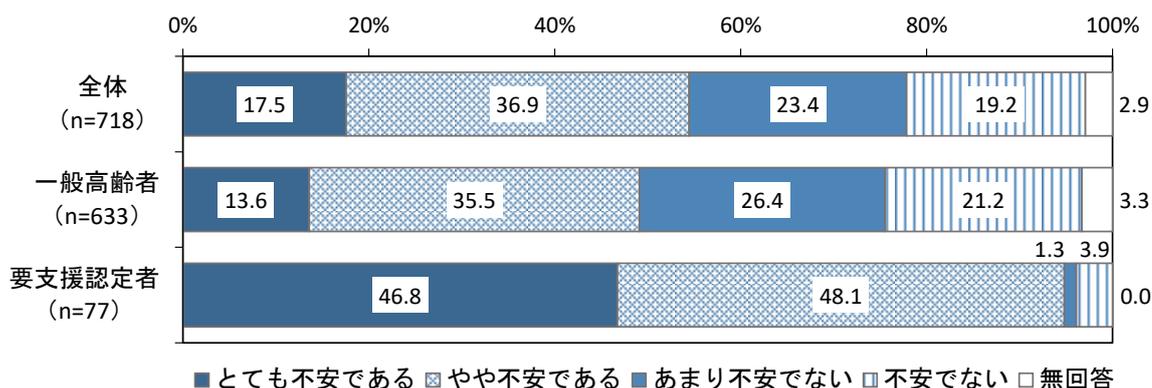
(5) 転倒に対する不安は大きいか

問2(5) 転倒に対する不安は大きいですか(○はひとつ)

転倒に対する不安は大きいかについては、「やや不安である」が36.9%で最も高く、次いで「あまり不安でない」が23.4%、「不安でない」が19.2%と続いています。

認定状況別でみると、『不安である』(「とても不安である」と「やや不安である」の合計)では、要支援認定者が94.9%で、一般高齢者(49.1%)よりも45.8ポイント高くなっています。

図表 I-3-3-5 転倒に対する不安は大きいか



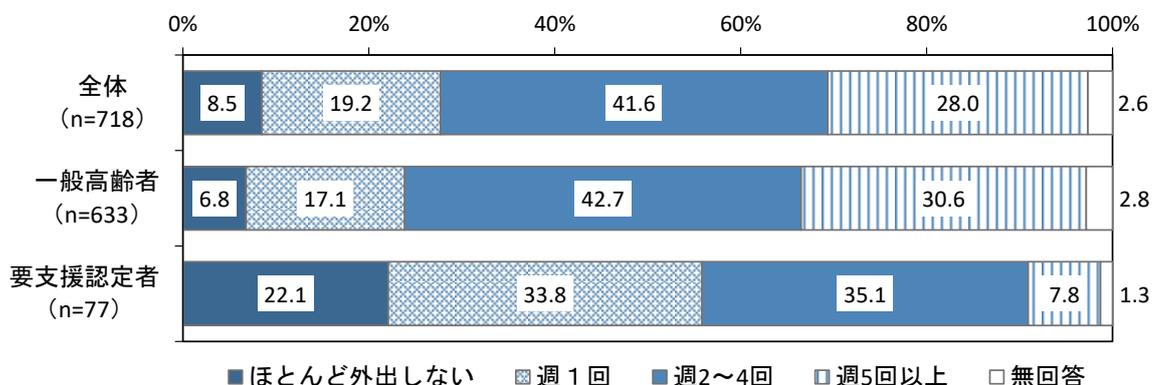
(6) 週に1回以上は外出しているか

問2(6) 週に1回以上は外出していますか(○はひとつ)

週に1回以上は外出しているかについては、「週2~4回」が41.6%で最も高く、次いで「週5回以上」が28.0%、「週1回」が19.2%と続いています。

認定状況別でみると、「ほとんど外出しない」では、要支援認定者が22.1%で、一般高齢者(6.8%)よりも15.3ポイント高くなっています。

図表 I-3-3-6 週に1回以上は外出しているか



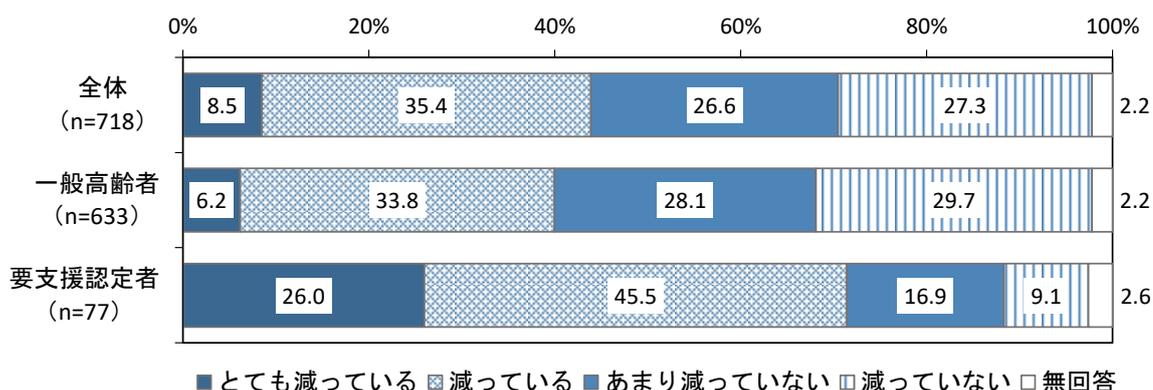
(7) 昨年と比べて外出の回数が減っているか

問2 (7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか (〇はひとつ)

昨年と比べて外出の回数が減っているかについては、「減っている」が 35.4%で最も高く、次いで「減っていない」が 27.3%、「あまり減っていない」が 26.6%と続いています。

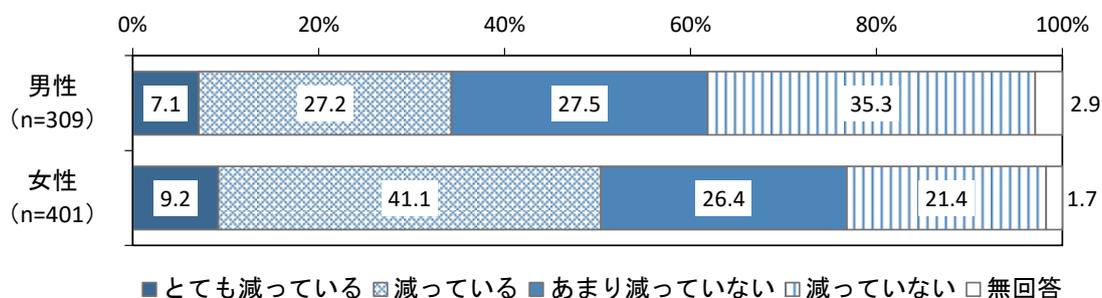
認定状況別でみると、『減っている』(「とても減っている」と「減っている」の合計)では、要支援認定者が 71.5%で、一般高齢者 (40.0%) よりも 31.5 ポイント高くなっています。

図表 I-3-3-7 昨年と比べて外出の回数が減っているか



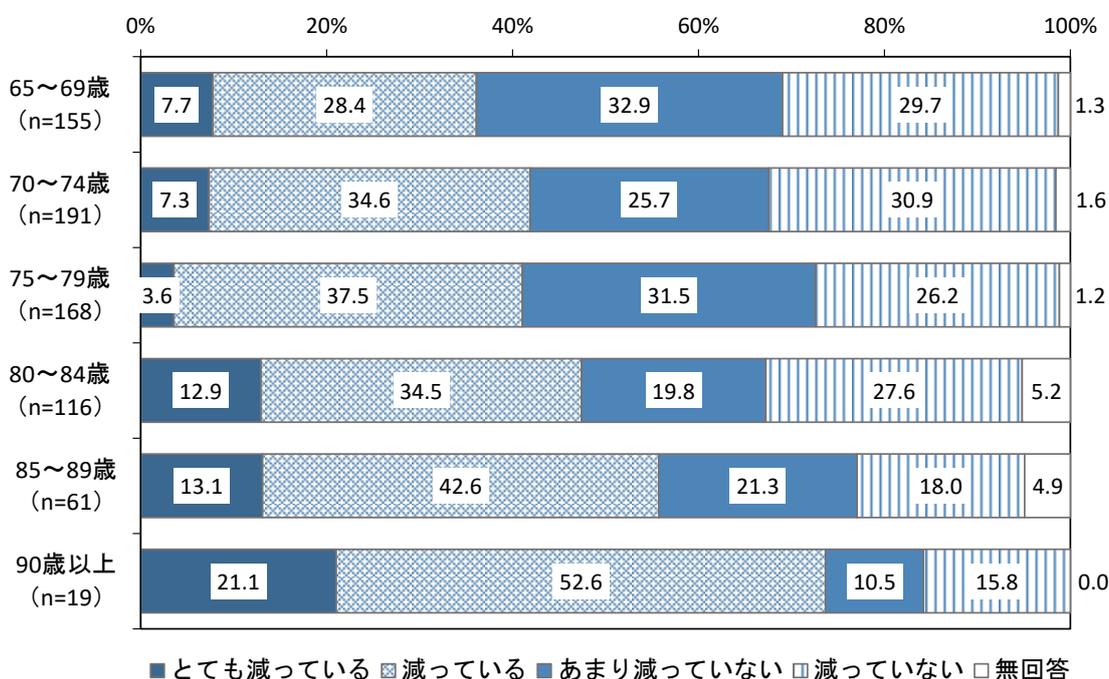
性別でみると、『減っている』では、女性が 50.3%で、男性 (34.3%) よりも 16.0 ポイント高くなっています。

図表 I-3-3-8 昨年と比べて外出の回数が減っているか 性別



年齢別でみると、『減っている』では、年齢が上がるにつれて割合が概ね増加しており、90歳以上が73.7%で最も高くなっています。

図表 I-3-3-9 昨年と比べて外出の回数が減っているか 年齢別



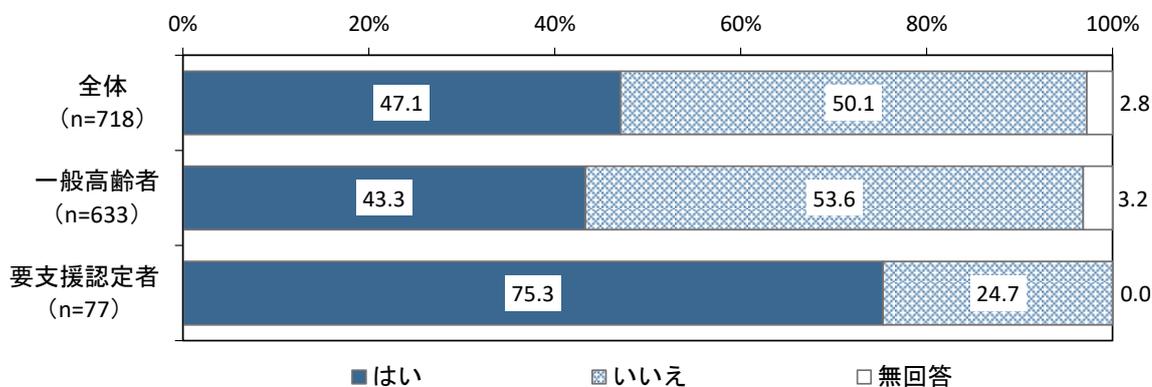
(8) 外出を控えているか

問2(8) 外出を控えていますか (○はひとつ)

外出を控えているかについては、「はい」が47.1%、「いいえ」が50.1%となっています。

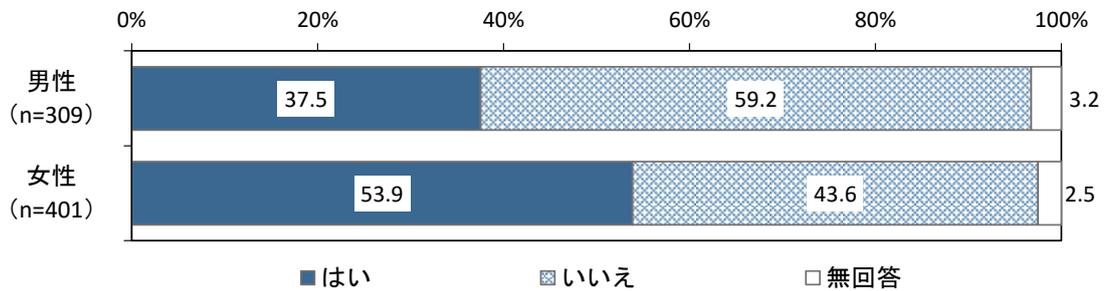
認定状況別でみると、「はい」では、要支援認定者が75.3%で、一般高齢者(43.3%)よりも32.0ポイント高くなっています。

図表 I-3-3-10 外出を控えているか



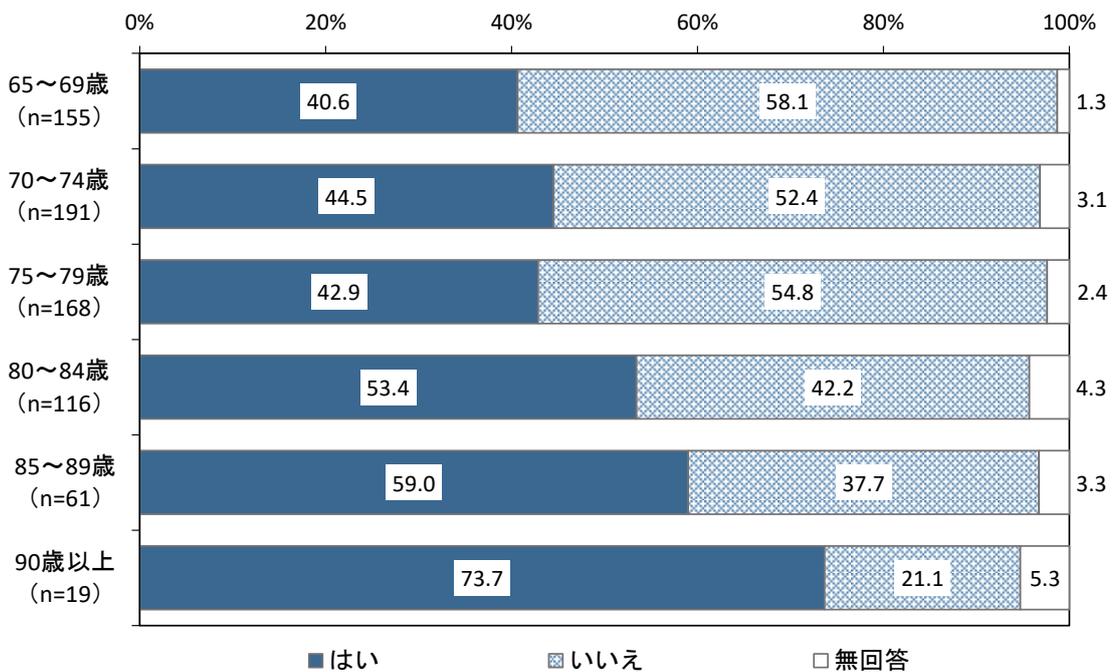
性別でみると、「はい」では、女性が53.9%で、男性（37.5%）よりも16.4ポイント高くなっています。

図表 I-3-3-11 外出を控えているか 性別



年齢別でみると、「はい」では、年齢が上がるにつれて割合が概ね増加しており、90歳以上が73.7%で最も高くなっています。

図表 I-3-3-12 外出を控えているか 年齢別



(9) 外出を控えている理由

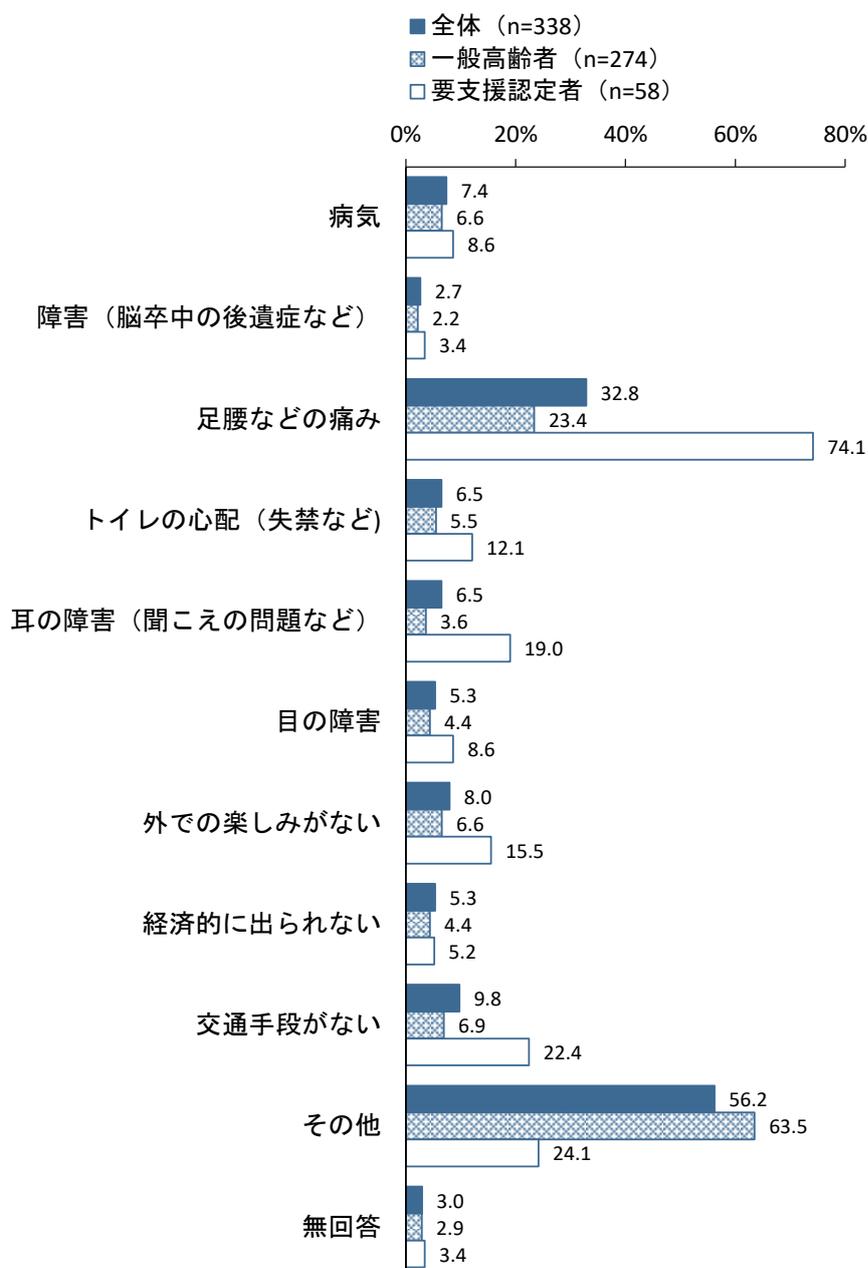
問2(8)①	【問2(8)で「はい」を回答した人】 外出を控えている理由は、次のどれですか(〇はいくつでも)
--------	--

外出を控えている理由については、「その他」が56.2%で最も高く、次いで「足腰などの痛み」が32.8%、「交通手段がない」が9.8%と続いています。

また、その他の理由として、「新型コロナウイルスの為」等、新型コロナウイルスにより外出を控えているという意見が173件となっています。

認定状況別でみると、一般高齢者では「その他」が63.5%で最も高く、要支援認定者では「足腰などの痛み」が74.1%で最も高くなっています。

図表 I-3-3-13 外出を控えている理由



性別でみると、男性、女性いずれも「その他」の割合が最も高く、男性が 55.2%、女性が 57.4% となっています。

年齢別でみると、65～79 歳では「その他」の割合が最も高く、80 歳以上では「足腰などの痛み」の割合が最も高くなっています。

図表 I-3-3-14 外出を控えている理由 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	病気	障害（脳卒中の後遺症など）	足腰などの痛み	トイレの心配（失禁など）	耳の障害（聞こえの問題など）	目の障害	外での楽しみがない	経済的に出られない	交通手段がない	その他	無回答
全体		338	7.4	2.7	32.8	6.5	6.5	5.3	8.0	5.3	9.8	56.2	3.0
性別	男性	116	9.5	2.6	30.2	7.8	11.2	10.3	7.8	2.6	5.2	55.2	1.7
	女性	216	5.6	2.3	33.3	6.0	3.7	2.3	8.3	5.6	12.0	57.4	3.7
年齢別	65～69歳	63	4.8	1.6	9.5	1.6	0.0	3.2	4.8	6.3	1.6	81.0	1.6
	70～74歳	85	8.2	1.2	16.5	4.7	1.2	3.5	4.7	8.2	7.1	68.2	4.7
	75～79歳	72	4.2	1.4	33.3	8.3	4.2	4.2	8.3	4.2	12.5	59.7	2.8
	80～84歳	62	9.7	4.8	50.0	11.3	11.3	8.1	8.1	0.0	12.9	40.3	3.2
	85～89歳	36	8.3	5.6	66.7	8.3	16.7	5.6	19.4	2.8	19.4	22.2	2.8
	90歳以上	14	7.1	0.0	57.1	7.1	28.6	14.3	14.3	0.0	7.1	21.4	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

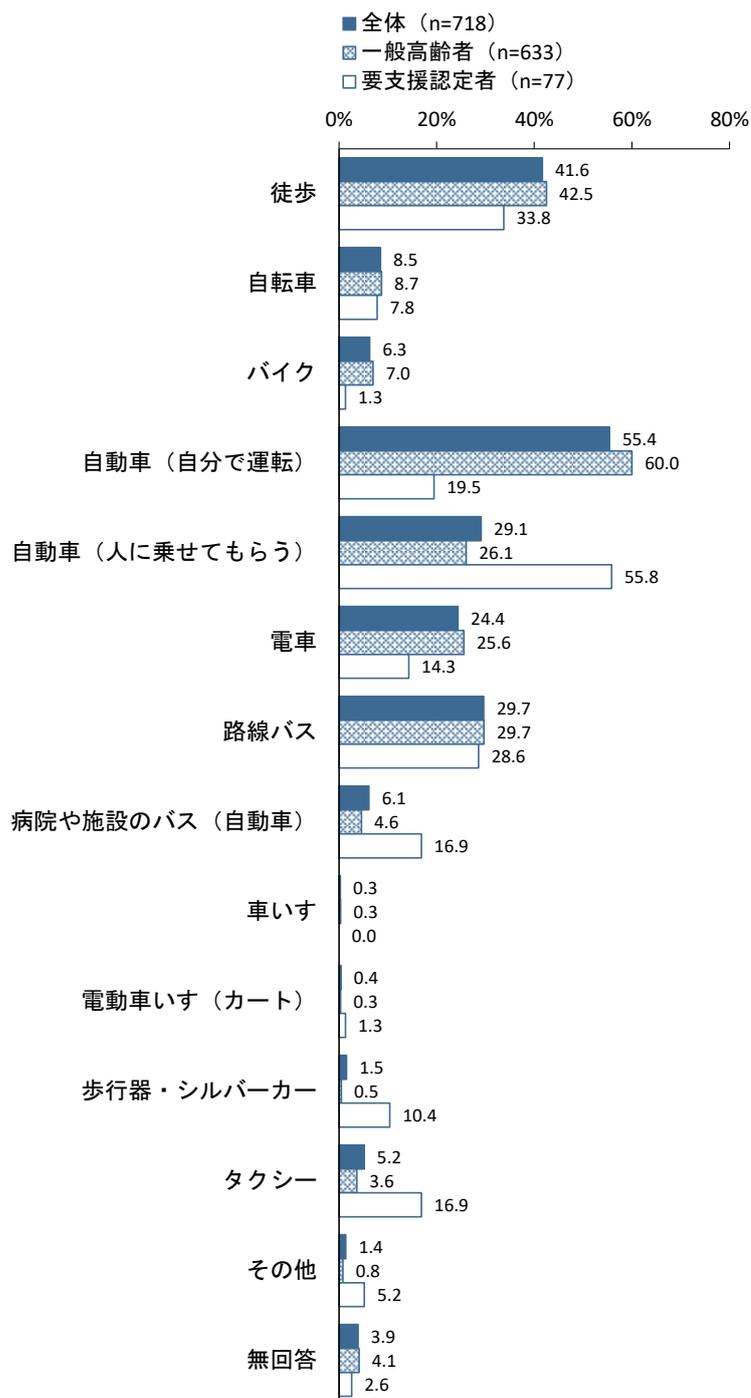
(10) 外出する際の移動手段

問2(9) 外出する際の移動手段は何ですか(○はいくつでも)

外出する際の移動手段については、「自動車(自分で運転)」が55.4%で最も高く、次いで「徒歩」が41.6%、「路線バス」が29.7%と続いています。

認定状況別でみると、一般高齢者では「自動車(自分で運転)」が60.0%で最も高く、要支援認定者では「自動車(人に乗せてもらう)」が55.8%で最も高くなっています。

図表 I-3-3-15 外出する際の移動手段



性別でみると、男性では「自動車（自分で運転）」が73.5%で最も高く、女性では「徒歩」が42.9%で最も高くなっています。

年齢別でみると、65～79歳では「自動車（自分で運転）」の割合が最も高く、80～84歳では「徒歩」の割合が最も高く、85歳以上では「自動車（人に乗せてもらう）」の割合が最も高くなっています。また、「自動車（自分で運転）」では、年齢が上がるにつれて割合が減少しており、65～79歳が74.8%で最も高く、「自動車（人に乗せてもらう）」では、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が68.4%で最も高くなっています。

地区別でみると、大宝地区では「徒歩」の割合が最も高く、その他の地区では「自動車（自分で運転）」の割合が最も高くなっています。

図表 I-3-3-16 外出する際の移動手段 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	徒歩	自転車	バイク	自動車 (自分で運転)	自動車 (人に乗せてもらう)	電車	路線バス	病院や施設のバス (自動車)	車いす	電動車いす (カート)
全体		718	41.6	8.5	6.3	55.4	29.1	24.4	29.7	6.1	0.3	0.4
性別	男性	309	39.8	9.1	7.4	73.5	15.5	22.0	23.6	3.6	0.0	0.3
	女性	401	42.9	8.2	5.5	41.9	39.9	26.2	34.2	7.7	0.5	0.5
年齢別	65～69歳	155	37.4	11.6	8.4	74.8	24.5	23.2	19.4	1.3	0.0	0.0
	70～74歳	191	44.5	6.8	7.9	68.6	25.1	23.0	25.7	3.7	1.0	0.0
	75～79歳	168	44.6	10.1	6.0	54.2	27.4	29.2	35.7	6.5	0.0	0.6
	80～84歳	116	45.7	6.0	5.2	36.2	33.6	25.9	39.7	9.5	0.0	0.0
	85～89歳	61	32.8	9.8	1.6	21.3	39.3	21.3	31.1	14.8	0.0	3.3
	90歳以上	19	21.1	0.0	0.0	10.5	68.4	5.3	31.6	10.5	0.0	0.0
地区別	石川地区	94	46.8	19.1	7.4	56.4	23.4	19.1	25.5	3.2	0.0	0.0
	白木地区	86	34.9	10.5	8.1	52.3	34.9	14.0	20.9	5.8	0.0	1.2
	河内地区	118	25.4	2.5	5.1	58.5	32.2	19.5	21.2	9.3	0.0	0.0
	中村地区	128	34.4	12.5	6.3	65.6	26.6	18.8	23.4	3.9	0.8	1.6
	大宝地区	284	51.8	5.3	6.0	50.7	29.6	33.8	39.8	6.3	0.4	0.0

		合計	歩行器・ シルバーカー	タクシー	その他	無回答
全体		718	1.5	5.2	1.4	3.9
性別	男性	309	1.0	1.9	1.0	5.5
	女性	401	2.0	7.5	1.5	2.7
年齢別	65～69歳	155	0.0	1.9	0.6	1.9
	70～74歳	191	0.0	1.6	0.0	3.1
	75～79歳	168	0.6	4.8	1.8	5.4
	80～84歳	116	4.3	11.2	3.4	4.3
	85～89歳	61	8.2	9.8	0.0	6.6
	90歳以上	19	0.0	15.8	5.3	5.3
地区別	石川地区	94	1.1	3.2	1.1	7.4
	白木地区	86	2.3	3.5	1.2	4.7
	河内地区	118	1.7	1.7	1.7	5.9
	中村地区	128	2.3	3.9	0.0	1.6
	大宝地区	284	1.1	8.1	1.8	2.8

※網掛け■は最も割合が高いもの

4. 食べることについて

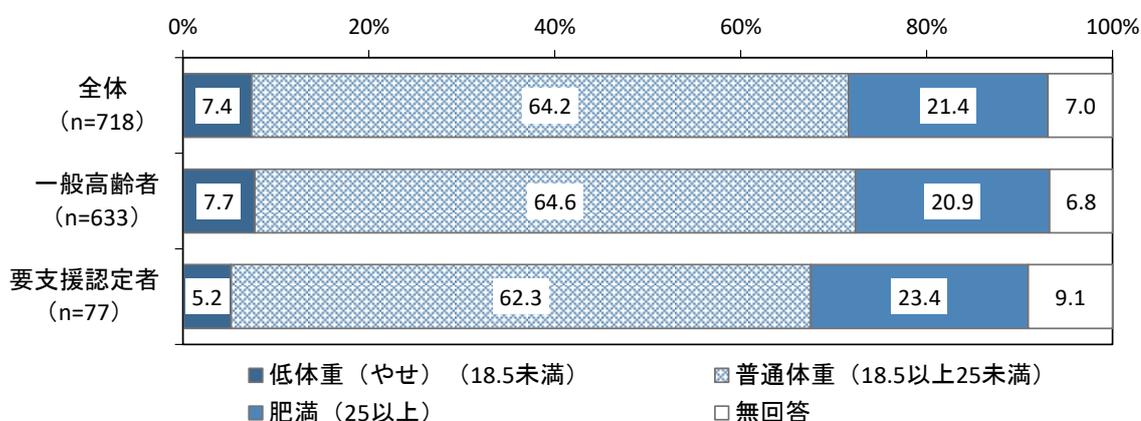
(1) BMI

問3(1)	身長・体重(数字を記入)
-------	--------------

BMI(身長・体重より算出)については、「普通体重(18.5以上25未満)」が64.2%で最も高く、次いで「肥満(25以上)」が21.4%、「低体重(やせ)(18.5未満)」が7.4%となっています。

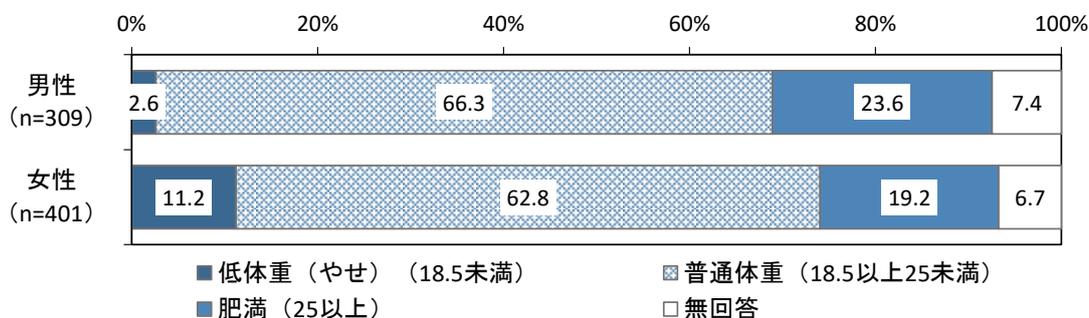
認定状況別でみると、「低体重(やせ)(18.5未満)」では、一般高齢者が7.7%で、要支援認定者(5.2%)よりも2.5ポイント高く、「肥満(25以上)」では、要支援認定者が23.4%で、一般高齢者(20.9%)よりも2.5ポイント高くなっています。

図表 I-3-4-1 BMI



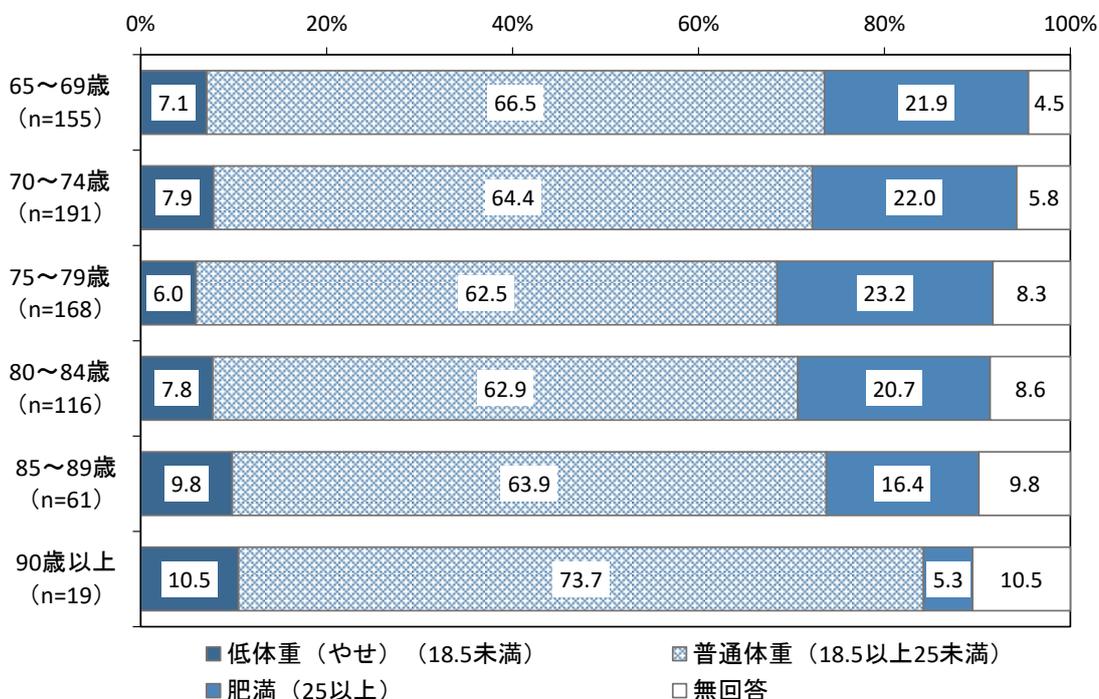
性別でみると、「低体重(やせ)(18.5未満)」では、女性が11.2%で、男性(2.6%)よりも8.6ポイント高く、「肥満(25以上)」では、男性が23.6%で、女性(19.2%)よりも4.4ポイント高くなっています。

図表 I-3-4-2 BMI 性別



年齢別でみると、「低体重（やせ）（18.5未満）」では、75歳以上で年齢が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が10.5%で最も高く、「肥満（25以上）」では、75～79歳が23.2%で最も高くなっています。

図表 I-3-4-3 BMI 年齢別



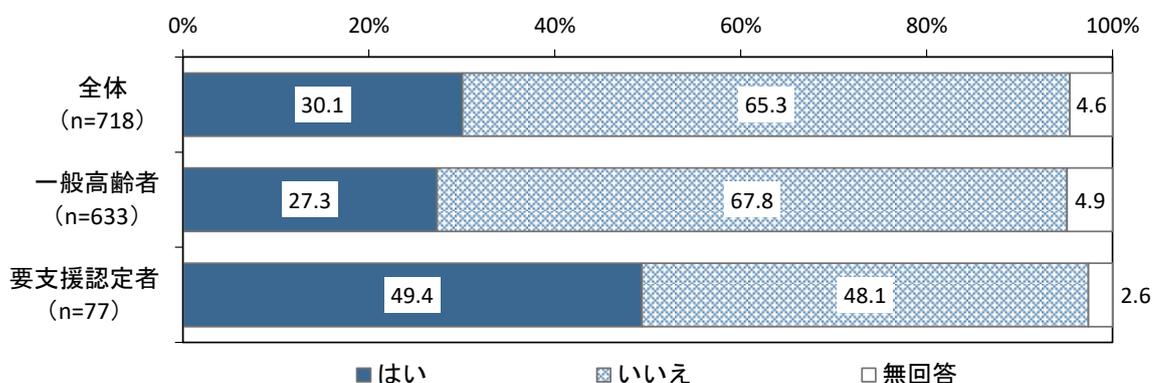
(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか

問3 (2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか (○はひとつ)

半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについては、「はい」が30.1%、「いいえ」が65.3%となっています。

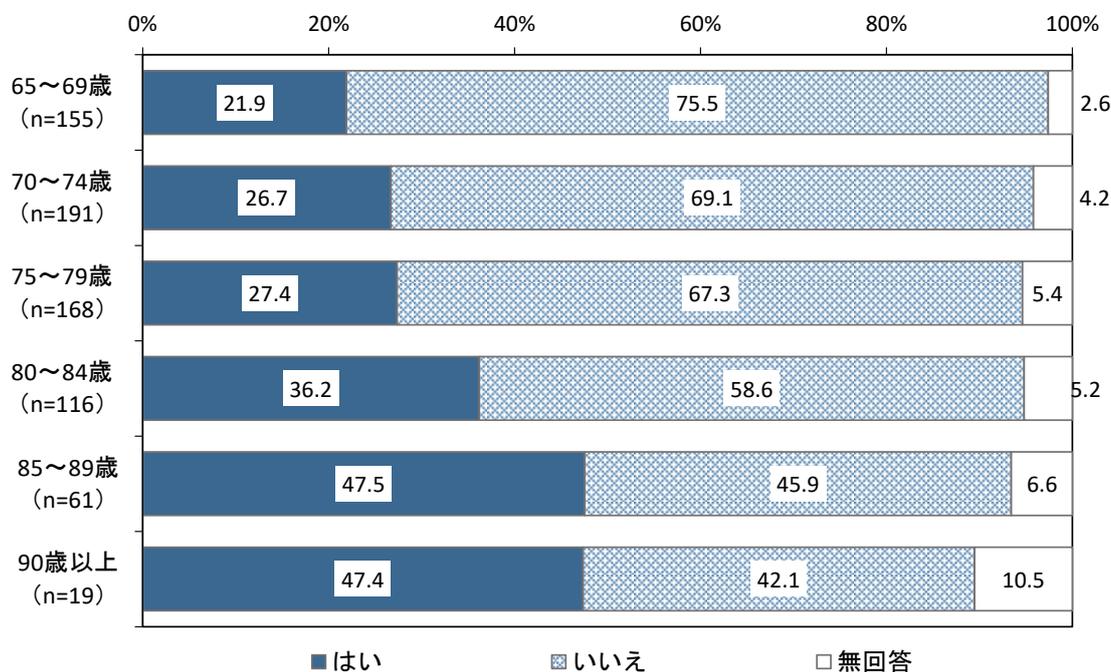
認定状況別でみると、「はい」では、要支援認定者が49.4%で、一般高齢者(27.3%)よりも22.1ポイント高くなっています。

図表 I-3-4-4 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか



年齢別でみると、「はい」では、年齢が上がるにつれて割合が概ね増加しており、85～89歳が47.5%で最も高くなっています。

図表 I-3-4-5 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか 年齢別



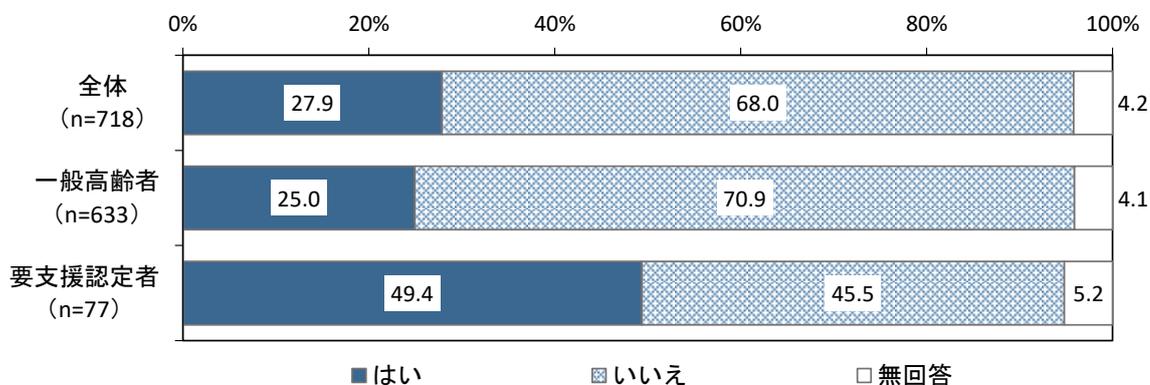
(3) お茶や汁物等でむせることがあるか

問3 (3) お茶や汁物等でむせることがありますか (〇はひとつ)

お茶や汁物等でむせることがあるかについては、「はい」が27.9%、「いいえ」が68.0%となっています。

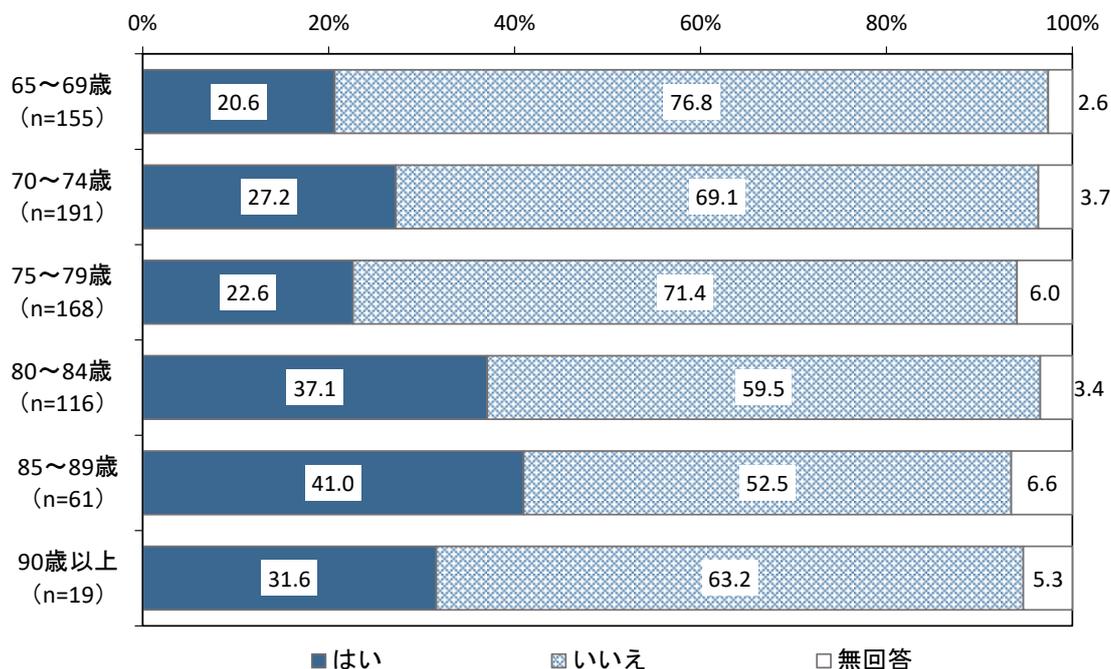
認定状況別でみると、「はい」では、要支援認定者が49.4%で、一般高齢者(25.0%)よりも24.4ポイント高くなっています。

図表 I-3-4-6 お茶や汁物等でむせることがあるか



年齢別でみると、「はい」では、85～89歳が41.0%で最も高くなっています。

図表 I-3-4-7 お茶や汁物等でむせることがあるか 年齢別

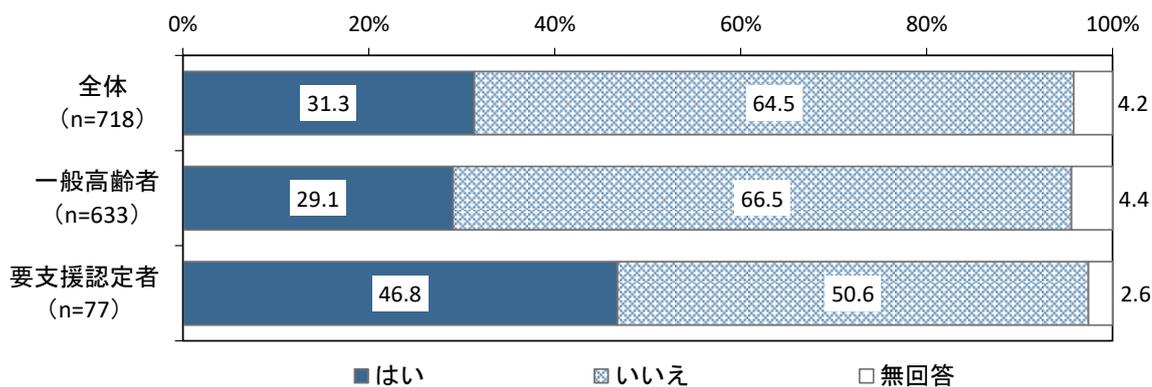


(4) 口の渇きが気になるか

問3(4) 口の渇きが気になりますか (○はひとつ)

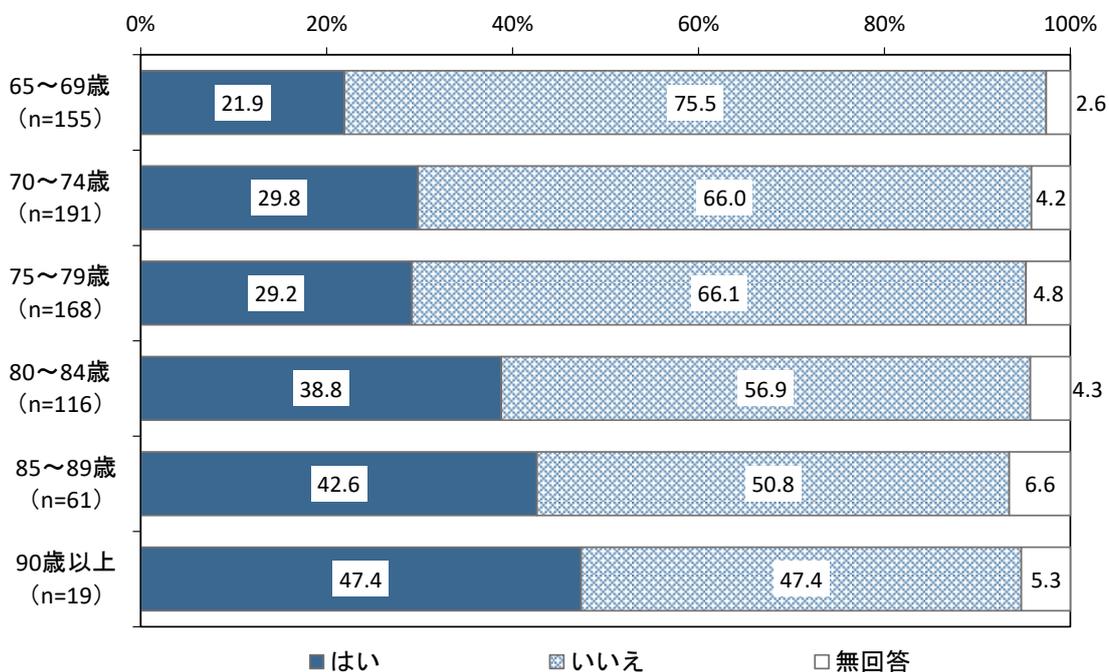
口の渇きが気になるかについては、「はい」が31.3%、「いいえ」が64.5%となっています。認定状況別でみると、「はい」では、要支援認定者が46.8%で、一般高齢者(29.1%)よりも17.7ポイント高くなっています。

図表 I-3-4-8 口の渇きが気になるか



年齢別でみると、「はい」では、年齢が上がるにつれて割合が概ね増加しており、90歳以上が47.4%で最も高くなっています。

図表 I-3-4-9 口の渇きが気になるか 年齢別

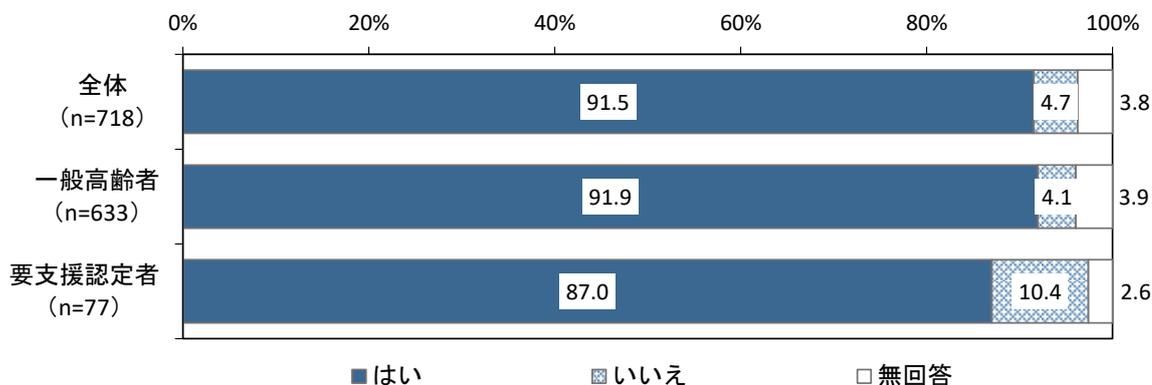


(5) 歯磨きを毎日しているか

問3 (5) 歯磨き (人にやってもらう場合も含む) を毎日していますか (○はひとつ)

歯磨きを毎日しているかについては、「はい」が91.5%、「いいえ」が4.7%となっています。認定状況別でみると、「いいえ」では、要支援認定者が10.4%で、一般高齢者(4.1%)よりも6.3ポイント高くなっています。

図表 I-3-4-10 歯磨きを毎日しているか



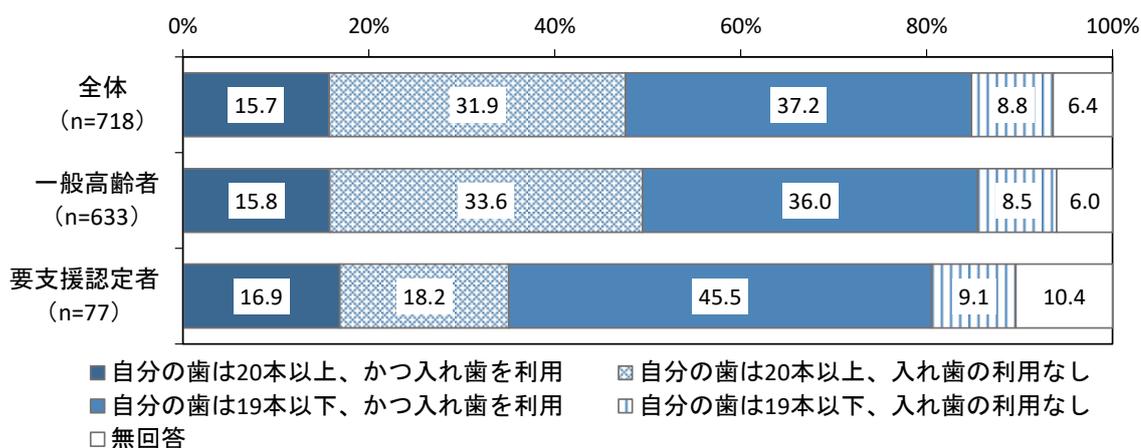
(6) 歯の数と入れ歯の利用状況

問3(6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください(〇はひとつ)

歯の数と入れ歯の利用状況については、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が37.2%で最も高く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が31.9%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が15.7%と続いています。

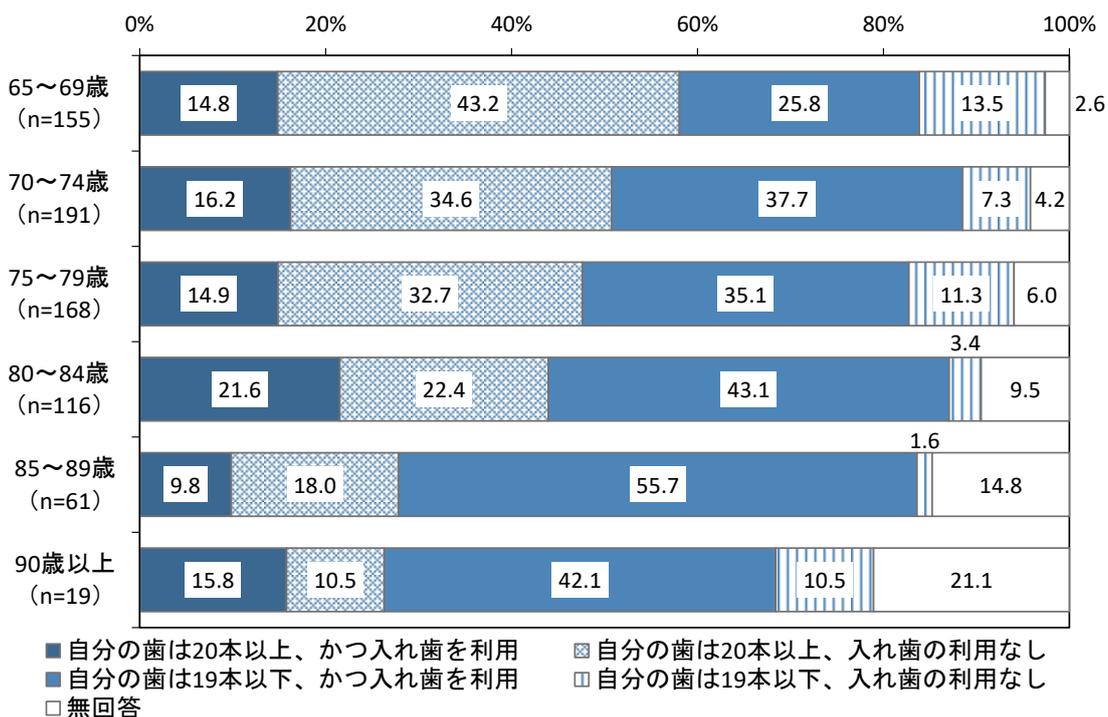
認定状況別でみると、『20本以上』(「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」と「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」の合計)では、一般高齢者が49.4%で、要支援認定者(35.1%)よりも14.3ポイント高くなっています。

図表 I-3-4-11 歯の数と入れ歯の利用状況



年齢別でみると、『20本以上』では、年齢が上がるにつれて割合が減少しており、65~69歳が58.0%で最も高くなっています。

図表 I-3-4-12 歯の数と入れ歯の利用状況 年齢別



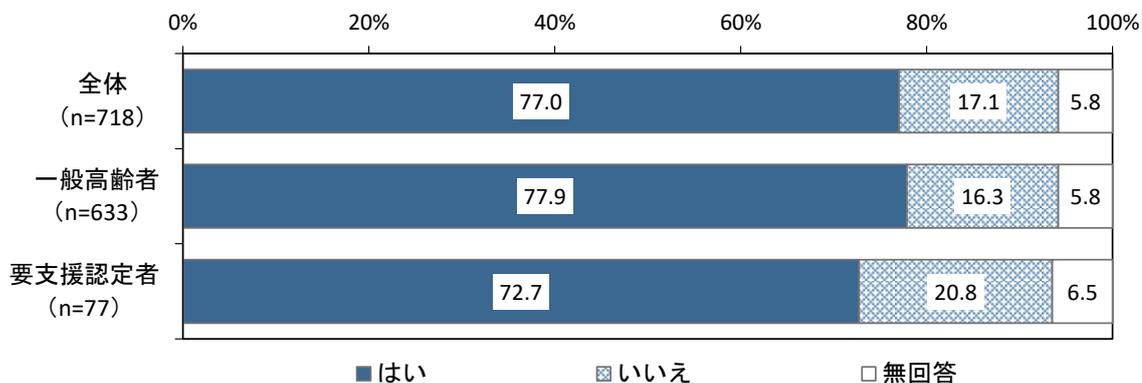
(7) 噛み合わせは良いか

問3(6)① 噛み合わせは良いですか(○はひとつ)

噛み合わせは良いかについては、「はい」が77.0%、「いいえ」が17.1%となっています。

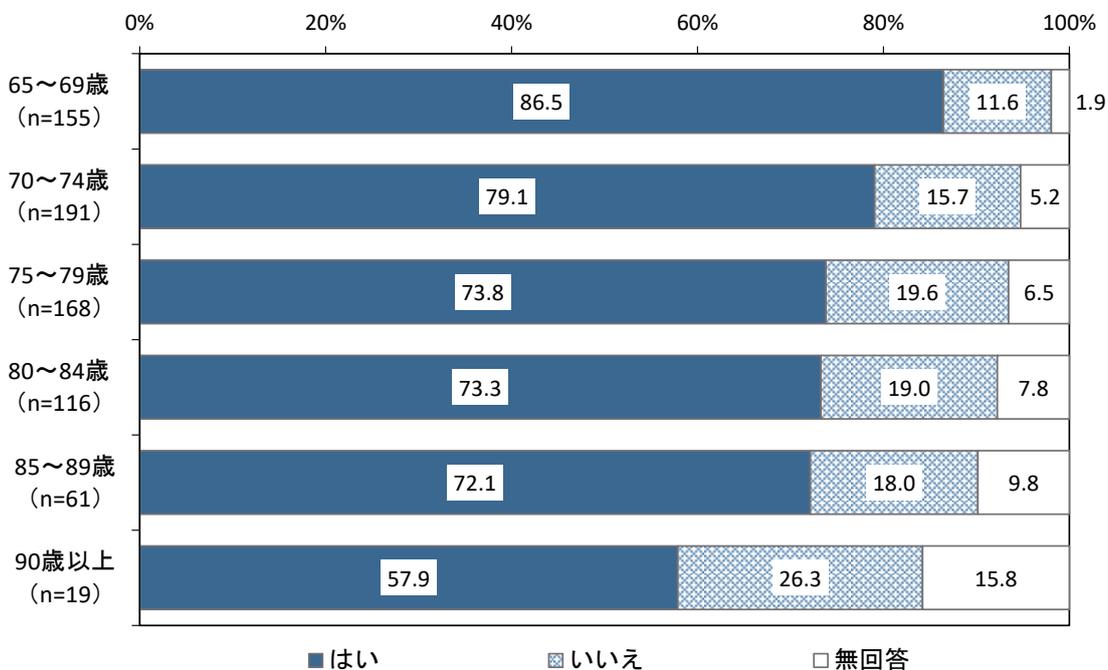
認定状況別でみると、「いいえ」では、要支援認定者が20.8%で、一般高齢者(16.3%)よりも4.5ポイント高くなっています。

図表 I-3-4-13 噛み合わせは良いか



年齢別でみると、「はい」では、年齢が上がるにつれて割合が減少しており、65~69歳が86.5%で最も高くなっています。

図表 I-3-4-14 噛み合わせは良いか 年齢別



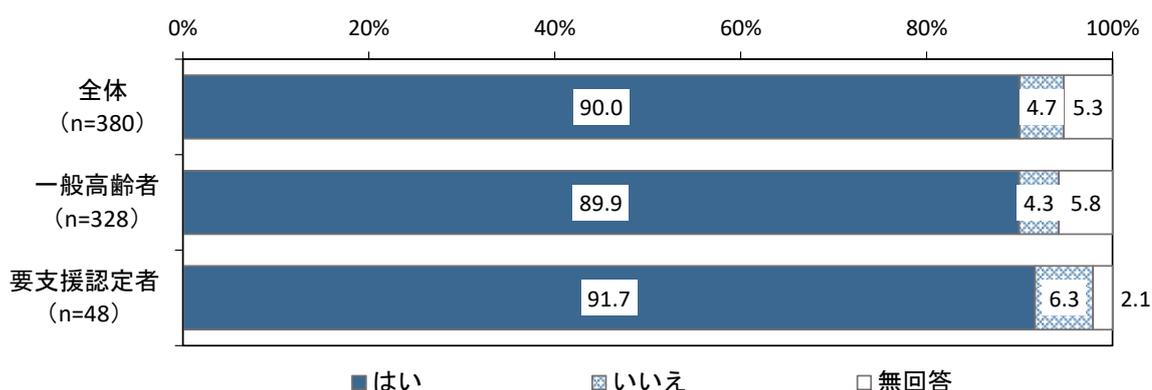
(8) 毎日入れ歯の手入れをしているか

問3(6)②	【問3(6)で「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」を回答した人】 毎日入れ歯の手入れをしていますか(○はひとつ)
--------	--

毎日入れ歯の手入れをしているかについては、「はい」が90.0%、「いいえ」が4.7%となっています。

認定状況別でみると、「いいえ」では、要支援認定者が6.3%で、一般高齢者(4.3%)よりも2.0ポイント高くなっています。

図表 I-3-4-15 毎日入れ歯の手入れをしているか



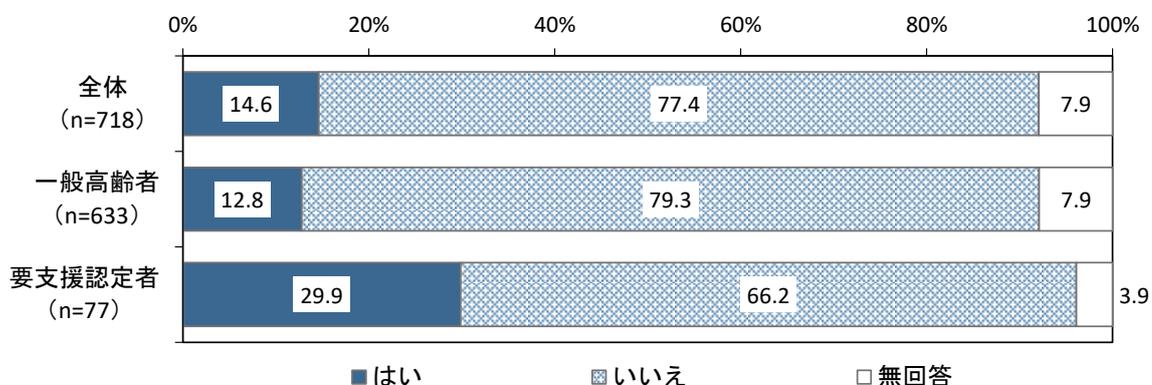
(9) 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか

問3(7)	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか(○はひとつ)
-------	---------------------------------

6か月間で2～3kg以上の体重減少があったかについては、「はい」が14.6%、「いいえ」が77.4%となっています。

認定状況別でみると、「はい」では、要支援認定者が29.9%で、一般高齢者(12.8%)よりも17.1ポイント高くなっています。

図表 I-3-4-16 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか



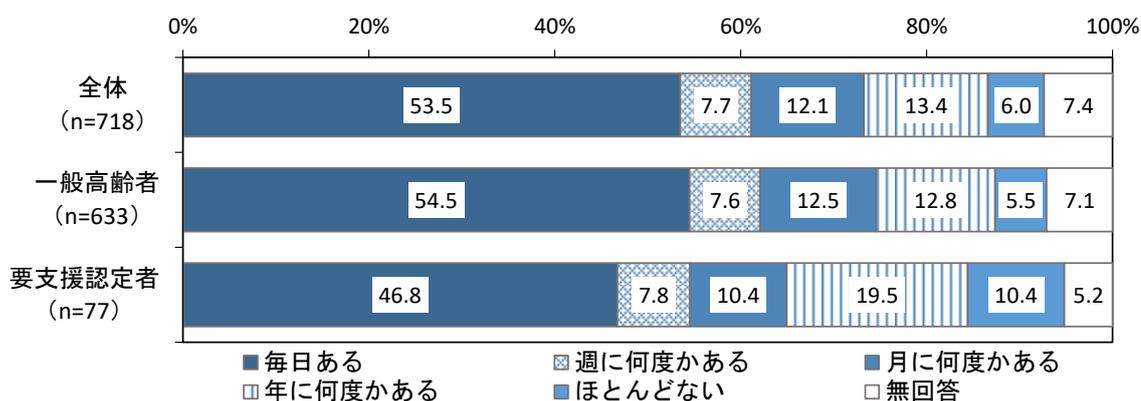
(10) 誰かと食事をとる機会があるか

問3(8) どなたかと食事をとる機会がありますか(○はひとつ)

誰かと食事をとる機会があるかについては、「毎日ある」が53.5%で最も高く、次いで「年に何度かある」が13.4%、「月に何度かある」が12.1%と続いています。

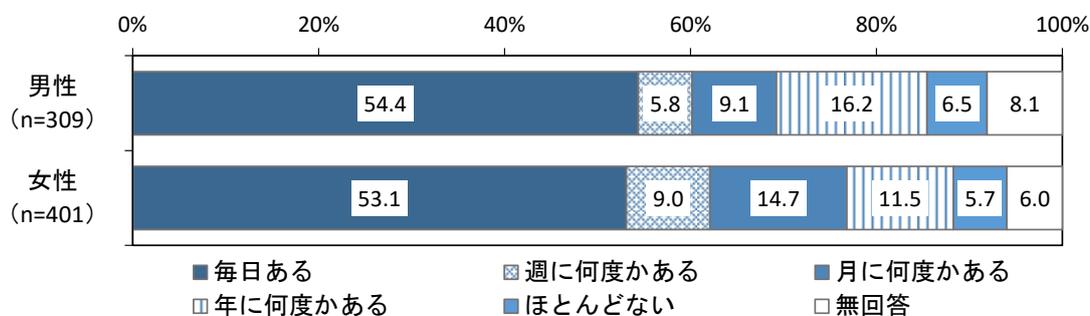
認定状況別でみると、『年に数回以下』(「年に何度かある」と「ほとんどない」の合計)では、要支援認定者が29.9%で、一般高齢者(18.3%)よりも11.6ポイント高くなっています。

図表 I-3-4-17 誰かと食事をとる機会があるか



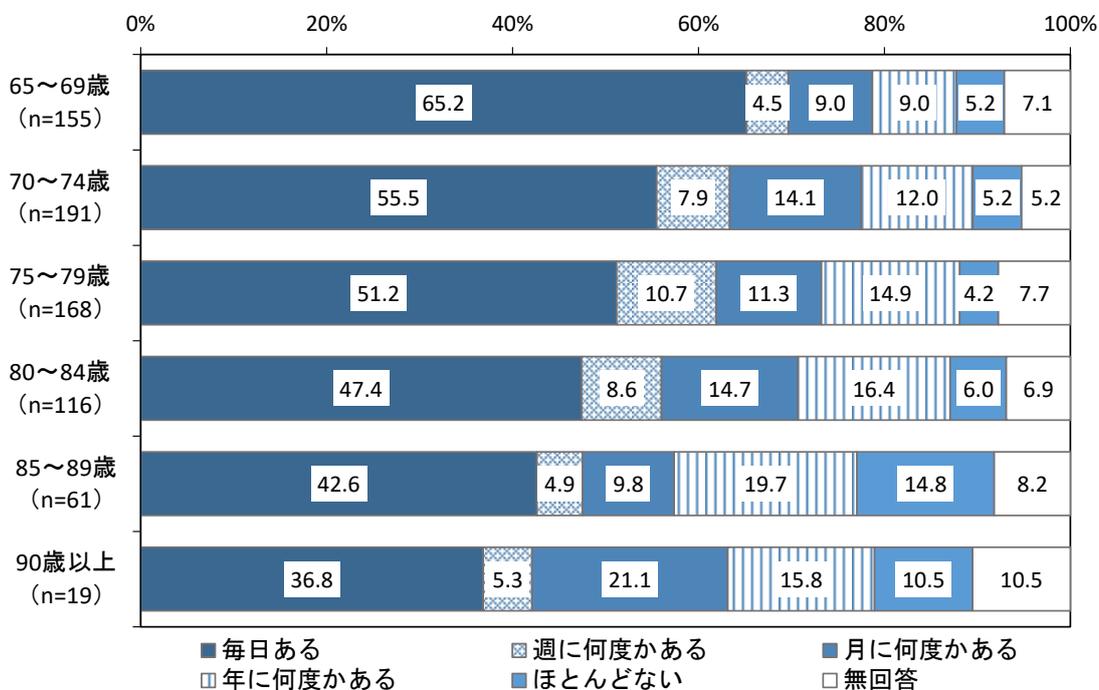
性別でみると、『年に数回以下』では、男性が22.7%で、女性(17.2%)よりも5.5ポイント高くなっています。

図表 I-3-4-18 誰かと食事をとる機会があるか 性別



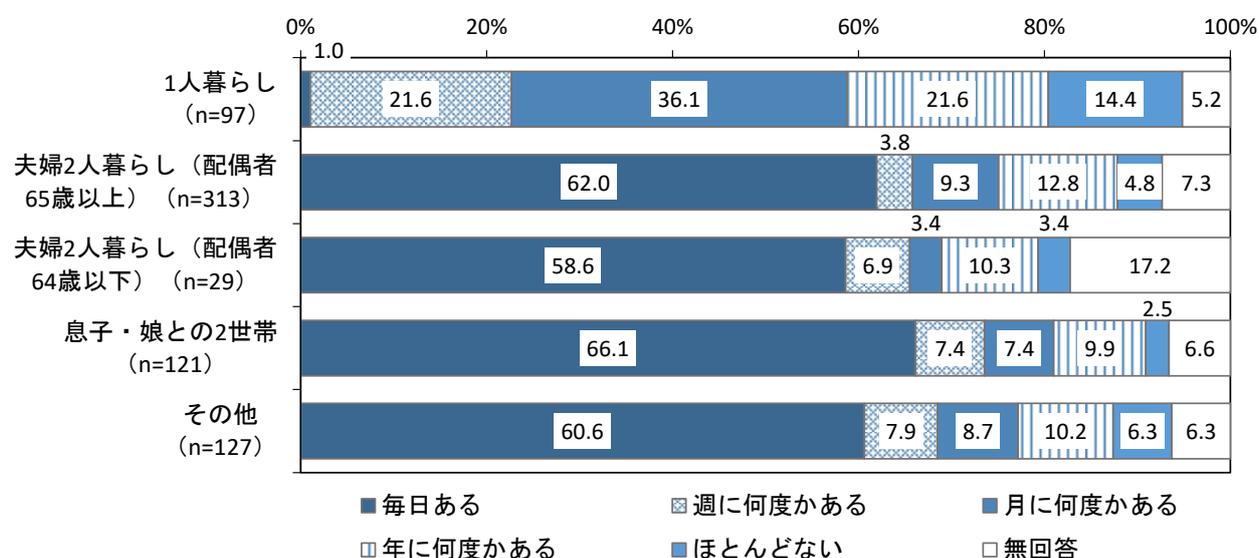
年齢別でみると、「毎日ある」では、年齢が上がるにつれて割合が減少しており、65～69歳が65.2%で最も高く、『年に数回以下』では、89歳以下で年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85～89歳が34.5%で最も高くなっています。

図表 I-3-4-19 誰かと食事をとにもする機会があるか 年齢別



家族構成別でみると、1人暮らしでは「月に何度かある」の割合が最も高く、その他の世帯では「毎日ある」の割合が最も高くなっており、『年に数回以下』では、1人暮らしが36.0%で最も高くなっています。

図表 I-3-4-20 誰かと食事をとにもする機会があるか 家族構成別



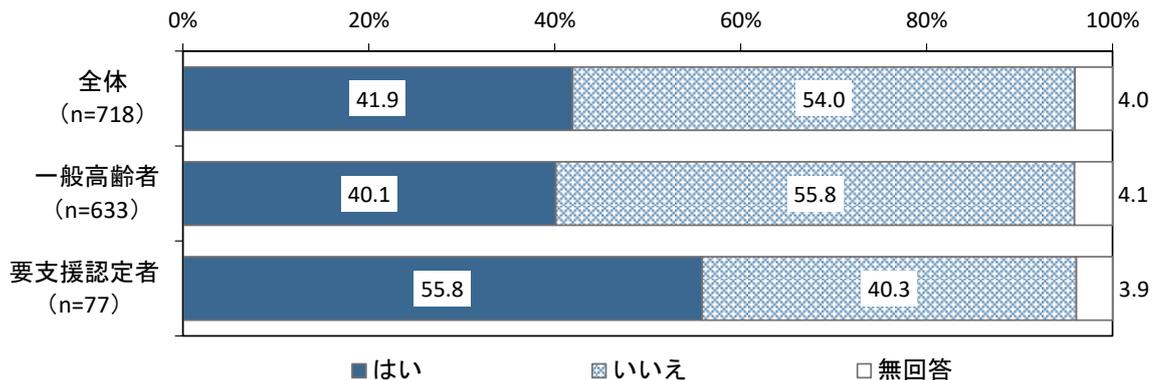
5. 毎日の生活について

(1) 物忘れが多いと感じるか

問4(1)	物忘れが多いと感じますか(○はひとつ)
-------	---------------------

物忘れが多いと感じるかについては、「はい」が41.9%、「いいえ」が54.0%となっています。
 認定状況別でみると、「はい」では、要支援認定者が55.8%で、一般高齢者(40.1%)よりも15.7ポイント高くなっています。

図表 I-3-5-1 物忘れが多いと感じるか



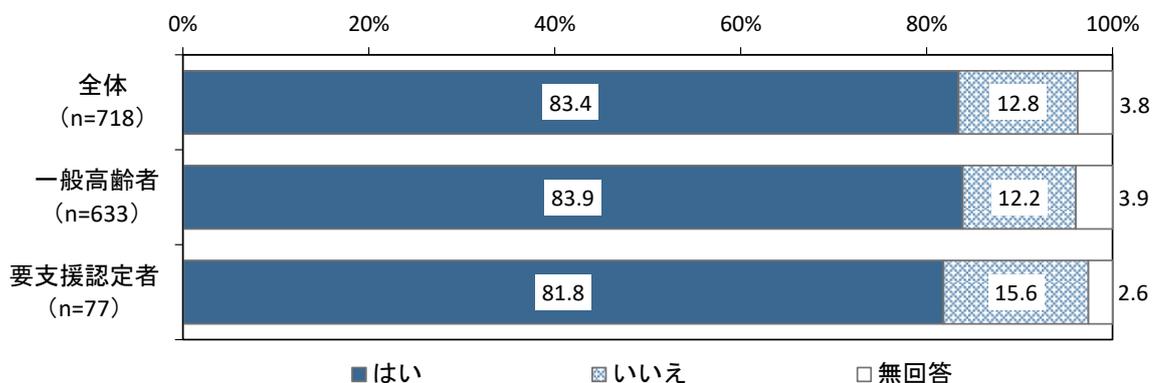
(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけているか

問4(2)	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか(○はひとつ)
-------	------------------------------------

自分で電話番号を調べて、電話をかけているかについては、「はい」が83.4%、「いいえ」が12.8%となっています。

認定状況別でみると、「いいえ」では、要支援認定者が15.6%で、一般高齢者(12.2%)よりも3.4ポイント高くなっています。

図表 I-3-5-2 自分で電話番号を調べて、電話をかけているか



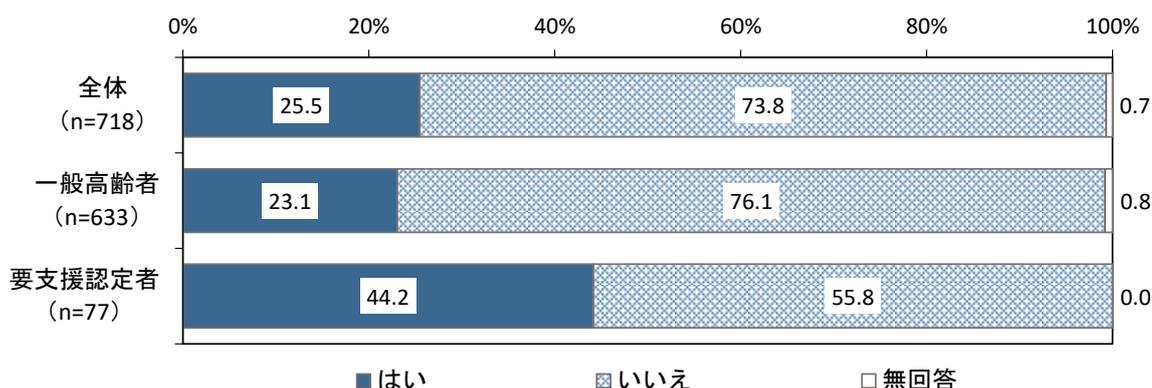
(3) 今日が何月何日かわからない時があるか

問4(3)	今日が何月何日かわからない時がありますか(○はひとつ)
-------	-----------------------------

今日が何月何日かわからない時があるかについては、「はい」が25.5%、「いいえ」が73.8%となっています。

認定状況別でみると、「はい」では、要支援認定者が44.2%で、一般高齢者(23.1%)よりも21.1ポイント高くなっています。

図表 I-3-5-3 今日が何月何日かわからない時があるか



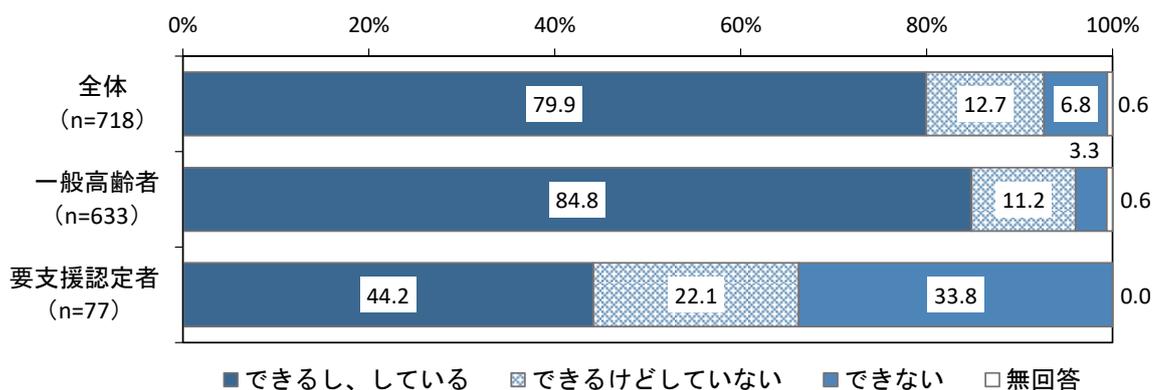
(4) バスや電車を使って1人で外出しているか

問4(4)	バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)(○はひとつ)
-------	--------------------------------------

バスや電車を使って1人で外出しているかについては、「できるし、している」が79.9%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が12.7%、「できない」が6.8%となっています。

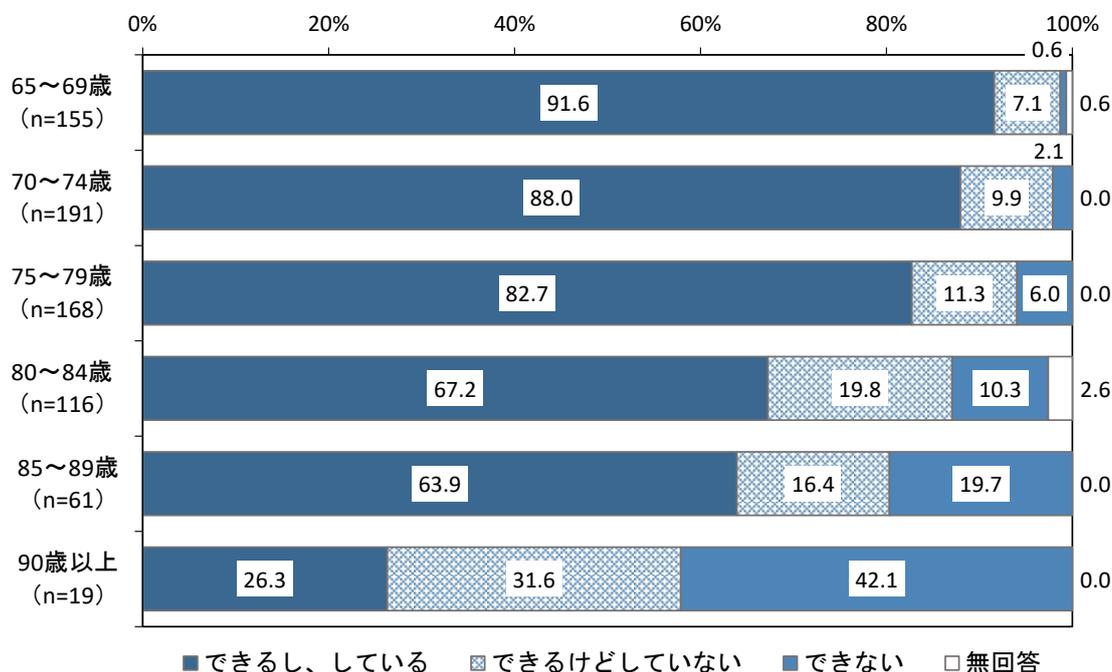
認定状況別でみると、「できない」では、要支援認定者が33.8%で、一般高齢者(3.3%)よりも30.5ポイント高くなっています。

図表 I-3-5-4 バスや電車を使って1人で外出しているか



年齢別でみると、年齢が上がるにつれて「できるし、している」の割合が減少し、「できない」の割合が増加しており、「できない」では、90歳以上が42.1%で最も高くなっています。

図表 I-3-5-5 バスや電車を使って1人で外出しているか 年齢別



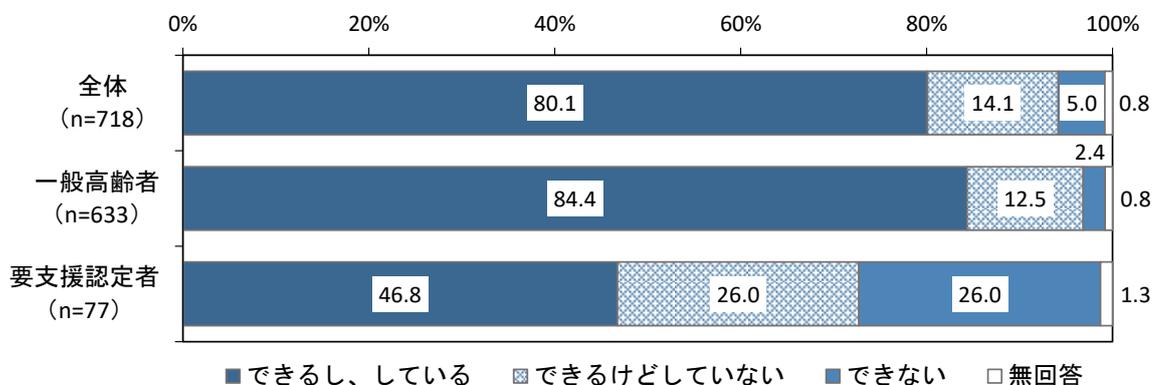
(5) 自分で食品・日用品の買物をしているか

問4 (5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか (○はひとつ)

自分で食品・日用品の買物をしているかについては、「できるし、している」が80.1%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が14.1%、「できない」が5.0%となっています。

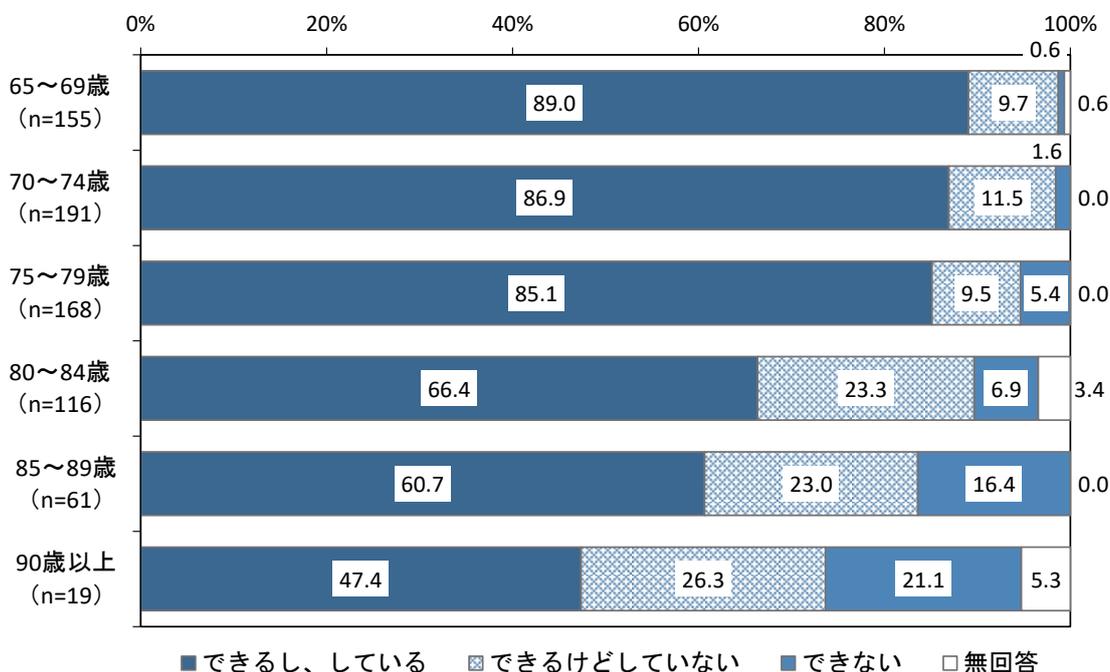
認定状況別でみると、「できない」では、要支援認定者が26.0%で、一般高齢者(2.4%)よりも23.6ポイント高くなっています。

図表 I-3-5-6 自分で食品・日用品の買物をしているか



年齢別でみると、年齢が上がるにつれて「できるし、している」の割合が減少し、「できない」の割合が増加しており、「できない」では、90歳以上が21.1%で最も高くなっています。

図表 I-3-5-7 自分で食品・日用品の買物をしているか 年齢別



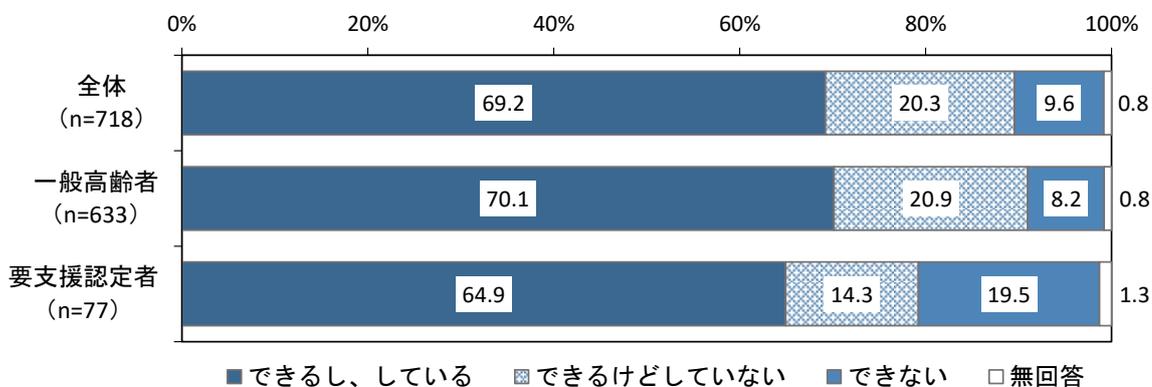
(6) 自分で食事の用意をしているか

問4(6) 自分で食事の用意をしていますか (〇はひとつ)

自分で食事の用意をしているかについては、「できるし、している」が69.2%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が20.3%、「できない」が9.6%となっています。

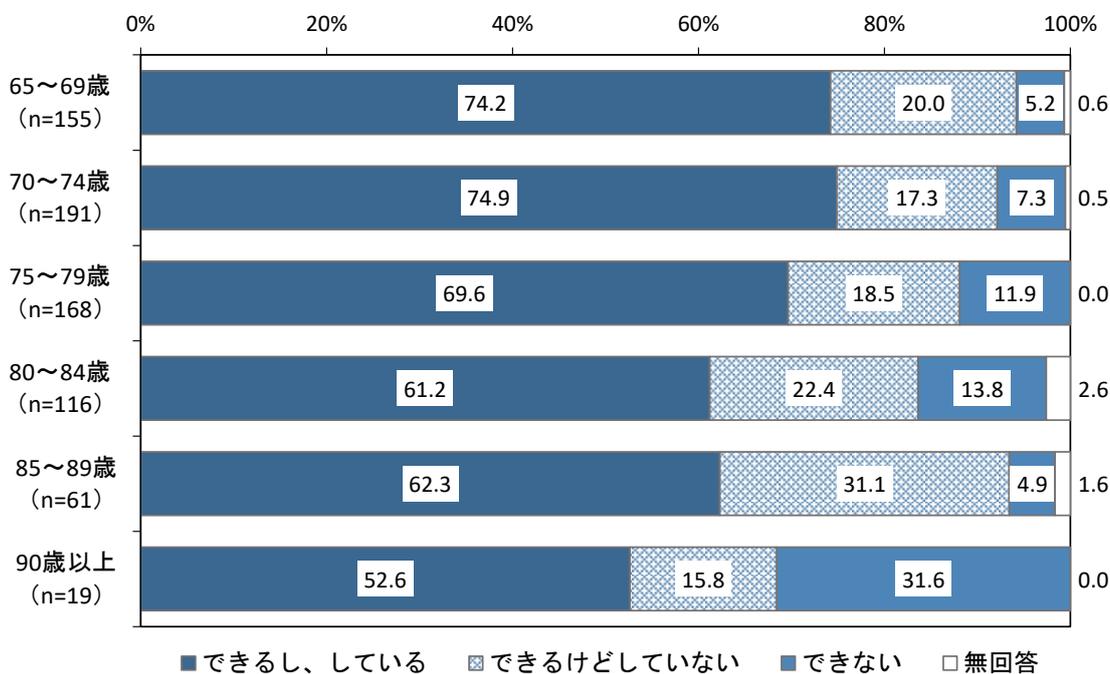
認定状況別でみると、「できない」では、要支援認定者が19.5%で、一般高齢者(8.2%)よりも11.3ポイント高くなっています。

図表 I-3-5-8 自分で食事の用意をしているか



年齢別でみると、「できるし、している」では、70～74歳が74.9%で最も高く、「できない」では、90歳以上が31.6%で最も高くなっています。

図表 I-3-5-9 自分で食事の用意をしているか 年齢別



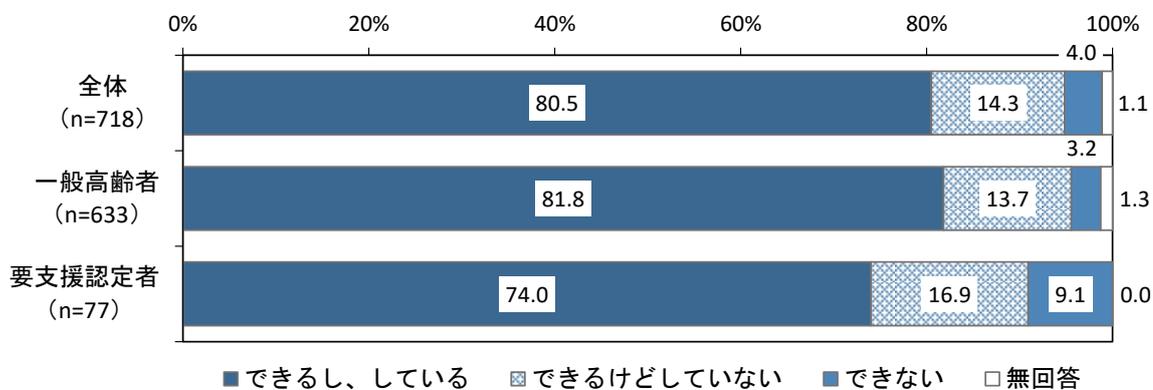
(7) 自分で請求書の支払いをしているか

問4(7) 自分で請求書の支払いをしていますか (〇はひとつ)

自分で請求書の支払いをしているかについては、「できるし、している」が80.5%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が14.3%、「できない」が4.0%となっています。

認定状況別でみると、「できない」では、要支援認定者が9.1%で、一般高齢者(3.2%)よりも5.9ポイント高くなっています。

図表 I-3-5-10 自分で請求書の支払いをしているか



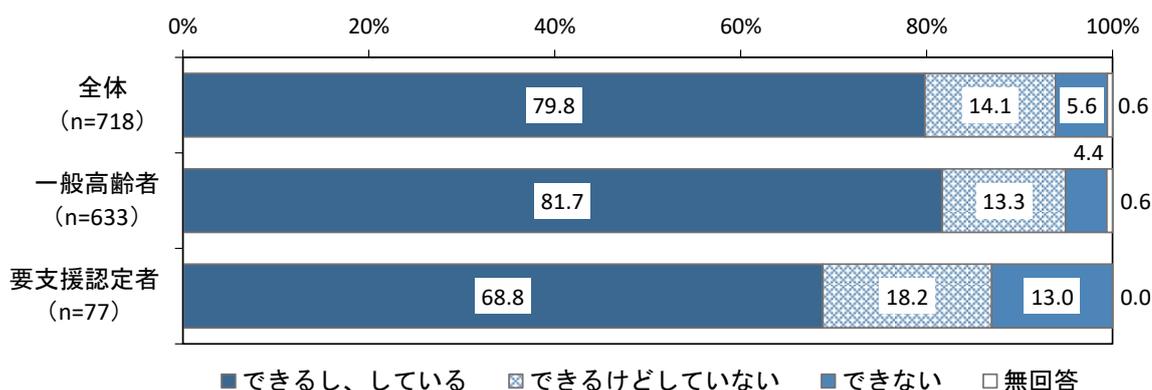
(8) 自分で預貯金の出し入れをしているか

問4(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか(○はひとつ)

自分で預貯金の出し入れをしているかについては、「できるし、している」が79.8%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が14.1%、「できない」が5.6%となっています。

認定状況別でみると、「できない」では、要支援認定者が13.0%で、一般高齢者(4.4%)よりも8.6ポイント高くなっています。

図表 I-3-5-11 自分で預貯金の出し入れをしているか



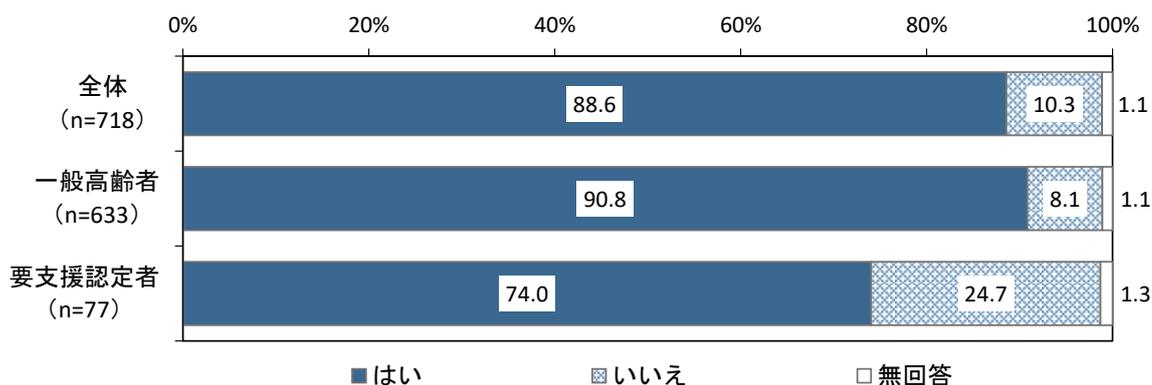
(9) 年金などの書類が書けるか

問4(9) 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか(○はひとつ)

年金などの書類が書けるかについては、「はい」が88.6%、「いいえ」が10.3%となっています。

認定状況別でみると、「いいえ」では、要支援認定者が24.7%で、一般高齢者(8.1%)よりも16.6ポイント高くなっています。

図表 I-3-5-12 年金などの書類が書けるか



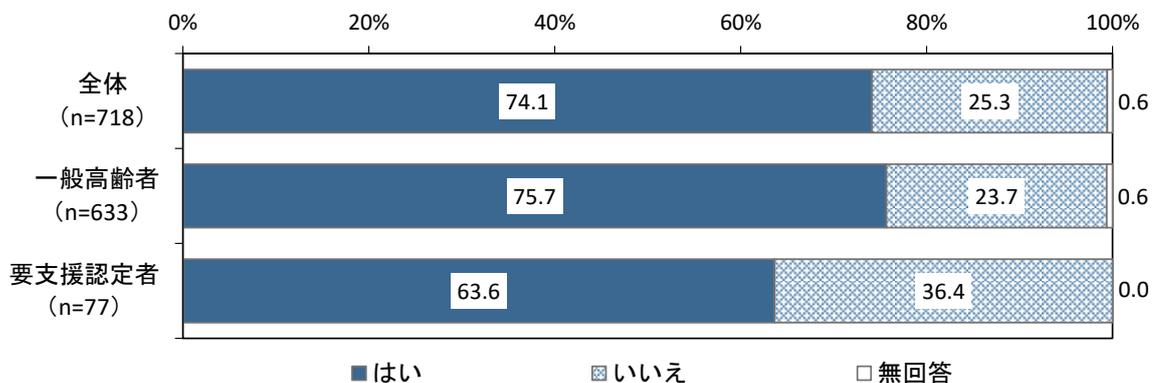
(10) 新聞を読んでいるか

問4(10) 新聞を読んでいますか(○はひとつ)

新聞を読んでいるかについては、「はい」が74.1%、「いいえ」が25.3%となっています。

認定状況別でみると、「いいえ」では、要支援認定者が36.4%で、一般高齢者(23.7%)よりも12.7ポイント高くなっています。

図表 I-3-5-13 新聞を読んでいるか



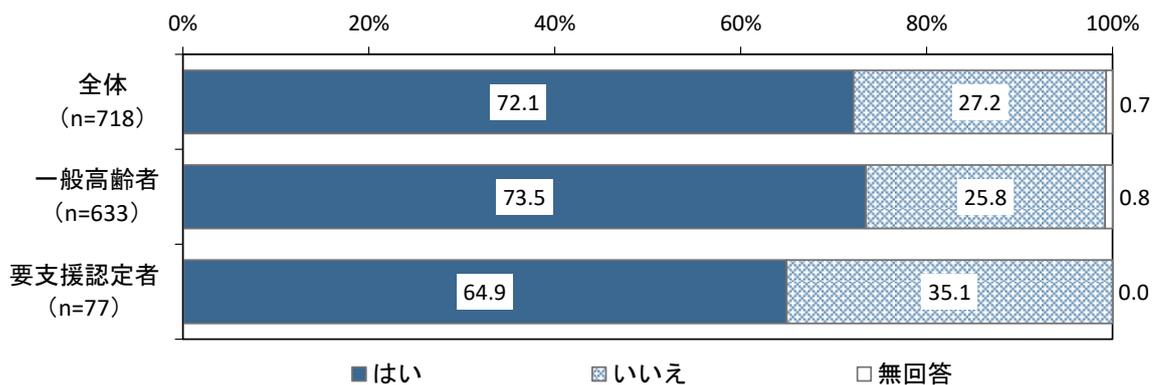
(11) 本や雑誌を読んでいるか

問4(11) 本や雑誌を読んでいますか(○はひとつ)

本や雑誌を読んでいるかについては、「はい」が72.1%、「いいえ」が27.2%となっています。

認定状況別でみると、「いいえ」では、要支援認定者が35.1%で、一般高齢者(25.8%)よりも9.3ポイント高くなっています。

図表 I-3-5-14 本や雑誌を読んでいるか



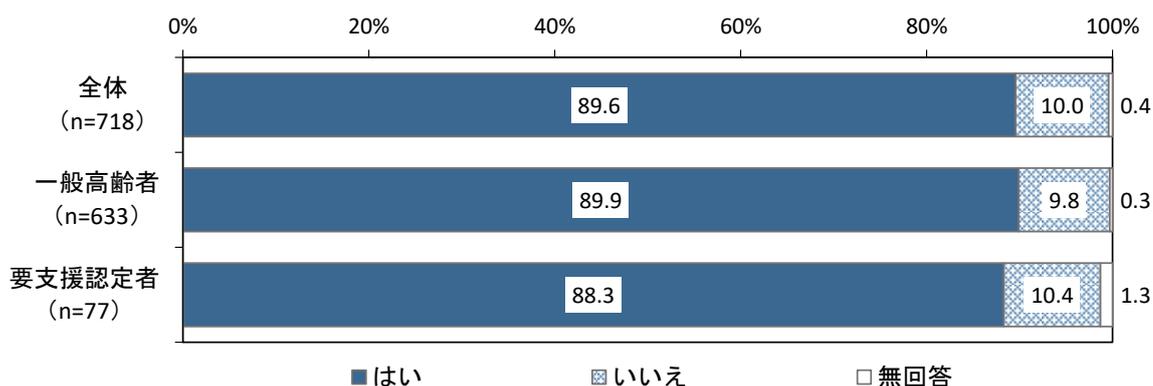
(12) 健康についての記事や番組に関心があるか

問4(12) 健康についての記事や番組に関心がありますか(○はひとつ)

健康についての記事や番組に関心があるかについては、「はい」が89.6%、「いいえ」が10.0%となっています。

認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が89.9%、要支援認定者が88.3%となっています。

図表 I-3-5-15 健康についての記事や番組に関心があるか



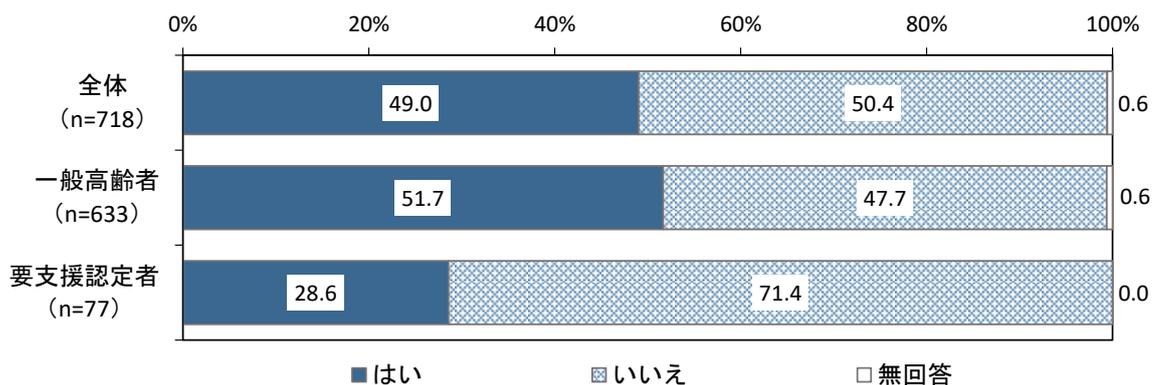
(13) 友人の家を訪ねているか

問4(13) 友人の家を訪ねていますか(○はひとつ)

友人の家を訪ねているかについては、「はい」が49.0%、「いいえ」が50.4%となっています。

認定状況別でみると、「いいえ」では、要支援認定者が71.4%で、一般高齢者(47.7%)よりも23.7ポイント高くなっています。

図表 I-3-5-16 友人の家を訪ねているか



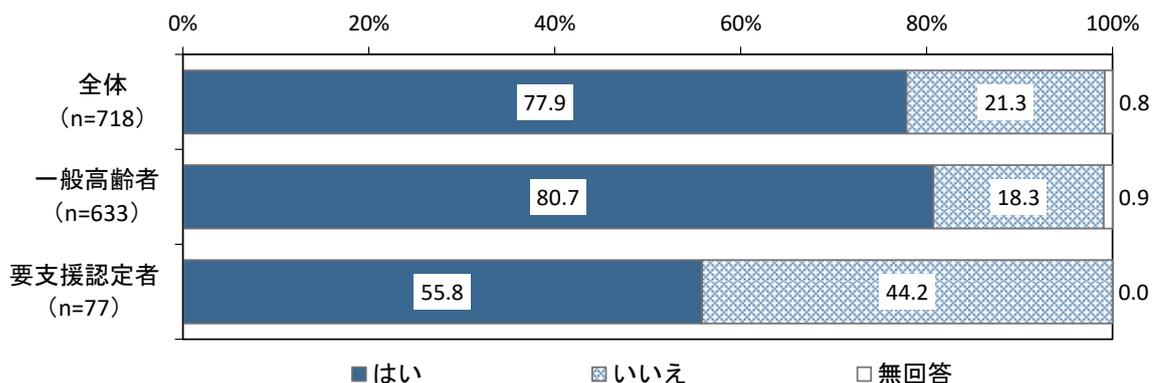
(14) 家族や友人の相談にのっているか

問4(14) 家族や友人の相談にのっていますか(○はひとつ)

家族や友人の相談にのっているかについては、「はい」が77.9%、「いいえ」が21.3%となっています。

認定状況別でみると、「いいえ」では、要支援認定者が44.2%で、一般高齢者(18.3%)よりも25.9ポイント高くなっています。

図表 I-3-5-17 家族や友人の相談にのっているか



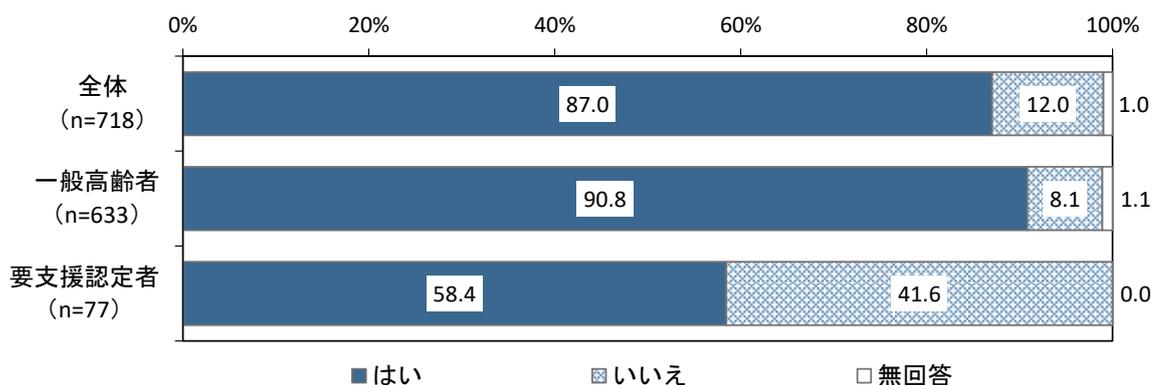
(15) 病人を見舞うことができるか

問4(15) 病人を見舞うことができますか(○はひとつ)

病人を見舞うことができるかについては、「はい」が87.0%、「いいえ」が12.0%となっています。

認定状況別でみると、「いいえ」では、要支援認定者が41.6%で、一般高齢者(8.1%)よりも33.5ポイント高くなっています。

図表 I-3-5-18 病人を見舞うことができるか



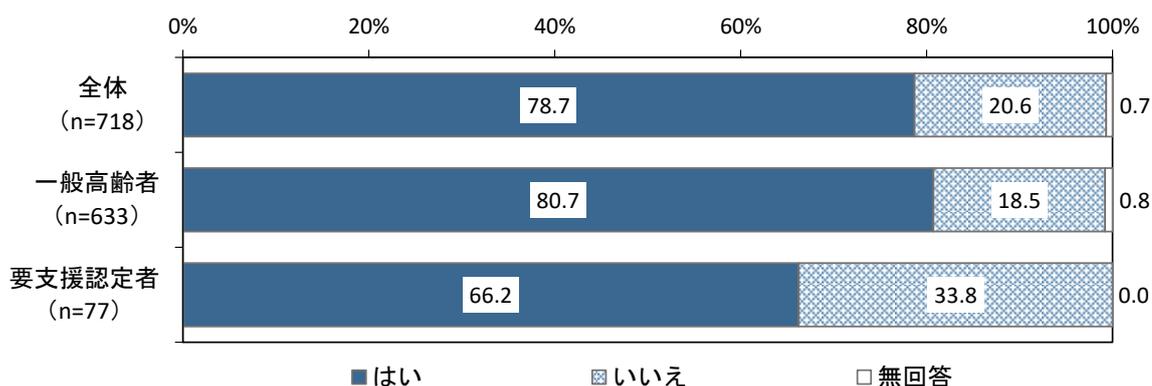
(16) 若い人に自分から話しかけることがあるか

問4(16) 若い人に自分から話しかけることがありますか(○はひとつ)

若い人に自分から話しかけることがあるかについては、「はい」が78.7%、「いいえ」が20.6%となっています。

認定状況別でみると、「いいえ」では、要支援認定者が33.8%で、一般高齢者(18.5%)よりも15.3ポイント高くなっています。

図表 I-3-5-19 若い人に自分から話しかけることがあるか



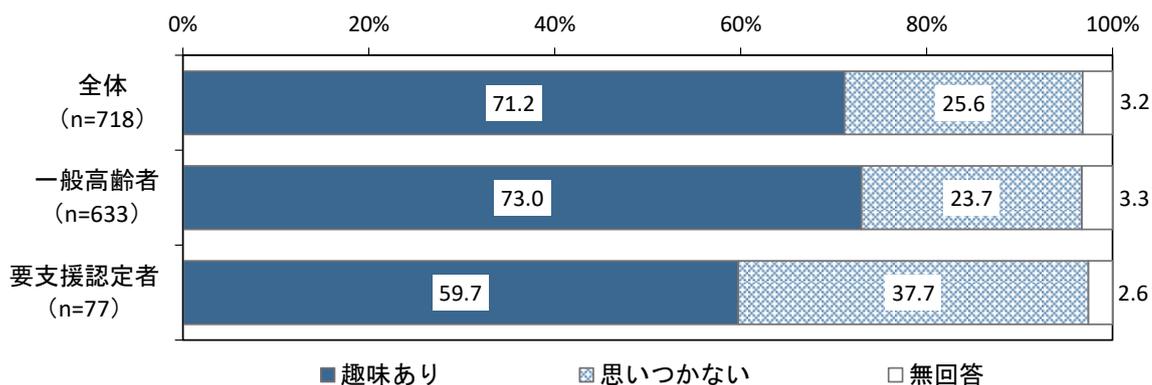
(17) 趣味があるか

問4(17) 趣味はありますか(○はひとつ)

趣味があるかについては、「趣味あり」が71.2%、「思いつかない」が25.6%となっています。

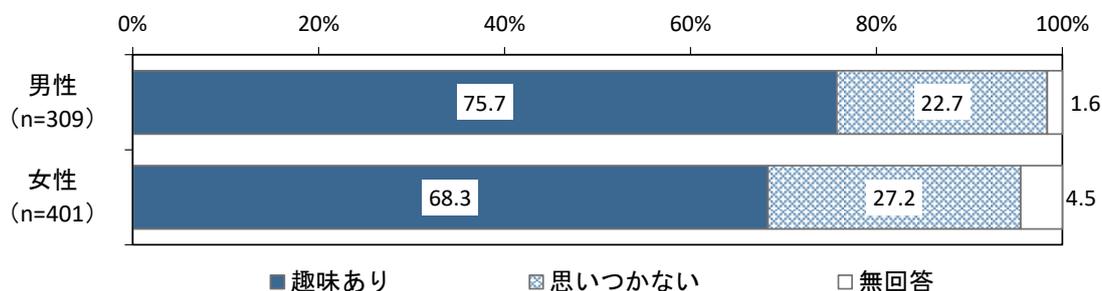
認定状況別でみると、「思いつかない」では、要支援認定者が37.7%で、一般高齢者(23.7%)よりも14.0ポイント高くなっています。

図表 I-3-5-20 趣味があるか



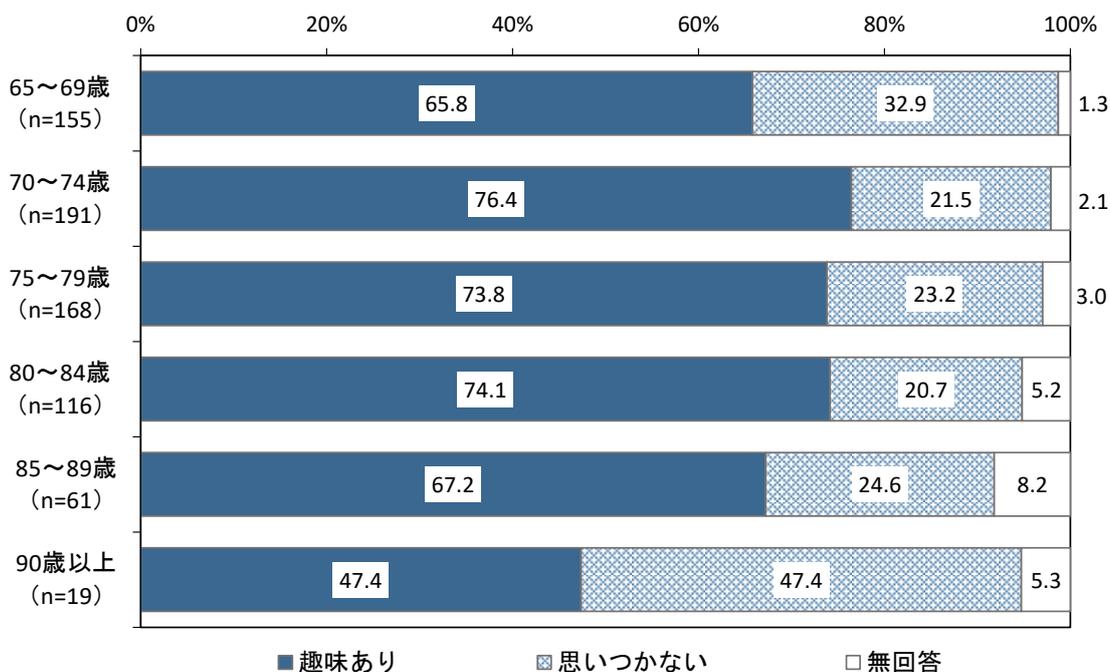
性別でみると、「趣味あり」では、男性が75.7%で、女性（68.3%）よりも7.4ポイント高くなっています。

図表 I-3-5-21 趣味があるか 性別



年齢別でみると、「趣味あり」では、70～74歳が76.4%で最も高く、「思いつかない」では、90歳以上が47.4%で最も高くなっています。

図表 I-3-5-22 趣味があるか 年齢別



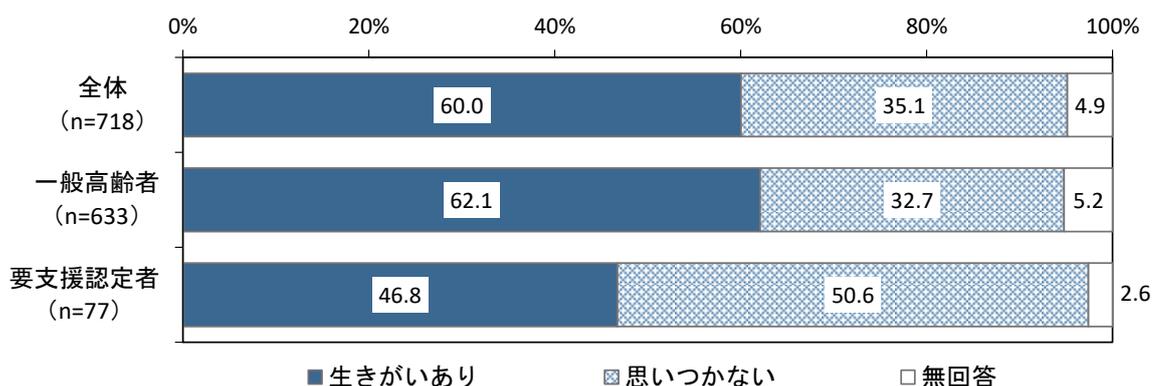
(18) 生きがいがあるか

問4(18) 生きがいはありますか(○はひとつ)

生きがいがあるかについては、「生きがいあり」が60.0%、「思いつかない」が35.1%となっています。

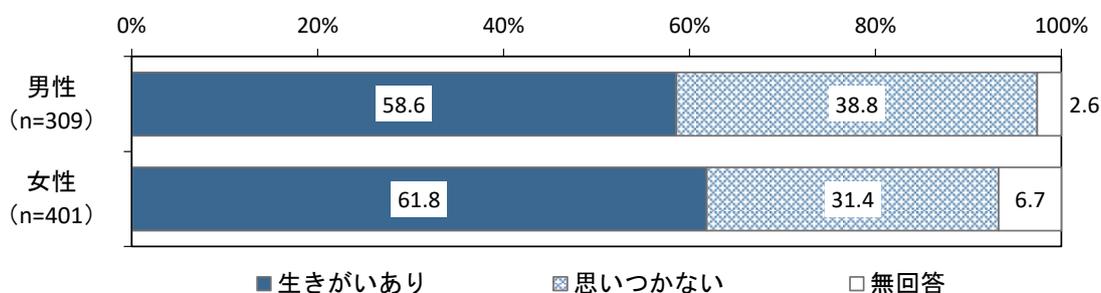
認定状況別でみると、「いいえ」では、要支援認定者が50.6%で、一般高齢者(32.7%)よりも17.9ポイント高くなっています。

図表 I-3-5-23 生きがいがあるか



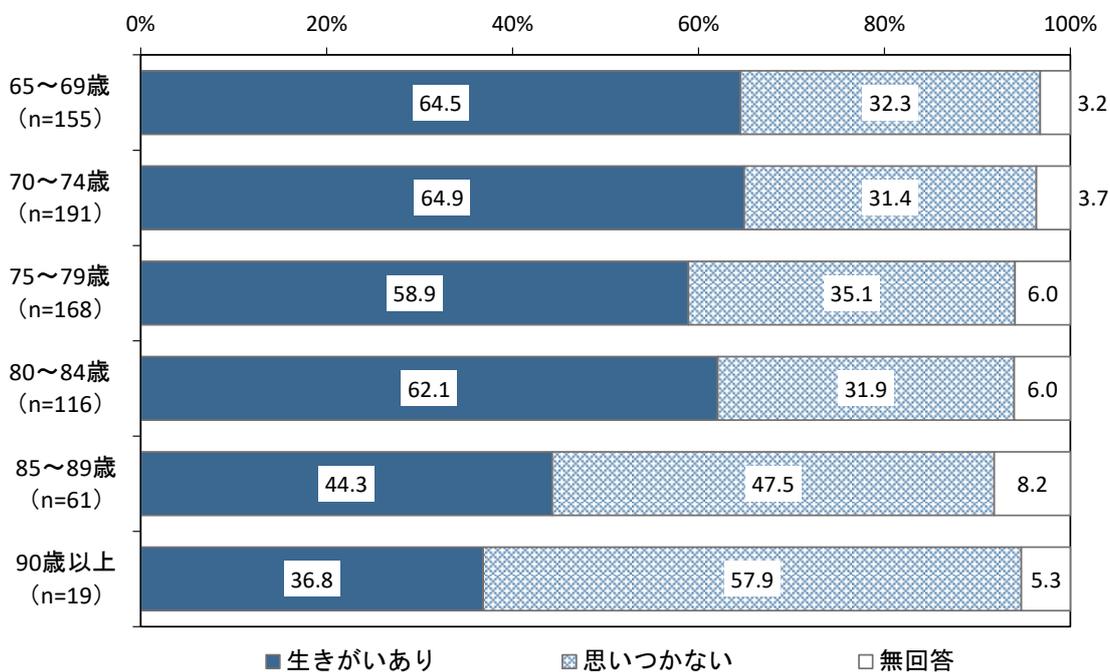
性別でみると、「生きがいあり」では、女性が61.8%で、男性(58.6%)よりも3.2ポイント高くなっています。

図表 I-3-5-24 生きがいがあるか 性別



年齢別でみると、「生きがいあり」では、70～74歳が64.9%で最も高く、「思いつかない」では、90歳以上が57.9%で最も高くなっています。

図表 I-3-5-25 生きがいがあるか 年齢別



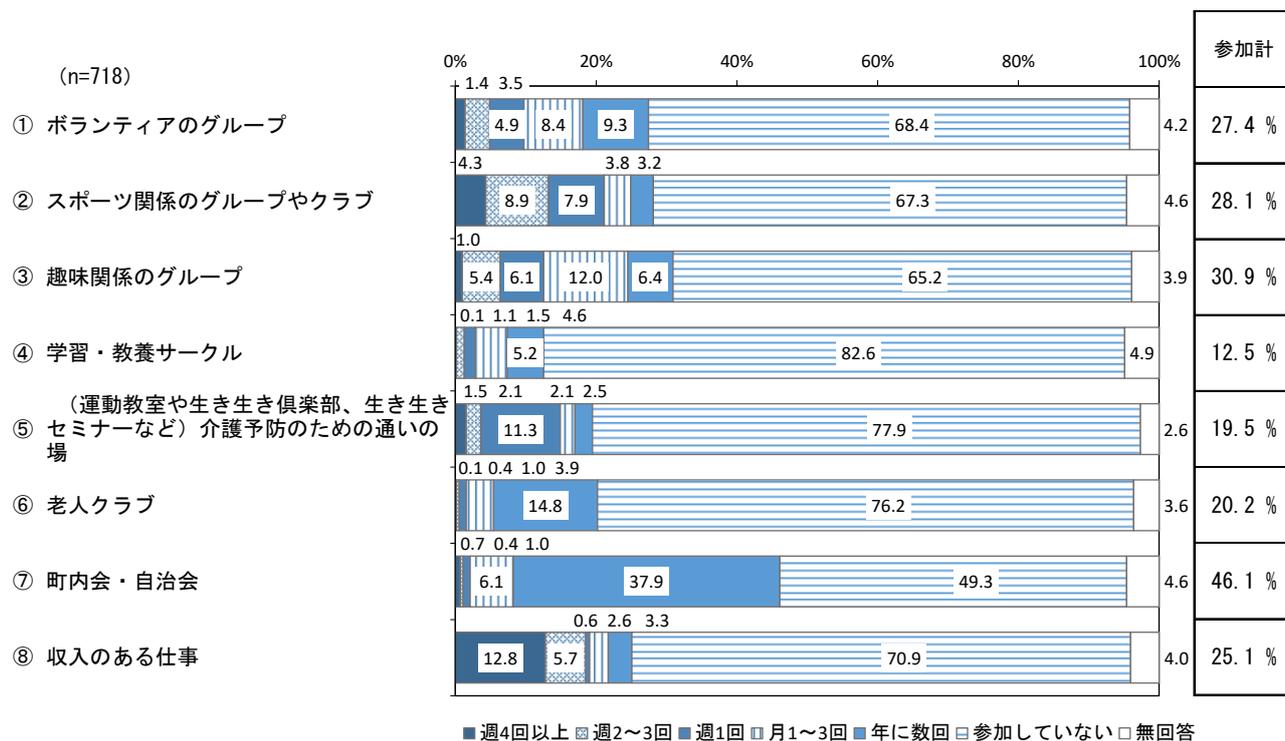
6. 地域での活動について

(1) 会・グループ等の参加頻度

問5(1)	以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか
-------	---------------------------------

会・グループ等の参加頻度については、参加率（年に数回以上）では、「⑦ 町内会・自治会」が46.1%で最も高く、次いで「③ 趣味関係のグループ」が30.9%、「② スポーツ関係のグループやクラブ」が28.1%と続いています。また、月に1回以上では、「② スポーツ関係のグループやクラブ」が24.9%で最も高く、次いで「③ 趣味関係のグループ」が24.5%、「⑧ 収入のある仕事」が21.7%と続いています。

図表 I-3-6-1 会・グループ等の参加頻度



① ボランティアのグループ

ボランティアのグループの参加状況については、「参加していない」が68.4%で最も高く、次いで「年に数回」が9.3%、「月1～3回」が8.4%と続いています。

性別でみると、『参加している』では、男性（32.4%）が女性（24.2%）よりも高く、年齢別でみると、『参加している』では、75～79歳が36.3%で最も高くなっています。

図表 I-3-6-2 ボランティアのグループの参加状況

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加している	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
全体	718	1.4	3.5	4.9	8.4	9.3	27.4	68.4	4.2	
状況別	一般高齢者	633	1.4	3.6	5.1	8.8	10.0	28.9	67.1	3.9
	要支援認定者	77	1.3	2.6	3.9	5.2	5.2	18.2	76.6	5.2
性別	男性	309	2.6	5.5	6.1	7.8	10.4	32.4	64.7	2.9
	女性	401	0.5	2.0	4.0	9.0	8.7	24.2	70.8	5.0
年齢別	65～69歳	155	1.3	3.9	3.2	9.0	7.7	25.2	72.9	1.9
	70～74歳	191	0.5	4.2	4.7	8.9	14.1	32.5	65.4	2.1
	75～79歳	168	2.4	3.0	8.9	12.5	9.5	36.3	60.1	3.6
	80～84歳	116	1.7	3.4	3.4	4.3	6.9	19.8	73.3	6.9
	85～89歳	61	1.6	1.6	3.3	4.9	1.6	13.1	75.4	11.5
	90歳以上	19	0.0	5.3	0.0	0.0	15.8	21.1	73.7	5.3

※網掛け■は最も割合が高いもの

② スポーツ関係のグループやクラブ

スポーツ関係のグループやクラブの参加状況については、「参加していない」が67.3%で最も高く、次いで「週2～3回」が8.9%、「週1回」が7.9%と続いています。

性別でみると、『参加している』では、女性（30.2%）が男性（26.2%）よりも高く、年齢別でみると、『参加している』では、75～79歳が36.9%で最も高くなっています。

図表 I-3-6-3 スポーツ関係のグループやクラブの参加状況

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加している	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
全体	718	4.3	8.9	7.9	3.8	3.2	28.1	67.3	4.6	
状況別	一般高齢者	633	4.6	9.5	8.5	4.1	3.2	29.9	65.7	4.4
	要支援認定者	77	2.6	5.2	3.9	1.3	3.9	16.9	77.9	5.2
性別	男性	309	3.2	7.8	4.9	5.5	4.9	26.2	69.6	4.2
	女性	401	5.2	10.0	10.5	2.5	2.0	30.2	65.1	4.7
年齢別	65～69歳	155	0.6	7.1	10.3	3.2	1.9	23.2	74.2	2.6
	70～74歳	191	5.8	9.4	10.5	4.2	4.2	34.0	64.4	1.6
	75～79歳	168	4.8	14.3	9.5	4.2	4.2	36.9	58.9	4.2
	80～84歳	116	6.9	6.0	3.4	4.3	2.6	23.3	68.1	8.6
	85～89歳	61	4.9	6.6	1.6	1.6	1.6	16.4	72.1	11.5
	90歳以上	19	0.0	0.0	0.0	5.3	5.3	10.5	84.2	5.3

※網掛け■は最も割合が高いもの

③ 趣味関係のグループ

趣味関係のグループの参加状況については、「参加していない」が65.2%で最も高く、次いで「月1～3回」が12.0%、「年に数回」が6.4%と続いています。

性別でみると、『参加している』では、女性(32.4%)が男性(29.4%)よりも高く、年齢別でみると、『参加している』では、70～74歳が36.1%で最も高くなっています。

図表 I-3-6-4 趣味関係のグループの参加状況

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加している	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
全体	718	1.0	5.4	6.1	12.0	6.4	30.9	65.2	3.9	
状況別	一般高齢者	633	1.1	5.7	6.3	12.5	7.0	32.5	64.1	3.3
	要支援認定者	77	0.0	3.9	5.2	7.8	2.6	19.5	72.7	7.8
性別	男性	309	0.6	5.5	4.5	9.7	9.1	29.4	67.3	3.2
	女性	401	1.2	5.5	7.5	13.7	4.5	32.4	63.3	4.2
年齢別	65～69歳	155	0.0	4.5	4.5	14.2	5.2	28.4	67.7	3.9
	70～74歳	191	1.0	7.3	5.8	13.6	8.4	36.1	62.3	1.6
	75～79歳	168	1.2	6.5	8.9	12.5	5.4	34.5	61.9	3.6
	80～84歳	116	2.6	4.3	7.8	10.3	8.6	33.6	61.2	5.2
	85～89歳	61	0.0	3.3	3.3	6.6	4.9	18.0	73.8	8.2
	90歳以上	19	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	94.7	5.3

※網掛け■は最も割合が高いもの

④ 学習・教養サークル

学習・教養サークルの参加状況については、「参加していない」が82.6%で最も高く、次いで「年に数回」が5.2%、「月1～3回」が4.6%と続いています。

性別でみると、『参加している』では、女性(14.7%)が男性(10.0%)よりも高く、年齢別でみると、『参加している』では、80～84歳が17.2%で最も高くなっています。

図表 I 3-6-5- 学習・教養サークルの参加状況

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加している	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
全体	718	0.1	1.1	1.5	4.6	5.2	12.5	82.6	4.9	
状況別	一般高齢者	633	0.2	1.1	1.6	5.1	5.7	13.6	81.8	4.6
	要支援認定者	77	0.0	1.3	1.3	1.3	1.3	5.2	88.3	6.5
性別	男性	309	0.3	1.0	1.3	2.9	4.5	10.0	86.1	3.9
	女性	401	0.0	1.2	1.7	6.0	5.7	14.7	79.8	5.5
年齢別	65～69歳	155	0.0	2.6	0.6	3.9	5.2	12.3	85.8	1.9
	70～74歳	191	0.5	1.0	1.6	6.8	4.7	14.7	82.7	2.6
	75～79歳	168	0.0	0.6	2.4	4.2	5.4	12.5	81.5	6.0
	80～84歳	116	0.0	0.9	2.6	5.2	8.6	17.2	75.9	6.9
	85～89歳	61	0.0	0.0	0.0	1.6	1.6	3.3	86.9	9.8
	90歳以上	19	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	89.5	10.5

※網掛け■は最も割合が高いもの

⑤ (運動教室や生き生き倶楽部、生き生きセミナーなど) 介護予防のための通いの場

介護予防のための通いの場の参加状況については、「参加していない」が77.9%で最も高く、次いで「週1回」が11.3%、「年に数回」が2.5%と続いています。

性別でみると、『参加している』では、女性(26.4%)が男性(11.0%)よりも高く、年齢別でみると、『参加している』では、75～79歳が31.0%で最も高くなっています。

図表 I-3-6-6 介護予防のための通いの場の参加状況

単位：実数(人)、構成比(%)

	合計	参加頻度					参加している	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
全体	718	1.5	2.1	11.3	2.1	2.5	19.5	77.9	2.6	
状況別	一般高齢者	633	1.6	1.9	11.7	1.9	1.9	19.0	78.5	2.5
	要支援認定者	77	1.3	3.9	9.1	3.9	7.8	26.0	72.7	1.3
性別	男性	309	2.3	0.3	5.2	1.0	2.3	11.0	86.7	2.3
	女性	401	1.0	3.5	16.2	3.0	2.7	26.4	71.1	2.5
年齢別	65～69歳	155	1.3	0.6	2.6	0.6	0.6	5.8	92.3	1.9
	70～74歳	191	1.6	2.1	11.0	2.6	1.0	18.3	80.6	1.0
	75～79歳	168	0.0	3.0	21.4	1.8	4.8	31.0	66.7	2.4
	80～84歳	116	1.7	1.7	10.3	1.7	4.3	19.8	75.9	4.3
	85～89歳	61	4.9	3.3	9.8	6.6	1.6	26.2	68.9	4.9
	90歳以上	19	5.3	5.3	10.5	0.0	5.3	26.3	73.7	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

⑥ 老人クラブ

老人クラブの参加状況については、「参加していない」が76.2%で最も高く、次いで「年に数回」が14.8%、「月1～3回」が3.9%と続いています。

性別でみると、『参加している』では、男性(21.4%)が女性(19.7%)よりも高く、年齢別でみると、『参加している』では、90歳以上が31.6%で最も高くなっています。

図表 I-3-6-7 老人クラブの参加状況

単位：実数(人)、構成比(%)

	合計	参加頻度					参加している	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
全体	718	0.1	0.4	1.0	3.9	14.8	20.2	76.2	3.6	
状況別	一般高齢者	633	0.2	0.5	0.9	3.9	14.7	20.2	76.3	3.5
	要支援認定者	77	0.0	0.0	1.3	3.9	16.9	22.1	74.0	3.9
性別	男性	309	0.3	0.3	1.0	3.6	16.2	21.4	75.4	3.2
	女性	401	0.0	0.5	1.0	4.2	14.0	19.7	76.6	3.7
年齢別	65～69歳	155	0.0	0.6	0.0	1.9	7.7	10.3	87.7	1.9
	70～74歳	191	0.0	0.0	1.6	3.7	11.0	16.2	81.7	2.1
	75～79歳	168	0.6	0.6	1.2	6.5	19.6	28.6	69.0	2.4
	80～84歳	116	0.0	0.9	1.7	4.3	19.8	26.7	66.4	6.9
	85～89歳	61	0.0	0.0	0.0	3.3	18.0	21.3	68.9	9.8
	90歳以上	19	0.0	0.0	0.0	0.0	31.6	31.6	68.4	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

⑦ 町内会・自治会

町内会・自治会の参加状況については、「参加していない」が49.3%で最も高く、次いで「年に数回」が37.9%、「月1～3回」が6.1%と続いています。

性別でみると、『参加している』では、男性（50.2%）が女性（43.9%）よりも高く、年齢別でみると、『参加している』では、70～74歳が53.9%で最も高くなっています。

図表 I-3-6-8 町内会・自治会の参加状況

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加している	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
全体	718	0.7	0.4	1.0	6.1	37.9	46.1	49.3	4.6	
状況別	一般高齢者	633	0.8	0.5	1.1	6.5	39.5	48.3	47.2	4.4
	要支援認定者	77	0.0	0.0	0.0	3.9	28.6	32.5	62.3	5.2
性別	男性	309	1.6	1.0	0.3	9.4	37.9	50.2	46.3	3.6
	女性	401	0.0	0.0	1.5	3.7	38.7	43.9	50.9	5.2
年齢別	65～69歳	155	1.3	0.0	0.0	8.4	38.7	48.4	48.4	3.2
	70～74歳	191	0.5	0.5	1.0	7.9	44.0	53.9	42.4	3.7
	75～79歳	168	0.6	0.6	2.4	4.8	43.5	51.8	44.0	4.2
	80～84歳	116	0.9	0.0	0.9	6.0	31.0	38.8	55.2	6.0
	85～89歳	61	0.0	1.6	0.0	1.6	27.9	31.1	59.0	9.8
	90歳以上	19	0.0	0.0	0.0	0.0	10.5	10.5	89.5	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

⑧ 収入のある仕事

収入のある仕事の参加状況については、「参加していない」が70.9%で最も高く、次いで「週4回以上」が12.8%、「週2～3回」が5.7%と続いています。

性別でみると、『参加している』では、男性（34.6%）が女性（18.0%）よりも高く、年齢別でみると、『参加している』では、65～69歳が45.8%で最も高くなっています。

図表 I-3-6-9 収入のある仕事の参加状況

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加している	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
全体	718	12.8	5.7	0.6	2.6	3.3	25.1	70.9	4.0	
状況別	一般高齢者	633	14.2	6.5	0.6	2.8	3.8	28.0	68.2	3.8
	要支援認定者	77	1.3	0.0	0.0	1.3	0.0	2.6	92.2	5.2
性別	男性	309	20.1	6.5	0.6	3.2	4.2	34.6	61.8	3.6
	女性	401	7.2	5.2	0.5	2.2	2.7	18.0	77.8	4.2
年齢別	65～69歳	155	25.8	11.6	0.6	3.2	4.5	45.8	52.3	1.9
	70～74歳	191	17.3	7.9	1.6	3.1	4.2	34.0	63.4	2.6
	75～79歳	168	8.9	4.2	0.0	3.0	2.4	18.5	77.4	4.2
	80～84歳	116	2.6	0.9	0.0	1.7	2.6	7.8	85.3	6.9
	85～89歳	61	0.0	0.0	0.0	1.6	3.3	4.9	88.5	6.6
	90歳以上	19	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	94.7	5.3

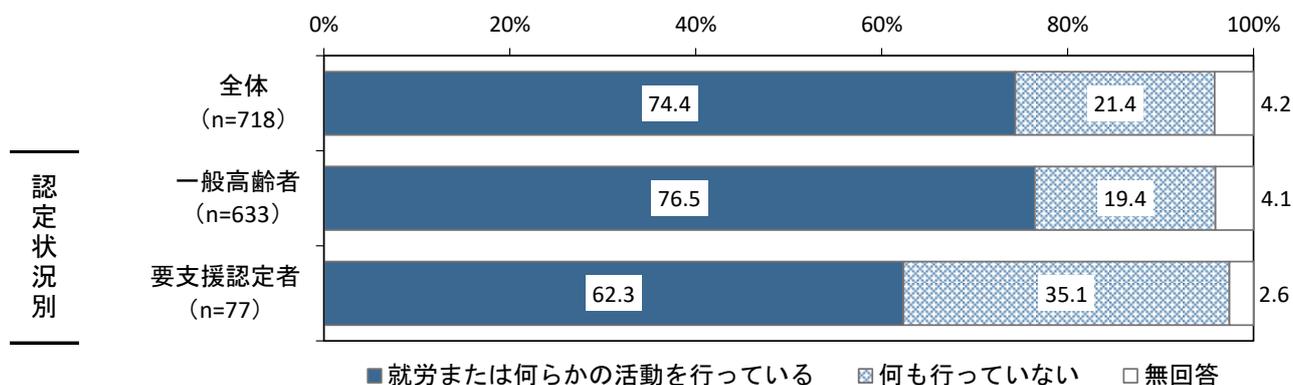
※網掛け■は最も割合が高いもの

⑨ 社会参加活動への参加状況

①～⑧による社会参加活動への参加状況については、「就労または何らかの活動を行っている」が74.4%、「何も行っていない」が21.4%となっています。

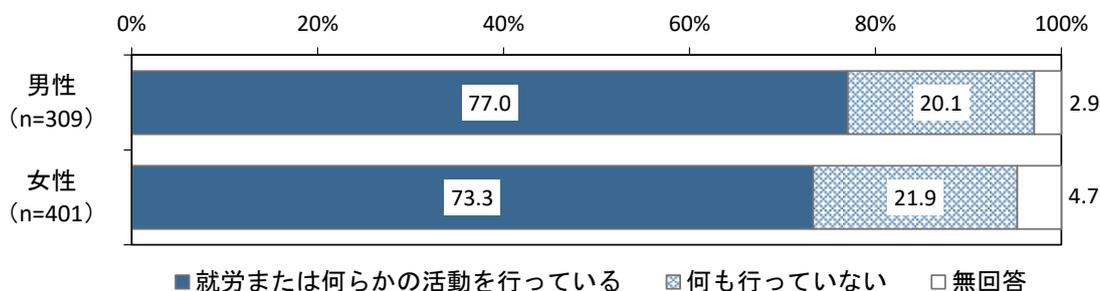
認定状況別でみると、「就労または何らかの活動を行っている」では、一般高齢者が76.5%で、要支援認定者（62.3%）よりも14.2ポイント高くなっています。

図表 I-3-6-10 社会参加活動への参加状況



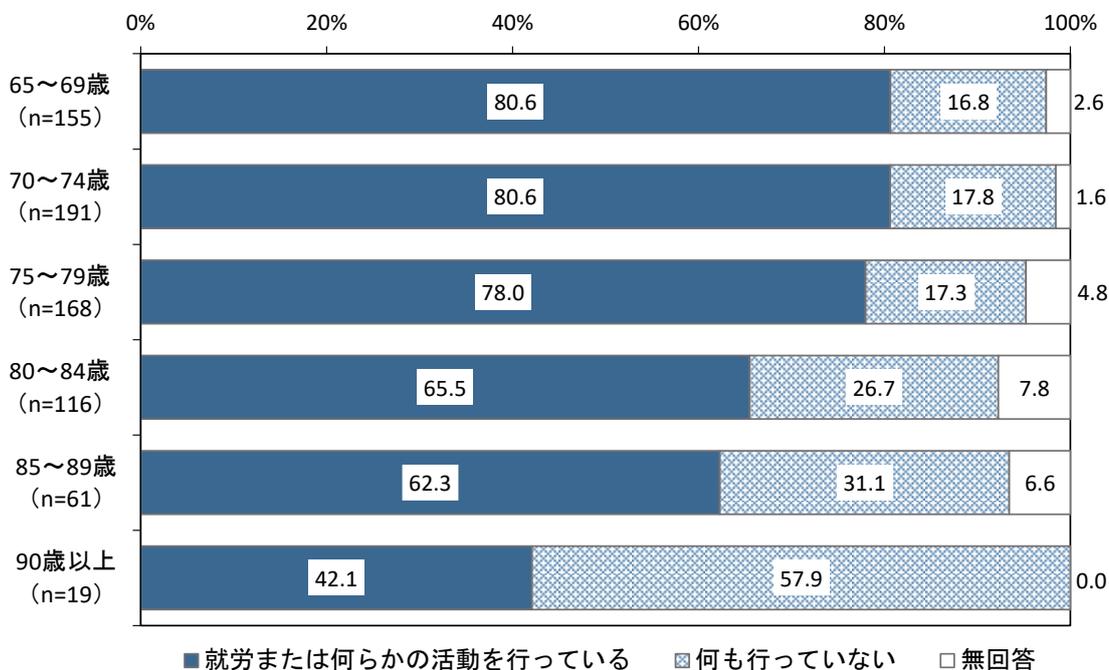
性別でみると、「就労または何らかの活動を行っている」では、男性が77.0%、女性が73.3%となっています。

図表 I-3-6-11 社会参加活動への参加状況 性別



年齢別でみると、「就労または何らかの活動を行っている」では、年齢が上がるにつれて割合が概ね減少しており、65～69歳、70～74歳がいずれも80.6%で最も高く、「何も行っていない」では、90歳以上が57.9%で最も高くなっています。

図表 I-3-6-12 社会参加活動への参加状況 年齢別



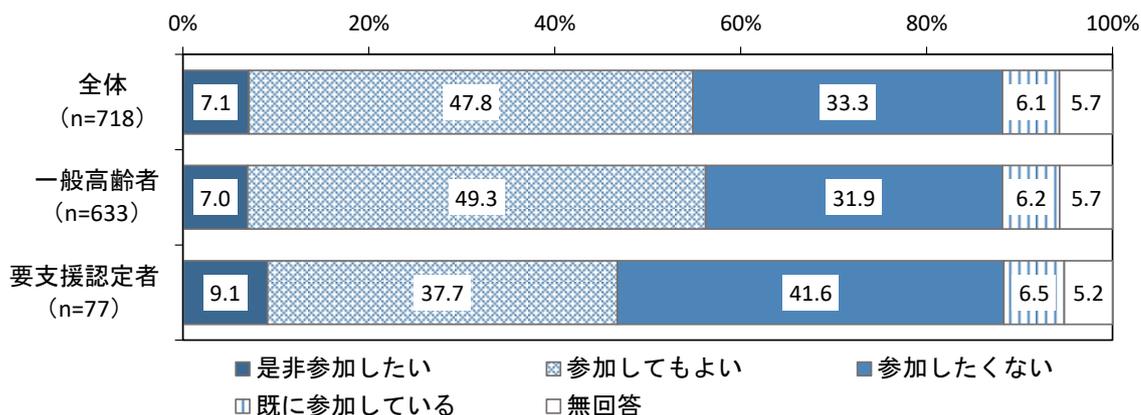
(2) 地域住民のグループ活動による地域づくりに参加者として参加したいか

問5 (2)	地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか (〇はひとつ)
--------	---

地域住民のグループ活動による地域づくりに参加者として参加したいかについては、「参加してもよい」が47.8%で最も高く、次いで「参加したくない」が33.3%、「是非参加したい」が7.1%と続いています。

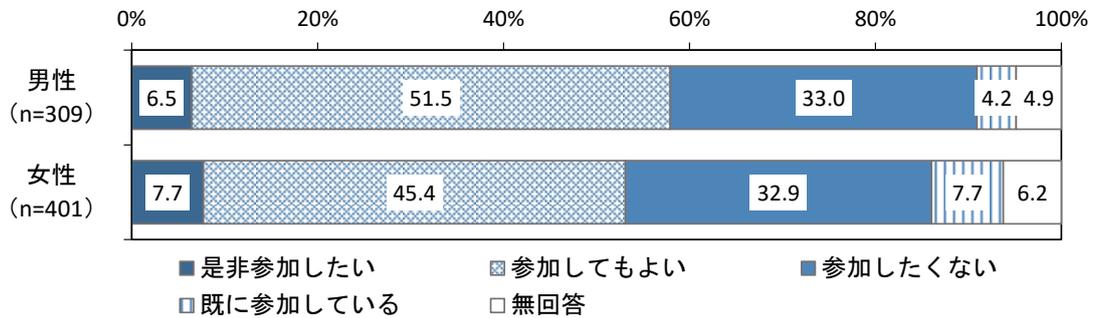
認定状況別でみると、「参加したくない」では、要支援認定者が41.6%で、一般高齢者(31.9%)よりも9.7ポイント高くなっています。

図表 I-3-6-13 地域住民のグループ活動による地域づくりに参加者として参加したいか



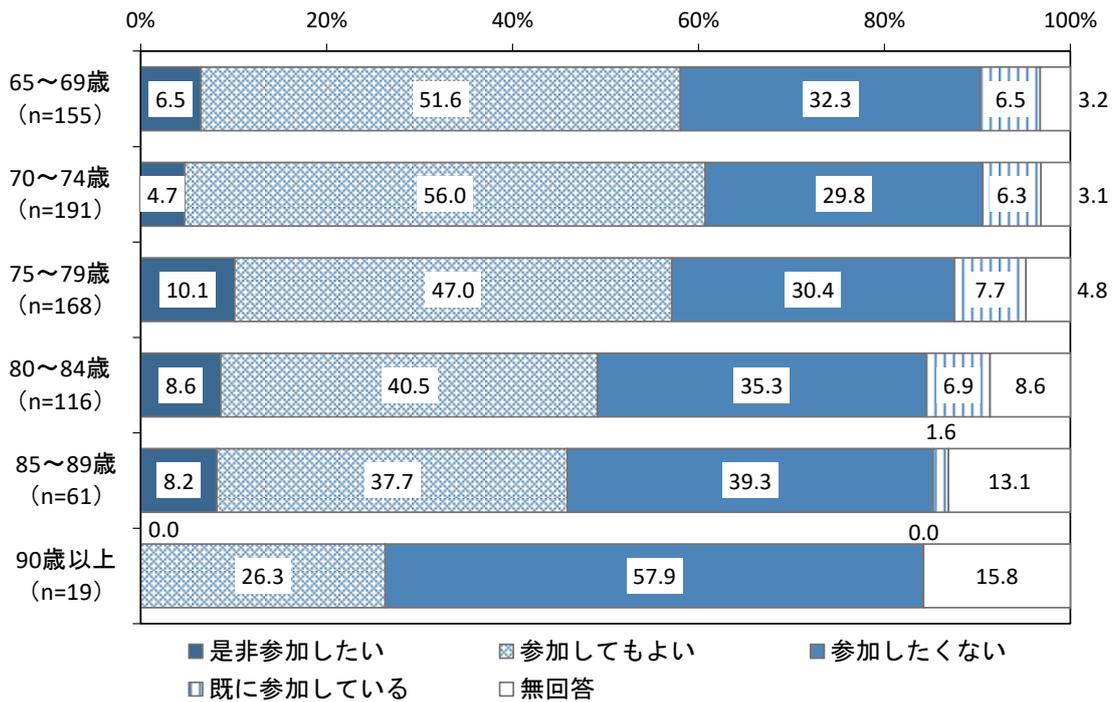
性別でみると、参加意向のある人の割合（「是非参加したい」、「参加してもよい」と「既に参加している」の合計）は、男性が62.2%、女性が60.8%となっています。

図表 I-3-6-14 地域住民のグループ活動による地域づくりに参加者として参加したいか 性別



年齢別でみると、参加意向のある人の割合は、70～74歳が67.0%で最も高く、70歳以上で年齢が上がるにつれて割合が減少しており、90歳以上が26.3%で最も低くなっています。

図表 I-3-6-15 地域住民のグループ活動による地域づくりに参加者として参加したいか 年齢別



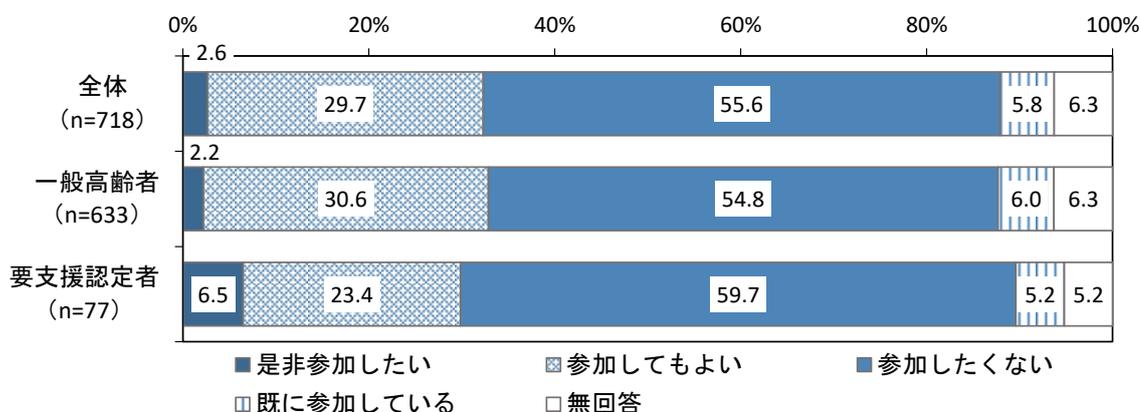
(3) 地域住民のグループ活動による地域づくりに企画・運営として参加したいか

問5 (3)	地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか（〇はひとつ）
--------	--

地域住民のグループ活動による地域づくりに企画・運営として参加したいかについては、「参加したくない」が55.6%で最も高く、次いで「参加してもよい」が29.7%、「既に参加している」が5.8%と続いています。

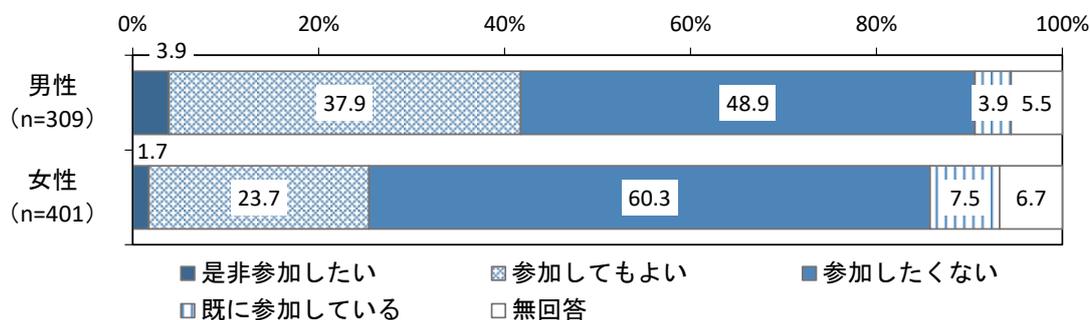
認定状況別でみると、「参加したくない」では、要支援認定者が59.7%で、一般高齢者（54.8%）よりも4.9ポイント高くなっています。

図表 I-3-6-16 地域住民のグループ活動による地域づくりに企画・運営として参加したいか



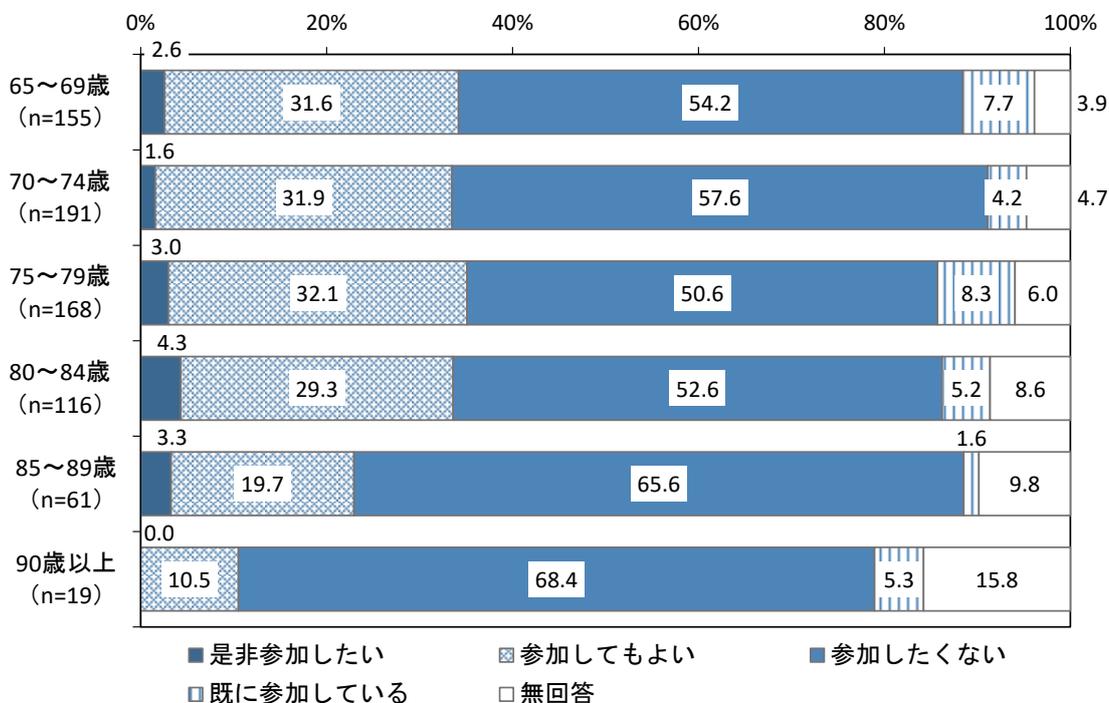
性別でみると、参加意向のある人の割合は、男性が45.7%で、女性（32.9%）よりも12.8ポイント高くなっています。

図表 I-3-6-17 地域住民のグループ活動による地域づくりに企画・運営として参加したいか
性別



年齢別でみると、参加意向のある人の割合は、75～79歳が43.4%で最も高く、75歳以上で年齢が上がるにつれて割合が減少しており、90歳以上が15.8%で最も低くなっています。

図表 I-3-6-18 地域住民のグループ活動による地域づくりに企画・運営として参加したいか
年齢別



7. たすけあいについて

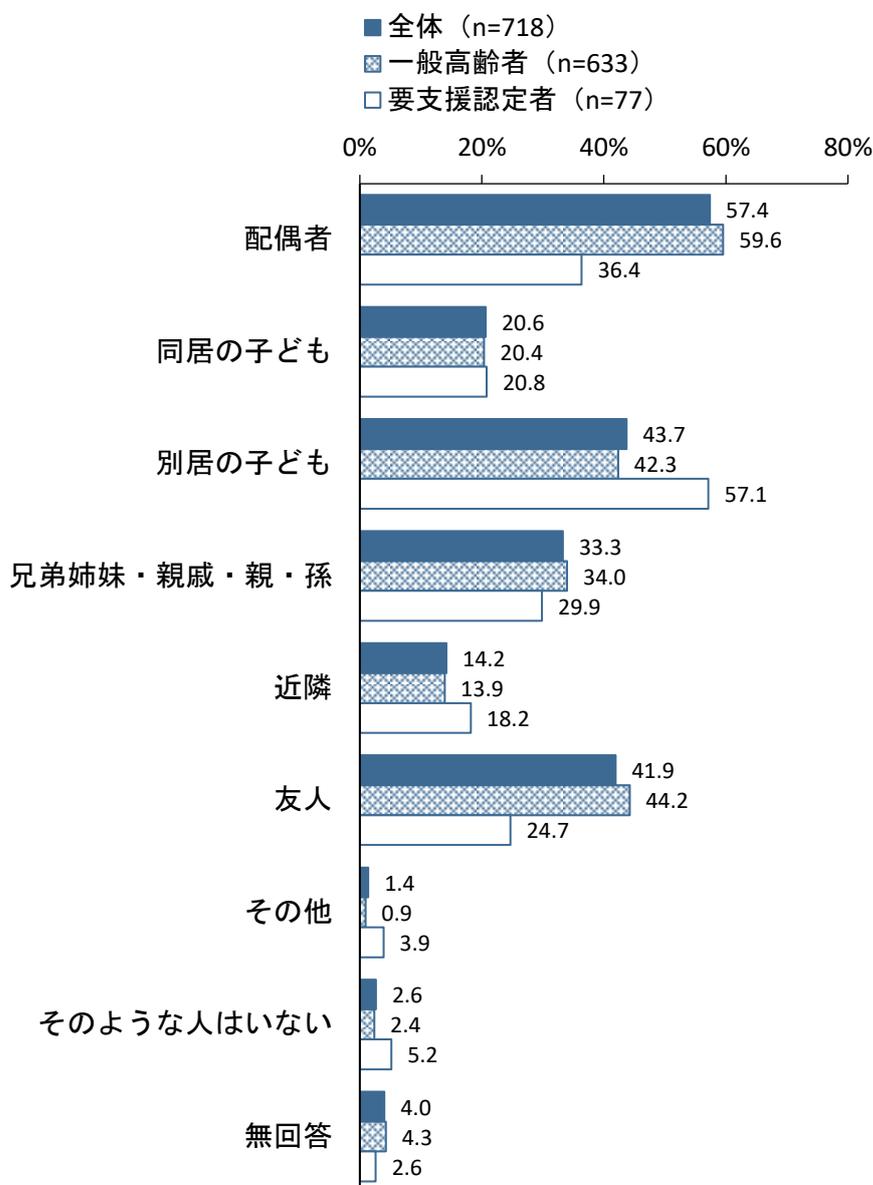
(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人

問6 (1)	あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(〇はいくつでも)
--------	--

心配事や愚痴を聞いてくれる人については、「配偶者」が57.4%で最も高く、次いで「別居の子ども」が43.7%、「友人」が41.9%と続いています。

認定状況別でみると、一般高齢者では「配偶者」が59.6%で最も高く、要支援認定者では「別居の子ども」が57.1%で最も高くなっています。

図表 I-3-7-1 心配事や愚痴を聞いてくれる人



性別でみると、男性では「配偶者」が72.5%で最も高く、女性では「友人」が52.9%で最も高くなっています。

年齢別でみると、65～79歳では「配偶者」の割合が最も高く、80歳以上では「別居の子ども」の割合が最も高くなっています。

図表 I-3-7-2 心配事や愚痴を聞いてくれる人 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体		718	57.4	20.6	43.7	33.3	14.2	41.9	1.4	2.6	4.0
性別	男性	309	72.5	14.2	35.9	23.6	6.5	28.2	0.3	3.9	6.1
	女性	401	45.1	25.2	50.1	41.1	20.4	52.9	2.0	1.7	2.5
年齢別	65～69歳	155	72.3	20.0	34.8	32.9	12.3	41.3	1.9	0.6	3.2
	70～74歳	191	59.2	15.2	40.8	37.2	16.2	53.4	0.0	3.1	5.2
	75～79歳	168	61.3	24.4	48.2	35.1	14.9	43.5	1.2	1.8	3.0
	80～84歳	116	46.6	27.6	48.3	33.6	19.0	35.3	1.7	4.3	3.4
	85～89歳	61	31.1	14.8	55.7	19.7	6.6	24.6	3.3	4.9	6.6
	90歳以上	19	21.1	15.8	47.4	31.6	5.3	21.1	0.0	5.3	5.3

※網掛け■は最も割合が高いもの

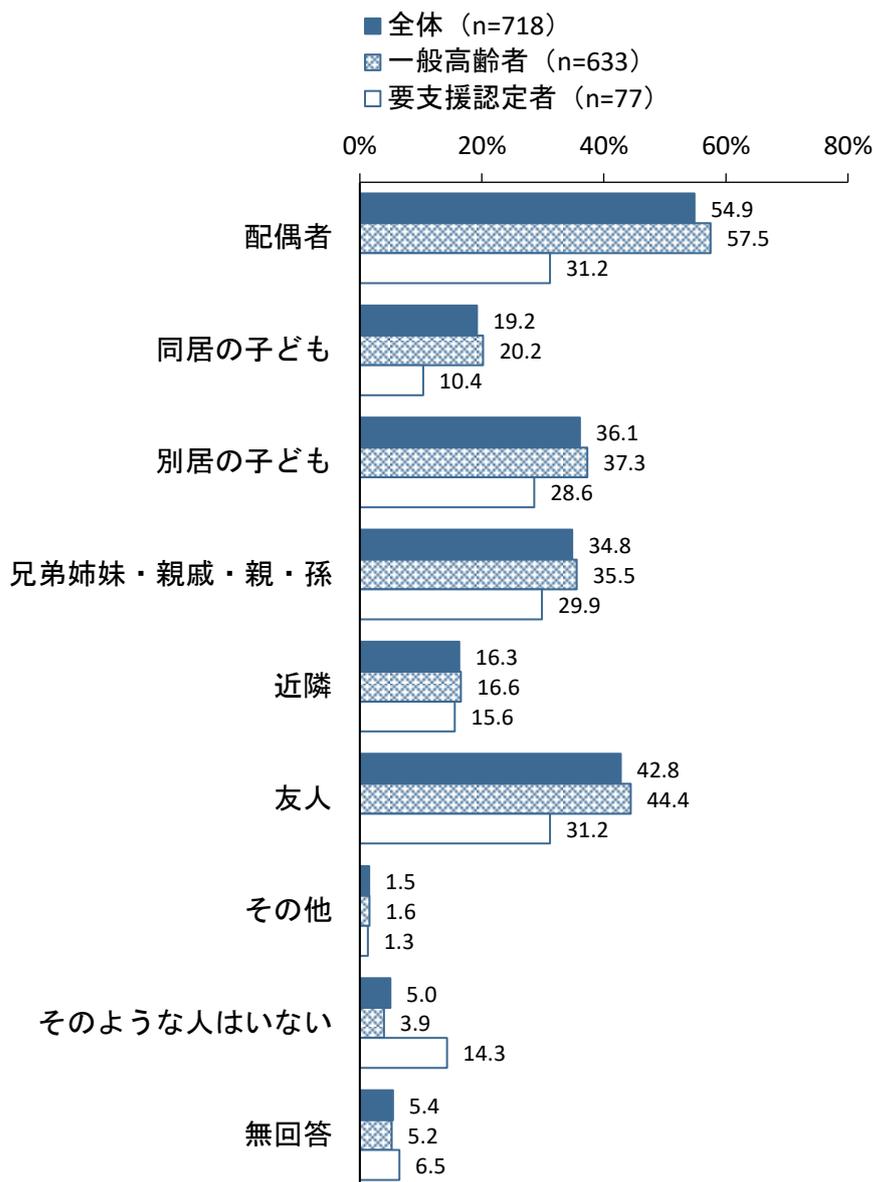
(2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人

問6(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(〇はいくつでも)

心配事や愚痴を聞いてあげる人については、「配偶者」が54.9%で最も高く、次いで「友人」が42.8%、「別居の子ども」が36.1%と続いています。

認定状況別でみると、一般高齢者では「配偶者」が57.5%で最も高く、要支援認定者では「配偶者」、「友人」がいずれも31.2%で最も高くなっています。

図表 I-3-7-3 心配事や愚痴を聞いてあげる人



性別でみると、男性では「配偶者」が72.2%で最も高く、女性では「友人」が51.9%で最も高くなっています。

年齢別でみると、65～84歳では「配偶者」の割合が最も高く、85歳以上では「別居の子ども」の割合が最も高くなっています。

図表 I-3-7-4 心配事や愚痴を聞いてあげる人 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体		718	54.9	19.2	36.1	34.8	16.3	42.8	1.5	5.0	5.4
性別	男性	309	72.2	15.5	33.7	25.6	10.7	31.4	1.6	5.2	6.8
	女性	401	41.1	21.9	38.4	42.1	20.9	51.9	1.5	5.0	4.2
年齢別	65～69歳	155	71.6	23.9	34.8	33.5	14.8	42.6	1.9	1.3	3.9
	70～74歳	191	52.9	15.2	38.2	41.4	17.3	52.4	1.0	4.7	5.2
	75～79歳	168	58.3	20.2	35.1	36.3	20.2	45.2	1.8	4.2	3.6
	80～84歳	116	49.1	21.6	40.5	33.6	15.5	37.1	0.9	6.0	6.0
	85～89歳	61	29.5	14.8	31.1	19.7	13.1	26.2	3.3	9.8	13.1
	90歳以上	19	15.8	10.5	31.6	26.3	5.3	21.1	0.0	26.3	5.3

※網掛け■は最も割合が高いもの

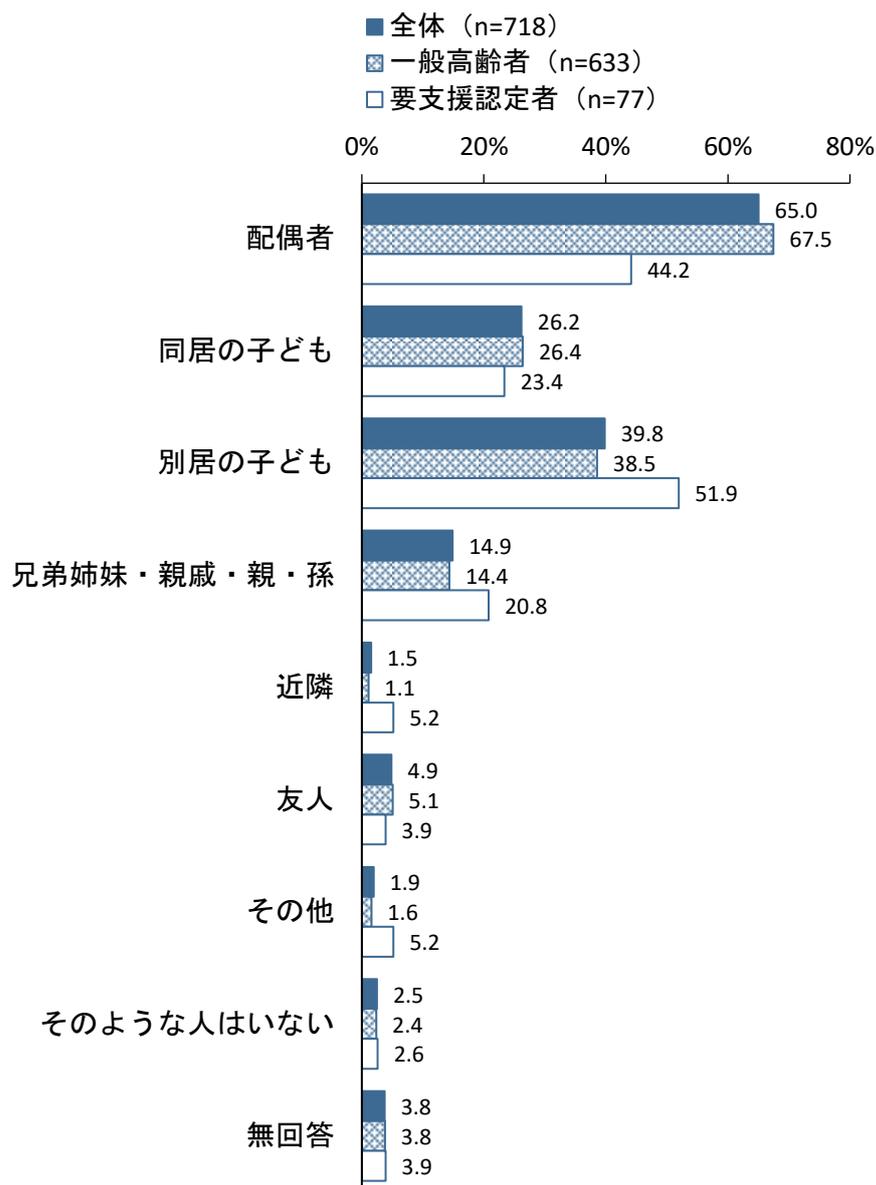
(3) 病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人

問6 (3)	あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人 (〇はいくつでも)
--------	---

病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人については、「配偶者」が65.0%で最も高く、次いで「別居の子ども」が39.8%、「同居の子ども」が26.2%と続いています。

認定状況別でみると、一般高齢者では「配偶者」が67.5%で最も高く、要支援認定者では「別居の子ども」が51.9%で最も高くなっています。

図表 I-3-7-5 病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人



性別でみると、男性、女性いずれも「配偶者」の割合が最も高く、男性が81.9%で、女性(51.9%)よりも30.0ポイント高くなっています。

年齢別でみると、65～84歳では「配偶者」の割合が最も高く、85～89歳では「別居の子ども」の割合が最も高く、90歳以上では「同居の子ども」、「別居の子ども」が同率で最も高くなっています。

図表 I-3-7-6 病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体		718	65.0	26.2	39.8	14.9	1.5	4.9	1.9	2.5	3.8
性別	男性	309	81.9	18.8	35.3	12.3	1.0	1.9	1.0	2.9	5.5
	女性	401	51.9	31.7	43.6	17.2	2.0	7.2	2.7	2.0	2.5
年齢別	65～69歳	155	79.4	22.6	32.9	11.6	0.0	3.2	1.3	2.6	2.6
	70～74歳	191	68.6	18.8	40.3	12.0	2.1	6.3	1.0	3.7	5.2
	75～79歳	168	67.9	28.6	38.1	17.9	1.8	9.5	1.8	1.2	2.4
	80～84歳	116	56.9	36.2	45.7	20.7	2.6	1.7	0.9	2.6	3.4
	85～89歳	61	39.3	26.2	50.8	13.1	1.6	0.0	6.6	1.6	6.6
	90歳以上	19	15.8	42.1	42.1	21.1	0.0	0.0	10.5	0.0	5.3

※網掛け■は最も割合が高いもの

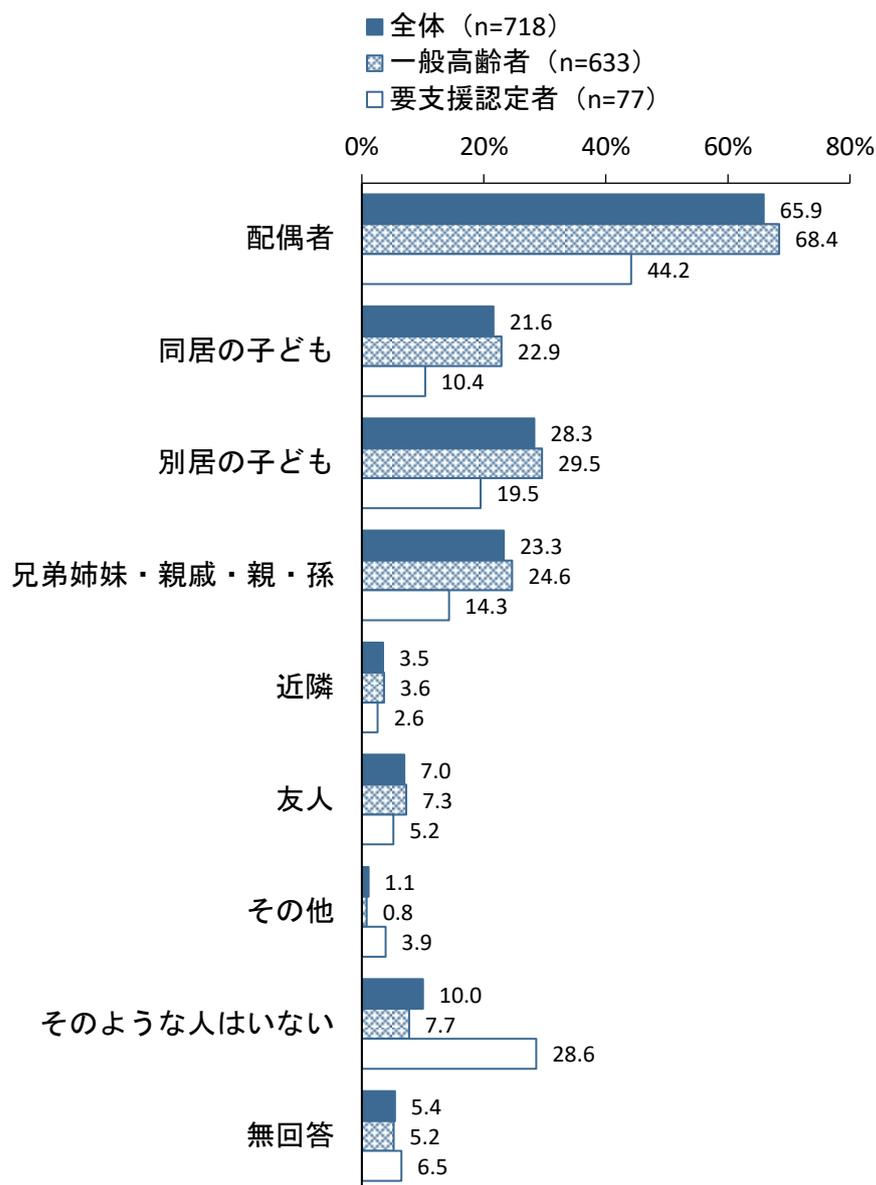
(4) 看病や世話をしあける人

問6(4) 反対に、看病や世話をしあける人(○はいくつでも)

看病や世話をしあける人については、「配偶者」が65.9%で最も高く、次いで「別居の子ども」が28.3%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が23.3%と続いています。

認定状況別でみると、一般高齢者、要支援認定者いずれも「配偶者」の割合が最も高くなっており、「そのような人はいない」では、要支援認定者が28.6%で、一般高齢者(7.7%)よりも20.9ポイント高くなっています。

図表 I-3-7-7 看病や世話をしあける人



性別でみると、男性、女性いずれも「配偶者」の割合が最も高くなっており、男性が77.3%で、女性（56.9%）よりも20.4ポイント高くなっています。

年齢別でみると、全ての年齢階級で「配偶者」の割合が最も高く、「そのような人はいない」では、85～89歳が29.5%で最も高くなっています。

図表 I-3-7-8 看病や世話をしている人 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体		718	65.9	21.6	28.3	23.3	3.5	7.0	1.1	10.0	5.4
性別	男性	309	77.3	15.9	24.3	16.8	3.6	4.5	0.6	8.1	6.5
	女性	401	56.9	25.9	31.7	28.7	3.5	9.0	1.5	11.5	4.5
年齢別	65～69歳	155	79.4	23.2	31.0	27.7	0.6	6.5	1.3	3.9	2.6
	70～74歳	191	69.6	17.8	34.6	33.0	4.2	10.5	1.0	7.3	5.8
	75～79歳	168	64.9	23.8	25.6	23.2	6.0	8.9	0.0	8.9	4.2
	80～84歳	116	60.3	25.9	30.2	11.2	4.3	3.4	2.6	11.2	8.6
	85～89歳	61	42.6	13.1	11.5	8.2	0.0	1.6	1.6	29.5	8.2
	90歳以上	19	31.6	26.3	15.8	21.1	5.3	0.0	0.0	26.3	5.3

※網掛け■は最も割合が高いもの

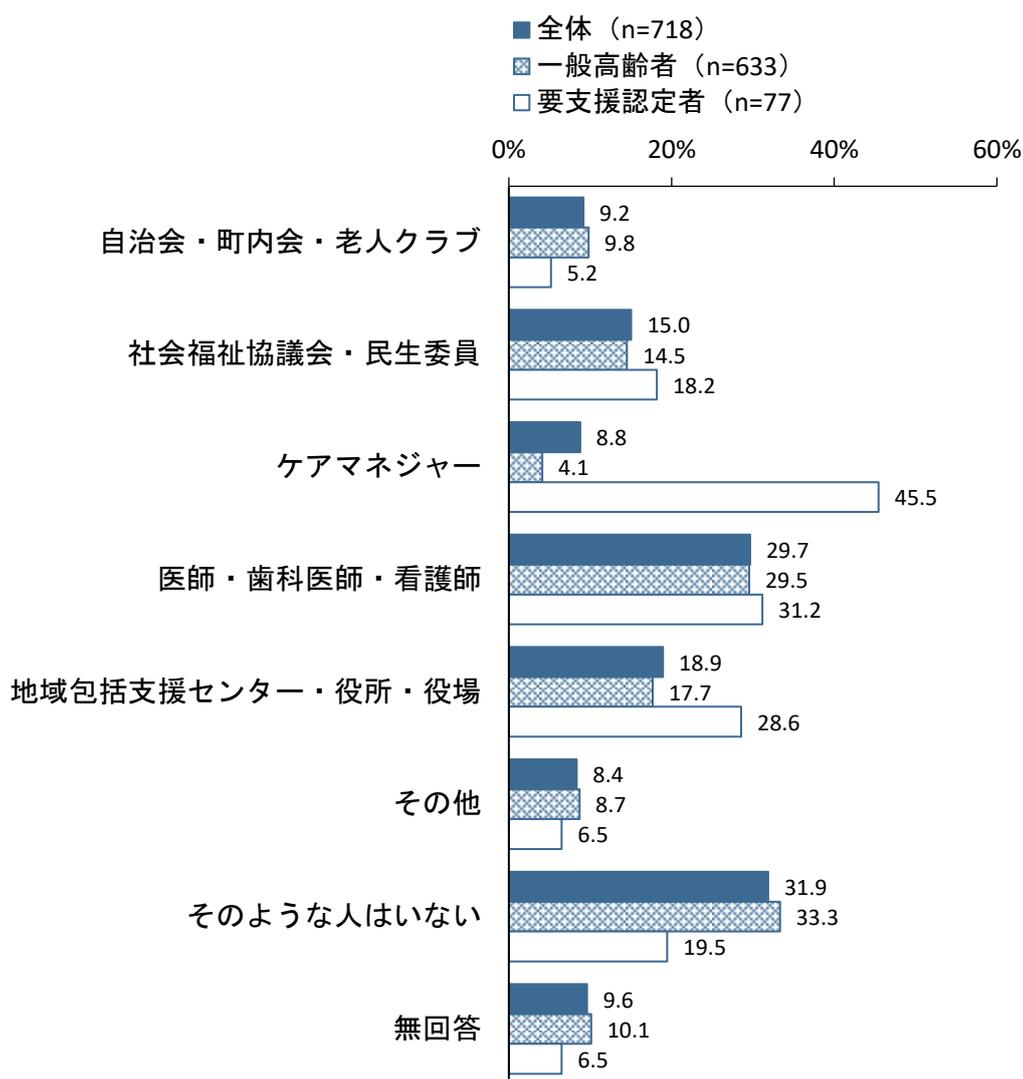
(5) 家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手

問6 (5)	家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください (〇はいくつでも)
--------	---

家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手については、「そのような人はいない」が31.9%で最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」が29.7%、「地域包括支援センター・役所・役場」が18.9%と続いています。

認定状況別でみると、一般高齢者では「そのような人はいない」が33.3%で最も高く、要支援認定者では「ケアマネジャー」が45.5%で最も高くなっています。

図表 I-3-7-9 家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手



性別でみると、男性、女性いずれも「そのような人はいない」の割合が最も高くなっています。
 年齢別でみると、65～74歳では「そのような人はいない」の割合が最も高く、75～89歳では「医師・歯科医師・看護師」の割合が最も高く、90歳以上では「医師・歯科医師・看護師」、「そのような人はいない」が同率で最も高くなっています。

図表 I-3-7-10 家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手 属性別

単位：実数（人）、構成比（％）

	合計	クラブ 自治会・町内会・老人	委員 社会福祉協議会・民生	ケア マネジャー	医師・ 歯科医師・ 看護師	地域 ・包括 支援 センター・ 役場	その他	その よう な人 はい ない	無 回 答	
全体	718	9.2	15.0	8.8	29.7	18.9	8.4	31.9	9.6	
性別	男性	309	12.6	15.5	5.2	29.1	20.4	10.7	31.7	8.7
	女性	401	6.7	14.5	11.2	30.2	17.7	6.7	31.9	10.5
年齢別	65～69歳	155	9.0	11.6	1.9	30.3	17.4	11.0	39.4	5.2
	70～74歳	191	8.9	12.0	4.2	25.1	16.8	7.9	39.3	11.0
	75～79歳	168	10.1	17.3	9.5	29.8	23.8	8.3	27.4	8.9
	80～84歳	116	9.5	19.8	13.8	35.3	19.0	9.5	20.7	10.3
	85～89歳	61	11.5	18.0	23.0	31.1	18.0	4.9	23.0	14.8
	90歳以上	19	0.0	10.5	21.1	31.6	10.5	0.0	31.6	21.1

※網掛け■は最も割合が高いもの

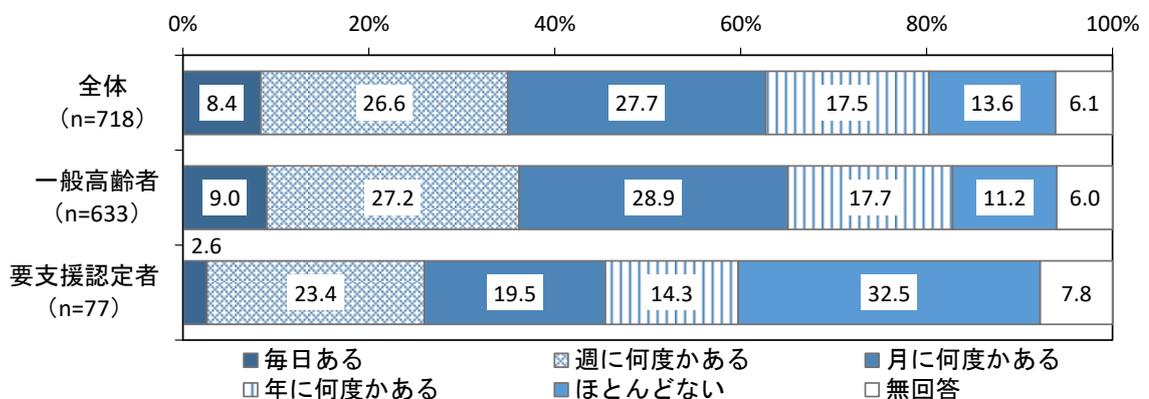
（6）友人・知人と会う頻度

問6（6） 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか（○はひとつ）

友人・知人と会う頻度については、「月に何度かある」が27.7%で最も高く、次いで「週に何度かある」が26.6%、「年に何度かある」が17.5%と続いています。

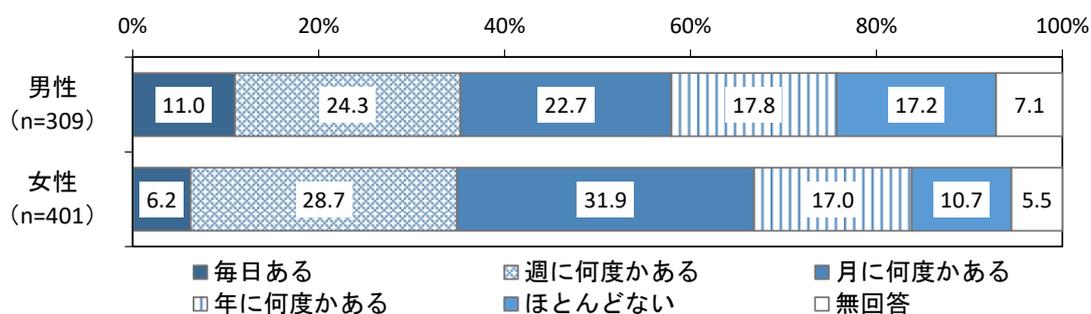
認定状況別でみると、一般高齢者では「月に何度かある」が28.9%で最も高く、要支援認定者では「ほとんどない」が32.5%で最も高くなっています。

図表 I-3-7-11 友人・知人と会う頻度



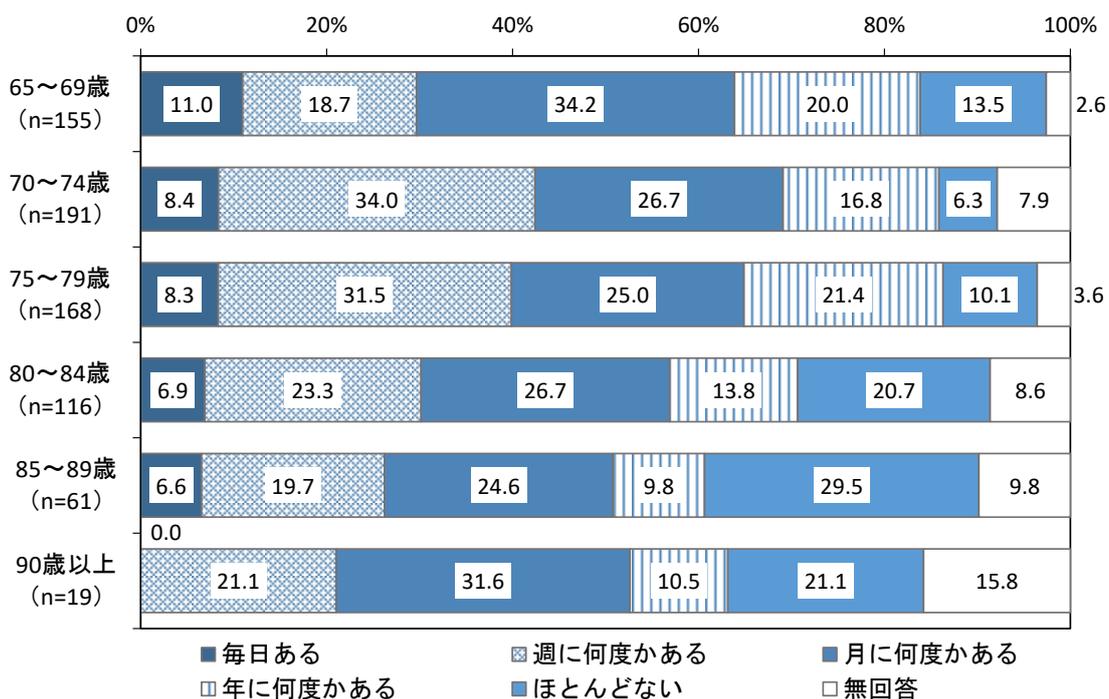
性別でみると、「ほとんどない」では、男性が17.2%で、女性（10.7%）よりも6.5ポイント高くなっています。

図表 I-3-7-12 友人・知人と会う頻度 性別



年齢別でみると、65～69歳、80～84歳、90歳以上では「月に何度かある」の割合が最も高く、70～79歳では「週に何度かある」の割合が最も高く、85～89歳では「ほとんどない」の割合が最も高くなっています。

図表 I-3-7-13 友人・知人と会う頻度 年齢別



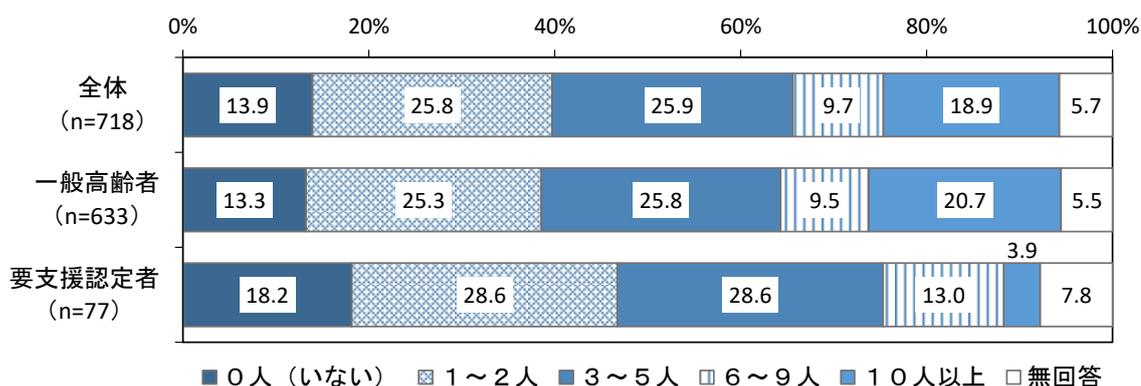
(7) この1か月間、何人の友人・知人と会ったか

問6(7)	この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか(〇はひとつ)
-------	-------------------------------

この1か月間、何人の友人・知人と会ったかについては、「3～5人」が25.9%で最も高く、次いで「1～2人」が25.8%、「10人以上」が18.9%と続いています。

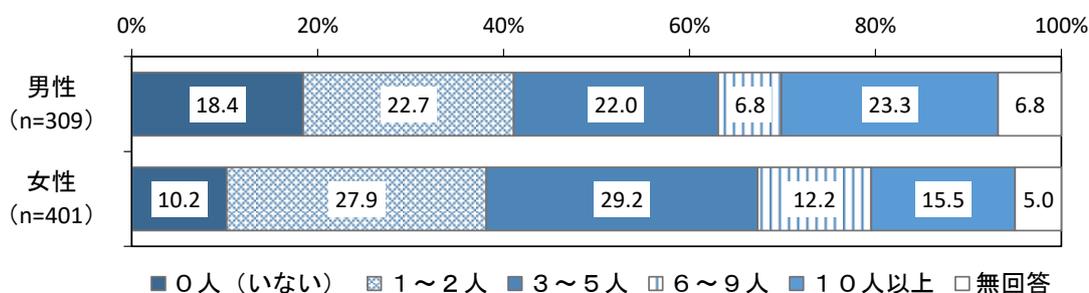
認定状況別でみると、「0人(いない)」では、要支援認定者が18.2%で、一般高齢者(13.3%)よりも4.9ポイント高くなっています。

図表 I-3-7-14 この1か月間、何人の友人・知人と会ったか



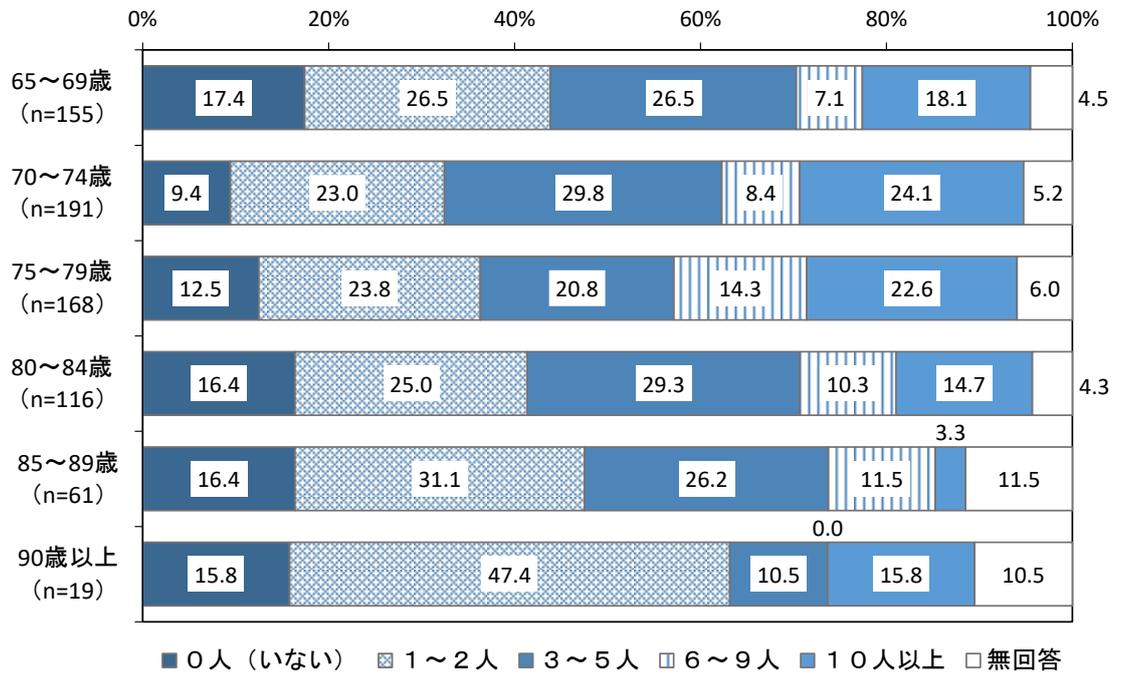
性別でみると、男性では「10人以上」が23.3%で最も高く、女性では「3～5人」が29.2%で最も高くなっています。

図表 I-3-7-15 この1か月間、何人の友人・知人と会ったか 性別



年齢別でみると、「0人（いない）」では、65～69歳が17.4%で最も高くなっています。

図表 I-3-7-16 この1か月間、何人の友人・知人と会ったか 年齢別



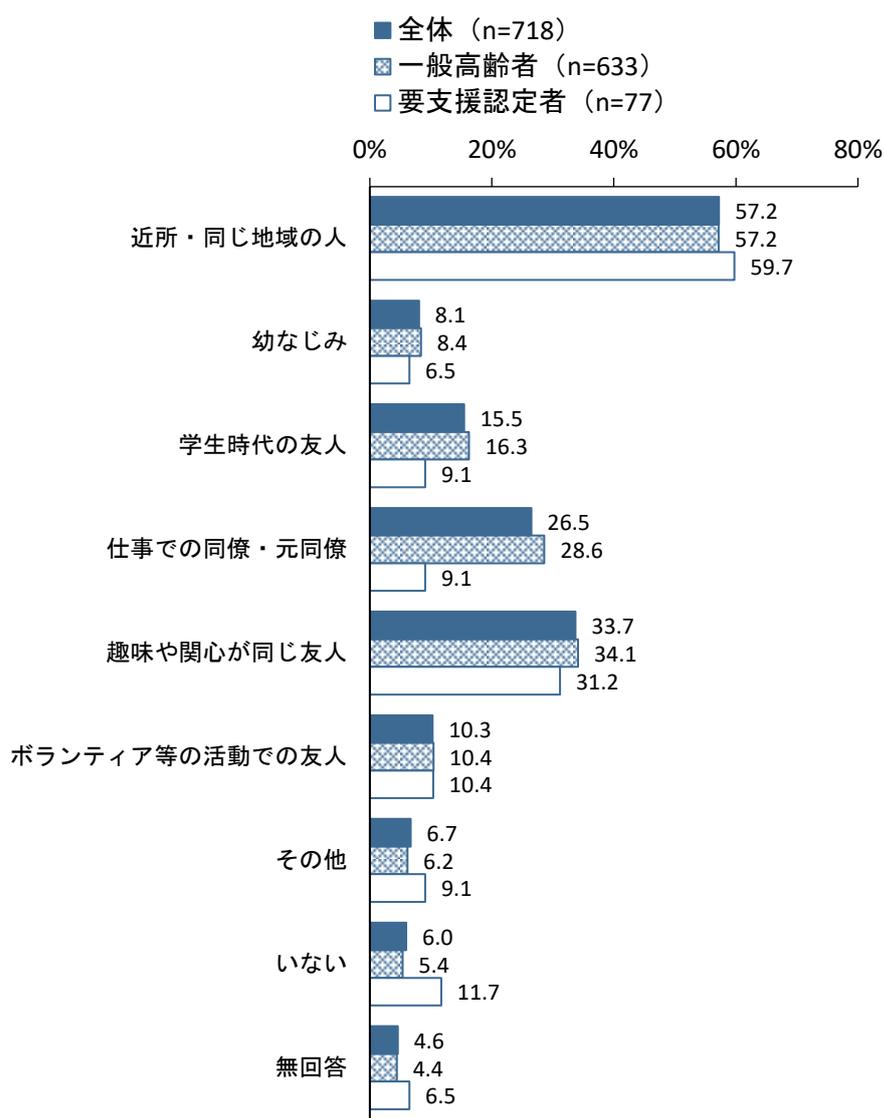
(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人か

問6(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか(〇はいくつでも)

よく会う友人・知人はどんな関係の人かについては、「近所・同じ地域の人」が57.2%で最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」が33.7%、「仕事での同僚・元同僚」が26.5%と続いています。

認定状況別で見ると、一般高齢者、要支援認定者いずれも「近所・同じ地域の人」の割合が最も高く、「いない」では、要支援認定者が11.7%で、一般高齢者(5.4%)よりも6.3ポイント高くなっています。

図表 I-3-7-17 よく会う友人・知人はどんな関係の人か



性別でみると、男性、女性いずれも「近所・同じ地域の人」の割合が最も高く、女性が67.3%で、男性（44.7%）よりも22.6ポイント高くなっています。

年齢別でみると、全ての年齢階級で「近所・同じ地域の人」の割合が最も高くなっており、「いない」では、90歳以上が21.1%で最も高くなっています。

図表 I-3-7-18 よく会う友人・知人はどんな関係の人か 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	近所・同じ地域の人	幼なじみ	学生時代の友人	仕事での同僚・元同僚	趣味や関心が同じ友人	ボランティア等の活動での友人	その他	いない	無回答
全体		718	57.2	8.1	15.5	26.5	33.7	10.3	6.7	6.0	4.6
性別	男性	309	44.7	9.4	15.5	36.2	30.1	11.0	5.8	7.8	6.1
	女性	401	67.3	7.2	15.5	19.0	36.7	10.0	7.0	4.7	3.5
年齢別	65～69歳	155	48.4	7.7	21.3	40.0	27.7	11.6	8.4	7.7	2.6
	70～74歳	191	54.5	6.8	19.9	30.4	36.1	9.9	6.3	4.7	5.8
	75～79歳	168	62.5	8.9	10.7	25.6	41.1	11.3	6.5	3.0	4.2
	80～84歳	116	63.8	6.9	13.8	16.4	39.7	11.2	7.8	7.8	2.6
	85～89歳	61	67.2	11.5	3.3	8.2	16.4	6.6	1.6	6.6	9.8
	90歳以上	19	47.4	15.8	15.8	5.3	15.8	5.3	0.0	21.1	10.5

※網掛け■は最も割合が高いもの

8. 健康について

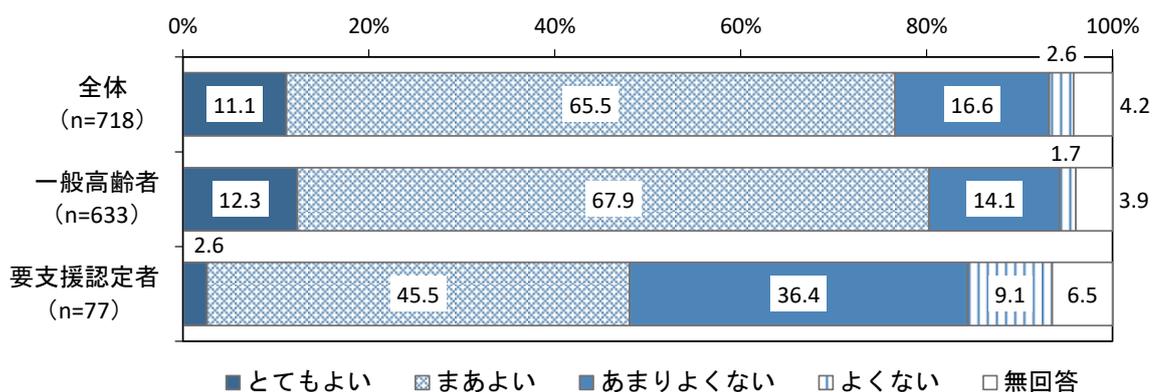
(1) 現在の健康状態

問7(1)	現在のあなたの健康状態はいかがですか(○はひとつ)
-------	---------------------------

現在の健康状態については、「まあよい」が65.5%で最も高く、次いで「あまりよくない」が16.6%、「とてもよい」が11.1%と続いています。

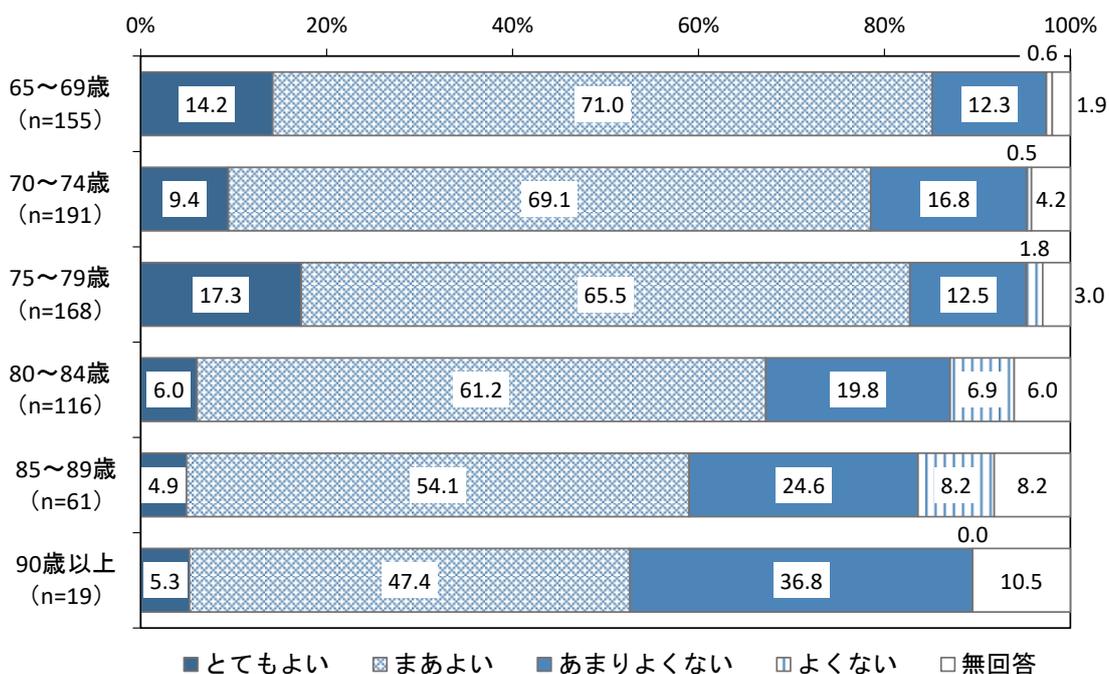
認定状況別でみると、『よくない』(「あまりよくない」と「よくない」の合計)では、要支援認定者が45.5%で、一般高齢者(15.8%)よりも29.7ポイント高くなっています。

図表 I-3-8-1 現在の健康状態



年齢別でみると、『よくない』では、75歳以上で年齢が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が36.8%で最も高くなっています。

図表 I-3-8-2 現在の健康状態 年齢別



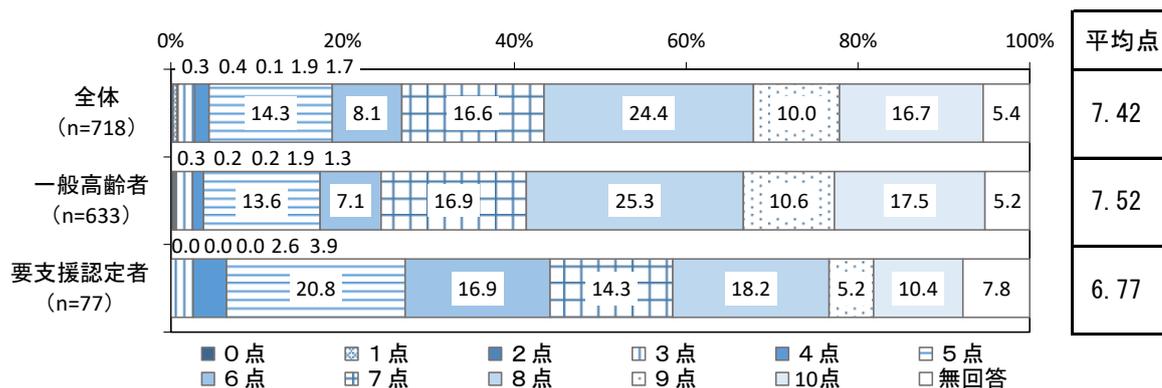
(2) 現在どの程度幸せか

問7(2)	あなたは、現在どの程度幸せですか (「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)
-------	---

現在どの程度幸せかについては、「8点」が24.4%で最も高く、次いで「10点」が16.7%、「7点」が16.6%と続いており、平均点は7.42点となっています。

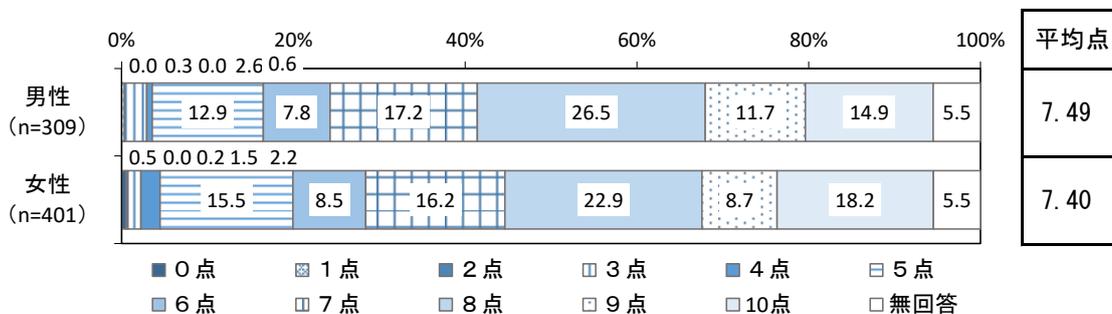
認定状況別でみると、平均点では、一般高齢者が7.52点で、要支援認定者(6.77点)よりも0.75点高くなっています。

図表 I-3-8-3 現在どの程度幸せか



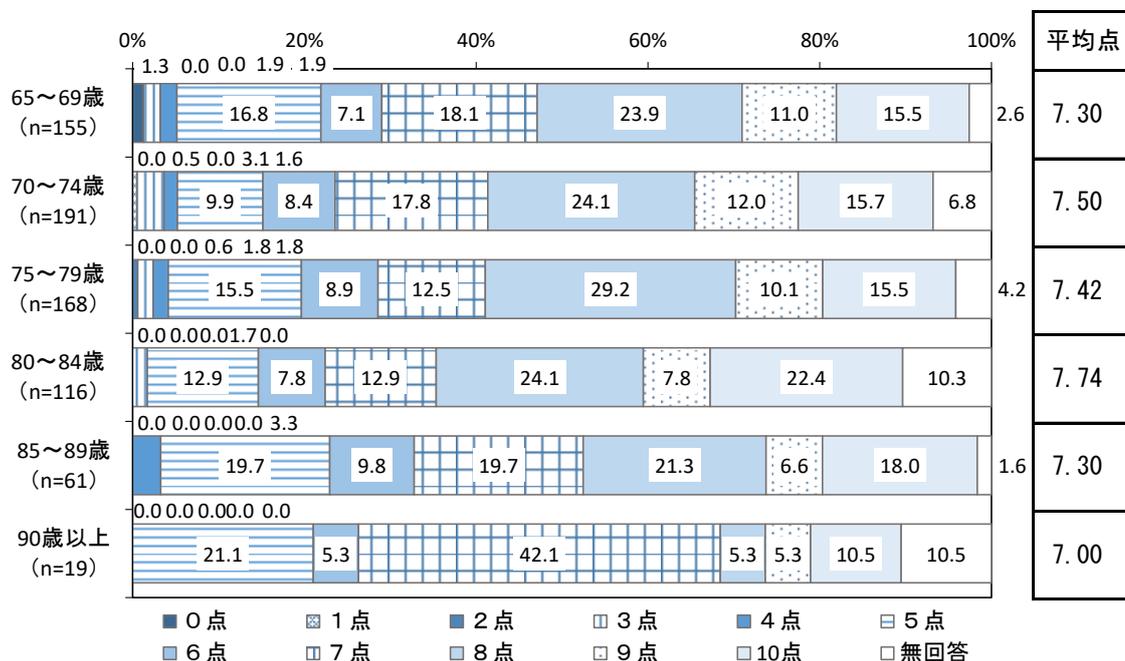
性別でみると、平均点では、男性が7.49点で、女性(7.40点)よりも0.09点高くなっています。

図表 I-3-8-4 現在どの程度幸せか 性別



年齢別でみると、平均点では、80～84歳が7.74点で最も高く、90歳以上が7.00点で最も低くなっています。

図表 I-3-8-5 現在どの程度幸せか 年齢別



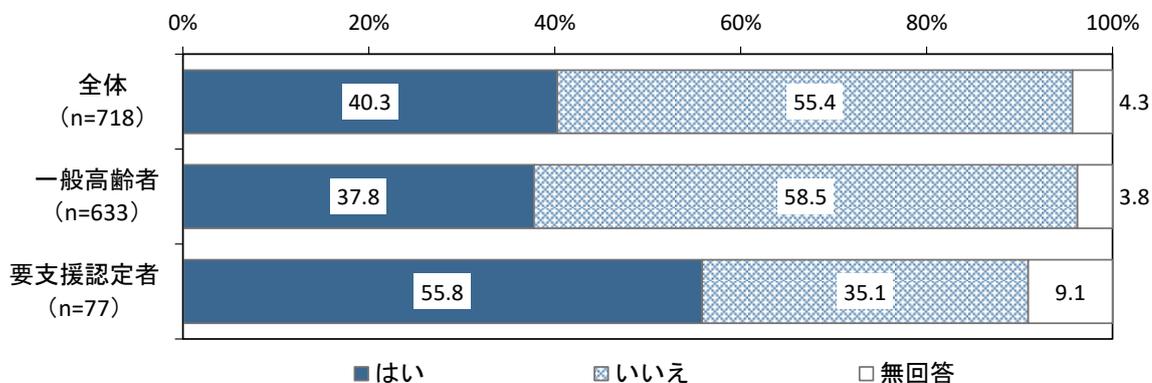
(3) この1か月間気分が沈んだりゆううつな気持ちになったりすることがあったか

問7 (3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか (○はひとつ)
--------	---

この1か月間気分が沈んだりゆううつな気持ちになったりすることがあったかについては、「はい」が40.3%、「いいえ」が55.4%となっています。

認定状況別でみると、「はい」では、要支援認定者が55.8%で、一般高齢者(37.8%)よりも18.0ポイント高くなっています。

図表 I-3-8-6 この1か月間気分が沈んだりゆううつな気持ちになったりすることがあったか



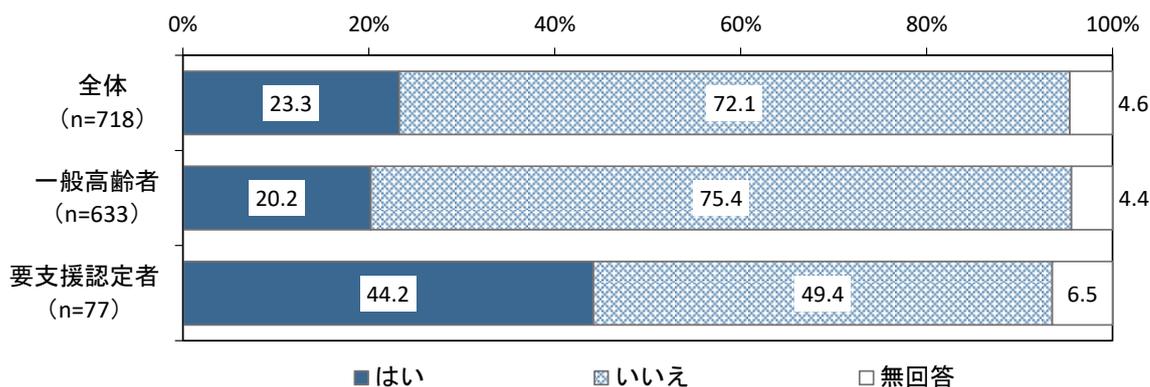
(4) この1か月間物事に興味がわかない心から楽しめない感じがよくあったか

問7(4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか(〇はひとつ)
-------	--

この1か月間物事に興味がわかない心から楽しめない感じがよくあったかについては、「はい」が23.3%、「いいえ」が72.1%となっています。

認定状況別でみると、「はい」では、要支援認定者が44.2%で、一般高齢者(20.2%)よりも24.0ポイント高くなっています。

図表 I-3-8-7 この1か月間物事に興味がわかない心から楽しめない感じがよくあったか



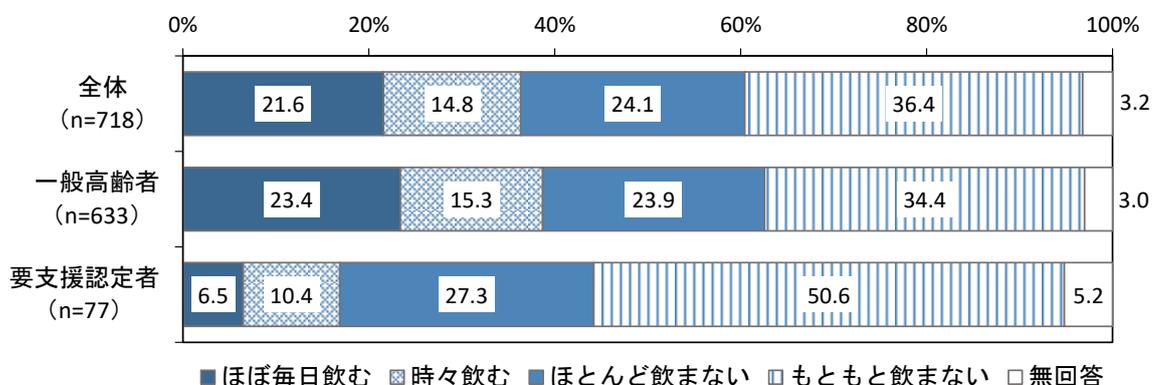
(5) お酒は飲んでいるか

問7(5)	お酒は飲みますか(〇はひとつ)
-------	-----------------

お酒は飲んでいるかについては、「もともと飲まない」が36.4%で最も高く、次いで「ほとんど飲まない」が24.1%、「ほぼ毎日飲む」が21.6%と続いており、飲酒率(「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」の合計)は36.4%となっています。

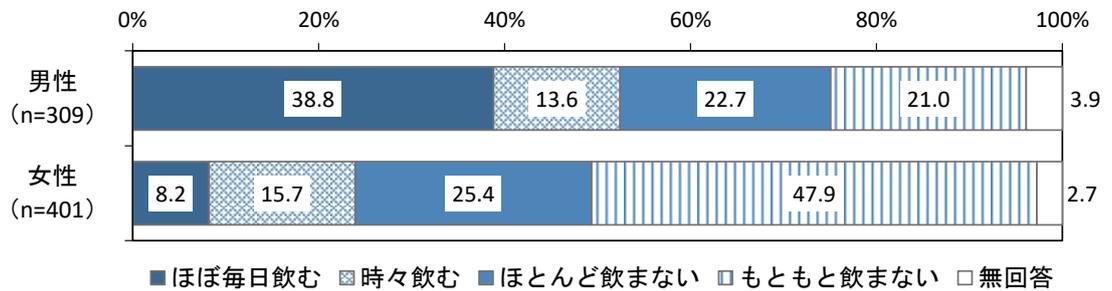
認定状況別でみると、飲酒率では、一般高齢者が38.7%で、要支援認定者(16.9%)よりも21.8ポイント高くなっています。

図表 I-3-8-8 お酒は飲んでいるか



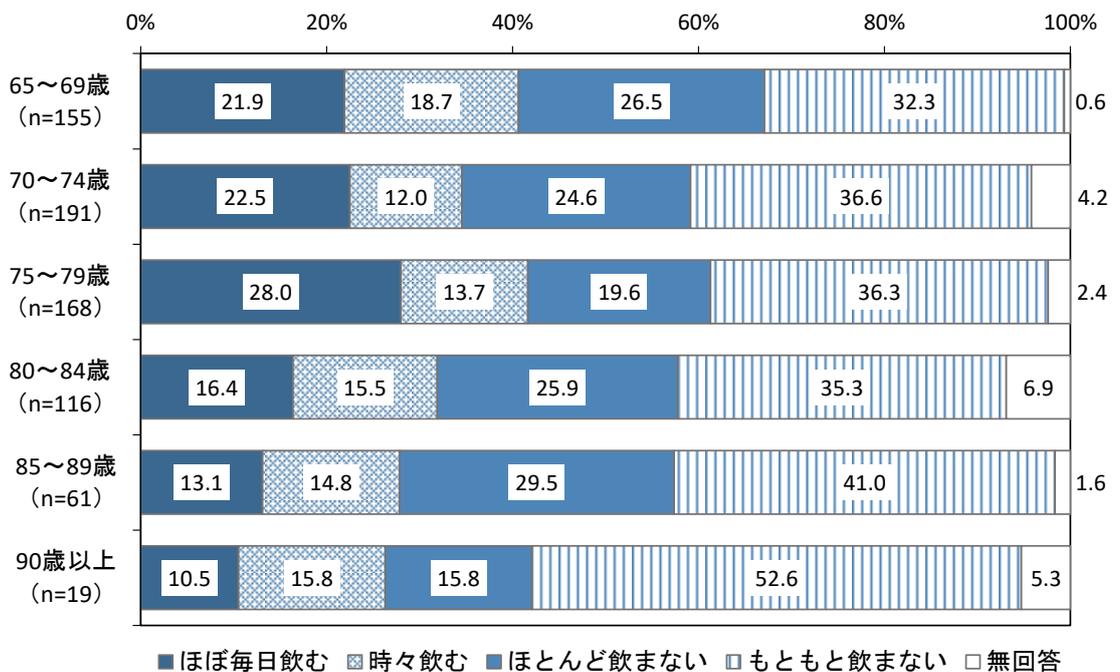
性別でみると、飲酒率では、男性が52.4%で、女性（23.9%）よりも28.5ポイント高くなっています。

図表 I-3-8-9 お酒は飲んでいるか 性別



年齢別でみると、飲酒率は、75～79歳が41.7%で最も高く、「もともと飲まない」では、90歳以上が52.6%で最も高くなっています。

図表 I-3-8-10 お酒は飲んでいるか 年齢別



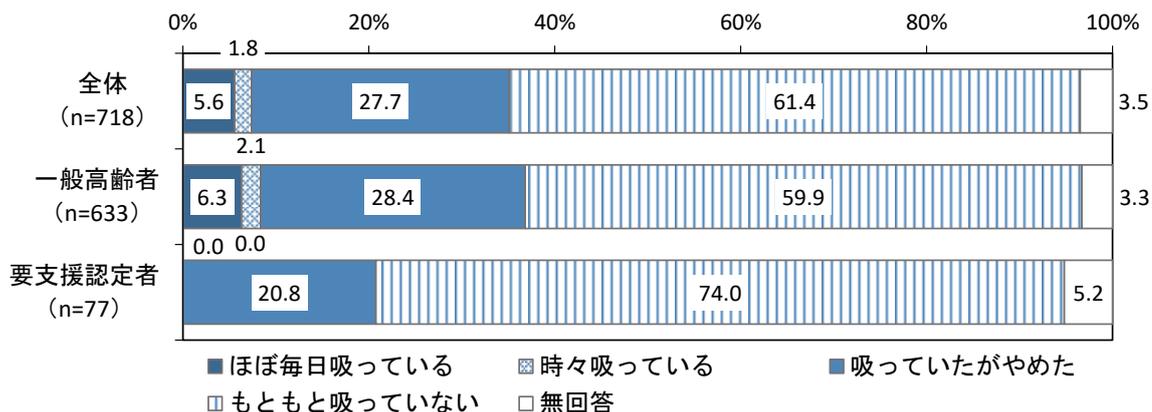
(6) タバコは吸っているか

問7(6)	タバコは吸っていますか(○はひとつ)
-------	--------------------

タバコは吸っているかについては、「もともと吸っていない」が61.4%で最も高く、次いで「吸っていたがやめた」が27.7%、「ほぼ毎日吸っている」が5.6%と続いており、喫煙率(「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」の合計)は7.4%となっています。

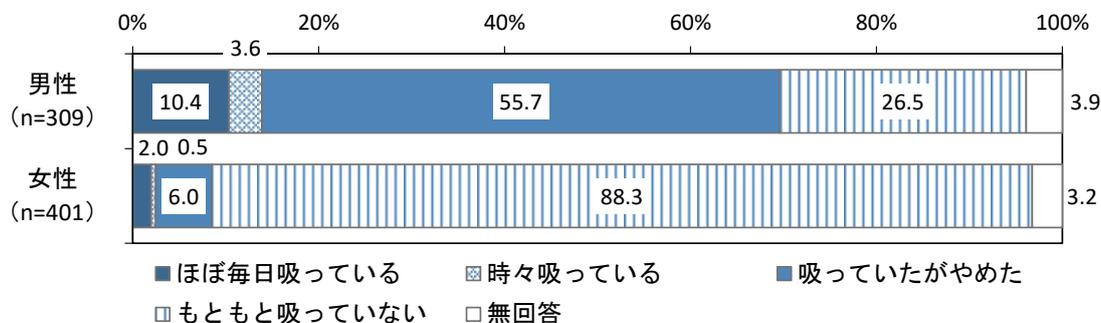
認定状況別でみると、喫煙率では、一般高齢者が8.4%、要支援認定者が0%となっています。

図表 I-3-8-11 タバコは吸っているか



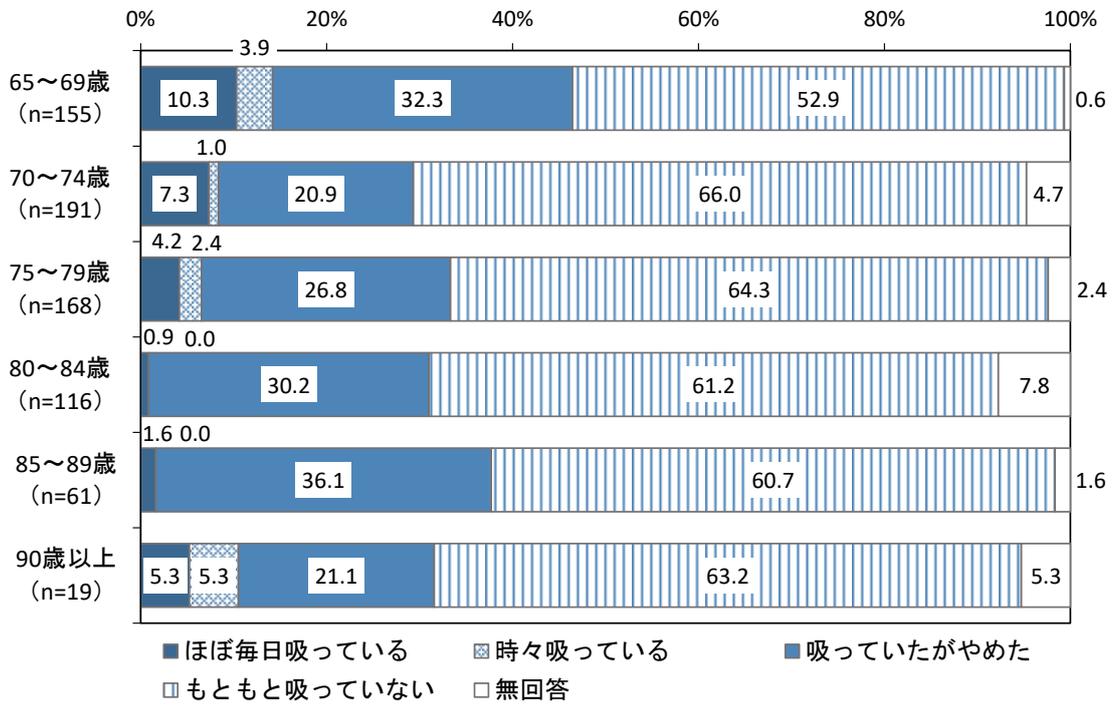
性別でみると、喫煙率では、男性が14.0%、女性が2.5%となっています。

図表 I-3-8-12 タバコは吸っているか 性別



年齢別でみると、喫煙率では、65～69歳が14.2%で最も高くなっています。

図表 I-3-8-13 タバコは吸っているか 年齢別



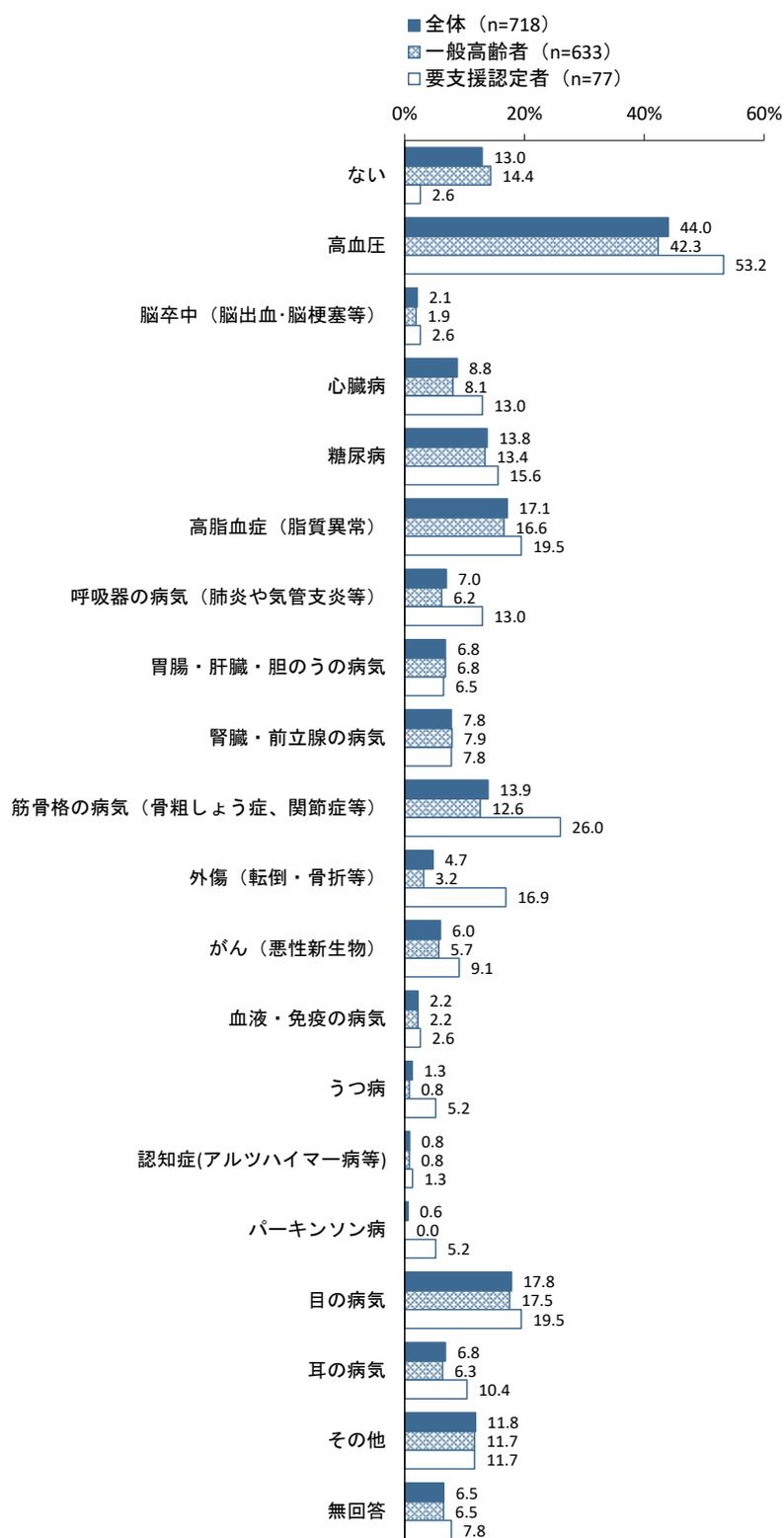
(7) 現在治療中または後遺症のある病気はあるか

問7(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (〇はいくつでも)

現在治療中または後遺症のある病気はあるかについては、「高血圧」が44.0%で最も高く、次いで「目の病気」が17.8%、「高脂血症(脂質異常)」が17.1%と続いています。

認定状況別でみると、一般高齢者、要支援者いずれも「高血圧」の割合が最も高く、要支援認定者が53.2%で、一般高齢者(42.3%)よりも10.9ポイント高くなっています。

図表 I-3-8-14 現在治療中または後遺症のある病気はあるか



性別でみると、男性、女性いずれも「高血圧」の割合が最も高く、男性では次いで「糖尿病」の割合が高く、女性では次いで「高脂血症（脂質異常）」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、全ての年齢階級で「高血圧」の割合が最も高く、65～69歳では次いで「ない」の割合が高く、70～79歳では次いで「高脂血症（脂質異常）」の割合が高く、80～84歳、90歳以上では次いで「目の病気」が高く、85～89歳では次いで「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」、「目の病気」が同率で高くなっています。

図表 I-3-8-15 現在治療中または後遺症のある病気はあるか 属性別

単位：実数（人）、構成比（％）

	合計	ない	高血圧	脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	心臓病	糖尿病	高脂血症（脂質異常）	呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気（骨粗しょう症・関節症等）	
											（骨粗しょう	
全体	718	13.0	44.0	2.1	8.8	13.8	17.1	7.0	6.8	7.8	13.9	
性別	男性	309	12.3	44.3	2.6	11.0	17.8	12.0	8.7	6.1	16.2	6.8
	女性	401	13.7	42.9	1.5	6.7	10.5	20.7	5.5	7.2	1.5	19.7
年齢別	65～69歳	155	23.2	39.4	1.3	6.5	14.2	14.2	3.2	7.7	2.6	8.4
	70～74歳	191	10.5	39.3	1.6	8.9	15.7	17.8	5.2	5.8	6.3	12.6
	75～79歳	168	13.7	43.5	1.8	6.5	11.9	20.2	6.5	5.4	5.4	13.7
	80～84歳	116	6.0	56.0	2.6	8.6	16.4	16.4	10.3	8.6	17.2	20.7
	85～89歳	61	8.2	44.3	3.3	18.0	8.2	14.8	14.8	9.8	18.0	19.7
	90歳以上	19	10.5	42.1	5.3	10.5	5.3	10.5	10.5	0.0	0.0	21.1

	合計	外傷（転倒・骨折等）	がん（悪性新生物）	血液・免疫の病気	うつ病	認知症（アルツハイマー病等）	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	無回答	
全体	718	4.7	6.0	2.2	1.3	0.8	0.6	17.8	6.8	11.8	6.5	
性別	男性	309	3.6	7.4	1.9	0.3	1.3	0.0	15.2	6.5	12.6	5.8
	女性	401	5.5	5.0	2.5	2.0	0.5	1.0	19.7	7.0	11.0	7.2
年齢別	65～69歳	155	0.6	4.5	2.6	2.6	0.0	0.0	9.7	2.6	10.3	5.2
	70～74歳	191	3.7	6.8	2.6	0.5	0.0	0.0	15.7	5.2	16.2	7.9
	75～79歳	168	6.0	4.2	2.4	1.2	2.4	0.6	19.0	9.5	8.9	6.0
	80～84歳	116	10.3	7.8	0.9	1.7	0.0	0.9	27.6	7.8	12.9	6.9
	85～89歳	61	3.3	9.8	1.6	0.0	1.6	3.3	19.7	11.5	8.2	6.6
	90歳以上	19	5.3	5.3	5.3	0.0	5.3	0.0	26.3	10.5	5.3	10.5

※網掛け■は最も割合が高いもの

9. 認知症にかかる相談窓口の把握について

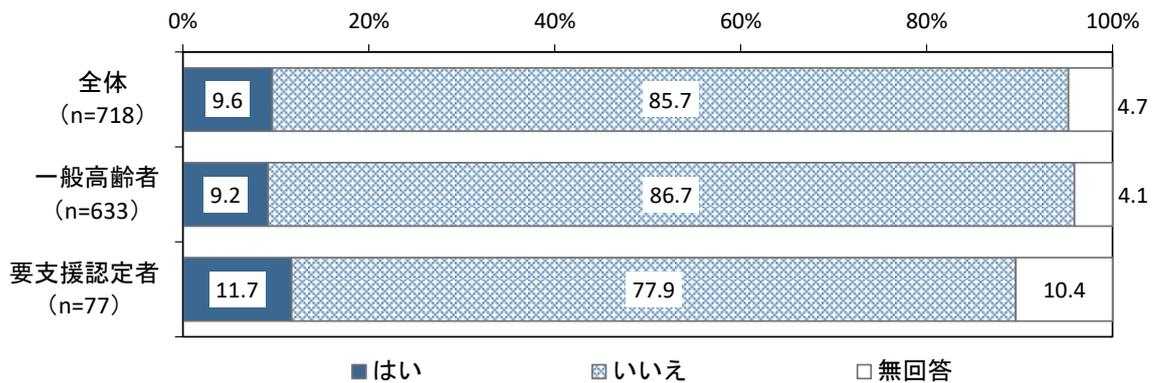
(1) 認知症の症状があるか・家族に認知症の症状がある人がいるか

問8(1)	認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか(〇はひとつ)
-------	--------------------------------------

認知症の症状があるか・家族に認知症の症状がある人がいるかについては、「はい」が9.6%、「いいえ」が85.7%となっています。

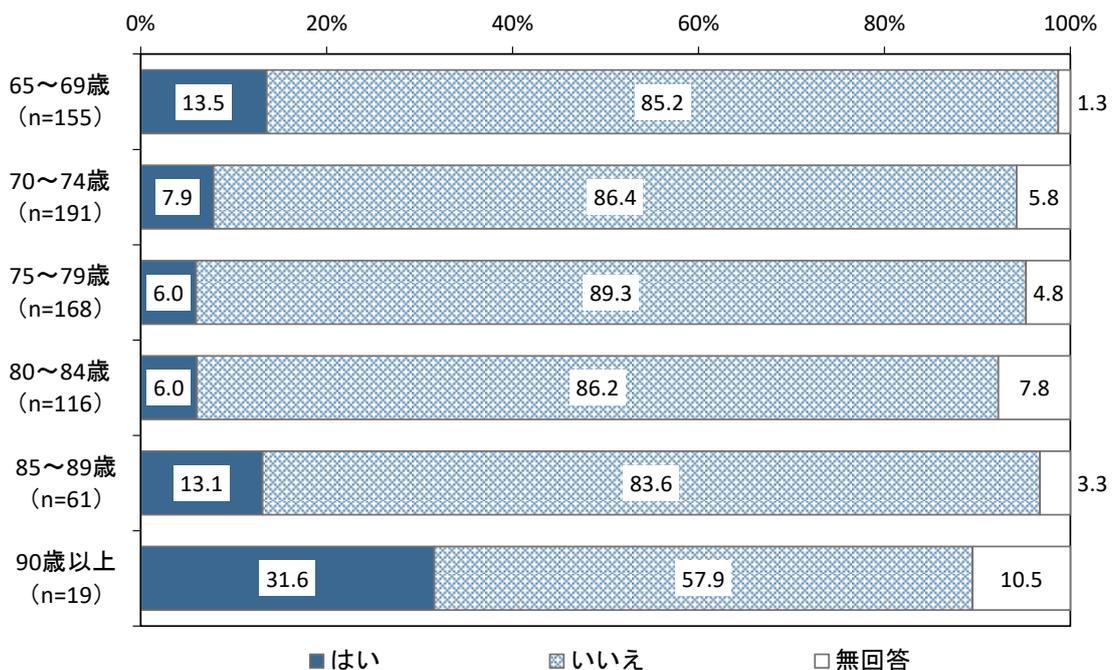
認定状況別でみると、「いいえ」では、一般高齢者が86.7%で、要支援認定者(77.9%)よりも8.8ポイント高くなっています。

図表 I-3-9-1 認知症の症状があるか・家族に認知症の症状がある人がいるか



年齢別でみると、「はい」では、80歳以上で年齢が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が31.6%で最も高くなっています。

図表 I-3-9-2 認知症の症状があるか・家族に認知症の症状がある人がいるか 年齢別



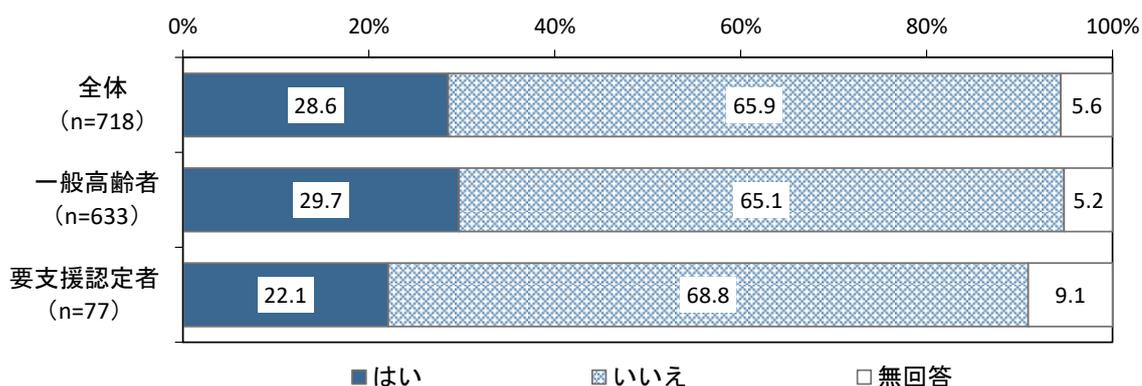
(2) 認知症に関する相談窓口を知っているか

問8 (2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか (〇はひとつ)

認知症に関する相談窓口を知っているかについては、「はい」が28.6%、「いいえ」が65.9%となっています。

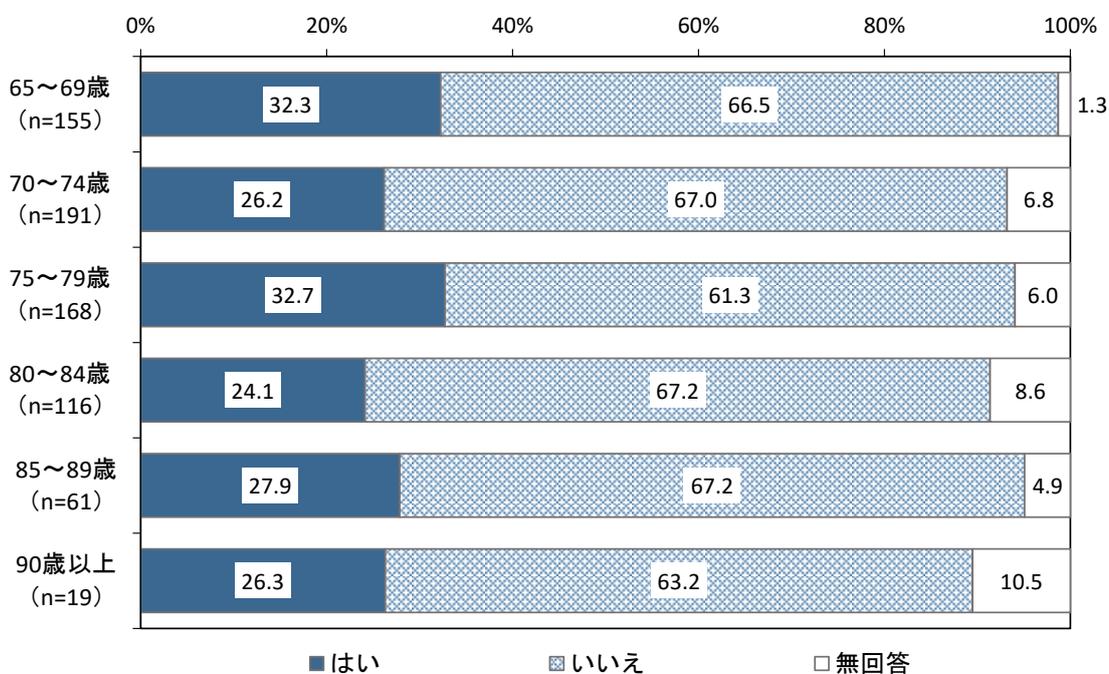
認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が29.7%で、要支援認定者(22.1%)よりも7.6ポイント高くなっています。

図表 I-3-9-3 認知症に関する相談窓口を知っているか



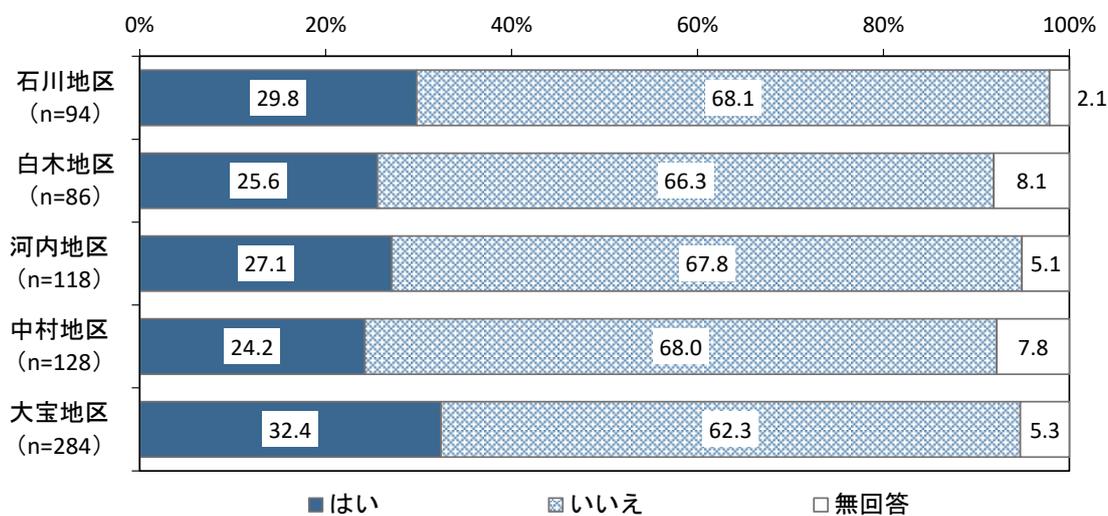
年齢別でみると、「はい」では、全ての年齢階級で2～3割台となっており、75～79歳が32.7%で最も高く、次いで65～69歳が32.3%、85～89歳が27.9%と続いています。

図表 I-3-9-4 認知症に関する相談窓口を知っているか 年齢別



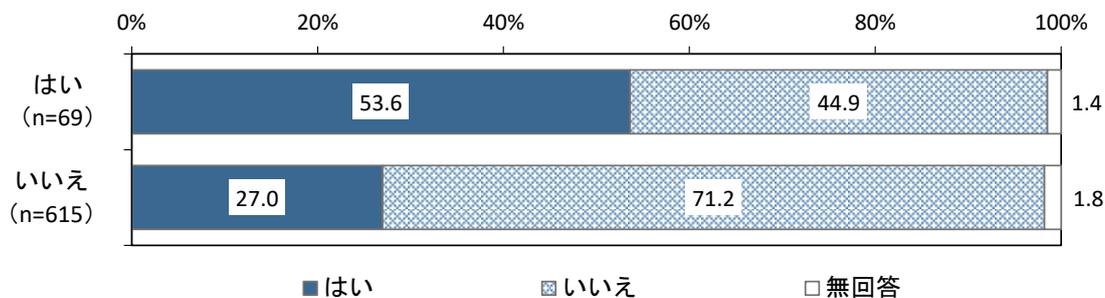
地区別でみると、「はい」では、大宝地区が32.4%で最も高く、中村地区が24.2%で最も低くなっています。

図表 I-3-9-5 認知症に関する相談窓口を知っているか 地区別



認知症の症状があるか・家族に認知症の症状がある人がいるか別でみると、“認知症の症状がある、もしくは家族に認知症の症状がある人がいる”とする人の、認知症に関する相談窓口の認知度は53.6%となっています。

図表 I-3-9-6 認知症に関する相談窓口を知っているか
認知症の症状があるか・家族に認知症の症状がある人がいるか別



第4章 資料編

1. 調査票

番号記載場所

河南町 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 調査ご協力のお願い

町民の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃から、町政に対しましてご理解、ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

さて、このたび河南町では、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査といたしまして、町内在住の65歳以上の方を無作為に抽出し、本調査を実施することとなりました。

この調査は、日常生活の状況や健康状態などについてお伺いして、今後の高齢者保健福祉行政のより一層の計画的かつ効果的な推進と新しい介護保険事業計画策定のために役立てさせていただきます。

調査につきましては、すべて数値だけで統計的に処理いたしますので、ご回答いただきました皆様に、ご迷惑をお掛けするようなことはございません。

ご多忙の折、誠に恐縮でございますが、趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和2年6月

河南町長 森田 昌吾

ご記入にあたってのお願い

- 1 このアンケートの回答は、できる限り封筒のあて名のご本人にお願いいたします。何らかの事情により、ご本人の記入が難しい場合は、ご家族の方などが代筆または、ご本人の立場に立ち、できる限り意志を反映してご記入をお願いします。
- 2 質問中での「あなた」は、封筒のあて名ご本人を指します。
- 3 アンケートに記入する際は、各項目で該当する数字に○をつけてください。設問によって、「○はひとつ」「○はいくつでも」など、○をつける数が異なりますので、ご注意ください。
- 4 ご回答いただきましたアンケートは、3つ折りにし、**6月30日(火)**までに同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに無記名でご投函ください。

記入上の不明な点、調査についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。

河南町 健康福祉部 高齢障がい福祉課

電話：0721-93-2500（内線：121）

FAX：0721-93-4691

■まずはじめに、記入日と調査票を記入された方をお答えください。

記 入 日	令和 年 月 日
調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。	
1. あて名のご本人が記入	
2. ご家族が記入 (あて名のご本人からみた続柄)	
3. その他	

個人情報の取り扱いについて

個人情報の保護および活用目的は以下のとおりですので、ご確認ください。

なお、本調査票のご返送をもちまして、下記にご同意いただいたものと見なさせていただきます。

【個人情報の保護および活用目的について】

- この調査は、効果的な介護予防政策の立案と効果評価のために行うものです。本調査で得られた情報につきましては、河南町による介護保険事業計画策定の目的以外には利用いたしません。また当該情報については、河南町内で適切に管理いたします。
- ただし、介護保険事業計画策定時に本調査で得られたデータを活用するにあたり、厚生労働省の管理する河南町外のデータベース内に情報を登録し、必要に応じて集計・分析することがあります。

問1 あなたの家族や生活状況について	
(1) 家族構成をお教えてください (○はひとつ)	
1. 1人暮らし	2. 夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)
3. 夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	4. 息子・娘との2世帯
5. その他	
(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか (○はひとつ)	
1. 介護・介助は必要ない	2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
3. 現在、何らかの介護を受けている (介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)	
【(2)において「1. 介護・介助は必要ない」以外の方のみ】	
① 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか (○はいくつでも)	
1. 脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)	2. 心臓病
3. がん (悪性新生物)	
4. 呼吸器の病気 (肺気腫・肺炎等)	5. 関節の病気 (リウマチ等)
6. 認知症 (アルツハイマー病等)	7. パーキンソン病
8. 糖尿病	
9. 腎疾患 (透析)	10. 視覚・聴覚障害
11. 骨折・転倒	
12. 脊椎損傷	13. 高齢による衰弱
14. その他 ()	
15. 不明	
【(2)において「3. 現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】	
② 主にどなたの介護、介助を受けていますか (○はいくつでも)	
1. 配偶者 (夫・妻)	2. 息子
3. 娘	
4. 子の配偶者	5. 孫
6. 兄弟・姉妹	
7. 介護サービスのヘルパー	8. その他 ()

(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか (○はひとつ)		
1. 大変苦しい	2. やや苦しい	3. ふつう
4. ややゆとりがある	5. 大変ゆとりがある	
(4) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか (○はひとつ)		
1. 持家 (一戸建て)	2. 持家 (集合住宅)	
3. <small>こうえいちんたいじゅうたく</small> 公営賃貸住宅	4. <small>みんかんちんたいじゅうたく</small> 民間賃貸住宅 (一戸建て)	
5. <small>みんかんちんたいじゅうたく</small> 民間賃貸住宅 (集合住宅)	6. 借家	
7. その他		

問2	からだを動かすことについて
(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか (○はひとつ)	
1. できるし、している	2. できるけどしていない 3. できない
(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか (○はひとつ)	
1. できるし、している	2. できるけどしていない 3. できない
(3) 15分位続けて歩いていますか (○はひとつ)	
1. できるし、している	2. できるけどしていない 3. できない
(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか (○はひとつ)	
1. 何度もある	2. 1度ある 3. ない

(9) 外出する際の移動手段は何ですか (○はいくつでも)		
1. 徒歩	2. 自転車	3. バイク
4. 自動車 (自分で運転)	5. 自動車 (人に乗せてもらう)	6. 電車
7. 路線バス	8. 病院や施設のバス (自動車)	9. 車いす
10. 電動車いす (カート)	11. 歩行器・シルバーカー	
12. タクシー	13. その他 ()	

問3	食べることについて
(1) 身長・体重 (数字を記入)	
身長 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> cm	体重 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> kg
(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか (○はひとつ)	
1. はい	2. いいえ
(3) お茶や汁物等でむせることがありますか (○はひとつ)	
1. はい	2. いいえ
(4) 口の渇きが気になりますか (○はひとつ)	
1. はい	2. いいえ
(5) 歯磨き (人にやってもらう場合も含む) を毎日していますか (○はひとつ)	
1. はい	2. いいえ

<p>(6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください (○はひとつ) (成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)</p>		
1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用	2. 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし	
3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用	4. 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし	
<p>① 噛み合わせは良いですか (○はひとつ)</p>		
1. はい	2. いいえ	
<p>【(6)で「1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」 「3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の方のみ】</p>		
<p>② 毎日入れ歯の手入れをしていますか (○はひとつ)</p>		
1. はい	2. いいえ	
<p>(7) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか (○はひとつ)</p>		
1. はい	2. いいえ	
<p>(8) どなたかと食事をとる機会がありますか (○はひとつ)</p>		
1. 毎日ある	2. 週に何度かある	3. 月に何度かある
4. 年に何度かある	5. ほとんどない	

問4	毎日の生活について
<p>(1) 物忘れが多いと感じますか (○はひとつ)</p>	
1. はい	2. いいえ
<p>(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか (○はひとつ)</p>	
1. はい	2. いいえ

(3) 今日が何月何日かわからない時がありますか (○はひとつ)		
1. はい	2. いいえ	
(4) バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可) (○はひとつ)		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか (○はひとつ)		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(6) 自分で食事の用意をしていますか (○はひとつ)		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(7) 自分で請求書の支払いをしていますか (○はひとつ)		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか (○はひとつ)		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(9) 年金などの書類 (役所や病院などに出す書類) が書けますか (○はひとつ)		
1. はい	2. いいえ	
(10) 新聞を読んでいますか (○はひとつ)		
1. はい	2. いいえ	
(11) 本や雑誌を読んでいますか (○はひとつ)		
1. はい	2. いいえ	

(12) 健康についての記事や番組に関心がありますか (○はひとつ)	
1. はい	2. いいえ
(13) 友人の家を訪ねていますか (○はひとつ)	
1. はい	2. いいえ
(14) 家族や友人の相談にのっていますか (○はひとつ)	
1. はい	2. いいえ
(15) 病人を見舞うことができますか (○はひとつ)	
1. はい	2. いいえ
(16) 若い人に自分から話しかけることがありますか (○はひとつ)	
1. はい	2. いいえ
(17) 趣味はありますか (○はひとつ)	
1. 趣味あり	→ (具体的に:)
2. 思いつかない	
(18) 生きがいがありますか (○はひとつ)	
1. 生きがいあり	→ (具体的に:)
2. 思いつかない	

問5 地域での活動について		
(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか		
① ボランティアのグループ (〇はひとつ)		
1. 週4回以上	2. 週2~3回	3. 週1回
4. 月1~3回	5. 年に数回	6. 参加していない
② スポーツ関係のグループやクラブ (〇はひとつ)		
1. 週4回以上	2. 週2~3回	3. 週1回
4. 月1~3回	5. 年に数回	6. 参加していない
③ 趣味関係のグループ (〇はひとつ)		
1. 週4回以上	2. 週2~3回	3. 週1回
4. 月1~3回	5. 年に数回	6. 参加していない
④ 学習・教養サークル (〇はひとつ)		
1. 週4回以上	2. 週2~3回	3. 週1回
4. 月1~3回	5. 年に数回	6. 参加していない
⑤ (いきいき百歳体操など) 介護予防のための通いの場 (〇はひとつ)		
1. 週4回以上	2. 週2~3回	3. 週1回
4. 月1~3回	5. 年に数回	6. 参加していない

⑥ 老人クラブ (〇はひとつ)			
1. 週4回以上	2. 週2~3回	3. 週1回	
4. 月1~3回	5. 年に数回	6. 参加していない	
⑦ 町内会・自治会 (〇はひとつ)			
1. 週4回以上	2. 週2~3回	3. 週1回	
4. 月1~3回	5. 年に数回	6. 参加していない	
⑧ 収入のある仕事 (〇はひとつ)			
1. 週4回以上	2. 週2~3回	3. 週1回	
4. 月1~3回	5. 年に数回	6. 参加していない	
<p>(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に<u>参加者として参加</u>してみたいと思いますか (〇はひとつ)</p>			
1. 是非参加したい	2. 参加してもよい	3. 参加したくない	4. 既に参加している
<p>(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に<u>企画・運営 (お世話役)</u>として参加してみたいと思いますか (〇はひとつ)</p>			
1. 是非参加したい	2. 参加してもよい	3. 参加したくない	4. 既に参加している

問6		たすけあいについて	
あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします			
(1) あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（〇はいくつでも）			
1. 配偶者	2. 同居の子ども	3. 別居の子ども	
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5. 近隣	6. 友人	
7. その他（ ）	8. そのような人はいない		
(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（〇はいくつでも）			
1. 配偶者	2. 同居の子ども	3. 別居の子ども	
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5. 近隣	6. 友人	
7. その他（ ）	8. そのような人はいない		
(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（〇はいくつでも）			
1. 配偶者	2. 同居の子ども	3. 別居の子ども	
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5. 近隣	6. 友人	
7. その他（ ）	8. そのような人はいない		
(4) 反対に、看病や世話をしてあげる人（〇はいくつでも）			
1. 配偶者	2. 同居の子ども	3. 別居の子ども	
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5. 近隣	6. 友人	
7. その他（ ）	8. そのような人はいない		

<p>(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください (○はいくつでも)</p>		
1. 自治会・町内会・老人クラブ	2. 社会福祉協議会・民生委員	
3. ケアマネジャー	4. 医師・歯科医師・看護師	
5. 地域包括支援センター・役所・役場	6. その他	
7. そのような人はいない		
<p>(6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか (○はひとつ)</p>		
1. 毎日ある	2. 週に何度かある	3. 月に何度かある
4. 年に何度かある	5. ほとんどない	
<p>(7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか (○はひとつ) (同じ人には何度会っても1人と数えることとします)</p>		
1. 0人 (いない)	2. 1～2人	3. 3～5人
4. 6～9人	5. 10人以上	
<p>(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか (○はいくつでも)</p>		
1. 近所・同じ地域の人	2. 幼なじみ	3. 学生時代の友人
4. 仕事での同僚・元同僚	5. 趣味や関心が同じ友人	
6. ボランティア等の活動での友人		
7. その他	8. いない	

問7 健康について	
(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか (○はひとつ)	
1. とてもよい 2. まあよい 3. あまりよくない 4. よくない	
(2) あなたは、現在どの程度幸せですか 「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください	
とても不幸	とても幸せ
0点	10点
1点	9点
2点	8点
3点	7点
4点	6点
5点	5点
6点	4点
7点	3点
8点	2点
9点	1点
(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか (○はひとつ)	
1. はい 2. いいえ	
(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか (○はひとつ)	
1. はい 2. いいえ	
(5) お酒は飲みますか (○はひとつ)	
1. ほほ毎日飲む 2. 時々飲む 3. ほとんど飲まない	
4. もともと飲まない	
(6) タバコは吸っていますか (○はひとつ)	
1. ほほ毎日吸っている 2. 時々吸っている 3. 吸っていたがやめた	
4. もともと吸っていない	

(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (○はいくつでも)		
1. ない	2. 高血圧	3. <small>のうそっちゅう</small> 脳卒中 (<small>のうしゅっけつ</small> 脳出血・ <small>のうこうそくなど</small> 脳梗塞等)
4. 心臓病	5. <small>とうにようびょう</small> 糖尿病	6. <small>こうしけっしょう</small> 高脂血症 (<small>しじついじょう</small> 脂質異常)
7. 呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎等)	8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気	
9. <small>じんぞう</small> 腎臓・ <small>ぜんりつせん</small> 前立腺の病気	10. <small>きんこっかく</small> 筋骨格の病気 (<small>こつそ</small> 骨粗しょう症、 <small>しょう</small> 関節症等)	
11. <small>がいしょう</small> 外傷 (<small>てんとう</small> 転倒・ <small>こっせつなど</small> 骨折等)	12. がん (悪性新生物)	13. 血液・ <small>めんえき</small> 免疫の病気
14. うつ病	15. <small>にんちしょう</small> 認知症(アルツハイマー病等)	16. パーキンソン病
17. 目の病気	18. 耳の病気	19. その他 ()

問 8	認知症にかかる相談窓口の把握について
(1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか (○はひとつ)	
1. はい	2. いいえ
(2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか (○はひとつ)	
1. はい	2. いいえ

以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました。

記入漏れがないか、今一度お確かめください。

記入済みの調査票を同封の返信用封筒に入れて、令和2年6月30日(火)までに

郵便ポストに投函してください。

Ⅱ. 在宅介護実態調査

第1章 調査の概要

1. 回答者の属性

本調査は、令和3～5年度を計画期間とする次期高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画の策定にあたって、要支援・要介護認定を受け在宅で生活している人及びその介護者から、要介護者の在宅生活の実態や家族介護者の就労実態などを把握し、基礎資料とすることを目的としています。

2. 調査の方法

対象地域：河南町

調査対象者：在宅で生活している要支援・要介護者のうち、下記の期間に「要支援・要介護認定の更新申請・区分変更申請」を行った方

調査方法：聞き取りによるアンケート調査

調査期間：令和元年11月1日～令和2年3月31日

3. 回収状況

図表Ⅱ-1-3-1 回収状況

回収数	有効回収数
133	133

4. 報告書の留意点・見方

- ・回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示しています。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方をしているため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

5. 集計・分析における留意点

本集計・分析では、介護保険サービスの利用回数・利用の組み合わせ等に着目した集計・分析を行うため、介護保険サービスを大きく、「訪問系」、「通所系」、「短期系」の3つに分類して集計しています。なお、介護保険サービスの中には介護予防・日常生活支援総合事業を通じて提供される「介護予防・生活支援サービス」も含まれます。

それぞれ、用語の定義は以下の通りです。

図表Ⅱ-1-5-1 サービス利用の分析に用いた用語の定義

用語		定義
未利用		・「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」のみを利用している方については、未利用として集計しています。
訪問系		・（介護予防）訪問介護、（介護予防）訪問入浴介護、（介護予防）訪問看護、（介護予防）訪問リハビリテーション、（介護予防）居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護を「訪問系」として集計しています。
通所系		・（介護予防）通所介護、（介護予防）通所リハビリテーション、（介護予防）認知症対応型通所介護を「通所系」として集計しています。
短期系		・（介護予防）短期入所生活介護、（介護予防）短期入所療養介護を「短期系」として集計しています。
その他	小規模多機能	・（介護予防）小規模多機能型居宅介護を「小規模多機能」として集計しています。
	看護多機能	・看護小規模多機能型居宅介護を「看護多機能」として集計しています。
	定期巡回	・定期巡回・随時対応型訪問介護看護を「定期巡回」として集計しています。

図表Ⅱ-1-5-2 サービス利用の組み合わせの分析に用いた用語の定義

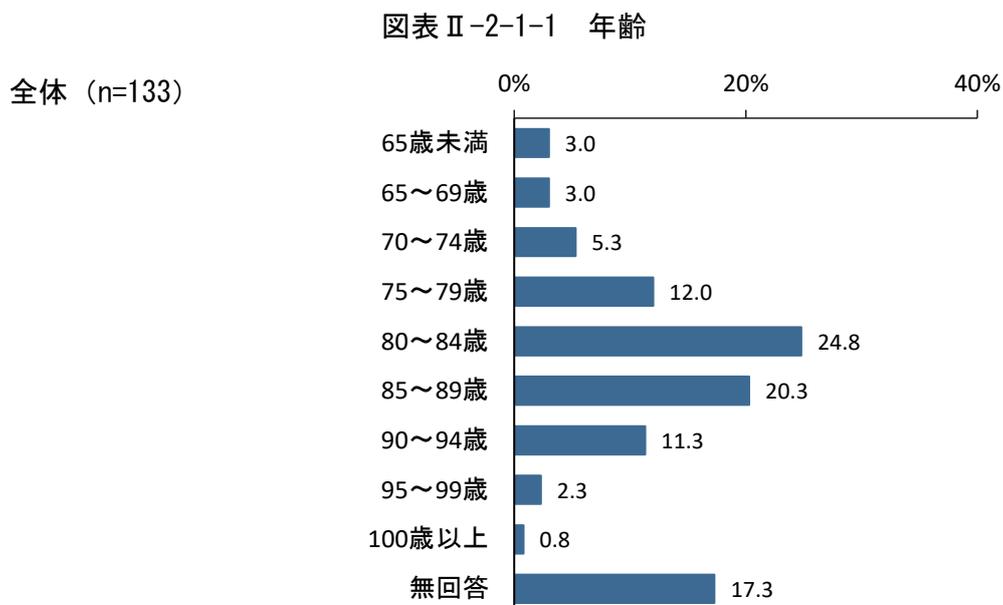
用語	定義
未利用	・上表に同じ
訪問系のみ	・上表の「訪問系」もしくは「定期巡回」のみの利用を集計しています。
訪問系を含む組み合わせ	・上表の「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「短期系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」＋「短期系」、「小規模多機能」、「看護多機能」の利用を集計しています。
通所系・短期系のみ	・上表の「通所系」、「短期系」、「通所系」＋「短期系」の利用を集計しています。

第2章 調査項目の集計結果（単純計算結果）

1. 要介護認定データ

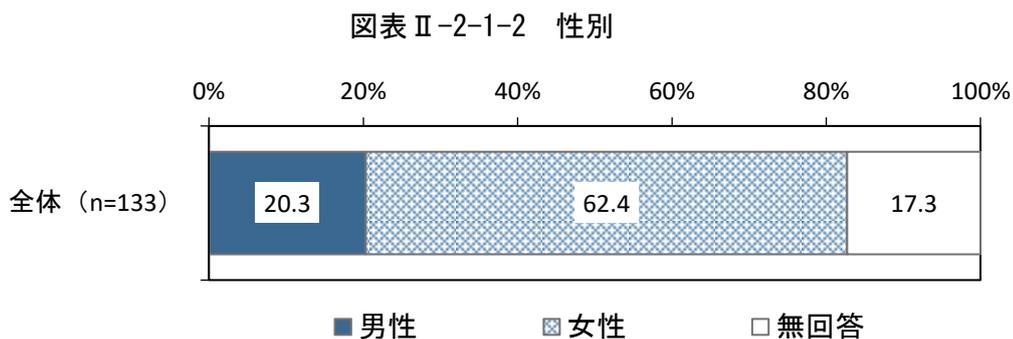
（1）年齢

年齢については、「80～84歳」が24.8%で最も高く、次いで「85～89歳」が20.3%、「75～79歳」が12.0%と続いています。



（2）性別

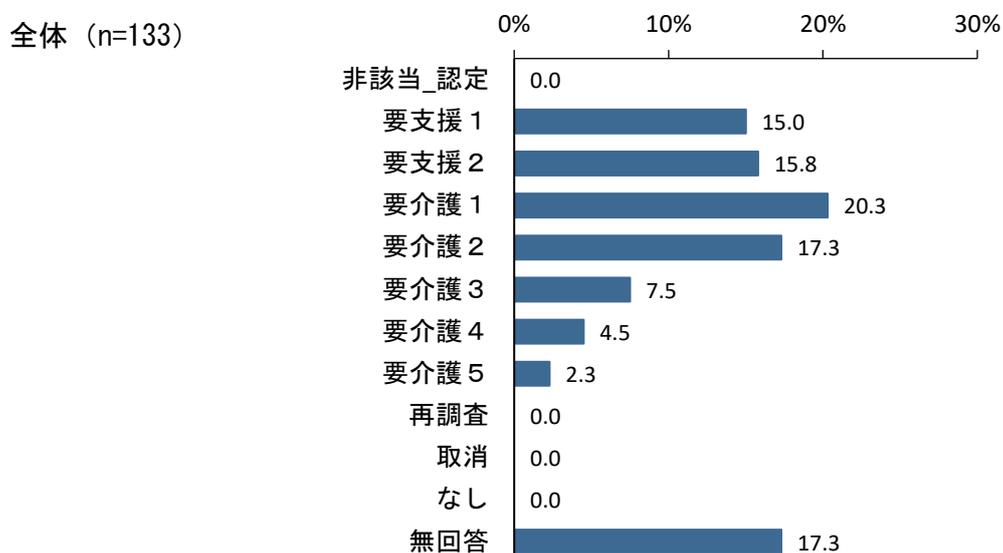
性別については、「男性」が20.3%、「女性」が62.4%となっています。



(3) 二次判定結果（要介護度）

二次判定結果（要介護度）については、「要介護1」が20.3%で最も高く、次いで「要介護2」が17.3%、「要支援2」が15.8%と続いています。

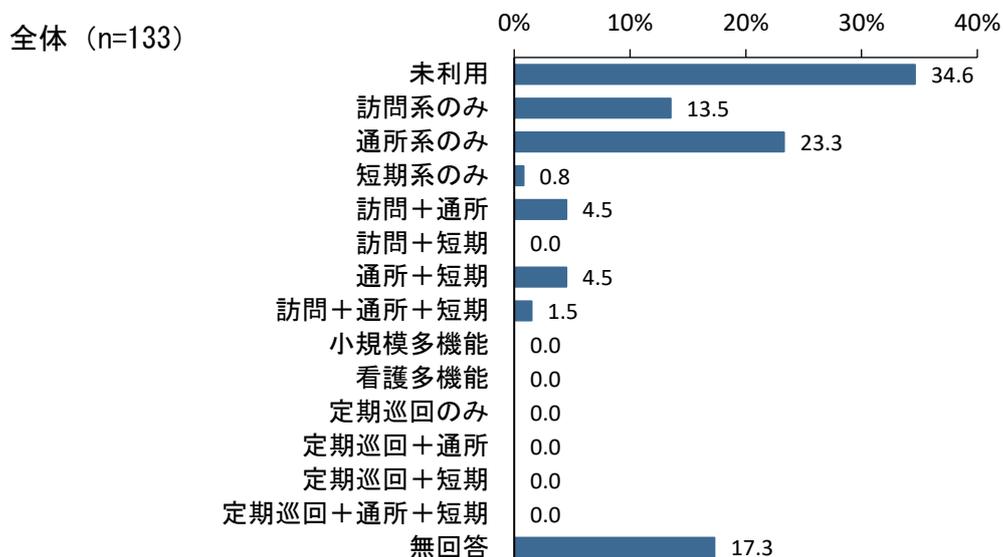
図表Ⅱ-2-1-3 二次判定結果（要介護度）



(4) サービス利用の組み合わせ

サービス利用の組み合わせについては、「未利用」が34.6%で最も高く、次いで「通所系のみ」が23.3%、「訪問系のみ」が13.5%と続いています。

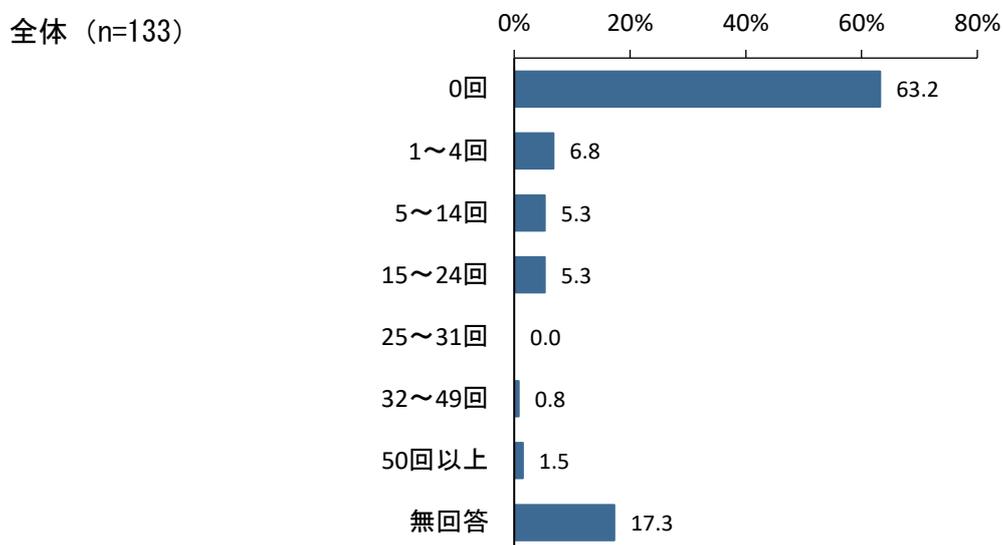
図表Ⅱ-2-1-4 サービス利用の組み合わせ



(5) 訪問系サービスの合計利用回数

訪問系サービスの合計利用回数については、「0回」が63.2%で最も高く、次いで「1～4回」が6.8%、「5～14回」、「15～24回」がいずれも5.3%と続いています。

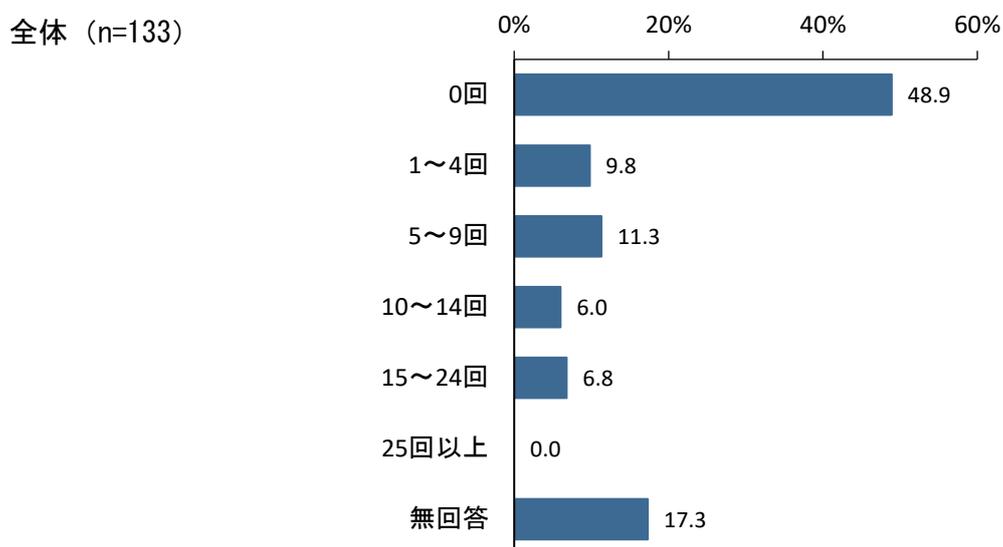
図表Ⅱ-2-1-5 訪問系サービスの合計利用回数



(6) 通所系サービスの合計利用回数

通所系サービスの合計利用回数については、「0回」が48.9%で最も高く、次いで「5～9回」が11.3%、「1～4回」が9.8%と続いています。

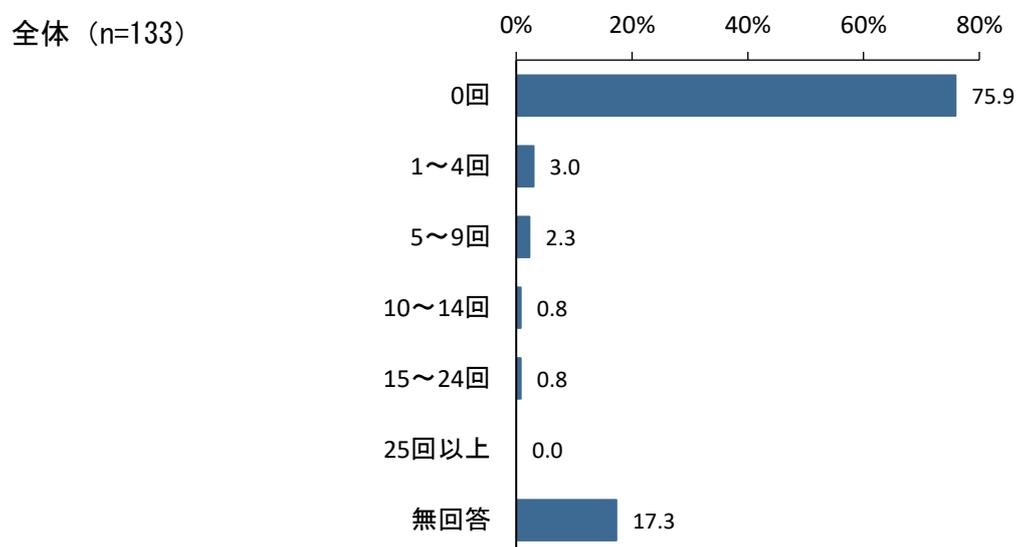
図表Ⅱ-2-1-6 通所系サービスの合計利用回数



(7) 短期系サービスの合計利用回数

短期系サービスの合計利用回数については、「0回」が75.9%で最も高く、次いで「1～4回」が3.0%、「5～9回」が2.3%と続いています。

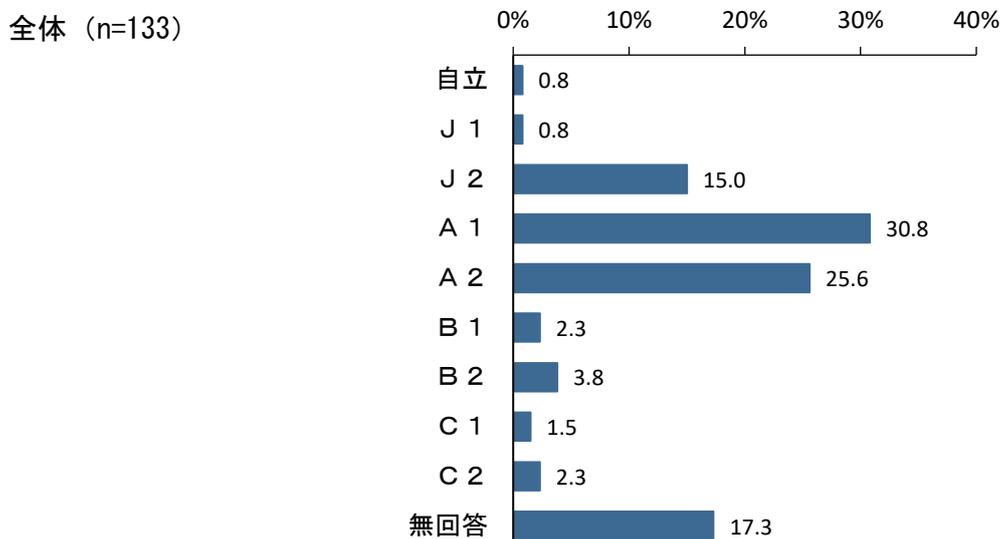
図表Ⅱ-2-1-7 短期系サービスの合計利用回数



(8) 障がい高齢者の日常生活自立度

障がい高齢者の日常生活自立度については、「A 1」が 30.8%で最も高く、次いで「A 2」が 25.6%、「J 2」が 15.0%と続いています。

図表Ⅱ-2-1-8 障がい高齢者の日常生活自立度と判定基準

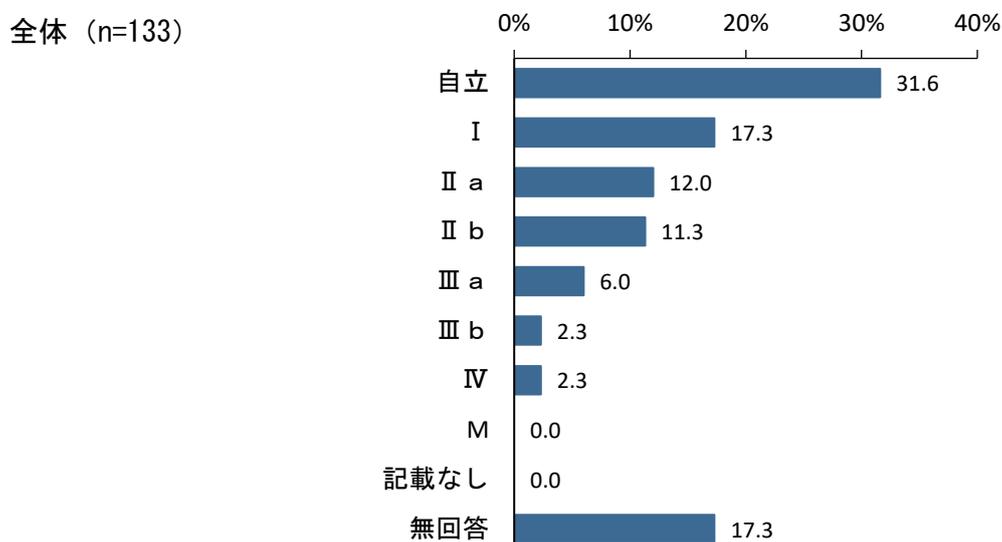


自立度	ランク	判定基準
生活自立	J	何らかの障がい等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する
	J 1	交通機関等を利用して外出する
	J 2	隣近所へなら外出する
準寝たきり	A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない
	A 1	介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する
	A 2	外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
寝たきり	B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ
	B 1	車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う
	B 2	介助により車いすに移乗する
	C	一日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する
	C 1	自力で寝返りをうつ
C 2	自力で寝返りもうてない	

(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症高齢者の日常生活自立度については、「自立」が31.6%で最も高く、次いで「I」が17.3%、「II a」が12.0%と続いています。

図表Ⅱ-2-1-9 認知症高齢者の日常生活自立度と判定基準



ランク	判定基準	見られる症状・行動の例
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している	
II	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	
	II a 家庭外で上記IIの状態が見られる	たびたび道に迷うとか、買物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等
II b	家庭内でも上記IIの状態が見られる	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応など一人で留守番ができない等
III	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする	
	III a 日中を中心として上記IIIの状態が見られる	着替え、食事、排泄が上手にできない、時間がかかる。 やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等
III b	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる	ランクIII aに同じ
IV	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする	ランクIIIに同じ
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等

2. 基本調査項目（A票）

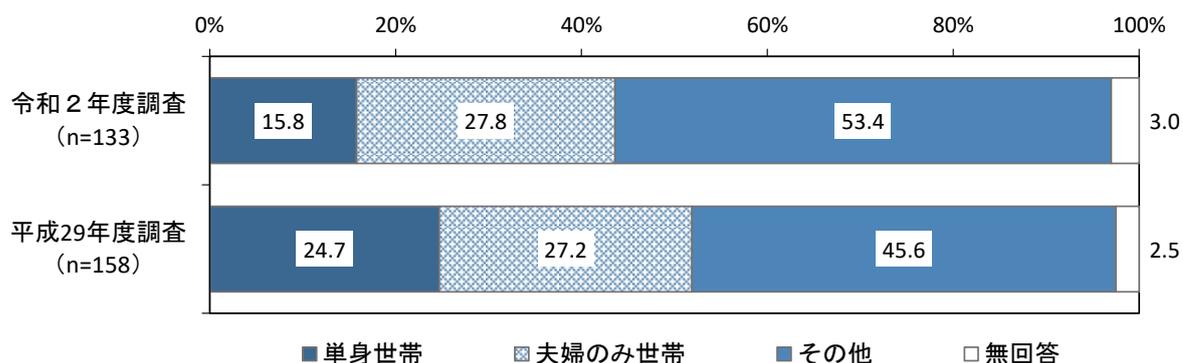
（1）世帯類型

問1	世帯類型について、ご回答ください（1つを選択）
----	-------------------------

世帯類型については、「その他」が53.4%で最も高く、次いで「夫婦のみ世帯」が27.8%、「単身世帯」が15.8%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「単身世帯」（15.8%）では、平成29年度調査（24.7%）より8.9ポイント減少しています。

図表Ⅱ-2-2-1 世帯類型



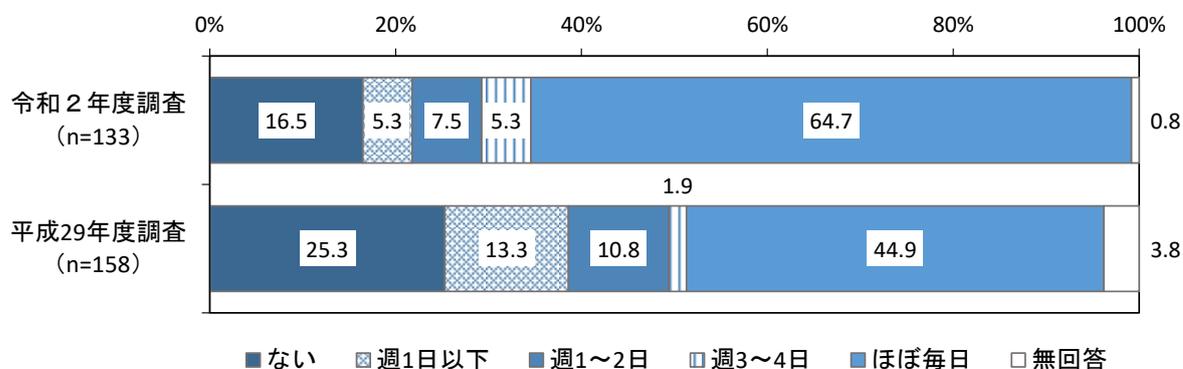
（2）家族等による介護の頻度

問2	ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）（1つを選択）
----	---

家族等による介護の頻度については、「ほぼ毎日」が64.7%で最も高く、次いで「ない」が16.5%、「週1～2日」が7.5%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、「ほぼ毎日」（64.7%）では、平成29年度調査（44.9%）より19.8ポイント増加しています。

図表Ⅱ-2-2-2 家族等による介護の頻度



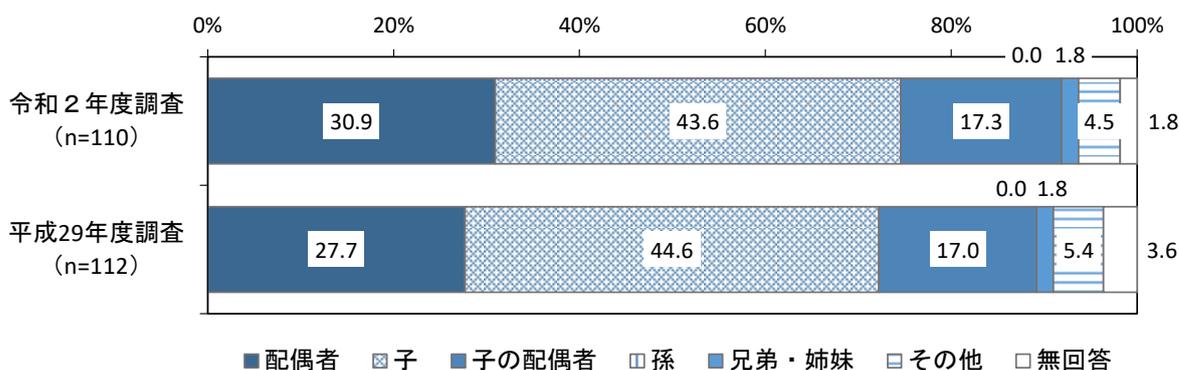
(3) 主な介護者の本人との関係

問3	主な介護者の方は、どなたですか（1つを選択）
----	------------------------

主な介護者の本人との関係については、「子」が43.6%で最も高く、次いで「配偶者」が30.9%、「子の配偶者」が17.3%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、「配偶者」(30.9%)では、平成29年度調査(27.7%)より3.2ポイント増加しています。

図表Ⅱ-2-2-3 主な介護者の本人との関係



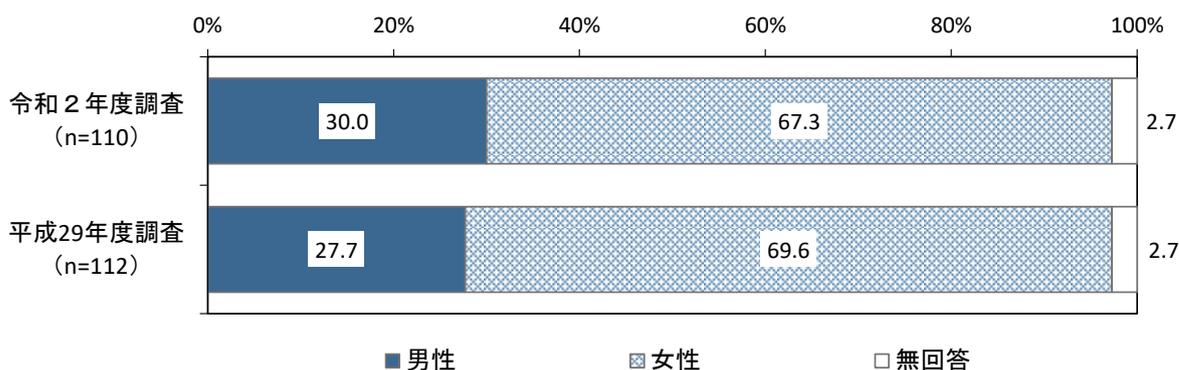
(4) 主な介護者の性別

問4	主な介護者の方の性別について、ご回答ください（1つを選択）
----	-------------------------------

主な介護者の性別については、「女性」が67.3%、「男性」が30.0%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表Ⅱ-2-2-4 主な介護者の性別

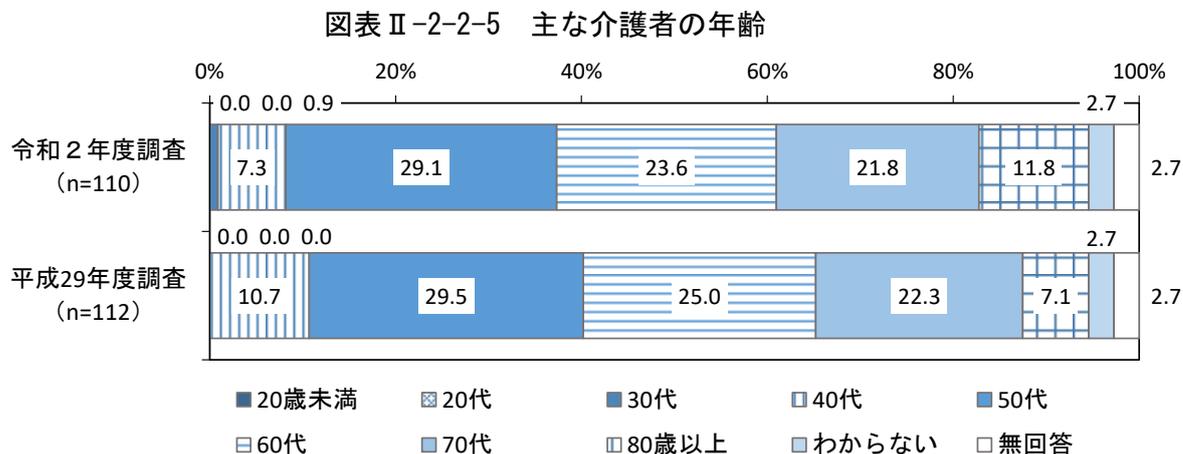


(5) 主な介護者の年齢

問5	主な介護者の方の年齢について、ご回答ください（1つを選択）
----	-------------------------------

主な介護者の年齢については、「50代」が29.1%で最も高く、次いで「60代」が23.6%、「70代」が21.8%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、「80歳以上」（11.8%）では、平成29年度調査（7.1%）より4.7ポイント増加しています。



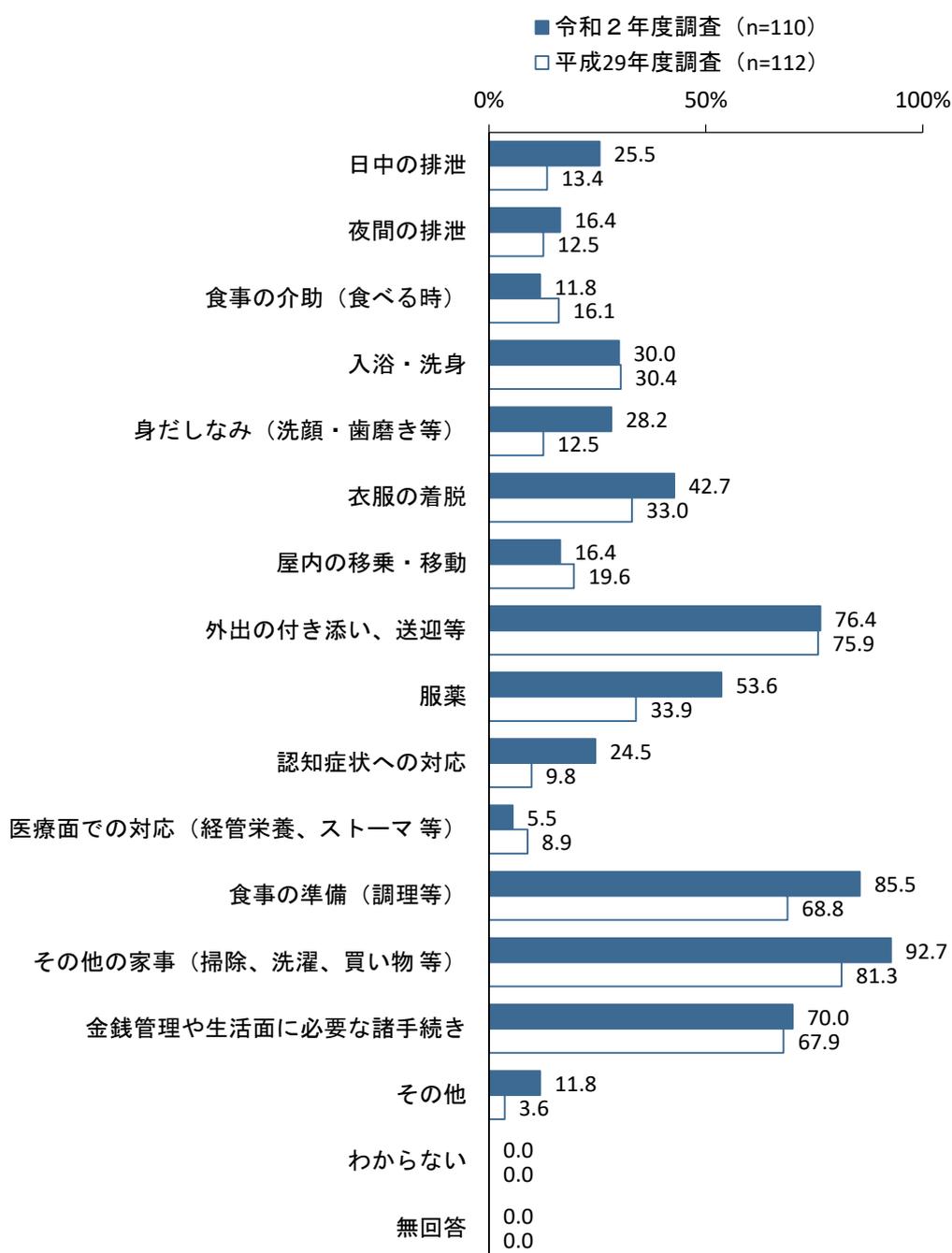
(6) 主な介護者が行っている介護

問6	現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください (複数選択可)
----	--

主な介護者が行っている介護については、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が92.7%で最も高く、次いで「食事の準備（調理等）」が85.5%、「外出の付き添い、送迎等」が76.4%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、「食事の介助（食べる時）」、「入浴・洗身」、「屋内の移乗・移動」、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」を除く全ての項目で平成29年度調査より割合が増加しています。

図表Ⅱ-2-2-6 主な介護者が行っている介護



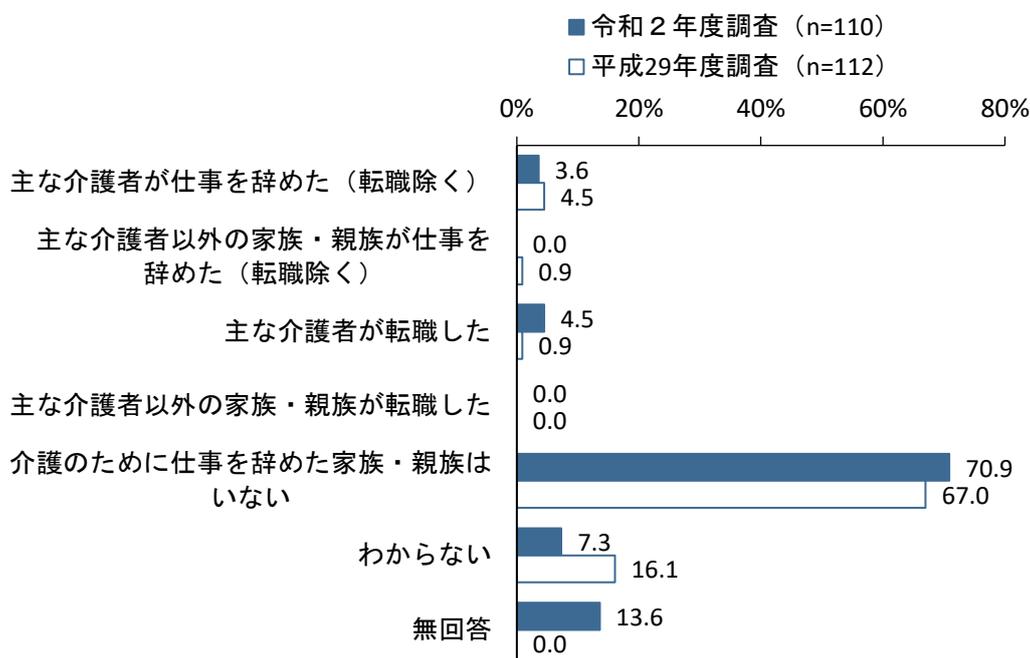
(7) 介護のための離職の有無

問7	ご家族やご親族の中で、ご本人（認定調査対象者）の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）（複数選択可）
----	---

介護のための離職の有無については、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が70.9%で最も高く、次いで「わからない」が7.3%、「主な介護者が転職した」が4.5%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」（70.9%）では、平成29年度調査（67.0%）より3.9ポイント増加しています。

図表Ⅱ-2-2-7 介護のための離職の有無



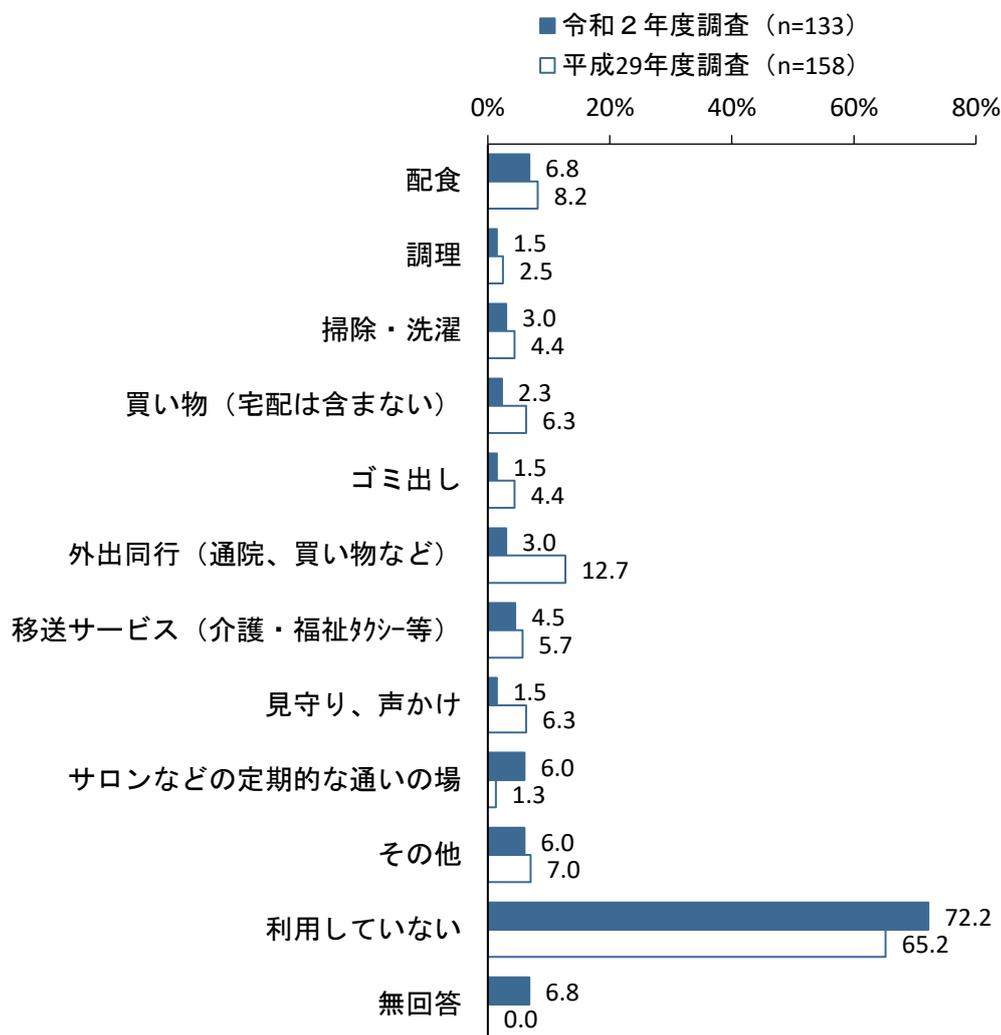
(8) 保険外の支援・サービスの利用状況

問8	現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください（複数選択可）
----	---

保険外の支援・サービスの利用状況については、「利用していない」が72.2%で最も高く、次いで「配食」が6.8%、「サロンなどの定期的な通いの場」、「その他」がいずれも6.0%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、「外出同行（通院、買い物など）」（3.0%）では、平成29年度調査（12.7%）より9.7ポイント減少し、「利用していない」（72.2%）では、平成29年度調査（65.2%）より7.0ポイント増加しています。

図表Ⅱ-2-2-8 保険外の支援・サービスの利用状況



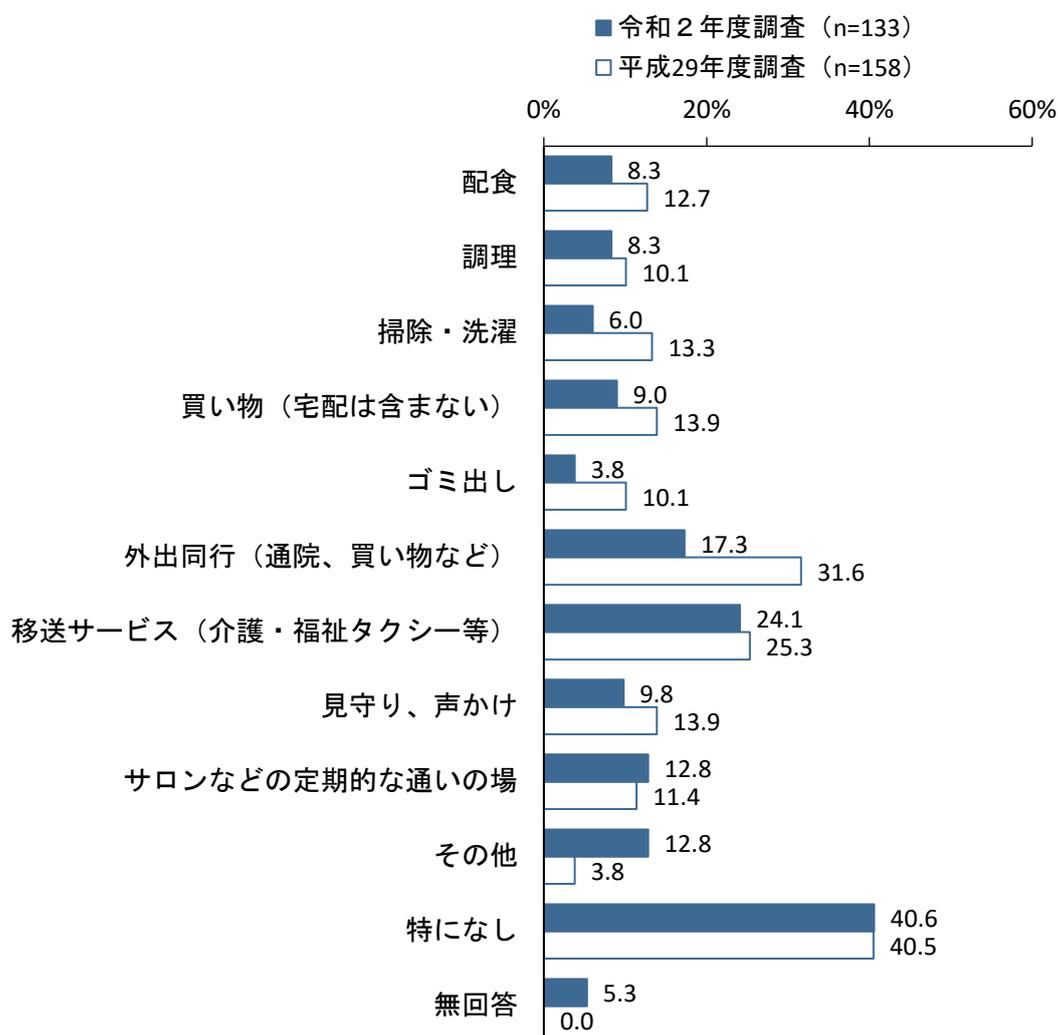
(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

問9	今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください（複数選択可）
----	--

在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービスについては、「特になし」が40.6%で最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が24.1%、「外出同行（通院、買い物など）」が17.3%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、「外出同行（通院、買い物など）」（17.3%）では、平成29年度調査（31.6%）より14.3ポイント減少しています。

図表Ⅱ-2-2-9 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス



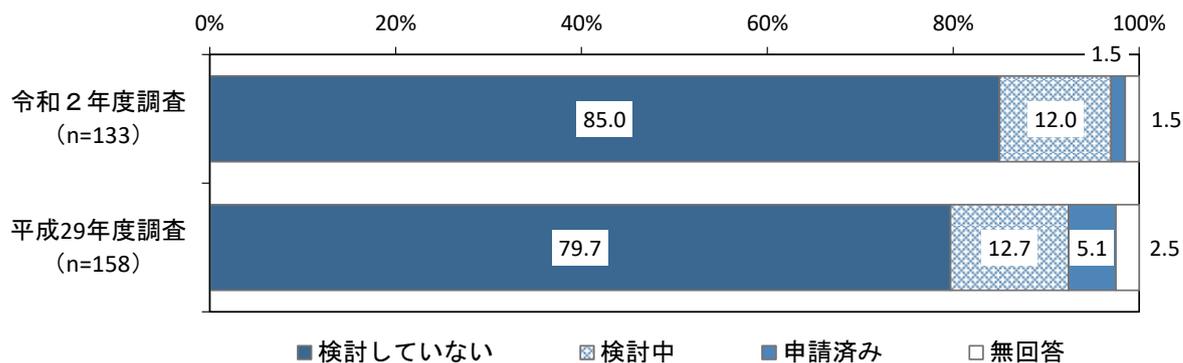
(10) 施設等検討の状況

問10	現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください (1つを選択)
-----	--

施設等検討の状況については、「検討していない」が85.0%で最も高く、次いで「検討中」が12.0%、「申請済み」が1.5%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「検討していない」(85.0%)では、平成29年度調査(79.7%)より5.3ポイント増加しています。

図表Ⅱ-2-2-10 施設等検討の状況



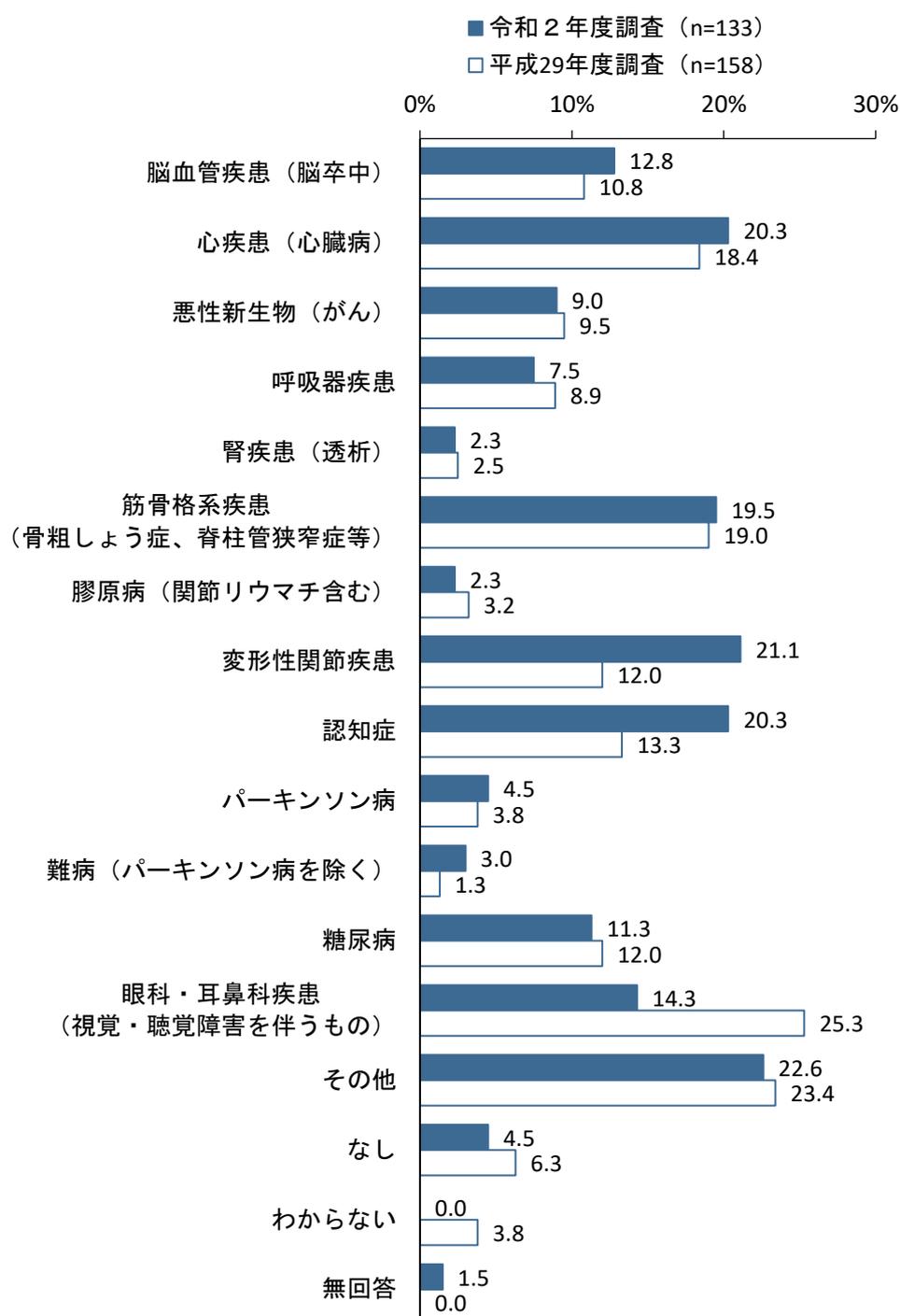
(11) 本人が抱えている傷病

問11	ご本人（認定調査対象者）が、現在抱えている疾病について、ご回答ください （複数選択可）
-----	--

本人が抱えている傷病については、「その他」が22.6%で最も高く、次いで「変形性関節疾患」が21.1%、「心疾患（心臓病）」、「認知症」がいずれも20.3%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、「変形性関節疾患」（21.1%）では、平成29年度調査（12.0%）より9.1ポイント増加しており、「認知症」（20.3%）では、平成29年度調査（13.3%）より7.0ポイント増加しています。

図表Ⅱ-2-2-11 本人が抱えている傷病



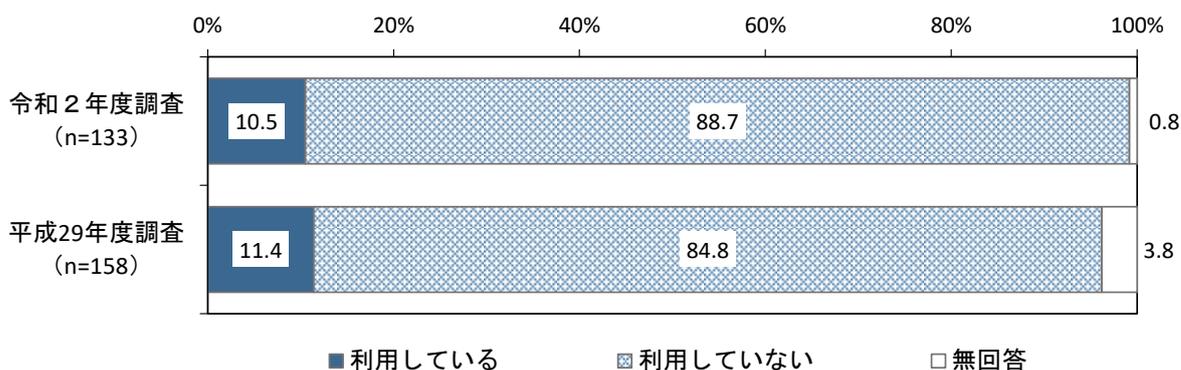
(12) 訪問診療の利用の有無

問12	ご本人（認定調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか（1つを選択）
-----	---------------------------------------

訪問診療の利用の有無については、「利用している」が 10.5%、「利用していない」が 88.7% となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「利用していない」（88.7%）では、平成 29 年度調査（84.8%）より 3.9 ポイント増加しています。

図表Ⅱ-2-2-12 訪問診療の利用の有無



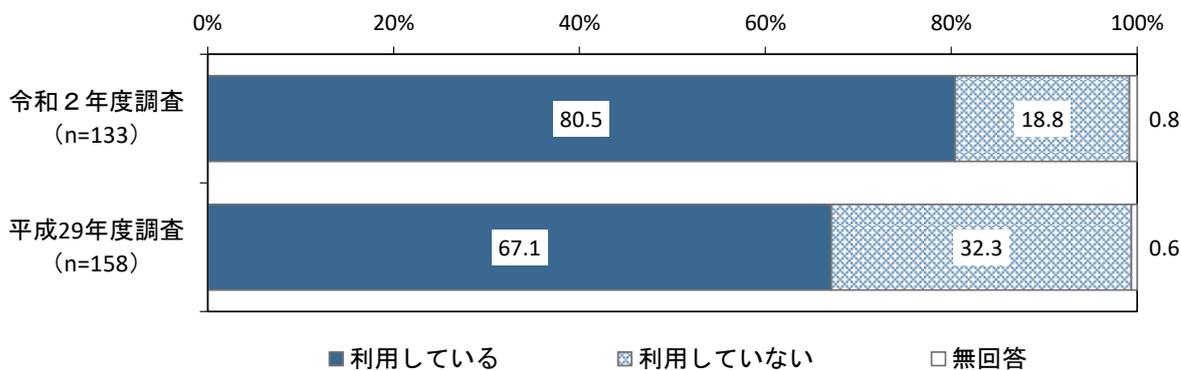
(13) 介護保険サービスの利用の有無

問13	現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか（1つを選択）
-----	--

介護保険サービスの利用の有無については、「利用している」が 80.5%、「利用していない」が 18.8% となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「利用している」（80.5%）では、平成 29 年度調査（67.1%）より 13.4 ポイント増加しています。

図表Ⅱ-2-2-13 介護保険サービスの利用の有無



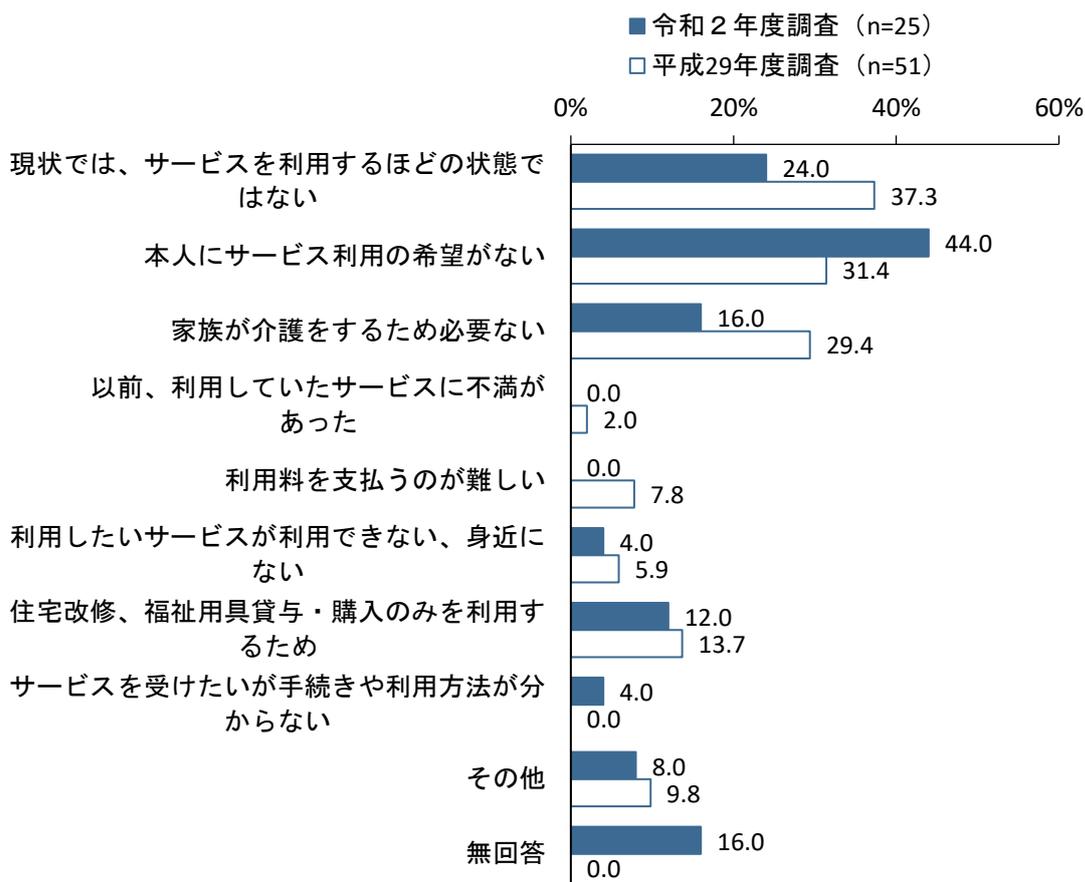
(14) 介護保険サービス未利用の理由

問14	介護保険サービスを利用していない理由は何ですか（複数選択可）
-----	--------------------------------

介護保険サービス未利用の理由については、「本人にサービス利用の希望がない」が44.0%で最も高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が24.0%、「家族が介護をするため必要ない」が16.0%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、「本人にサービス利用の希望がない」（44.0%）では、平成29年度調査（31.4%）より12.6ポイント増加しています。

図表Ⅱ-2-2-14 介護保険サービス未利用の理由



3. 主な介護者の方用の調査項目（B票）

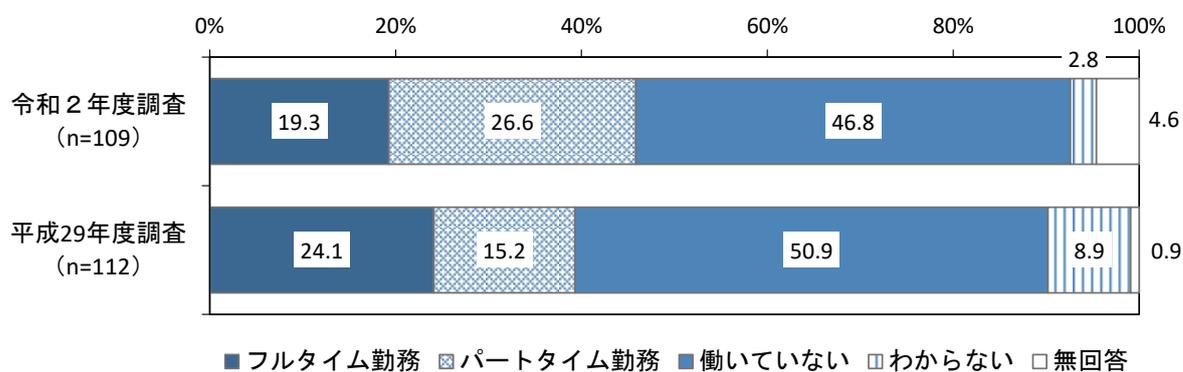
（1）主な介護者の勤務形態

問1	主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください（1つを選択）
----	------------------------------------

主な介護者の勤務形態については、「働いていない」が46.8%で最も高く、次いで「パートタイム勤務」が26.6%、「フルタイム勤務」が19.3%と続いており、就労している介護者の割合は45.9%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「パートタイム勤務」(26.6%)では、平成29年度調査(15.2%)より11.4ポイント増加しています。

図表Ⅱ-2-3-1 主な介護者の勤務形態



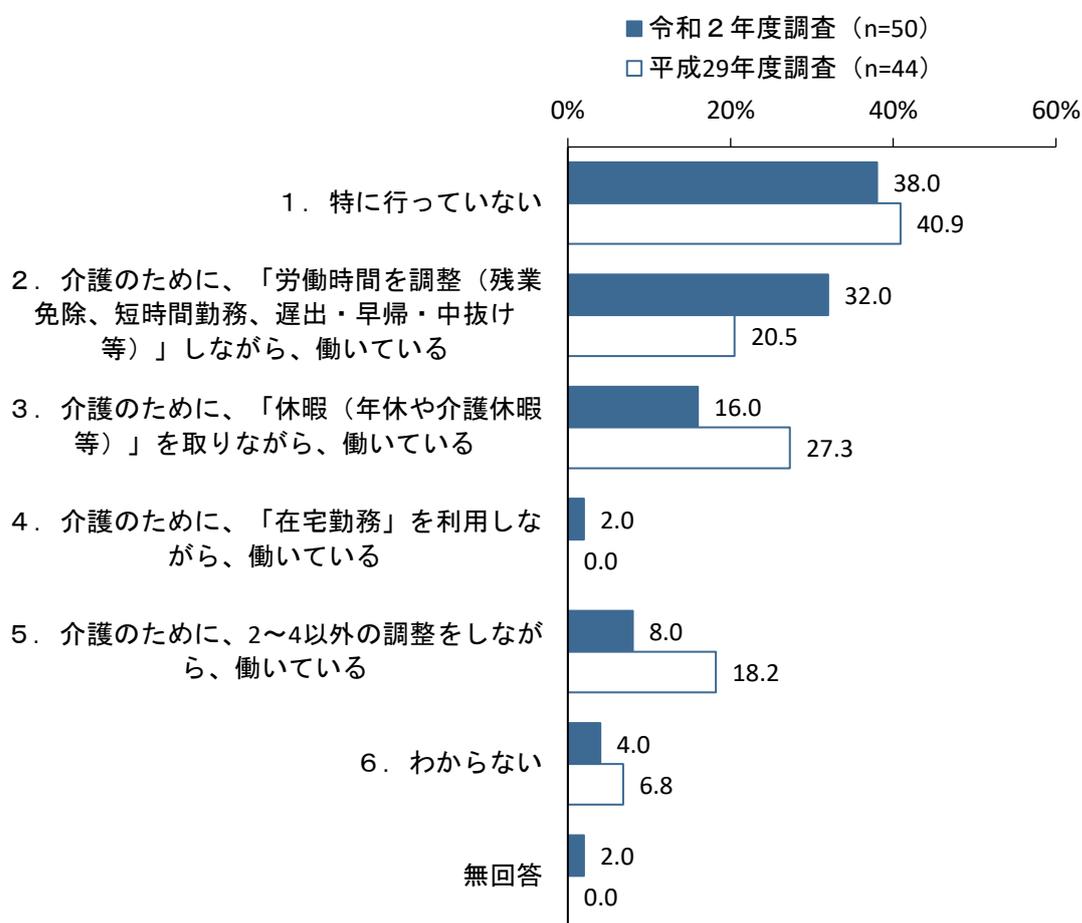
(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

問2	問1で、「フルタイムで働いている」または「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか（複数選択可）
----	---

主な介護者の方の働き方の調整の状況については、「特に行っていない」が38.0%で最も高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が32.0%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が16.0%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」（32.0%）では、平成29年度調査（20.5%）より11.5ポイント増加しています。

図表Ⅱ-2-3-2 主な介護者の方の働き方の調整の状況



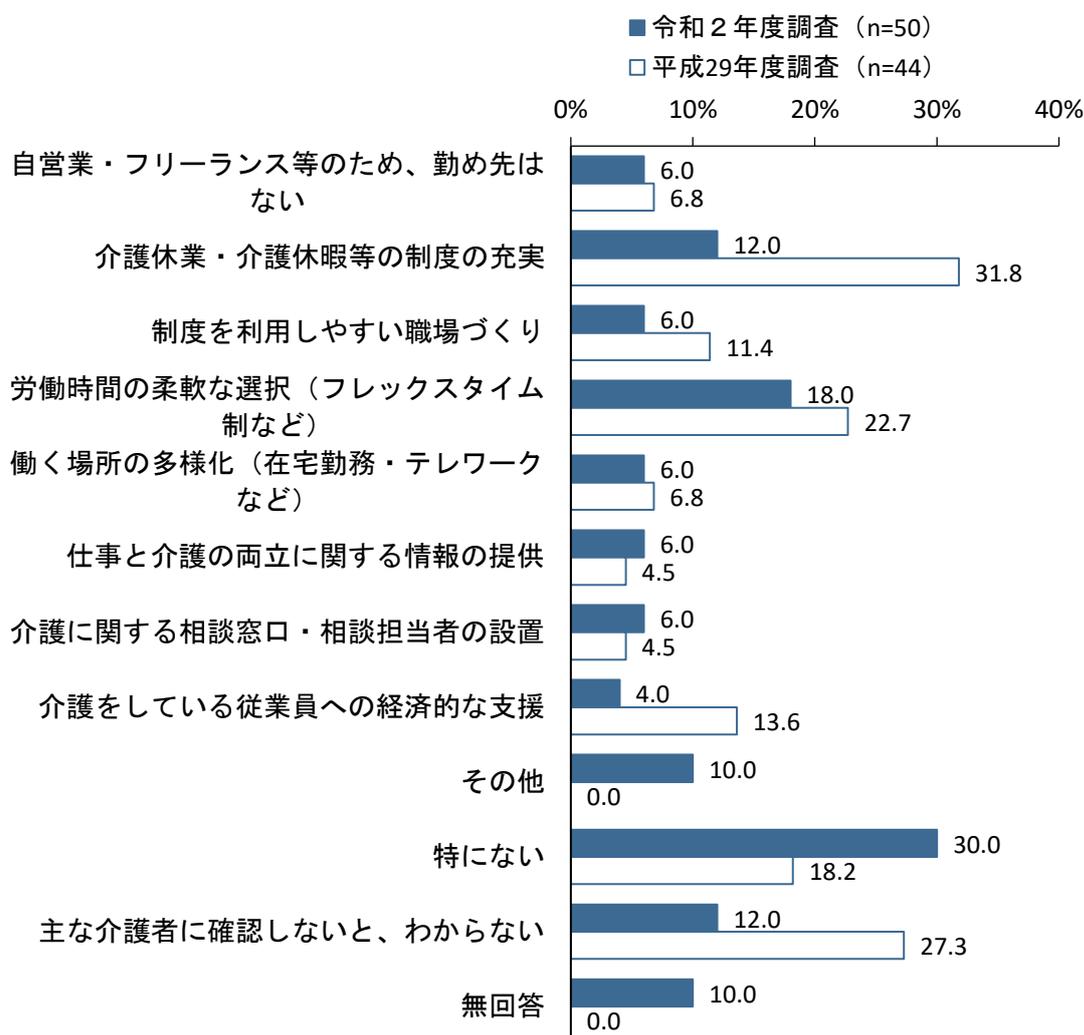
(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

問3	問1で、「フルタイムで働いている」または「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか（複数選択可）
----	---

就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援については、「特にない」が30.0%で最も高く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が18.0%、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が12.0%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」（12.0%）では、平成29年度調査（31.8%）より19.8ポイント減少しています。

図表Ⅱ-2-3-3 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援



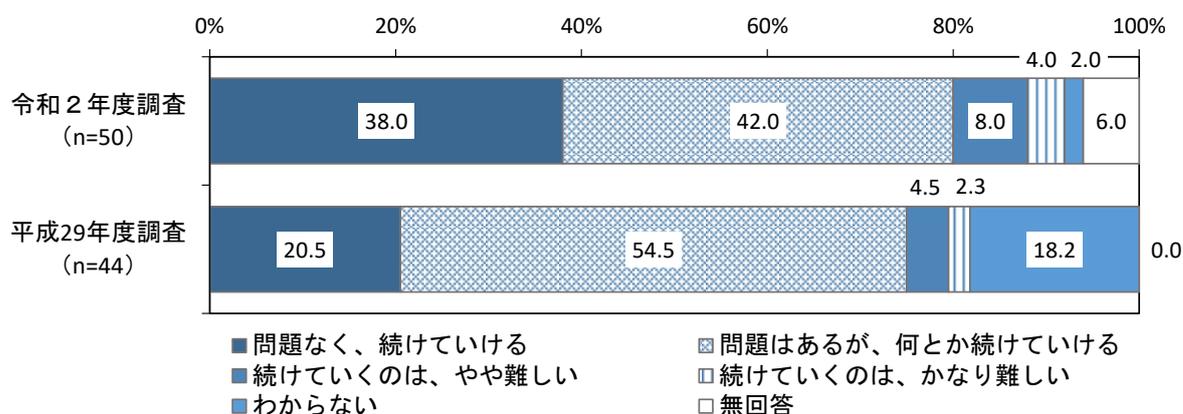
(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

問4	問1で、「フルタイムで働いている」または「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか（1つを選択）
----	---

主な介護者の就労継続の可否に係る意識については、「問題はあるが、何とか続けていける」が42.0%で最も高く、次いで「問題なく、続けていける」が38.0%、「続けていくのは、やや難しい」が8.0%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、「問題なく、続けていける」(38.0%)では、平成29年度調査(20.5%)より17.5ポイント増加しています。

図表Ⅱ-2-3-4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識



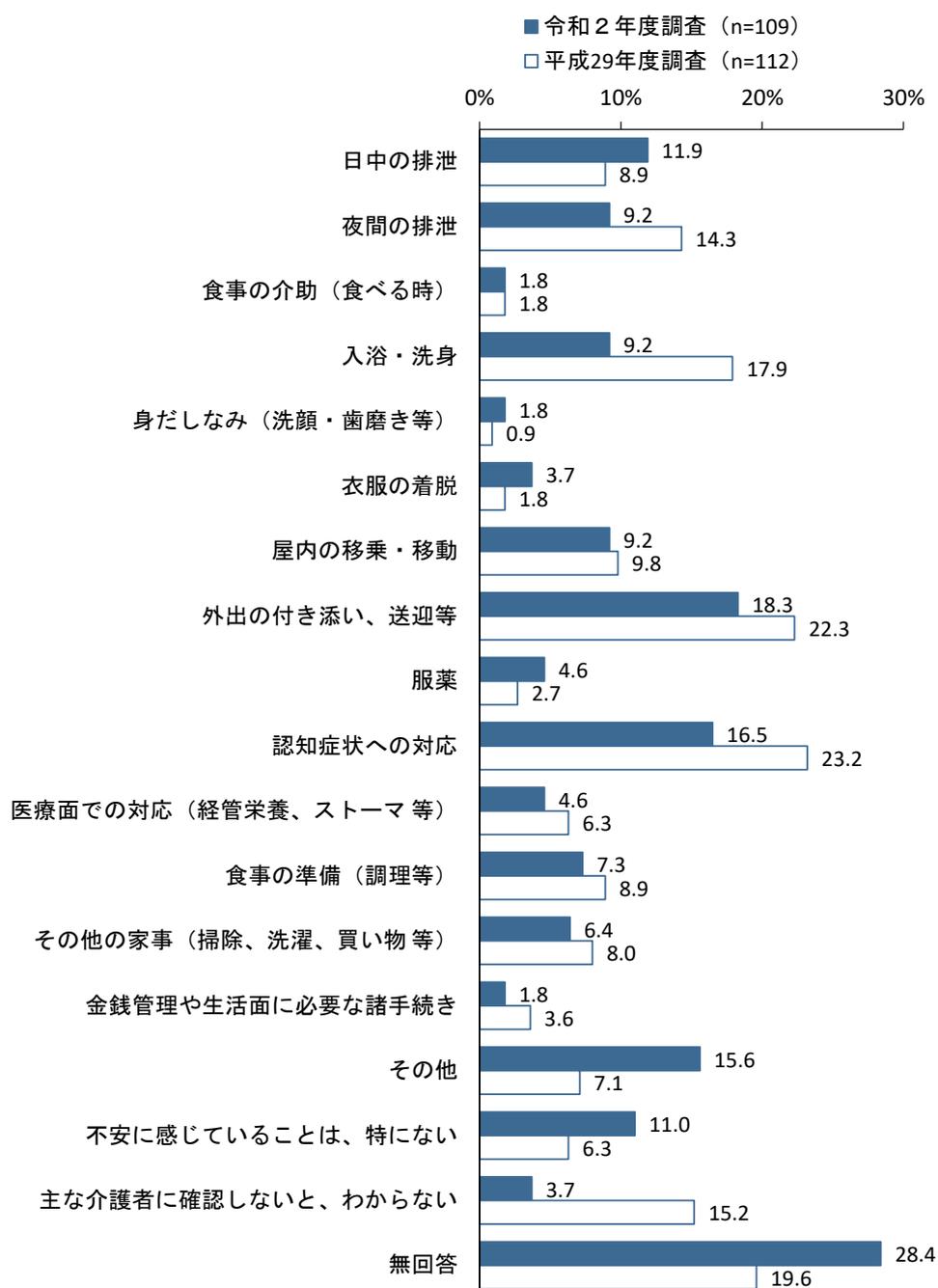
(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

問5	現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません） （複数選択可）
----	---

今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護については、「外出の付き添い、送迎等」が18.3%で最も高く、次いで「認知症状への対応」が16.5%、「その他」が15.6%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、「不安に感じていることは、特にない」(11.0%)では、平成29年度調査(6.3%)より4.7ポイント増加しています。

図表Ⅱ-2-3-5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護



第3章 介護保険事業計画の策定に向けた検討（クロス集計結果）

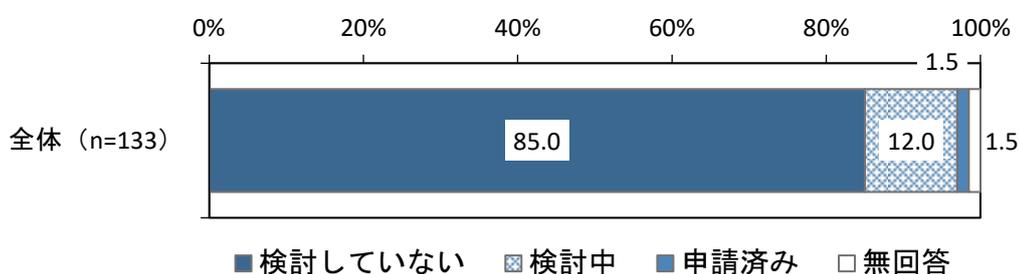
1. 在宅限界点の向上のための支援

ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「在宅生活の継続」と「介護者不安の軽減」の2つの視点からの集計を行っています。

(1) 基礎集計

施設等の検討状況は、「検討していない」が85.0%で最も高く、次いで「検討中」が12.0%、「申請済み」が1.5%となっています（図表Ⅱ-3-1-1）。

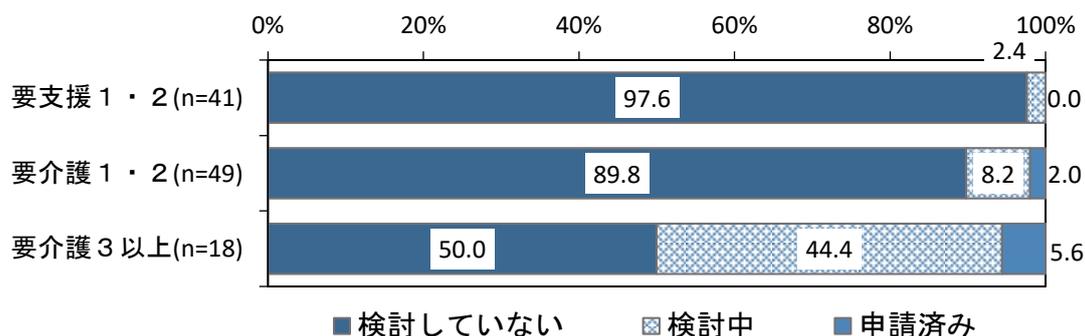
図表 Ⅱ-3-1-1 施設等検討の状況



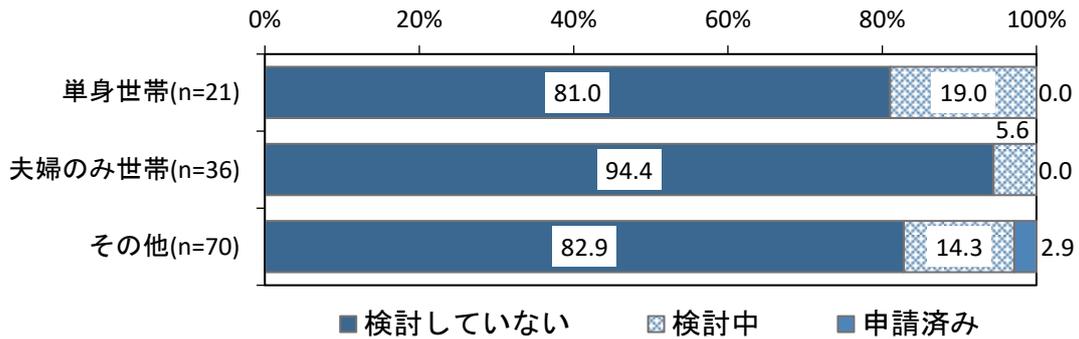
要介護度別にみると、要介護3以上では「検討していない」が50.0%で最も高く、次いで「検討中」が44.4%、「申請済み」が5.6%となっています（図表Ⅱ-3-1-2）。

世帯類型別にみると、「検討していない」では、夫婦のみ世帯が94.4%で最も高く、単身世帯が81.0%で最も低くなっています（図表Ⅱ-3-1-3）。

図表 Ⅱ-3-1-2 要介護度別・施設等検討の状況



図表 II-3-1-3 世帯類型別・施設等検討の状況



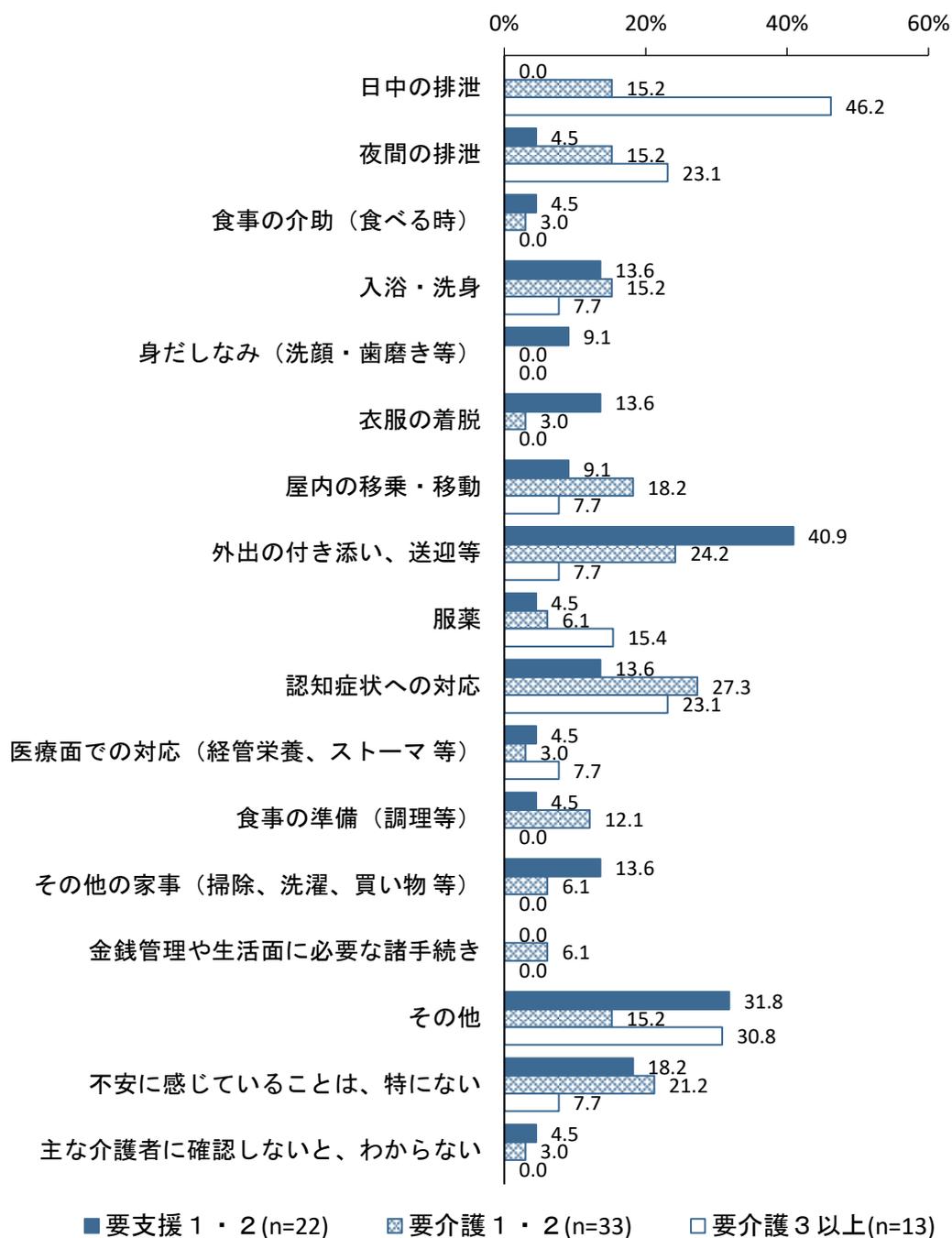
(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化

現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護について、要介護度別にみると、要介護3以上では、特に「日中の排泄」(46.2%)、「夜間の排泄」(23.1%)、「認知症状への対応」(23.1%)について、主な介護者の不安が大きい傾向がみられました(図表II-3-1-4)。

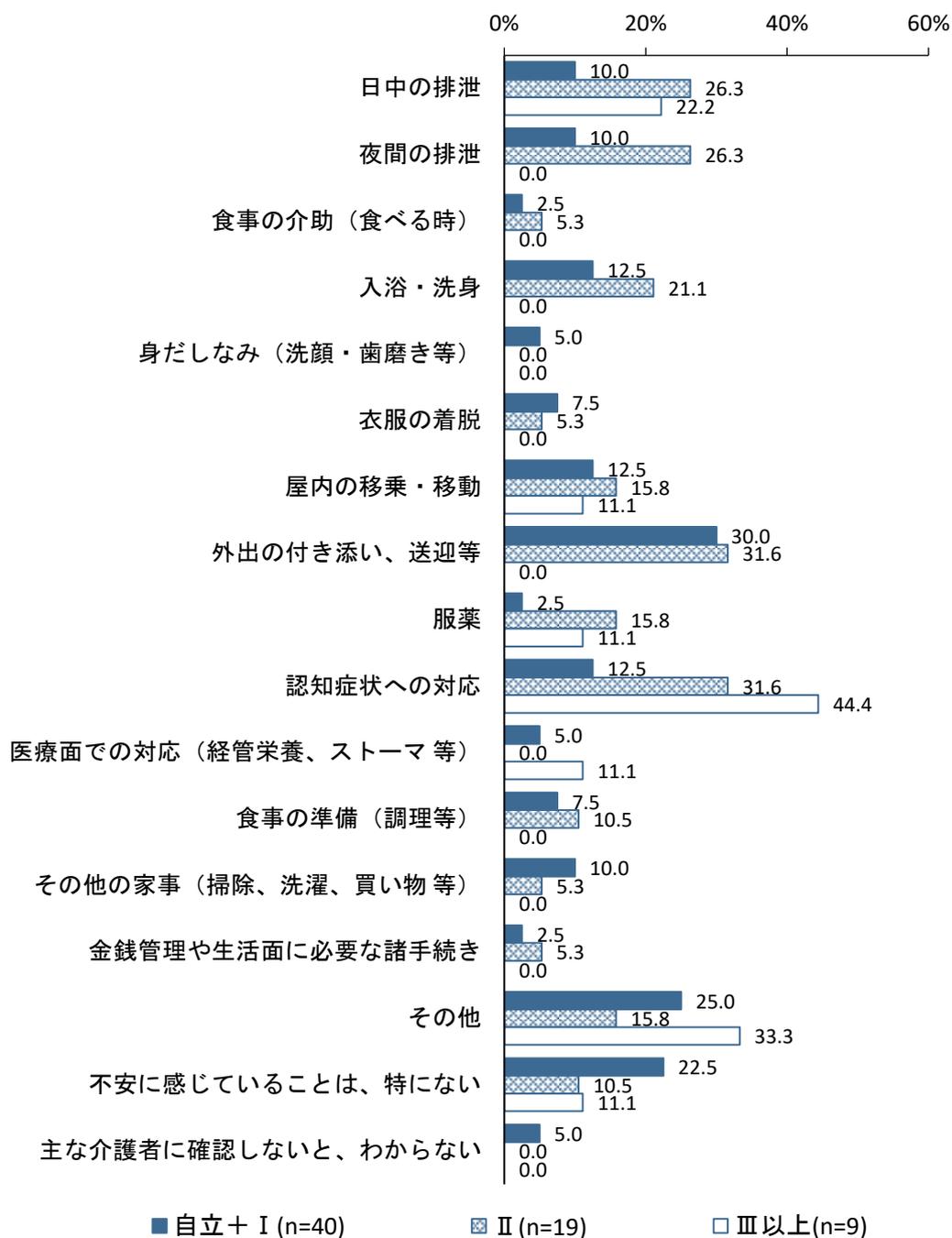
また、認知症自立度別にみると、認知症自立度Ⅲ以上では、「認知症状への対応」(44.4%)、「日中の排泄」(22.2%)について、主な介護者の不安が大きい傾向がみられました(図表II-3-1-5)。

なお、要支援1・2の方は、「外出の付き添い、送迎等」(40.9%)について、要介護1・2の方は、「認知症状への対応」(27.3%)、「外出の付き添い、送迎等」(24.2%)について、主な介護者の不安が大きい傾向がみられました(図表II-3-1-4)。

図表 II-3-1-4 要介護度別・介護者が不安に感じる介護



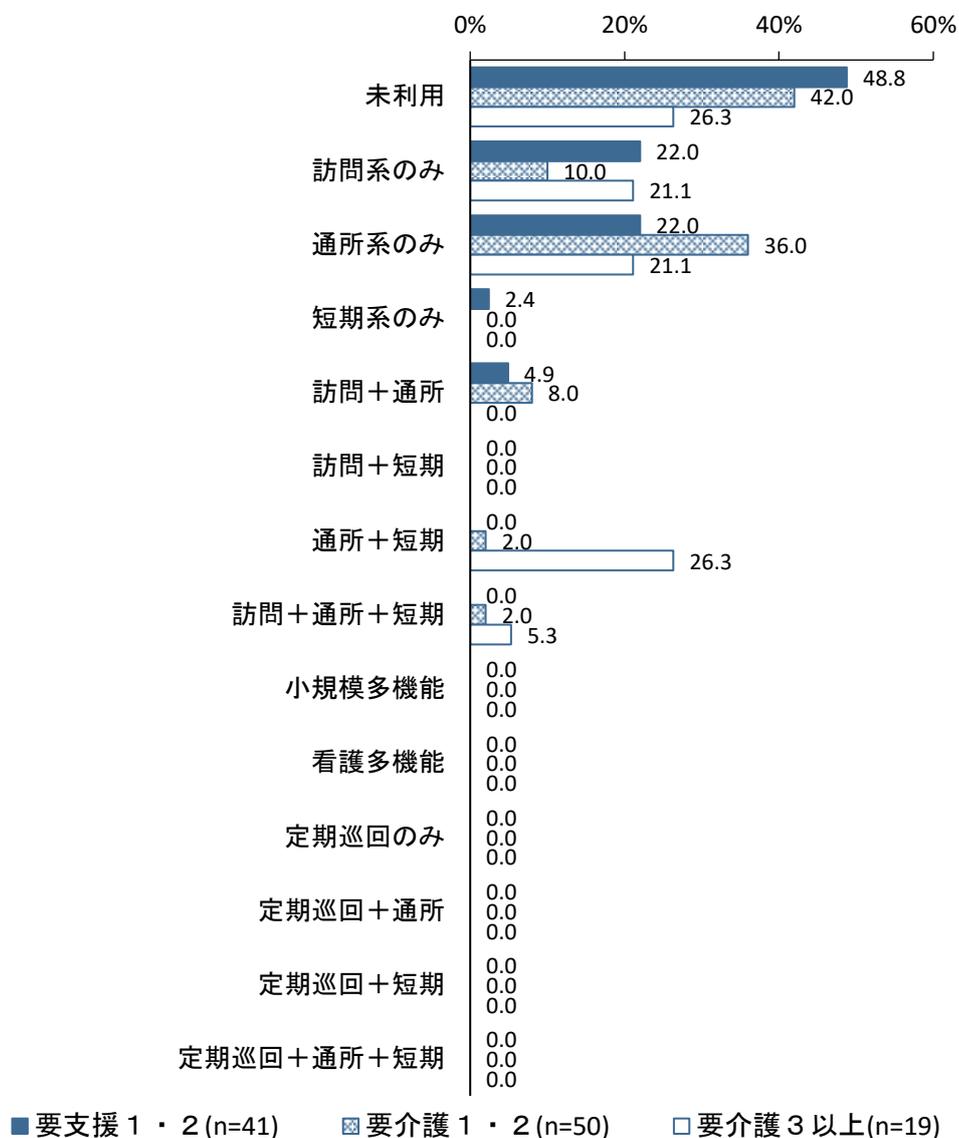
図表 II-3-1-5 認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護



(3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

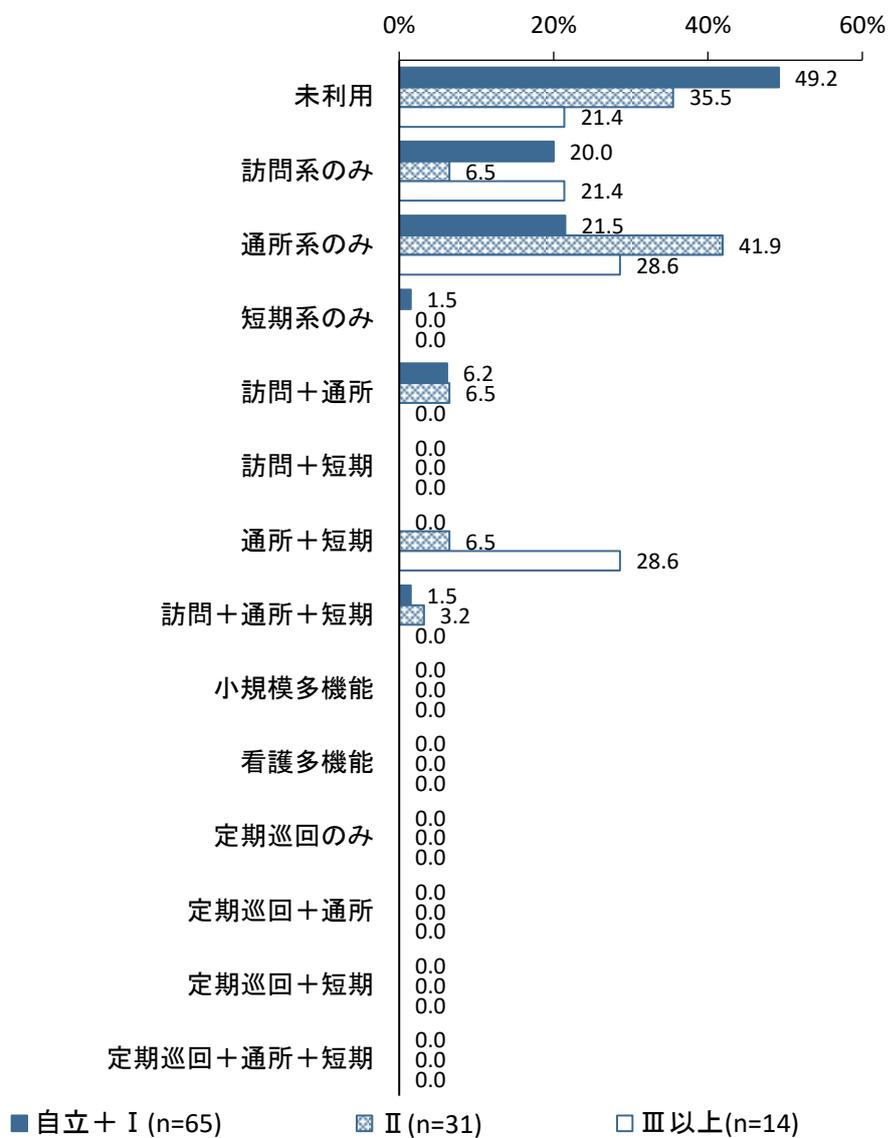
要介護度の重度化に伴うサービス利用の組み合わせの変化に着目すると、「通所系+短期系」及び「訪問系+通所系+短期系」の割合が増加する傾向がみられました（図表Ⅱ-3-1-6）。

図表 Ⅱ-3-1-6 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



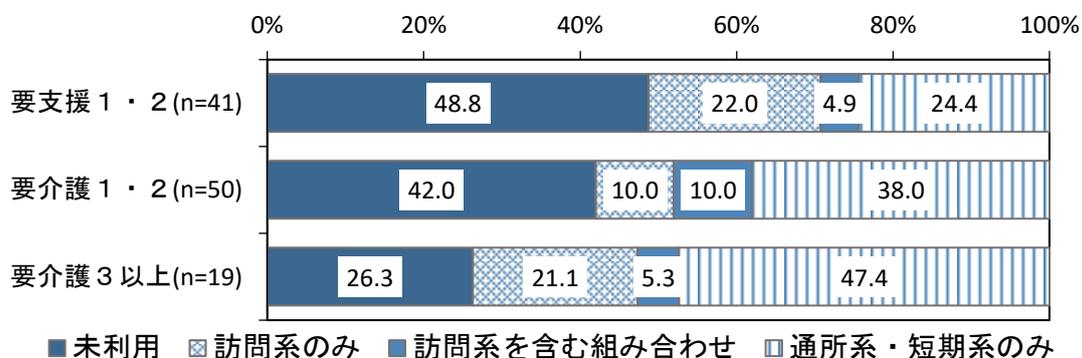
認知症の重度化に伴うサービス利用の組み合わせの変化に着目すると、「通所系+短期系」のサービス利用が増加する傾向がみられました（図表Ⅱ-3-1-7）。

図表Ⅱ-3-1-7 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ



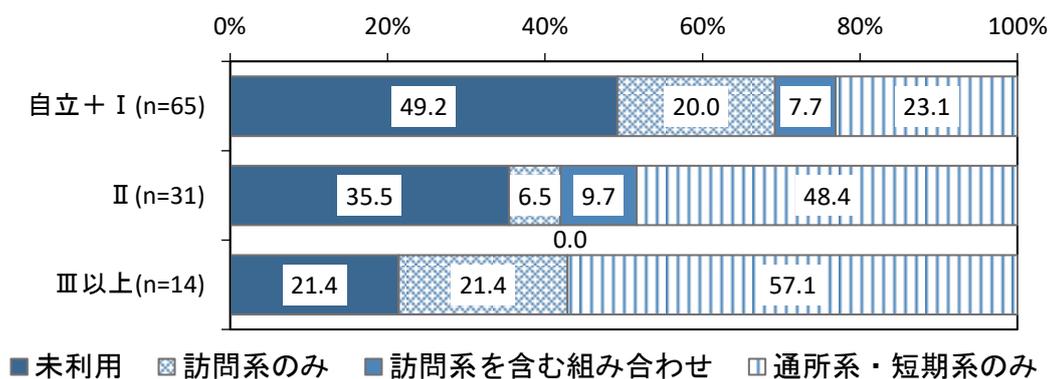
サービス利用の組み合わせを「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」、「通所系・短期系のみ」の3つに分類した場合には、要介護度の重度化に伴い「通所系・短期系のみ」の割合が増加する傾向がみられました（図表Ⅱ-3-1-8）。

図表Ⅱ-3-1-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



サービス利用の組み合わせについて、認知症自立度の重度化に伴う変化をみると、「通所系・短期系のみ」の割合が増加する傾向がみられました（図表Ⅱ-3-1-9）。

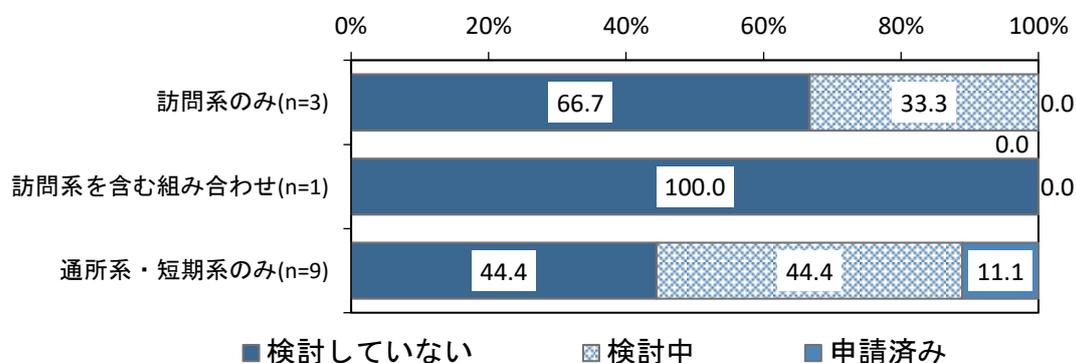
図表Ⅱ-3-1-9 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ



(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

要介護3以上のサービス利用の組み合わせと施設等検討の状況をみると、「通所系・短期系のみ」では、「訪問系のみ」に比べて「検討中」と「申請済み」の割合が高くなっています（図表Ⅱ-3-1-10）。

図表Ⅱ-3-1-10 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）

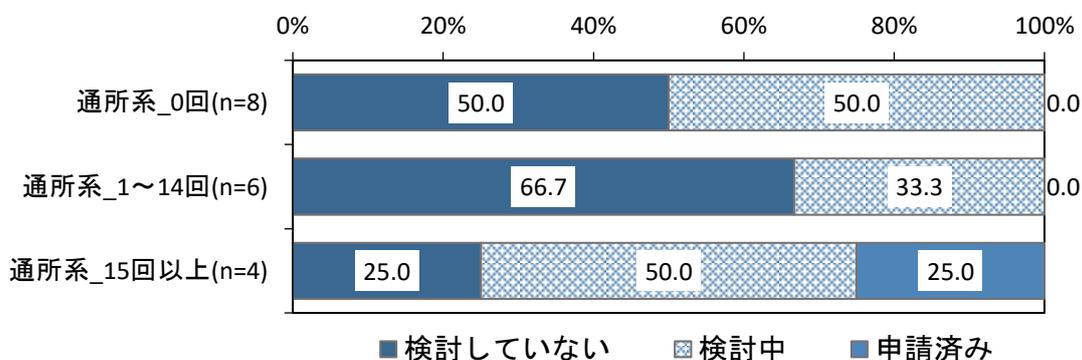


(5) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係

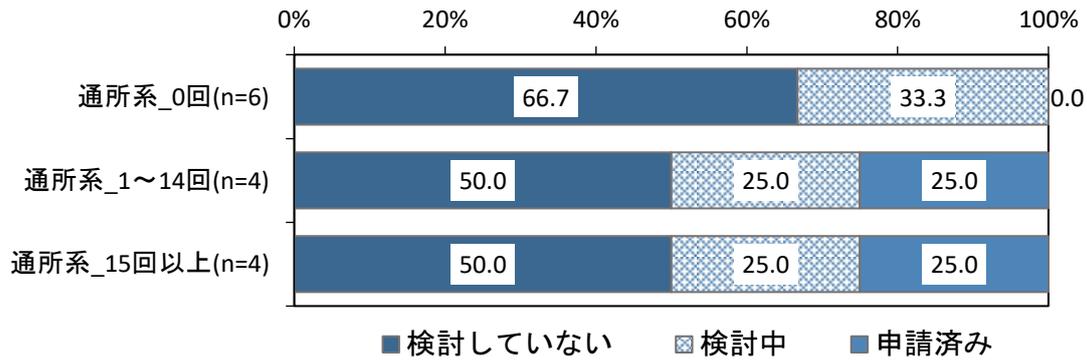
要介護3以上ケースにおいて、通所系のサービスの利用回数が15回以上/月では、施設等検討の状況における「検討中」、「申請済み」の割合が高くなる傾向がみられました（図表Ⅱ-3-1-11）。

また、認知症自立度Ⅲ以上のケースにおいては、通所系のサービス未利用者が、施設等検討の状況における「検討していない」の割合が高くなる傾向がみられました（図表Ⅱ-3-1-12）。

図表Ⅱ-3-1-11 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護3以上）

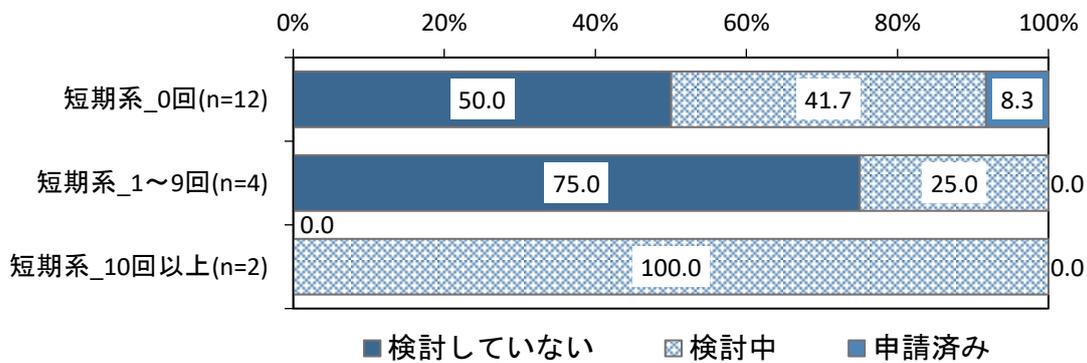


図表Ⅱ-3-1-12 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、認知症Ⅲ以上）

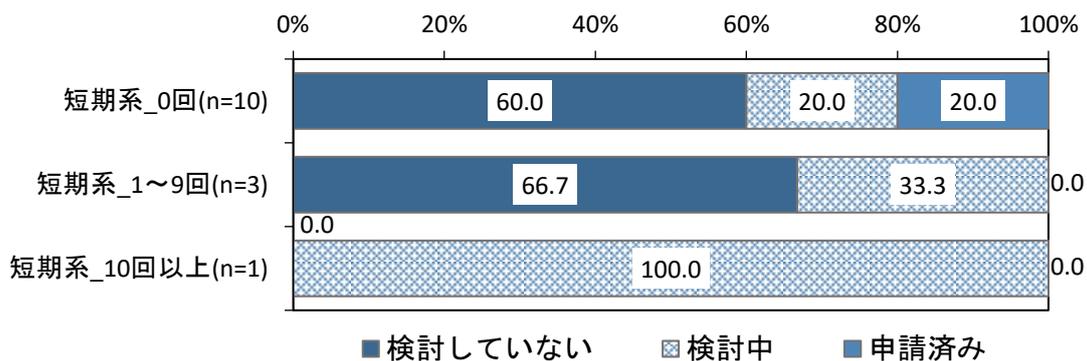


また、短期系のサービスについては、1～9回/月の利用では、未利用者に比べて施設等検討の状況における「検討していない」の割合が高くなる傾向がみられました（図表Ⅱ-3-1-13、図表Ⅱ-3-1-14）。

図表Ⅱ-3-1-13 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、要介護3以上）



図表Ⅱ-3-1-14 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、認知症Ⅲ以上）



2. 仕事と介護の両立に向けた支援

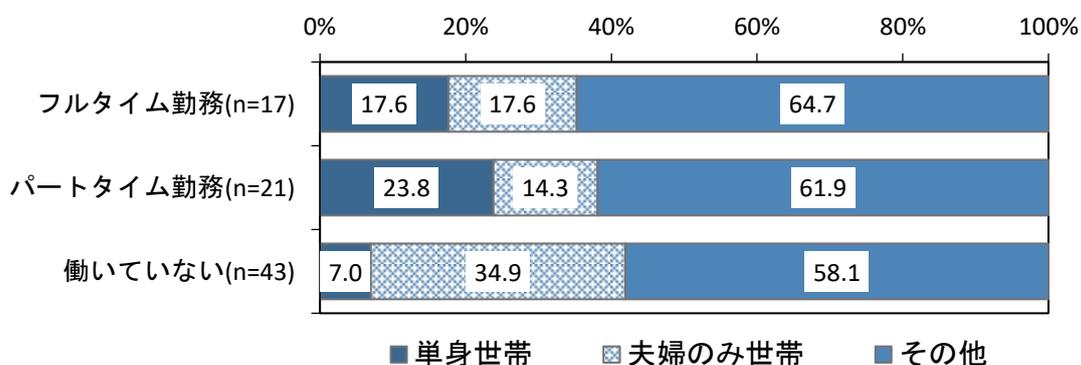
ここでは、介護者の就労継続見込みの向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「主な介護者の就労状況」と「主な介護者の就労継続見込み」の2つの視点からの集計を行っています。

(1) 就労状況別の基本属性

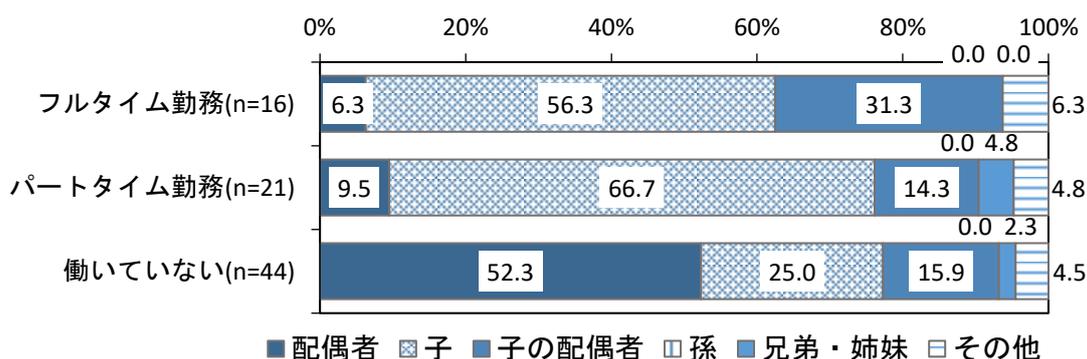
要介護者の世帯類型については、主な介護者がフルタイム勤務・パートタイム勤務の場合、「その他世帯」の割合が高く、主な介護者の要介護者との続柄は「子」の割合が最も高く、年齢は「50歳代」の割合が最も高くなっています（図表Ⅱ-3-2-1～図表Ⅱ-3-2-3）。

一方、主な介護者が働いていない場合は、要介護者の世帯類型は「その他世帯」もしくは「夫婦のみ世帯」の割合が高く、主な介護者の要介護者との続柄は「配偶者」の割合が高く、年齢は70歳代以上が65.2%となっています（図表Ⅱ-3-2-1～図表Ⅱ-3-2-3）。

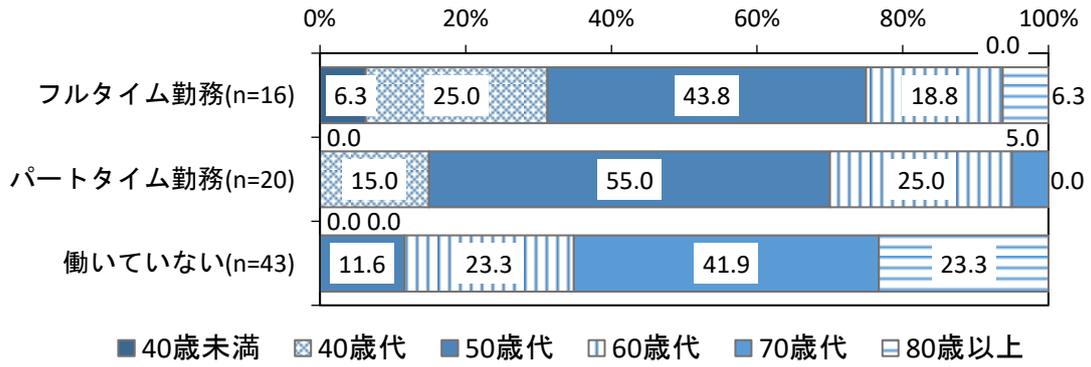
図表Ⅱ-3-2-1 就労状況別・世帯類型



図表Ⅱ-3-2-2 就労状況別・主な介護者の本人との関係

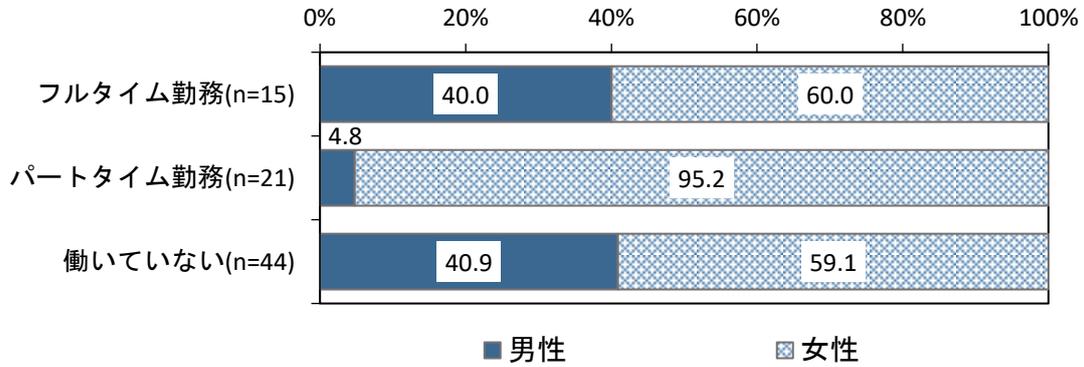


図表Ⅱ-3-2-3 就労状況別・主な介護者の年齢



フルタイム勤務とパートタイム勤務との性別の違いをみると、フルタイム勤務の介護者については、パートタイム勤務の介護者に比べて、「男性」の割合が高くなっています(図表Ⅱ-3-2-4)。

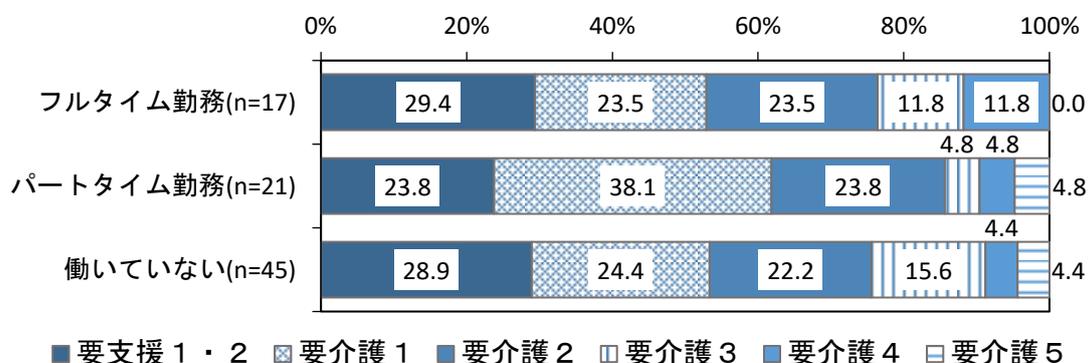
図表Ⅱ-3-2-4 就労状況別・主な介護者の性別



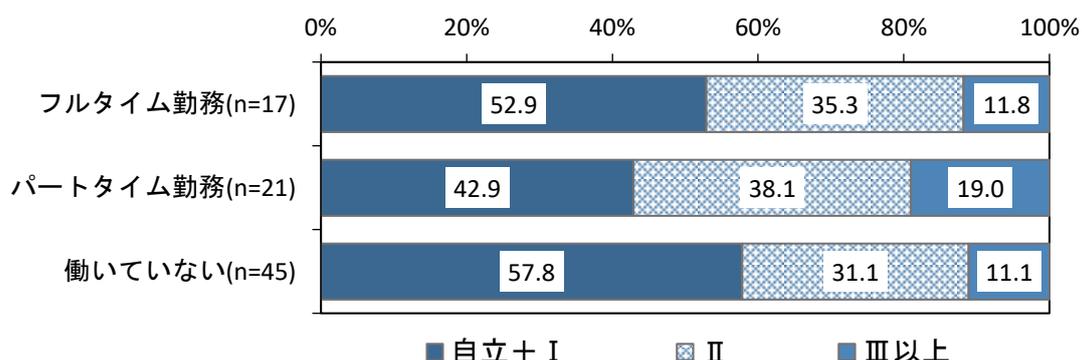
要介護者の要介護度については、「要介護3以上」の割合は、フルタイム勤務が23.6%、パートタイム勤務が14.4%、就労していない介護者が24.4%となっています（図表Ⅱ-3-2-5）。

認知症自立度については、「認知症自立度Ⅲ以上」の割合は、フルタイム勤務が11.8%、パートタイム勤務が19.0%、就労していない介護者が11.1%となっています（図表Ⅱ-3-2-6）。

図表Ⅱ-3-2-5 就労状況別・要介護度



図表Ⅱ-3-2-6 就労状況別・認知症自立度

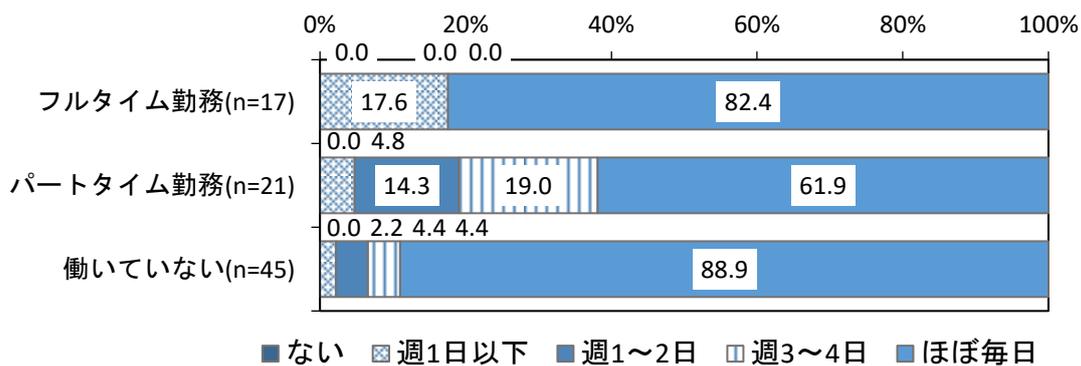


(2) 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

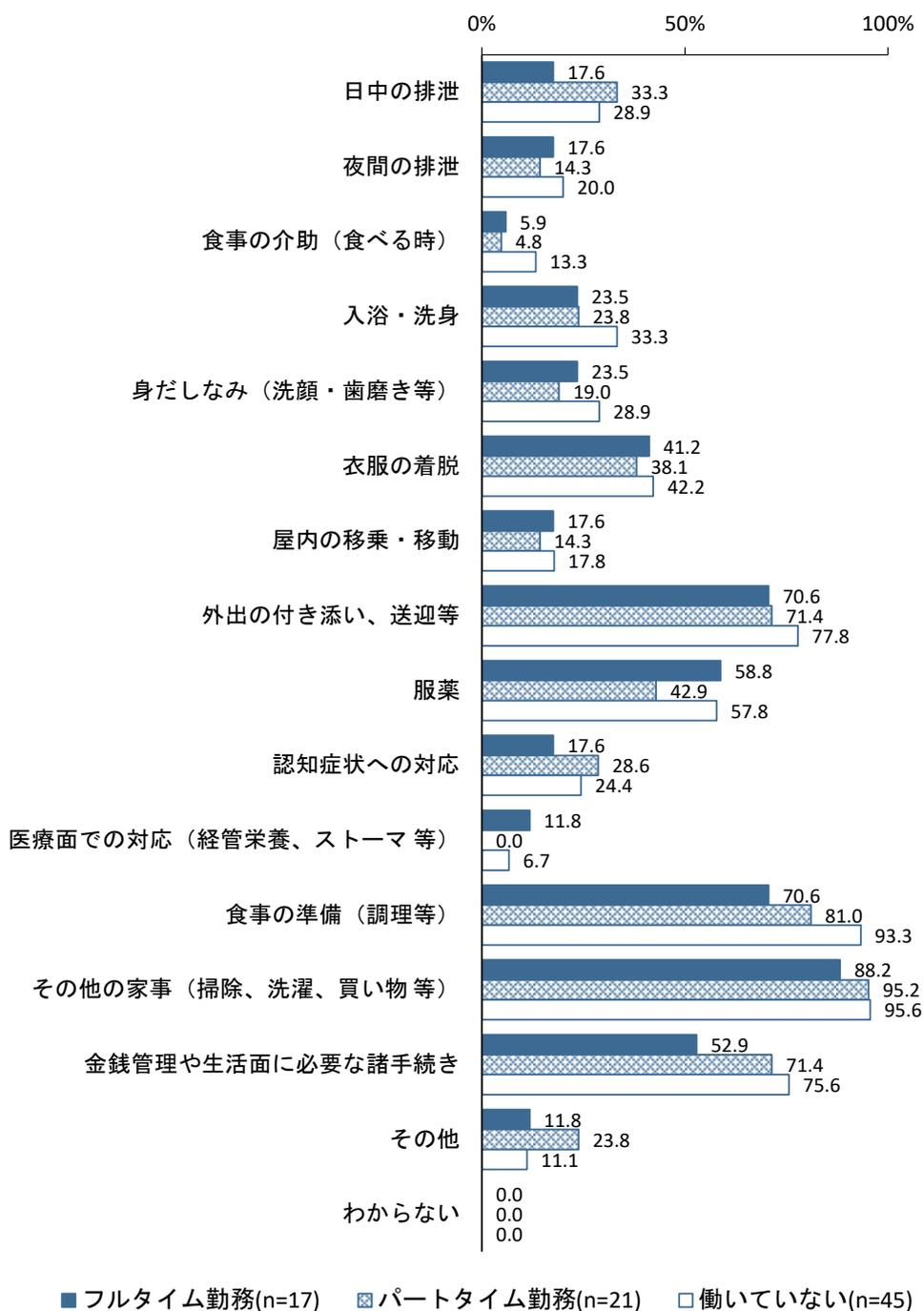
主な介護者の就労状況別に家族等の介護の頻度をみると、フルタイム勤務では、「ほぼ毎日」が最も高く、パートタイム勤務と比べて、介護の頻度は高くなっています（図表Ⅱ-3-2-7）。

主な介護者の就労の程度（就労していない<パートタイム勤務<フルタイム勤務）に応じて、介護者が行っている割合が低くなる介護は、「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」、「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が挙げられます（図表Ⅱ-3-2-8）。

図表Ⅱ-3-2-7 就労状況別・家族等による介護の頻度



図表Ⅱ-3-2-8 就労状況別・主な介護者が行っている介護

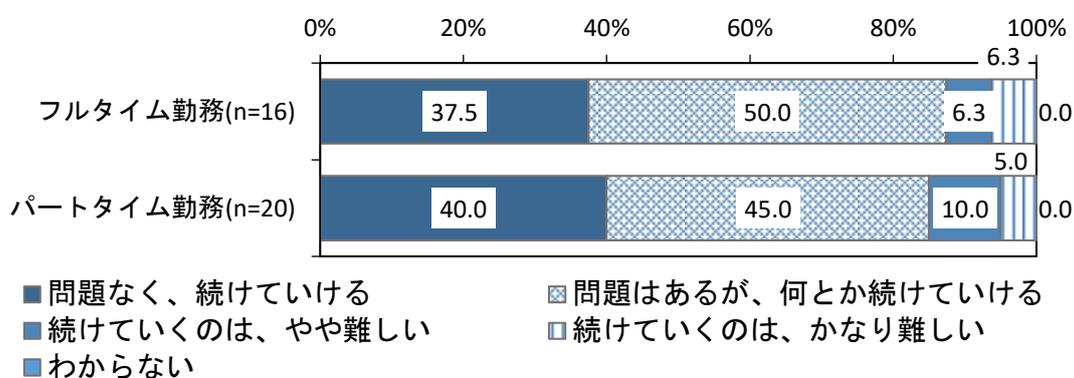


就労している介護者の今後の就労継続見込みをみると、今後の就業継続が困難（続けていくのはやや難しい+かなり難しい）と考えている割合は、フルタイム勤務が 12.6%、パートタイム勤務が 15.0%となっています（図表Ⅱ-3-2-9）。

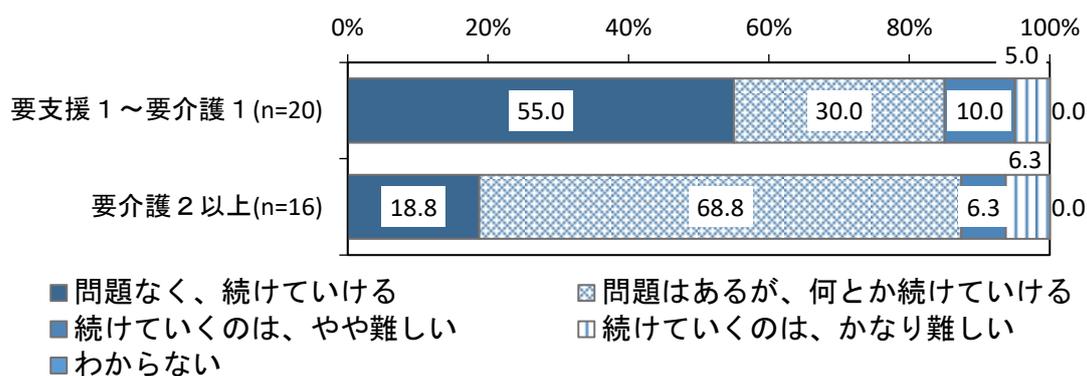
さらに、要介護度別に就労している介護者の就労継続見込みをみると、「要支援1～要介護1」と「要介護2以上」では、「問題なく、続けていける」と考える人の割合には差がみられますが、「問題はあるが、何とか続けていける」をあわせた『続けていける』割合と比較すると、大きな差はみられません（図表Ⅱ-3-2-10）。

認知症自立度についても、「自立+Ⅰ」と「Ⅱ以上」で就労継続見込みをみると、「問題なく、続けていける」と考える人の割合では差がみられますが、『続けていける』割合と比較すると、差が小さくなっています（図表Ⅱ-3-2-11）。

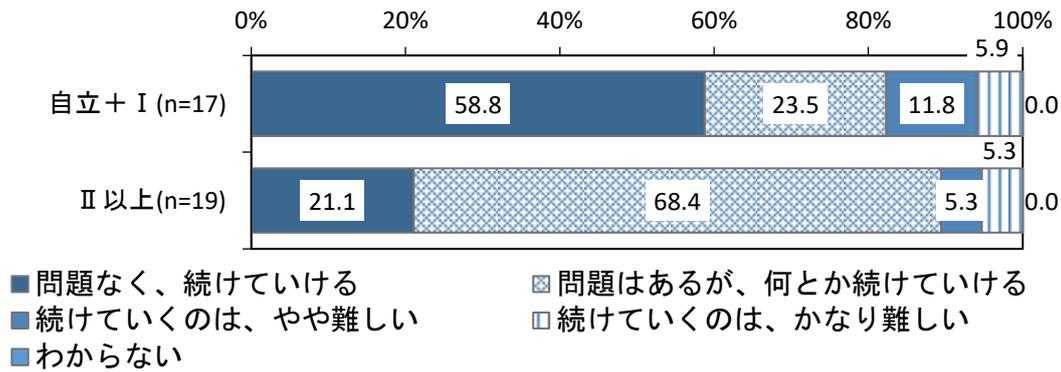
図表Ⅱ-3-2-9 就労状況別・就労継続見込み



図表Ⅱ-3-2-10 要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



図表Ⅱ-3-2-11 認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



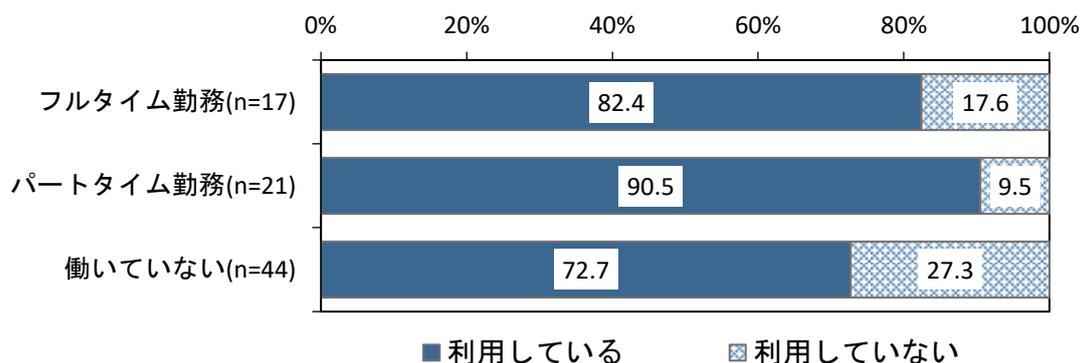
（3）「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係

介護保険サービスの利用状況を見ると、パートタイム勤務と比べて、フルタイム勤務、就労していない介護者で、わずかに「利用している」割合が低い状況です（図表Ⅱ-3-2-12）。

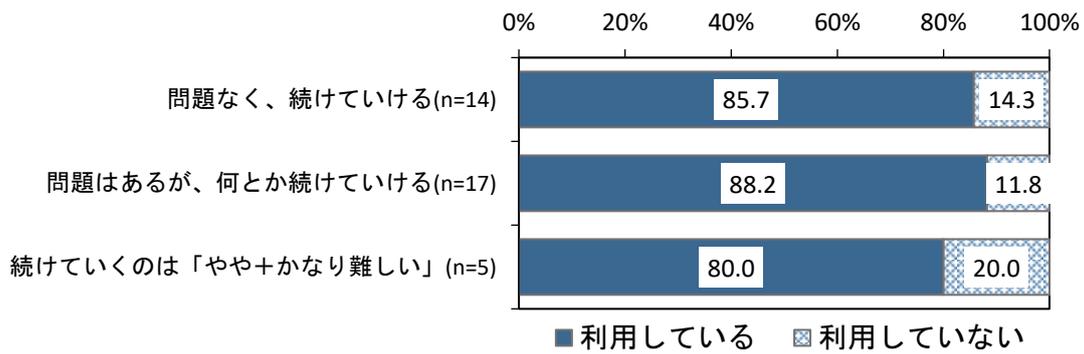
また、就労している介護者（フルタイム勤務+パートタイム勤務）の就労継続見込み別にみると、「続けていくのは「やや難しい+かなり難しい」では、「問題なく続けていける」、「問題はあるが、何とか続けていける」に比べて、介護保険サービスを利用している割合が低い状況です（図表Ⅱ-3-2-13）。

今後の在宅生活継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護については、「問題はあるが、何とか続けていける」、もしくは「続けていくのは「やや難しい+かなり難しい」とする人では、「日中の排泄」、「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が高い傾向がみられました（図表Ⅱ-3-2-14）。

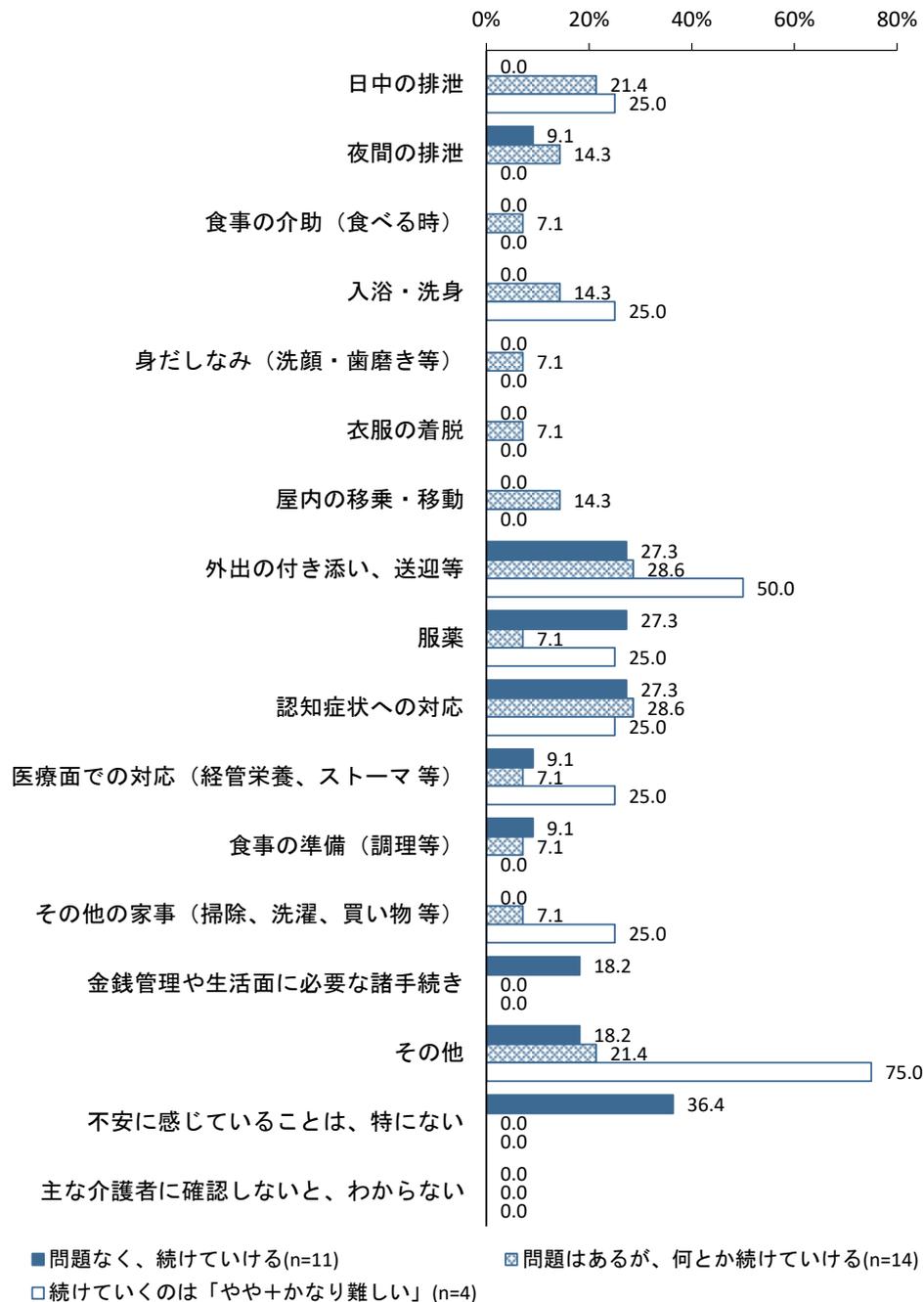
図表Ⅱ-3-2-12 就労状況別・介護保険サービス利用の有無



図表Ⅱ-3-2-13 就労継続見込み別・介護保険サービス利用の有無
(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



図表Ⅱ-3-2-14 就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護
(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



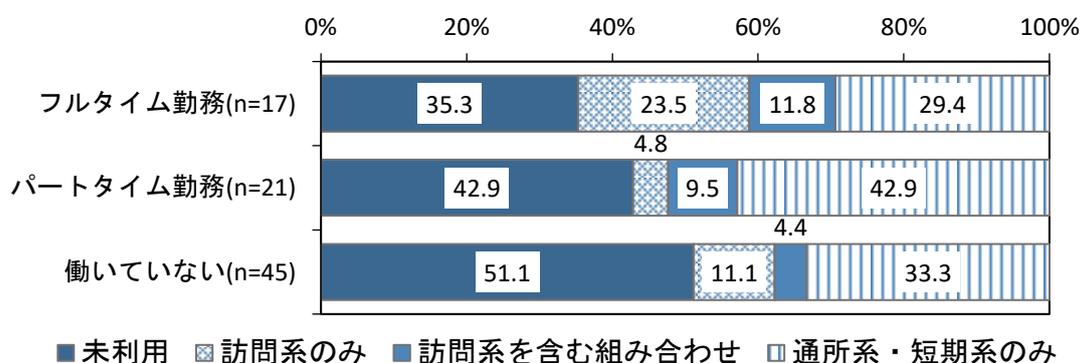
(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

利用している介護保険サービスの組み合わせをみると、フルタイム勤務では、パートタイム勤務、働いていない介護者と比べて「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」の割合が高くなっています（図表Ⅱ-3-2-15）。

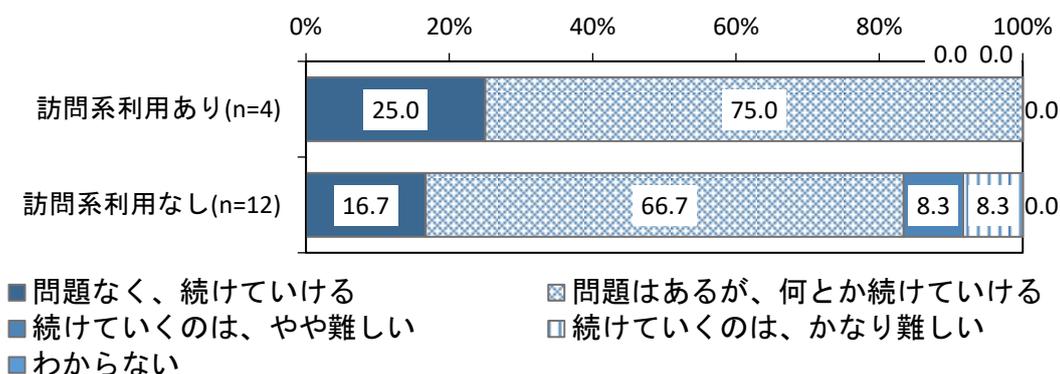
要介護2以上でサービスの組み合わせと就労継続見込みとの関係をみると、「問題なく続けていける」、「問題はあるが、何とか続けていける」までをあわせた『続けていける』割合は、訪問系利用ありが、訪問系利用なしと比べて割合が高くなっています（図表Ⅱ-3-2-16）。

また、認知症自立度Ⅱ以上についても、「問題なく、続けていける」、「問題はあるが、何とか続けていける」までをあわせた『続けていける』については、訪問系利用ありが、訪問系利用なしに比べて割合が高くなっています（図表Ⅱ-3-2-17）。

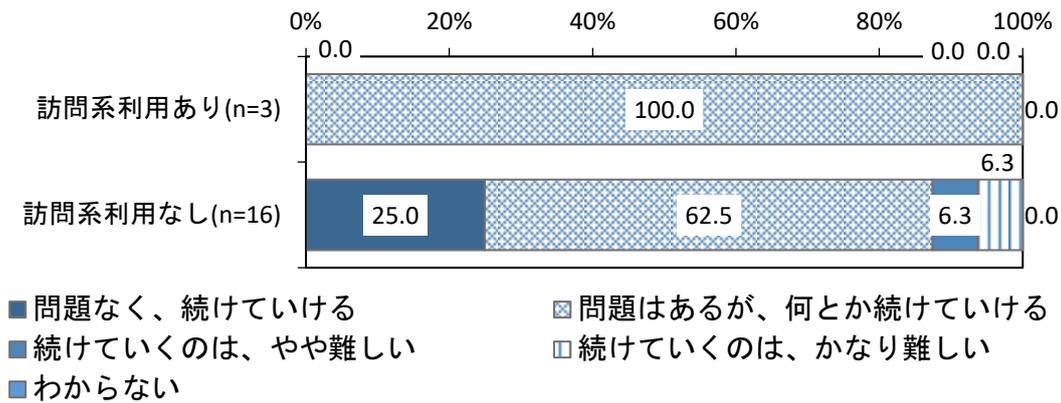
図表Ⅱ-3-2-15 就労状況別・サービス利用の組み合わせ



図表Ⅱ-3-2-16 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み
(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



図表Ⅱ-3-2-17 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み
 (認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



(5) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況

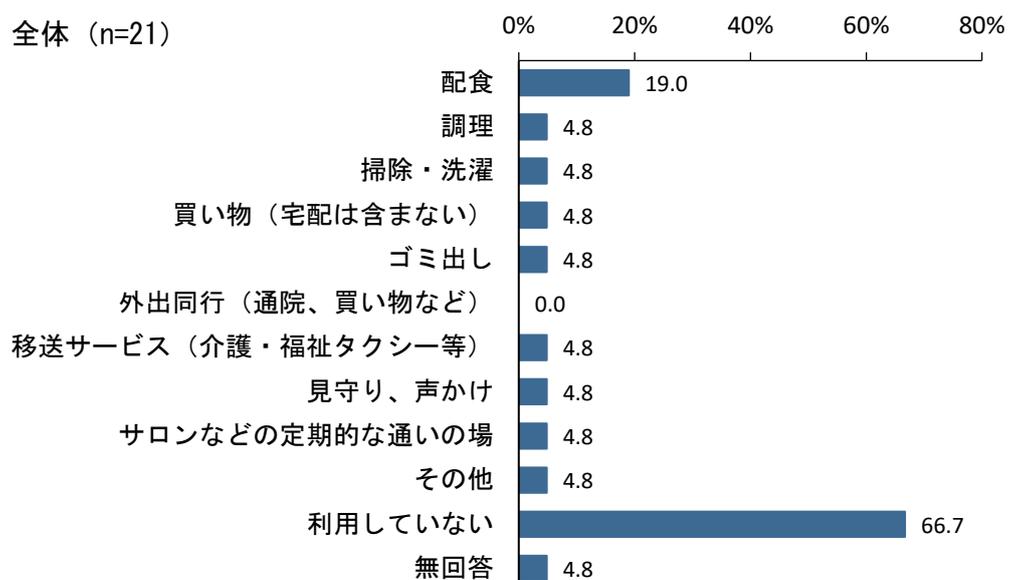
フルタイム勤務で利用している「保険外の支援・サービス」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」の差をみると、多くの生活支援サービスで、必要と感じているのに、利用していない状況となっています(図表Ⅱ-3-2-18_1、図表Ⅱ-3-2-18_2)。

訪問診療については、就労状況による利用率の差はわずかとなっています(図表Ⅱ-3-2-19)。

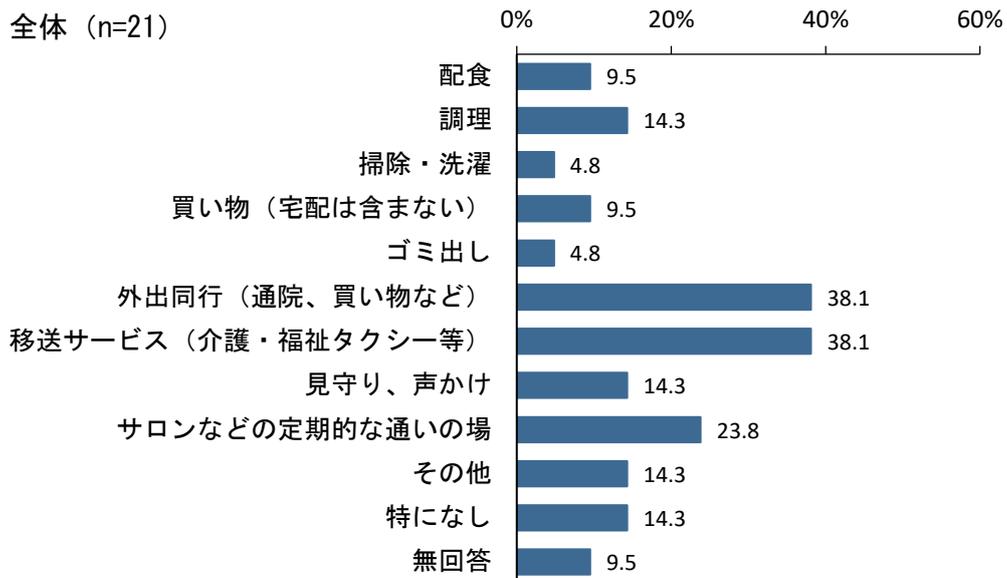
施設入所の検討については、フルタイム勤務が「検討中」と回答した割合が、パートタイム勤務、就労していない介護者よりも高くなっています(図表Ⅱ-3-2-20)。

さらに、要介護2以上について、施設等の検討状況をみると、「続けていくのは「やや難しい+かなり難しい」とする人で、「検討中」の割合が高くなっています(図表Ⅱ-3-2-21)。

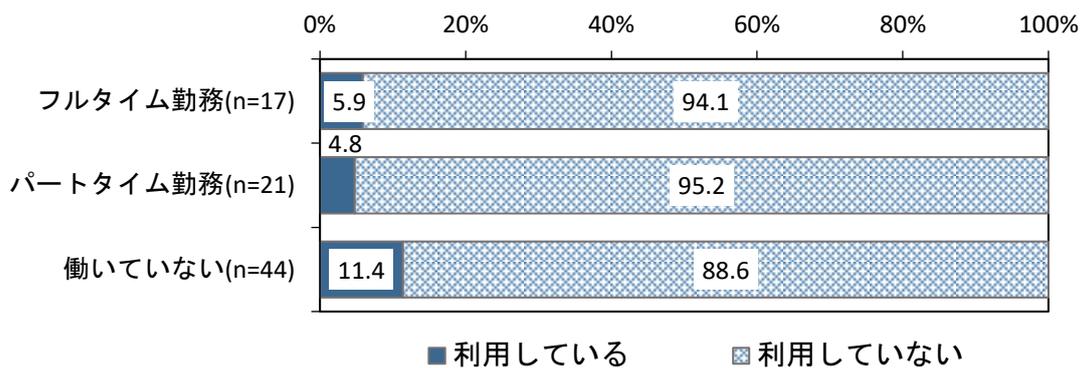
図表Ⅱ-3-2-18_1 利用している保険外の支援・サービス (フルタイム勤務)



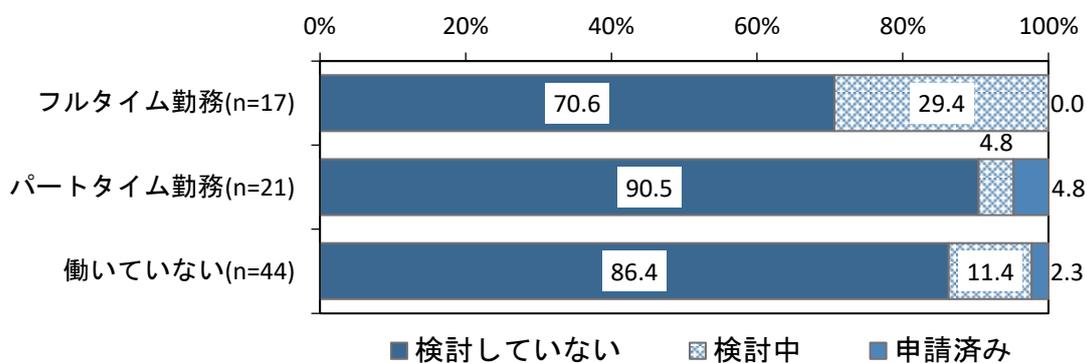
図表Ⅱ-3-2-18_2 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）



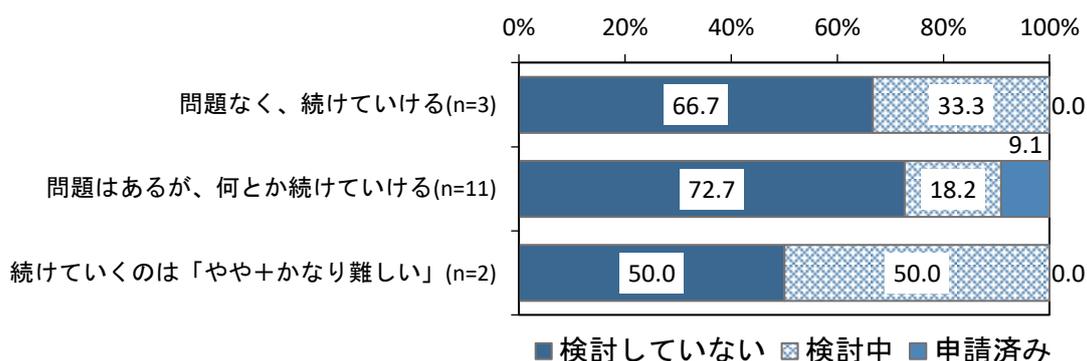
図表Ⅱ-3-2-19 就労状況別・訪問診療の利用の有無



図表Ⅱ-3-2-20 就労状況別・施設等検討の状況



図表Ⅱ-3-2-21 就労継続見込み別・施設等検討の状況
(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)

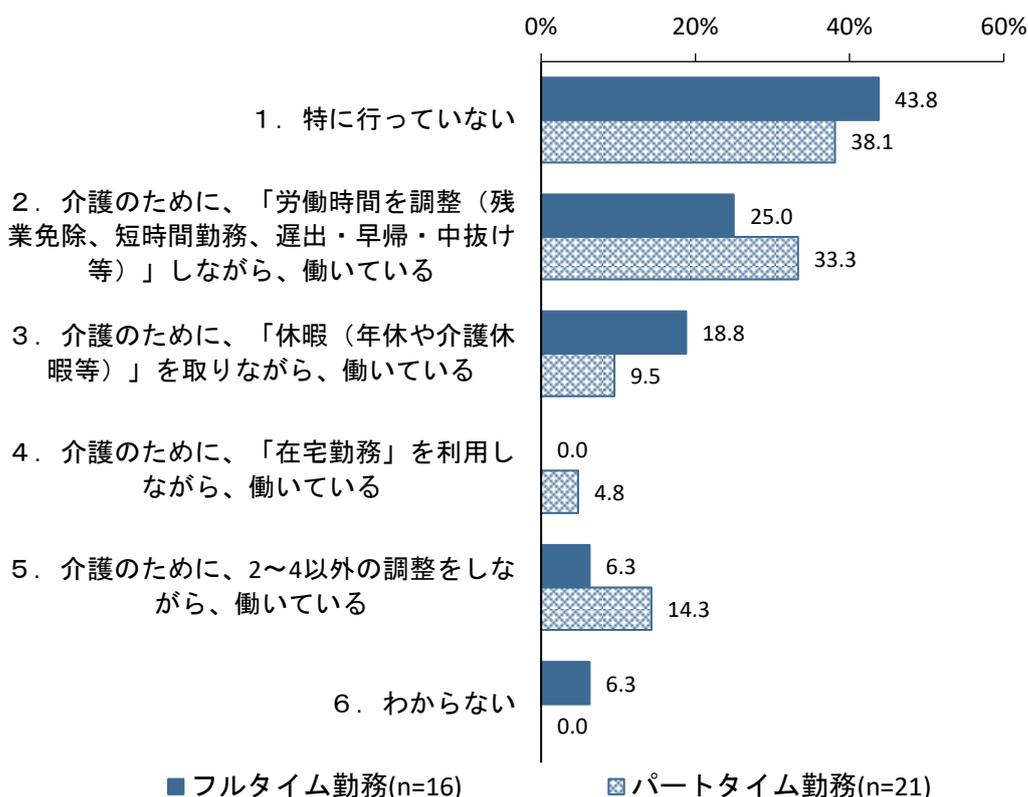


(6) 就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援

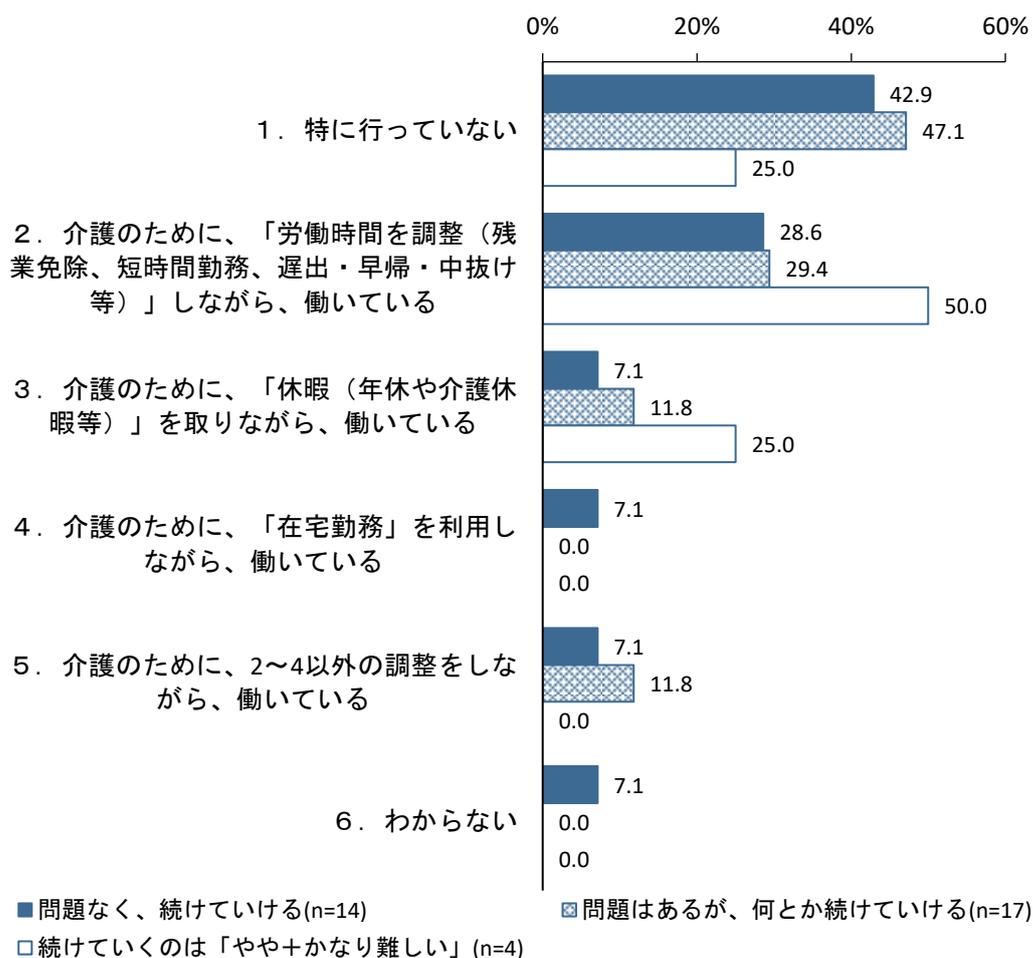
職場における働き方の調整状況をみると、フルタイム勤務では、43.8%が特に働き方の調整を行っていない状況で、パートタイム勤務でも 38.1%が特に働き方の調整を行っていない状況です。何らかの調整を行っている人では、フルタイム勤務、パートタイム勤務いずれも「介護のために、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」の割合が高くなっています（図表Ⅱ-3-2-22）。

就労継続見込み別にみると、「問題なく、続けていける」とする人は、「特に行っていない」が42.9%で最も高く、「問題はあるが、何とか続けていける」とする人は、「特に行っていない」が47.1%で最も高くなっています。一方、「続けていくのは「やや+かなり難しい」とする人は、「介護のために、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が50.0%で最も高くなっています（図表Ⅱ-3-2-23）。

図表Ⅱ-3-2-22 就労状況別・介護のための働き方の調整



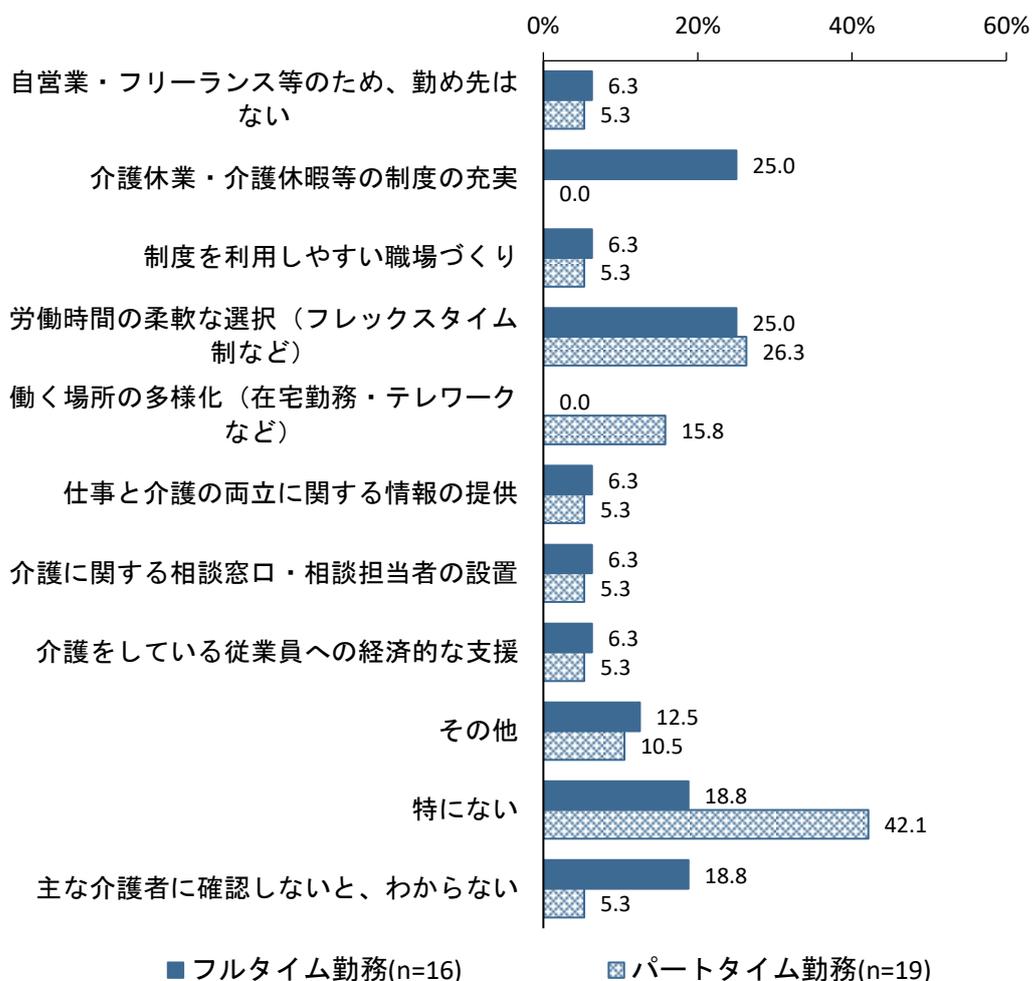
図表Ⅱ-3-2-23 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整
(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



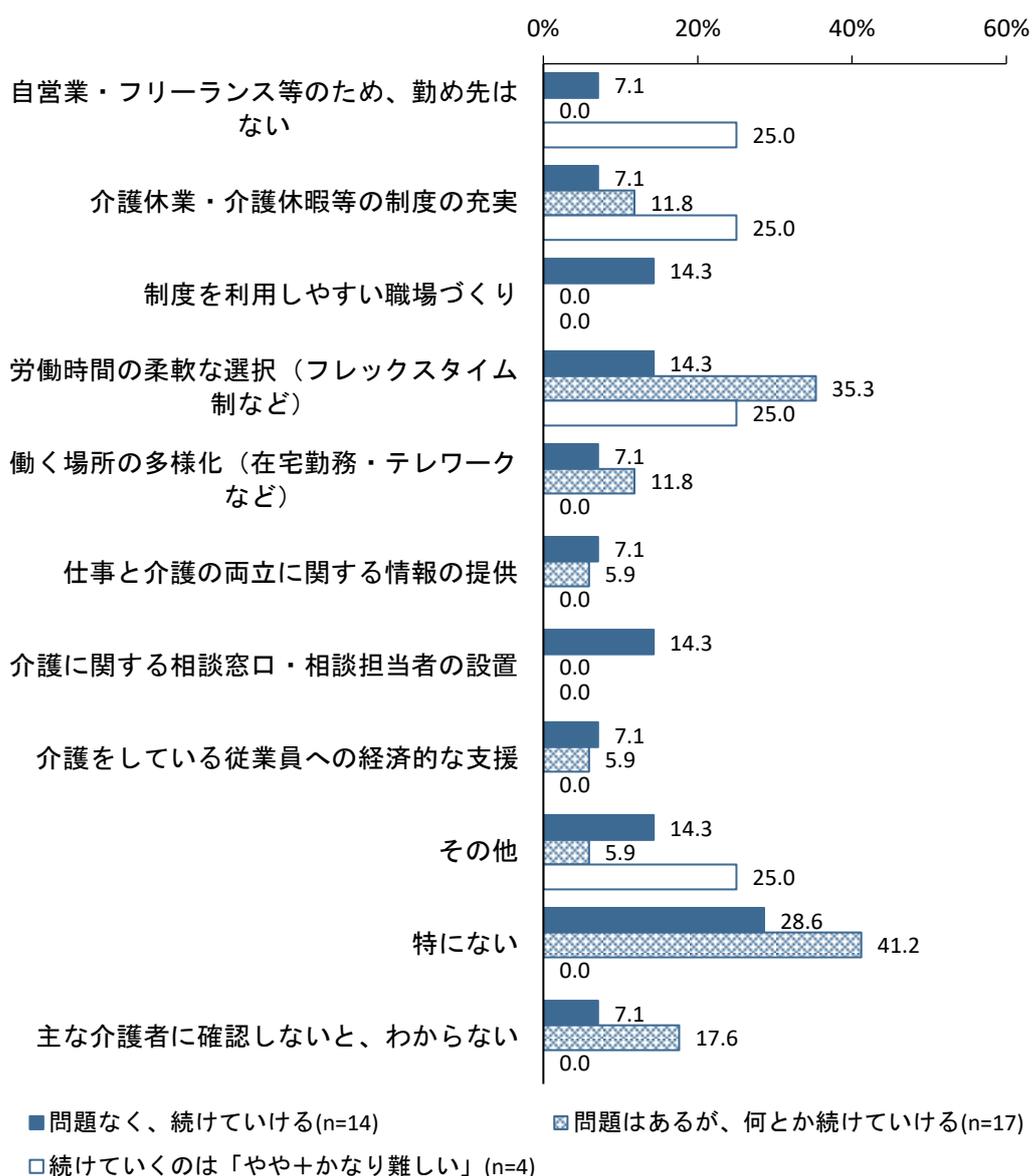
効果的な勤め先からの支援としては、フルタイム勤務では、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」がいずれも 25.0%で最も高く、パートタイム勤務では、「特にない」が 42.1%で最も高く、次いで「労働時間の柔軟な選択」が 26.3%と続いています（図表Ⅱ-3-2-24）。

就労継続見込み別では、続けるのが難しいと感じる度合いが強くなるにつれて、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」の割合が高くなっています（図表Ⅱ-3-2-25）。

図表Ⅱ-3-2-24 就労状況別・効果的な勤め先からの支援



図表Ⅱ-3-2-25 就労継続見込み別・効果的な勤め先からの支援
(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



3. 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源

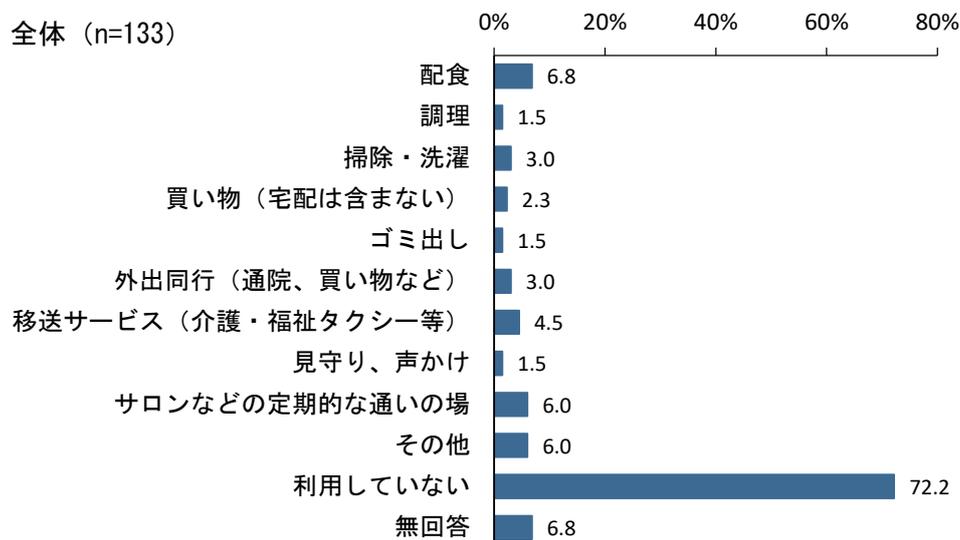
ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、特に「保険外の支援・サービス」に焦点を当てた集計を行っています。

(1) 基礎集計

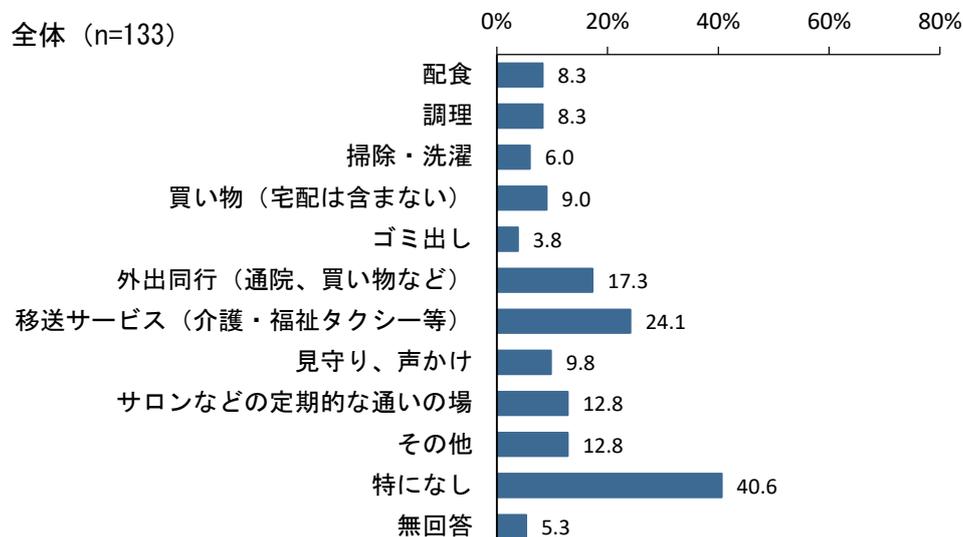
保険外の支援・サービスの利用状況をみると、「配食」(6.8%)の利用割合が最も高く、利用している割合はいずれも1割以下で、「利用していない」の割合は72.2%となっています(図表Ⅱ-3-3-1)。

在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについては、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が24.1%で最も高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が17.3%、「サロンなどの定期的な通いの場」、「その他」がいずれも12.8%と続いており、「特になし」との回答は40.6%となっています(図表Ⅱ-3-3-2)。

図表Ⅱ-3-3-1 保険外の支援・サービスの利用状況



図表Ⅱ-3-3-2 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

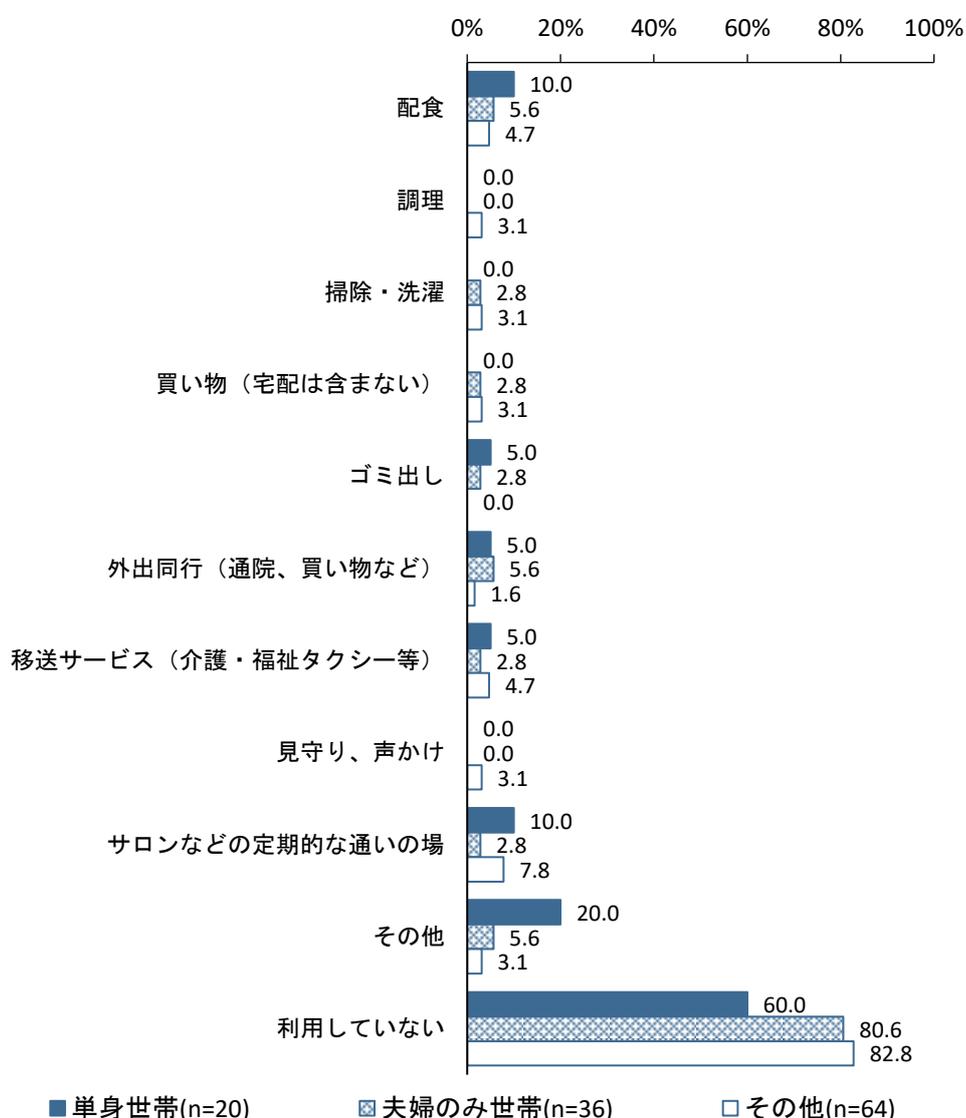


(2) 世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

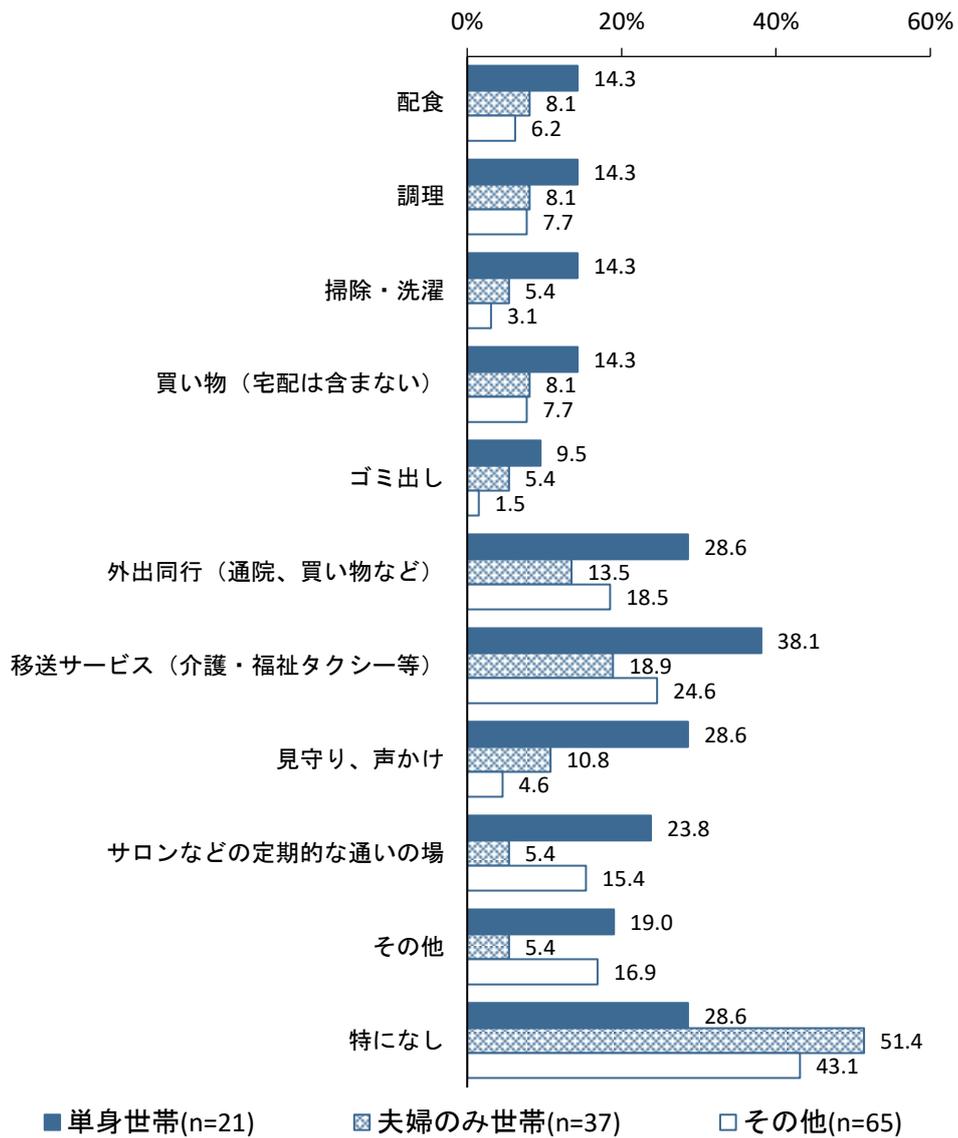
世帯類型別に、保険外の支援・サービスの利用状況をみると、「利用していない」の割合は単身世帯で60.0%、夫婦のみ世帯で80.6%、その他世帯で82.8%となっています（図表Ⅱ-3-3-3）。

一方で、世帯類型別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスをみると、「特になし」との回答は、「単身世帯」で28.6%、「夫婦のみ世帯」で51.4%、「その他世帯」で43.1%となっており、現在は保険外の支援・サービスを利用していない世帯においても、在宅生活の継続のためには各種の支援・サービスの必要性を感じている世帯が多くなっています。また、在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスに係るニーズの多くは「単身世帯」が最も多く、次いで「その他世帯」、「夫婦のみ世帯」の順となっています（図表Ⅱ-3-3-4）。

図表Ⅱ-3-3-3 世帯類型別・保険外の支援・サービスの利用状況



図表Ⅱ-3-3-4 世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



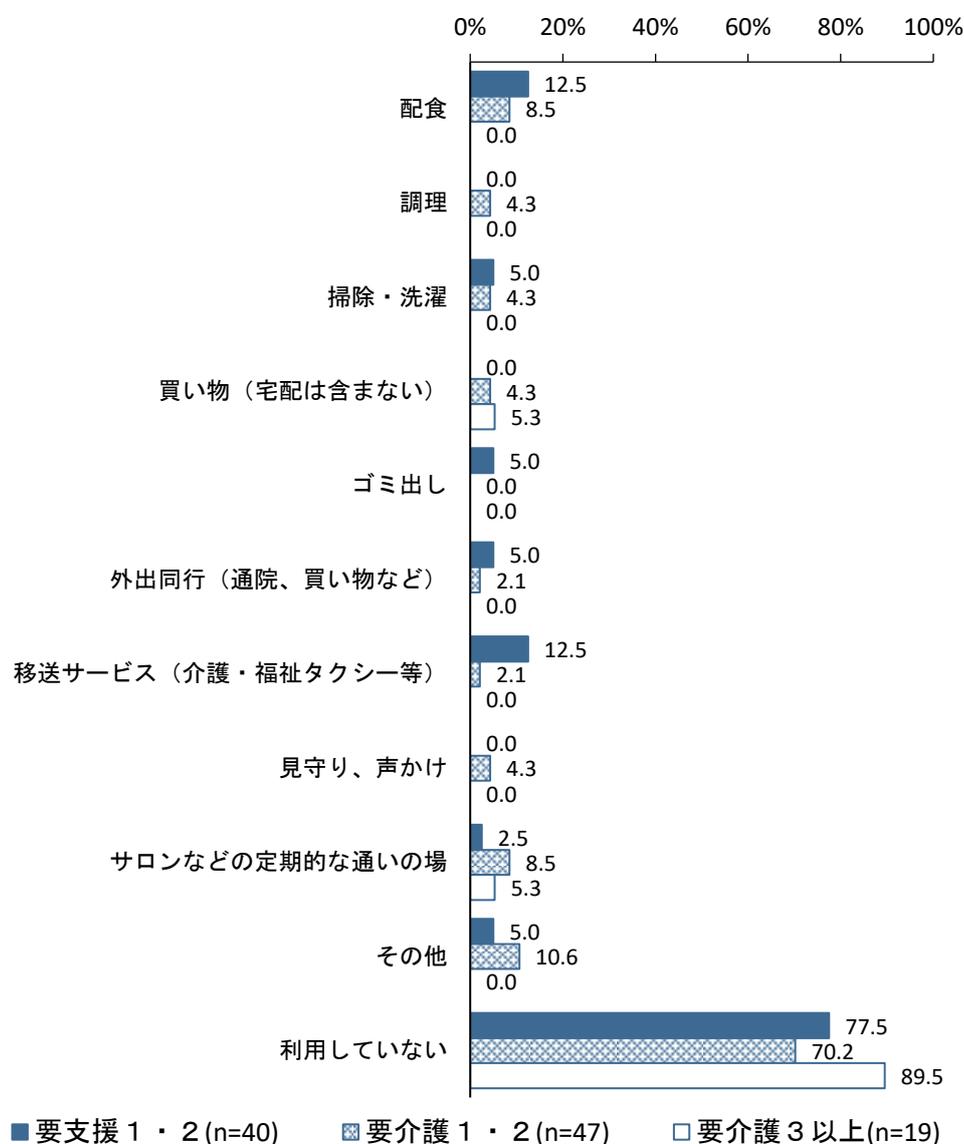
(3) 「世帯類型」×「要介護度」×「保険外の支援・サービスの利用状況」

要介護度別に、保険外の支援・サービスの利用状況を見ると、「利用していない」の割合は、要支援1・2で77.5%、要介護1・2で70.2%、要介護3以上で89.5%となっています（図表Ⅱ-3-3-5）。

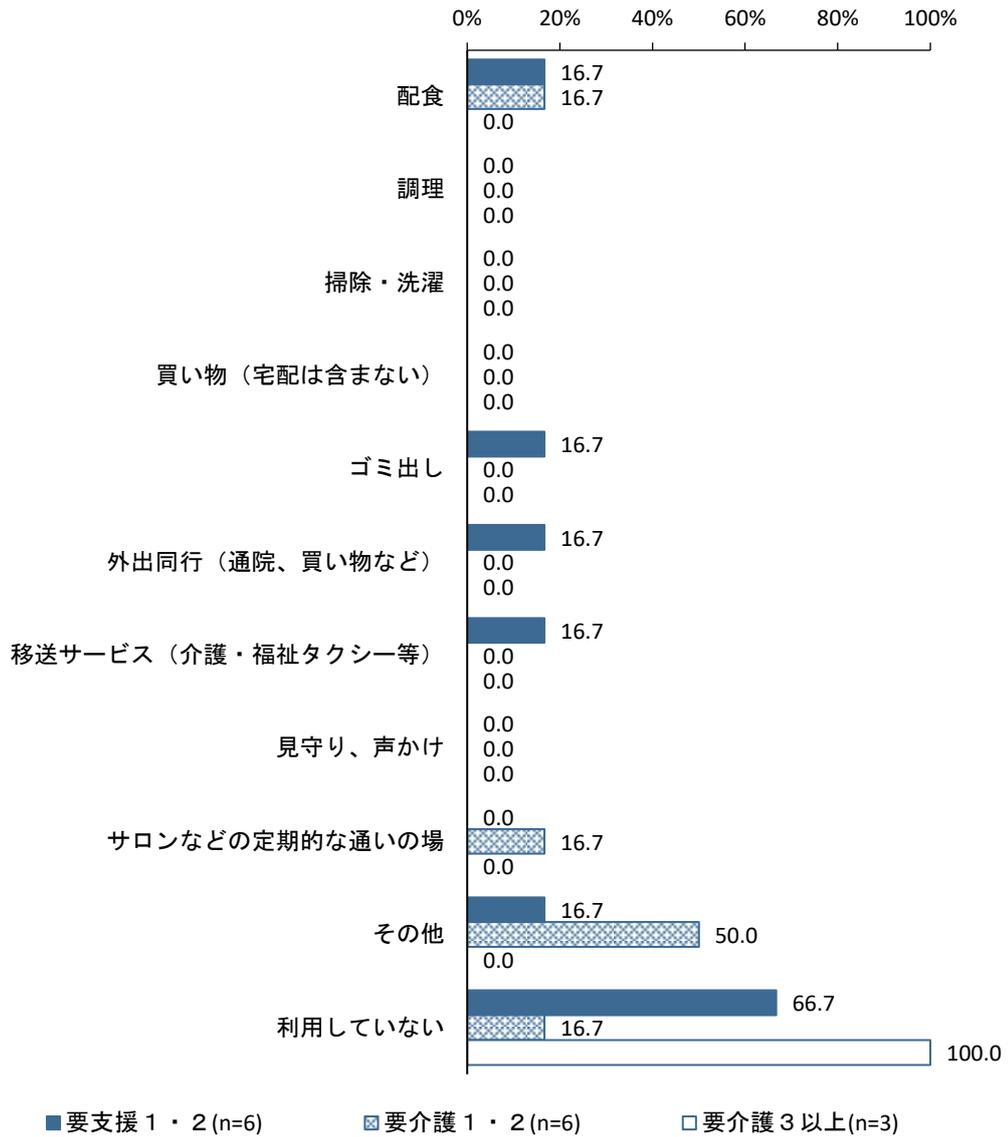
世帯類型別に要介護度別の、保険外の支援・サービスの利用状況を見ると、「単身世帯」では、「利用していない」の割合は、要支援1・2で66.7%、要介護1・2で16.7%、要介護3以上で100.0%でした（図表Ⅱ-3-3-6）。

一方、「夫婦のみ世帯」では、「利用していない」の割合は、いずれの介護度でも8割台で、「その他世帯」では、「利用していない」の割合は、要支援1・2で87.5%、要介護1・2で75.9%、要介護3以上で90.9%となっています（図表Ⅱ-3-3-7、図表Ⅱ-3-3-8）。

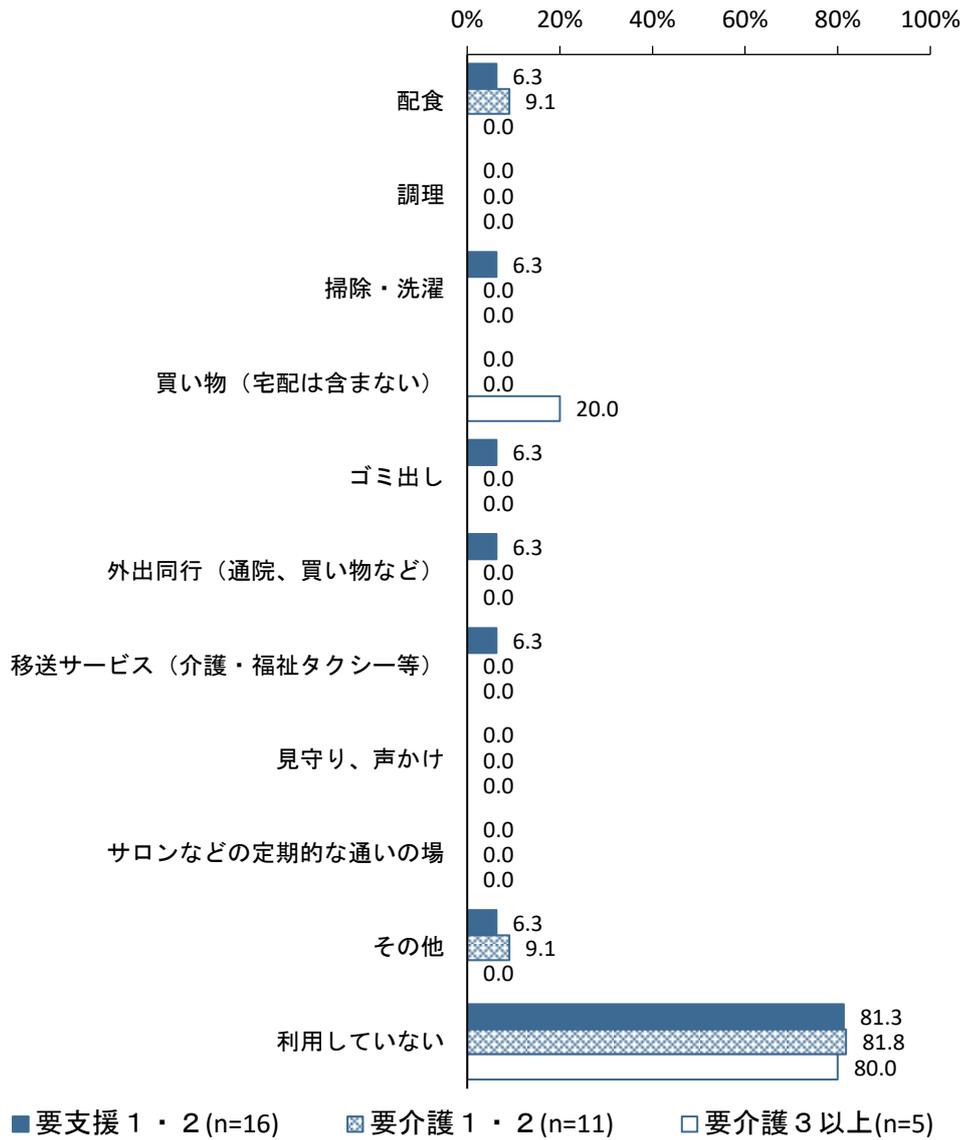
図表Ⅱ-3-3-5 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況



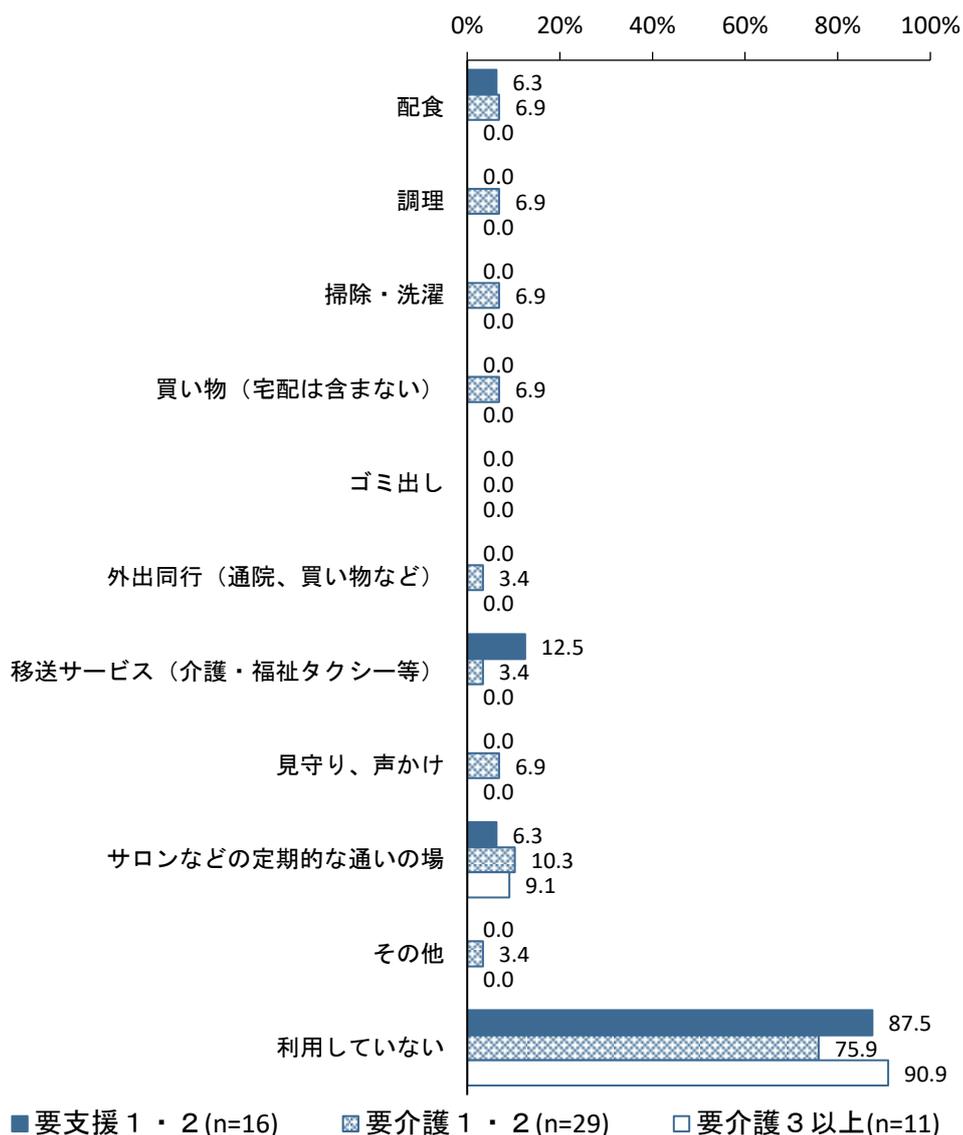
図表Ⅱ-3-3-6 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（単身世帯）



図表Ⅱ-3-3-7 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（夫婦のみ世帯）



図表Ⅱ-3-3-8 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（その他世帯）



(4) 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」

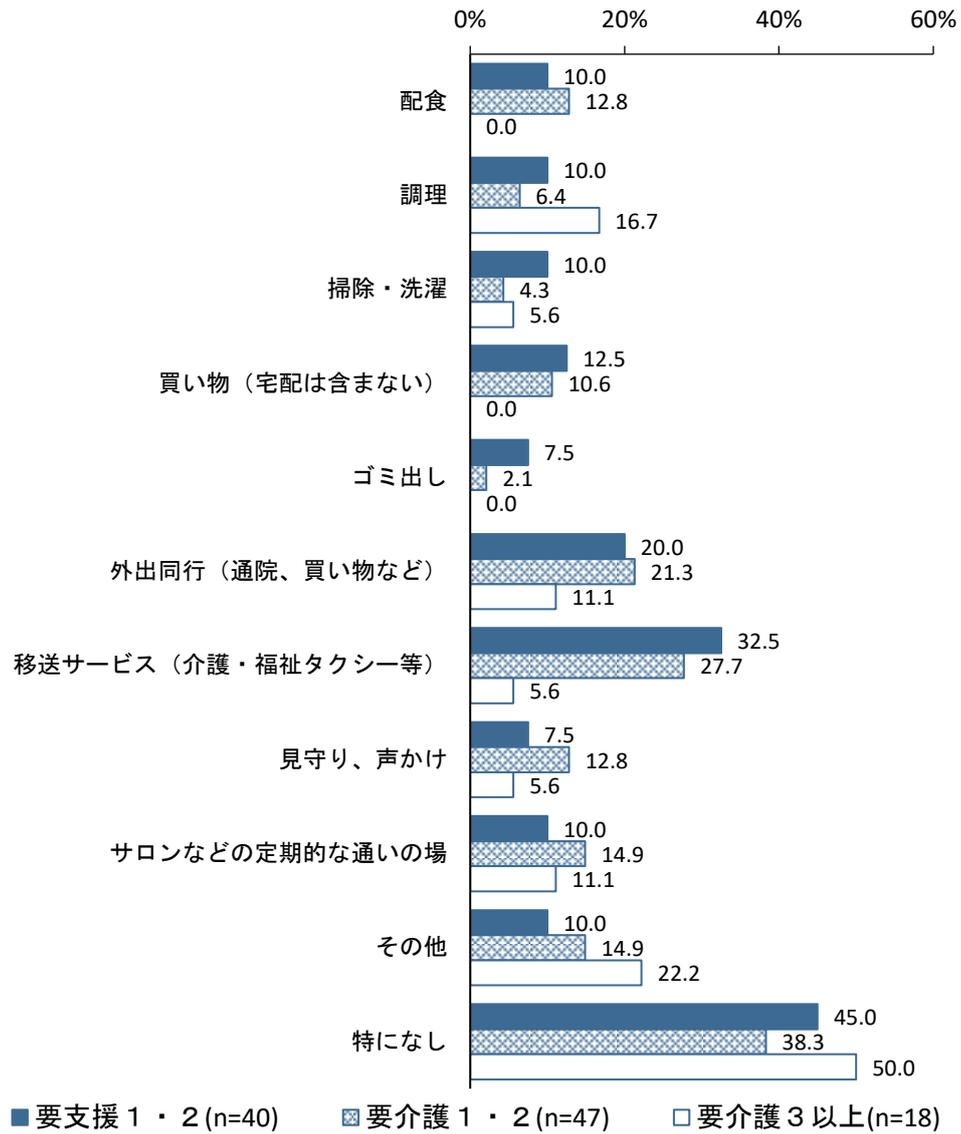
要介護度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスをみると、要介護1・2において「特になし」の割合が最も低いことから、要介護1・2で各種の支援・サービスのニーズが高くなっていることがうかがえます(図表Ⅱ-3-3-9)。これは、単身世帯、その他世帯においても、同様の傾向となっています(図表Ⅱ-3-3-10、図表Ⅱ-3-3-12)。

また、単身世帯において、要支援1・2では「外出同行(通院、買い物など)」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」のニーズが高く、要介護1・2では「見守り、声掛け」、「サロンなどの定期的な通いの場」のニーズが高く、要介護3以上では「調理」、「外出同行(通院、買い物など)」のニーズが高くなっています(図表Ⅱ-3-3-10)。

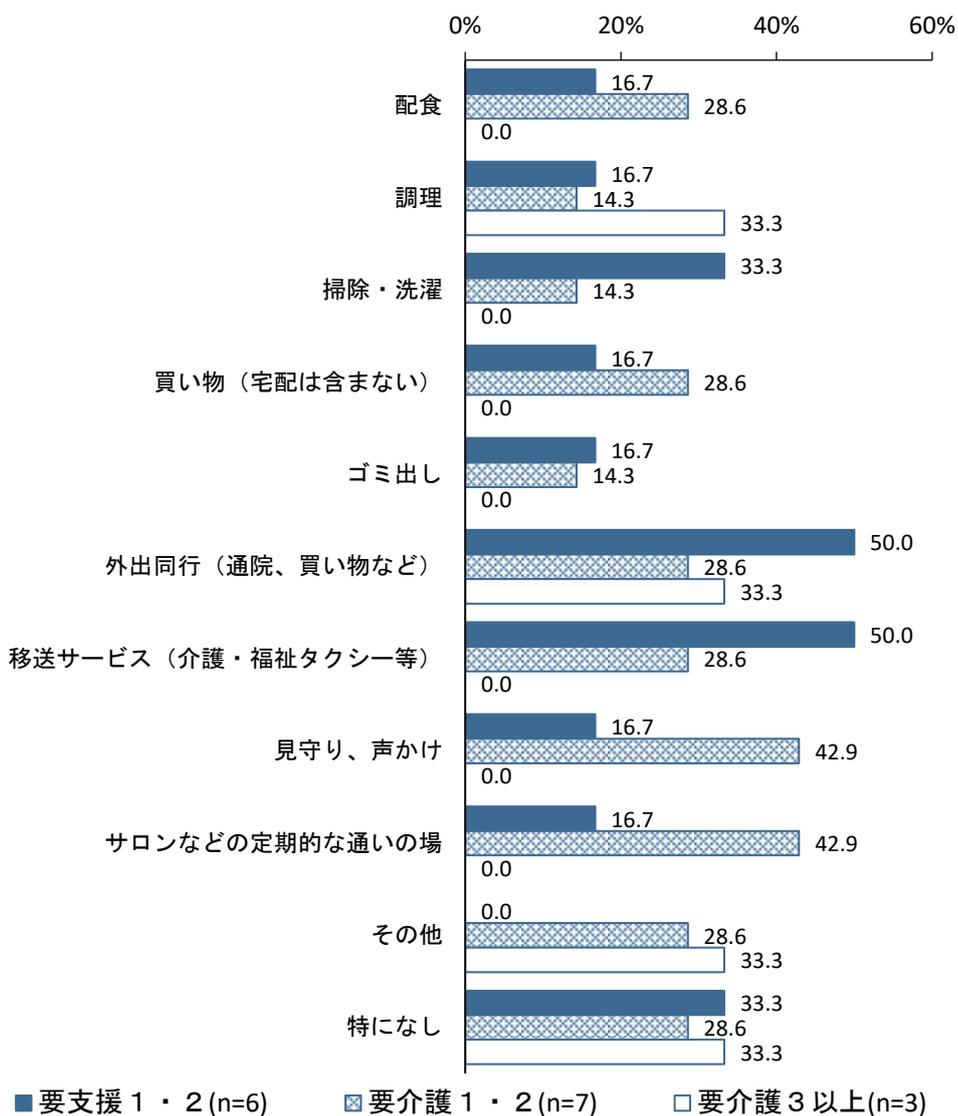
「夫婦のみ世帯」においては、要支援1・2では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」のニーズが高く、要介護1・2では「配食」のニーズが高く、要介護3以上では「調理」のニーズが高くなっています(図表Ⅱ-3-3-11)。

「その他世帯」においては、要支援1・2、要介護1・2ではいずれも「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」のニーズが高く、要介護3以上では「その他」のニーズが高くなっています(図表Ⅱ-3-3-12)。

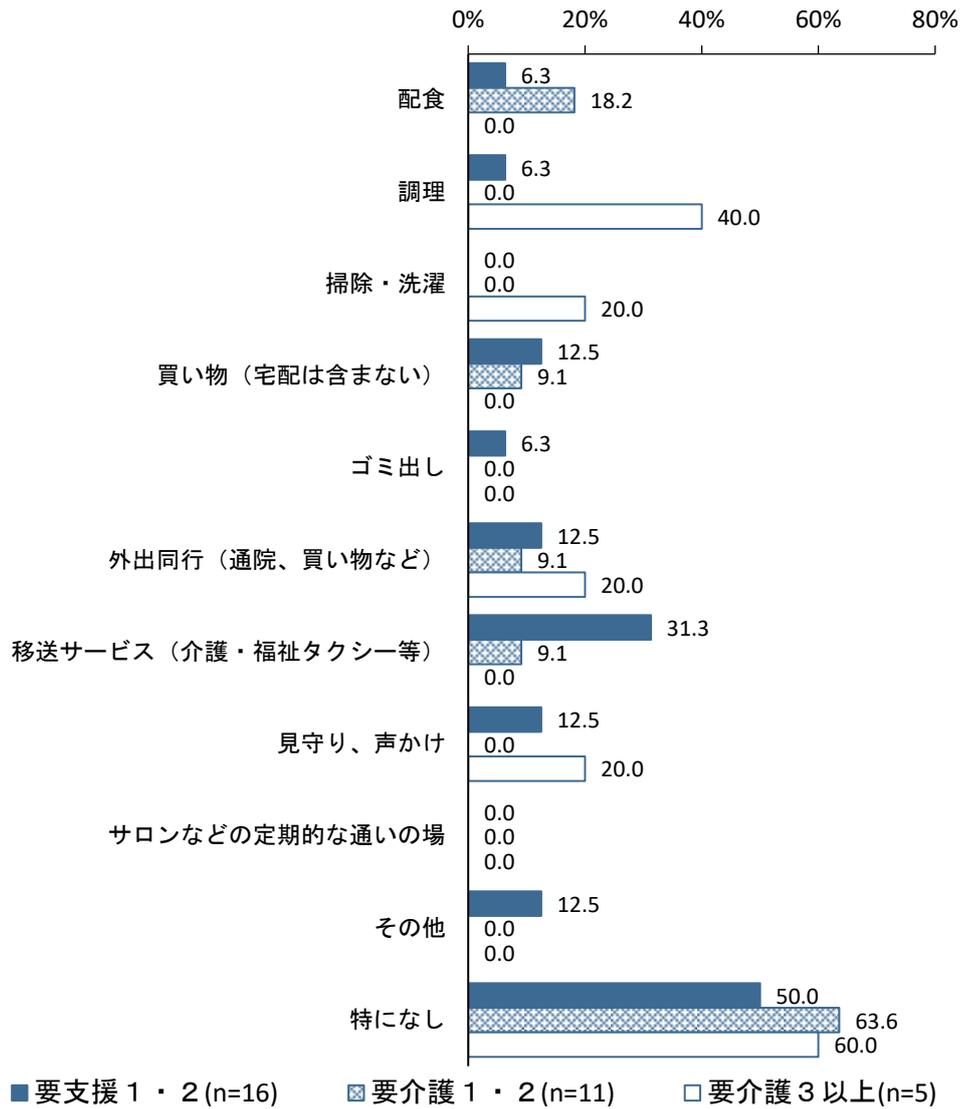
図表Ⅱ-3-3-9 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



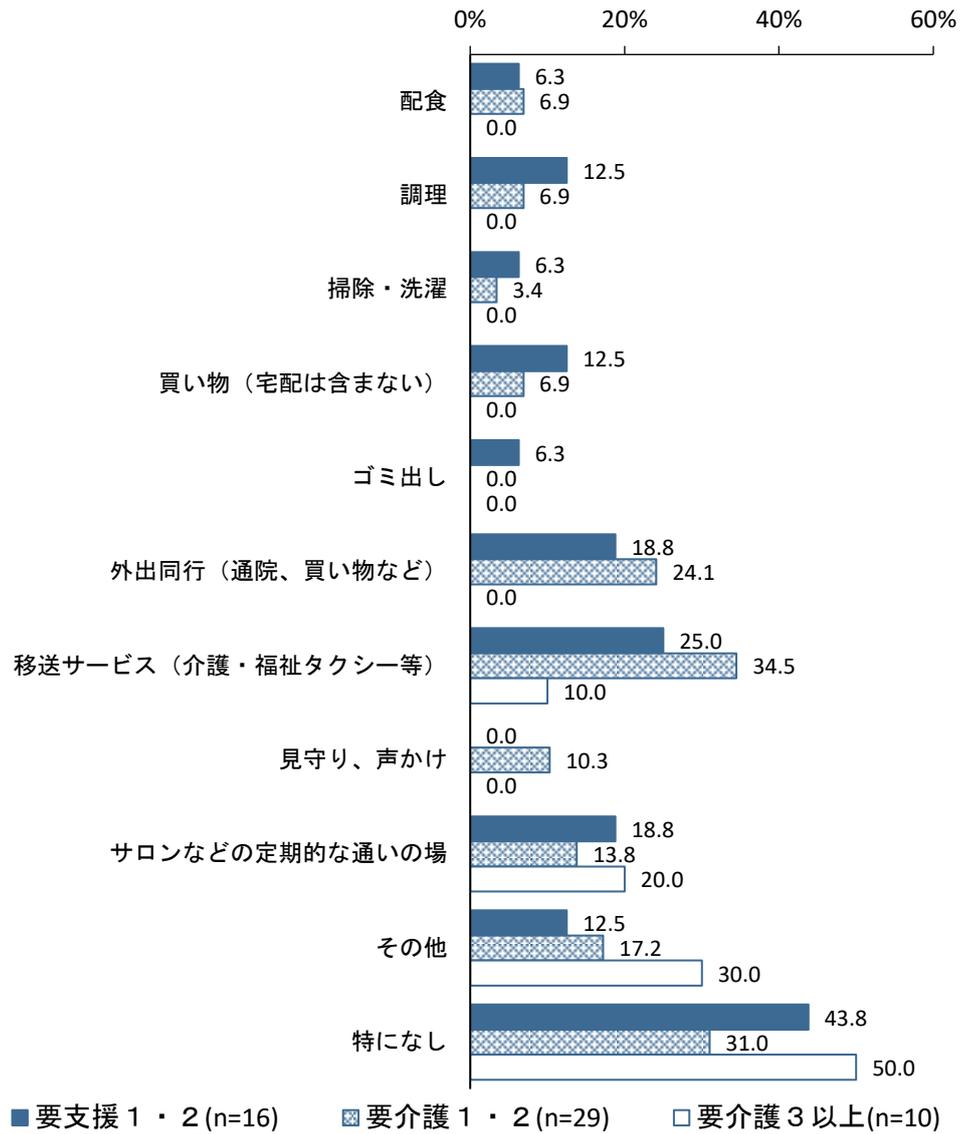
図表Ⅱ-3-3-10 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



図表Ⅱ-3-3-11 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）



図表Ⅱ-3-3-12 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）



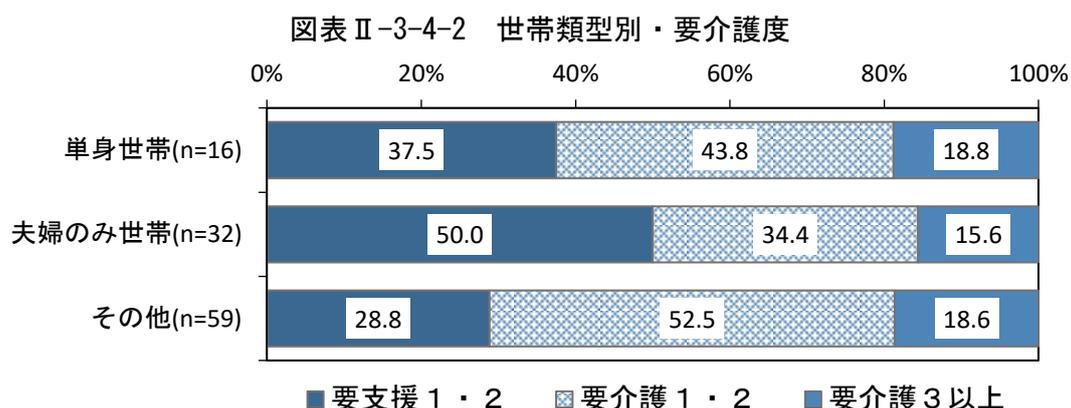
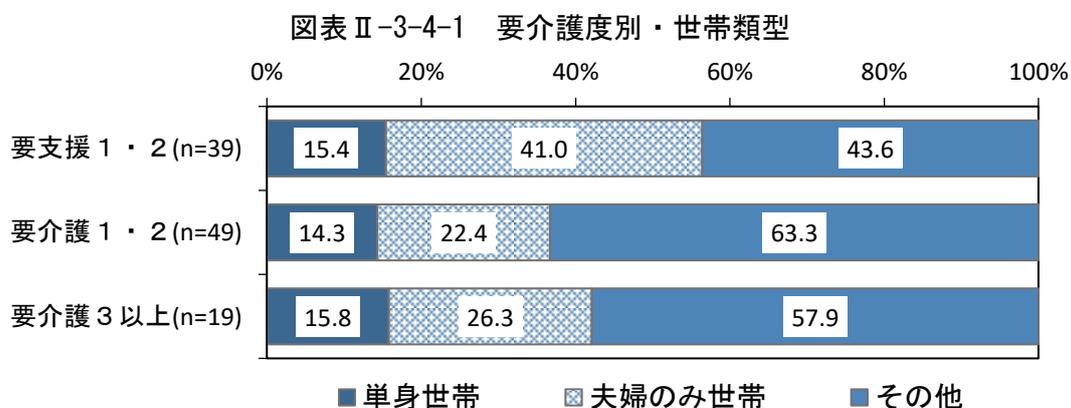
4. 将来の世帯類型の変化に応じた支援

ここでは、在宅限界点の向上のための、将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討につなげるため、特に世帯類型別の「サービス利用の特徴」や「施設等検討の状況」に焦点を当てた集計を行っています。

(1) 基礎集計

要介護度別の世帯類型の割合をみると、要支援1・2に比べて要介護1以上ではその他世帯が高く、夫婦のみ世帯が低くなっており、要介護度3以上の「単身世帯」の割合は15.8%となっています（図表Ⅱ-3-4-1）。

また、世帯類型別の要介護度の割合をみると、単身世帯では「要介護3以上」の割合が18.8%で、夫婦のみ世帯では15.6%、その他世帯では18.6%となっています（図表Ⅱ-3-4-2）。



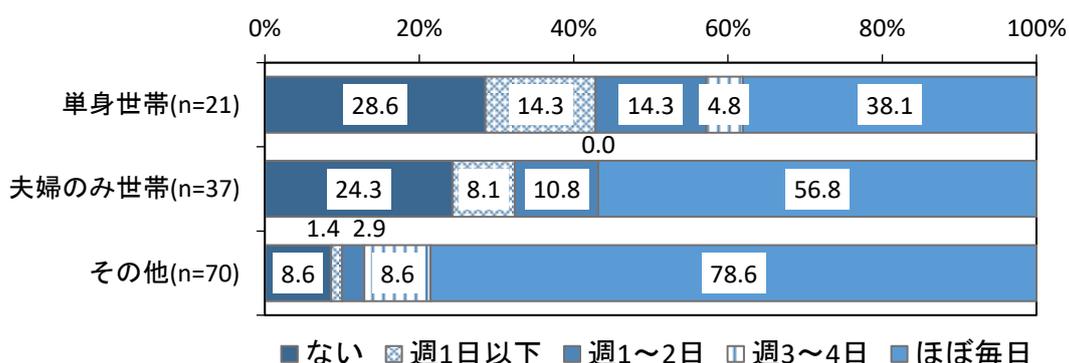
(2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

世帯類型別の家族等による介護の頻度の割合をみると、単身世帯では「ほぼ毎日」が38.1%で最も高く、「ない」は28.6%となっています（図表Ⅱ-3-4-3）。

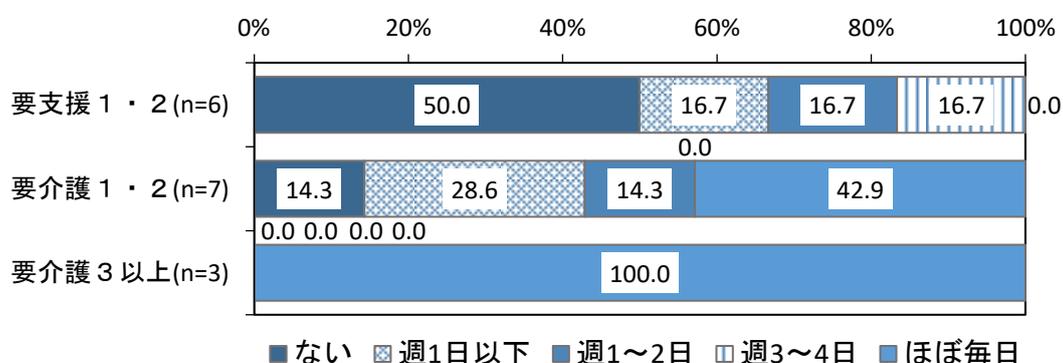
また、単身世帯では、要介護度が上がるにつれて、「ほぼ毎日」の割合が増加していますが、要介護3以上では、家族等による介護の頻度は「ほぼ毎日」が100.0%で、要介護度が重度化しても単身世帯で在宅生活を継続しているケースがみられました（図表Ⅱ-3-4-4）。

夫婦のみ世帯では、「ほぼ毎日」の割合が要介護1・2、要介護3以上で8割台となっており、その他世帯では、要介護度が上がるにつれて、「ほぼ毎日」の割合が増加しています（図表Ⅱ-3-4-5、図表Ⅱ-3-4-6）。

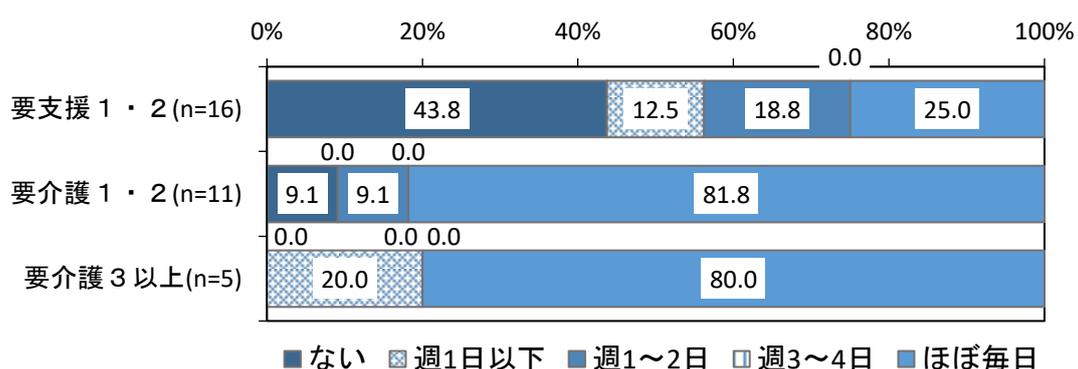
図表Ⅱ-3-4-3 世帯類型別・家族等による介護の頻度



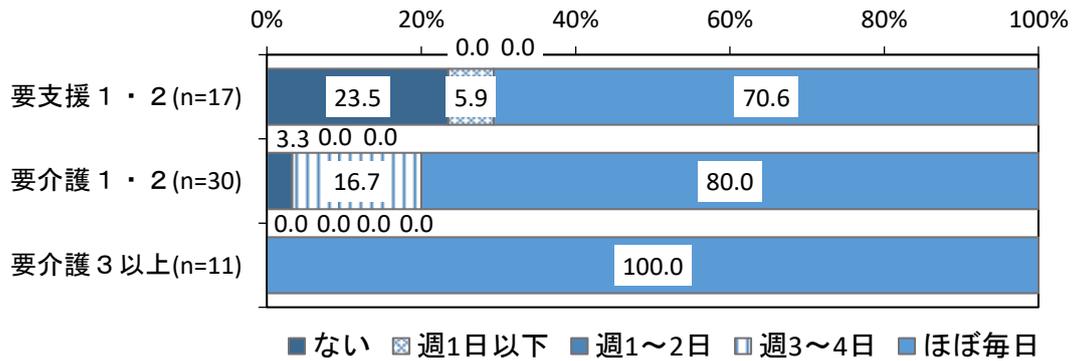
図表Ⅱ-3-4-4 要介護度別・家族等による介護の頻度（単身世帯）



図表Ⅱ-3-4-5 要介護度別・家族等による介護の頻度（夫婦のみ世帯）



図表Ⅱ-3-4-6 要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）



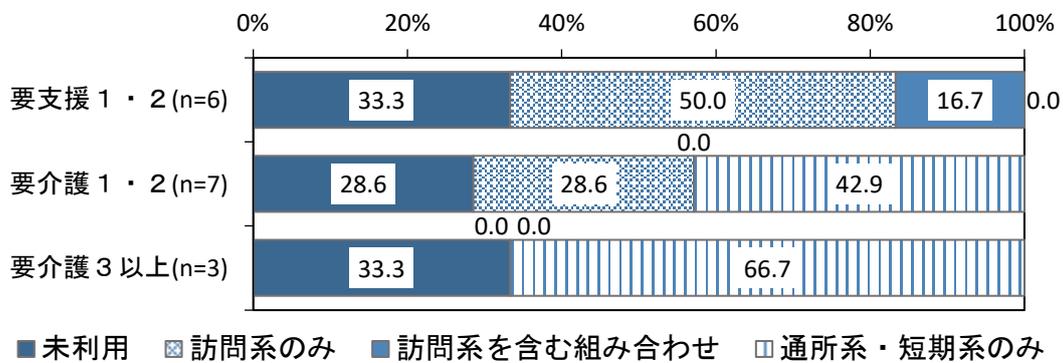
(3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

世帯類型別・要介護度別のサービス利用をみると、単身世帯では、要介護度の重度化に伴い「通所系・短期系のみ」の割合が増加しています（図表Ⅱ-3-4-7）。

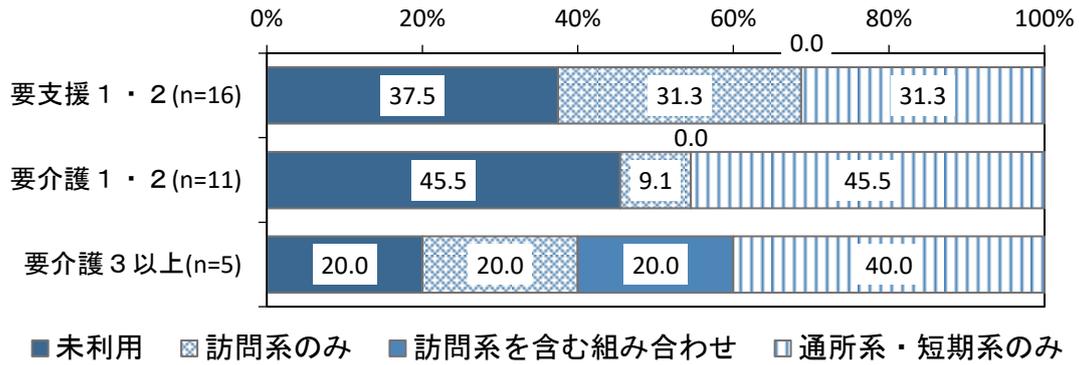
夫婦のみ世帯では、「訪問系を含む組み合わせ」は、要介護3以上の割合が最も高くなっています（図表Ⅱ-3-4-8）。

その他世帯では、要介護度の重度化に伴い、「通所系・短期系のみ」及び訪問系のサービスを利用している割合（「訪問系のみ」と「訪問系を含む組み合わせ」をあわせた割合）が増加しています（図表Ⅱ-3-4-9）。

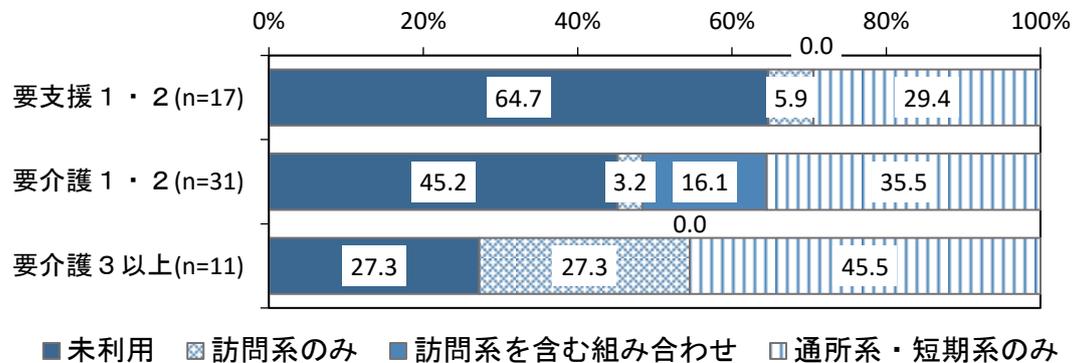
図表Ⅱ-3-4-7 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



図表Ⅱ-3-4-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



図表Ⅱ-3-4-9 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）

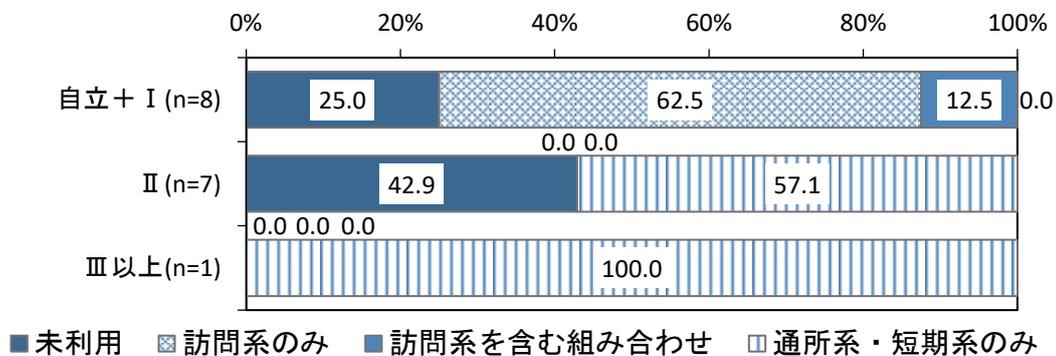


世帯類型別・認知症自立度別のサービス利用をみると、単身世帯では、認知症の重度化に伴い「通所系・短期系のみ」の割合が増加しています（図表Ⅱ-3-4-10）。

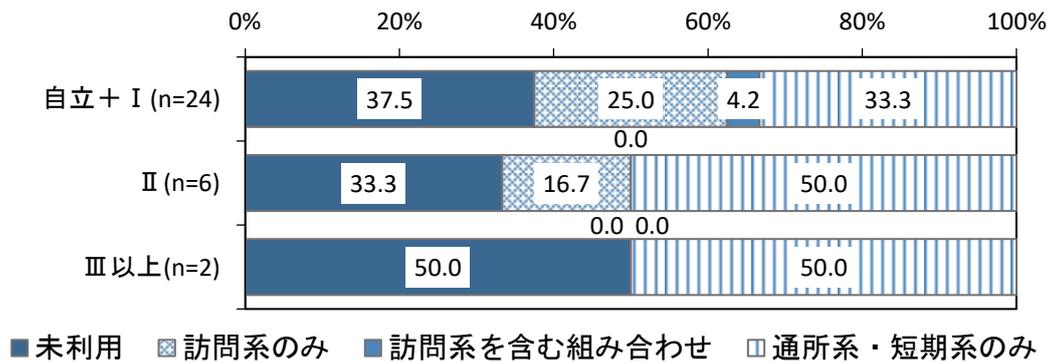
夫婦のみ世帯では、「未利用」の割合が認知症自立度Ⅱにおいては33.3%、認知症自立度Ⅲ以上で50.0%となっています（図表Ⅱ-3-4-11）。

その他世帯では、介護度別と同様、認知症の重度化に伴い、「通所系・短期系のみ」及び訪問系のサービスを利用している割合が増加しています（図表Ⅱ-3-4-12）。

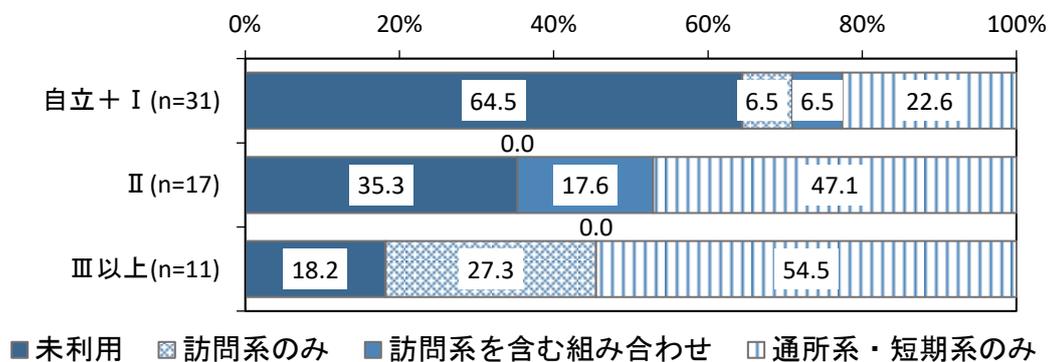
図表Ⅱ-3-4-10 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



図表Ⅱ-3-4-11 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



図表Ⅱ-3-4-12 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



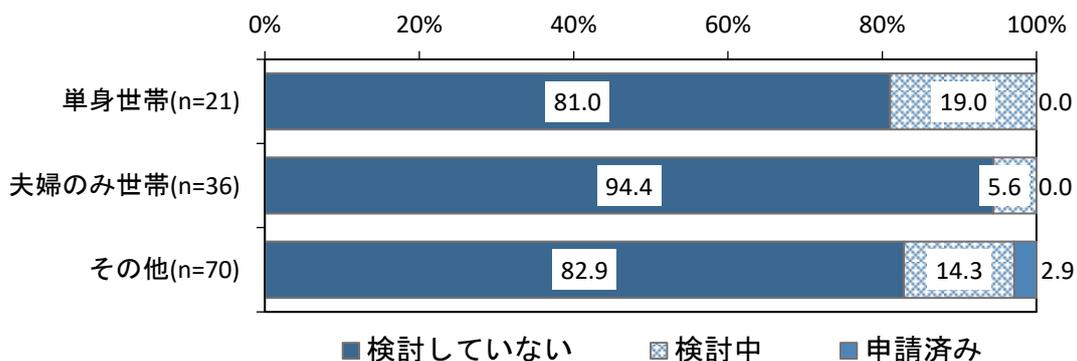
(4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」

世帯類型別の施設等検討の状況をみると、単身世帯では、「検討中」、「申請済み」を合わせた割合が他の世帯類型に比べて高くなっています（図表Ⅱ-3-4-13）。

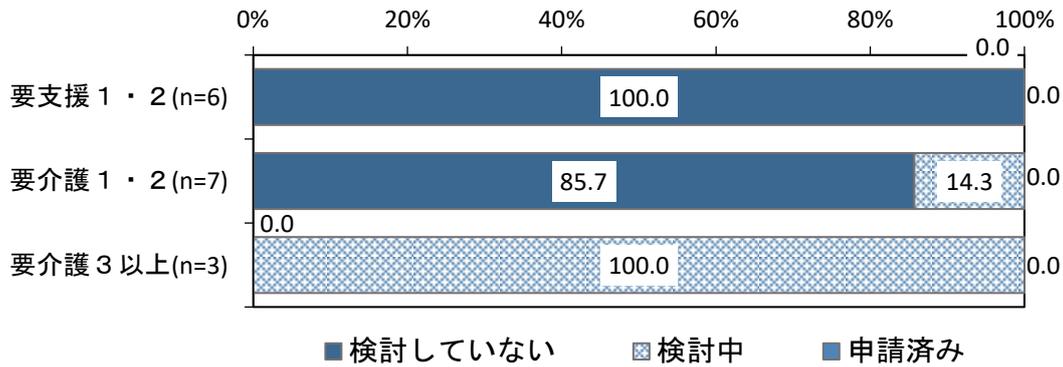
要介護度別・世帯類型別の施設等検討の状況をみると、すべての世帯類型で、要介護の重度化に伴い「検討していない」の割合が減少しています（図表Ⅱ-3-4-14～図表Ⅱ-3-4-16）。

認知症自立度別・世帯類型別の施設等検討の状況をみると、単身世帯とその他世帯では、認知症の重度化に伴い「検討していない」の割合が減少していますが、夫婦のみ世帯では、重度化しても「検討していない」の割合は減少していません（図表Ⅱ-3-4-17～図表Ⅱ-3-4-19）。

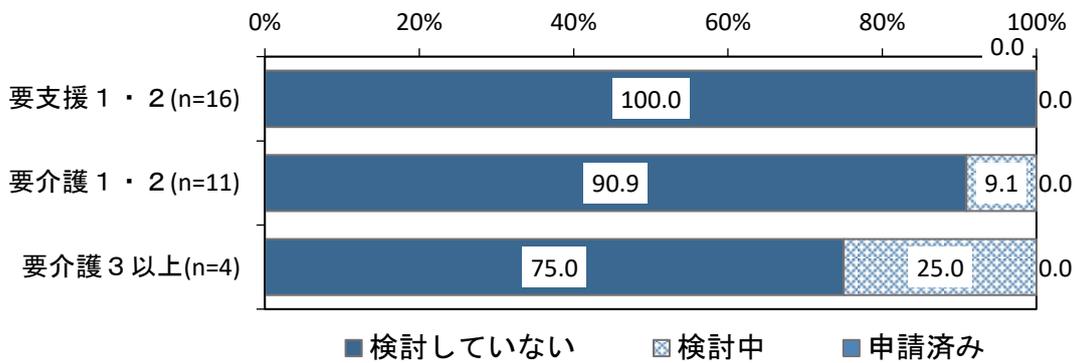
図表Ⅱ-3-4-13 世帯類型別・施設等検討の状況（全要介護度）



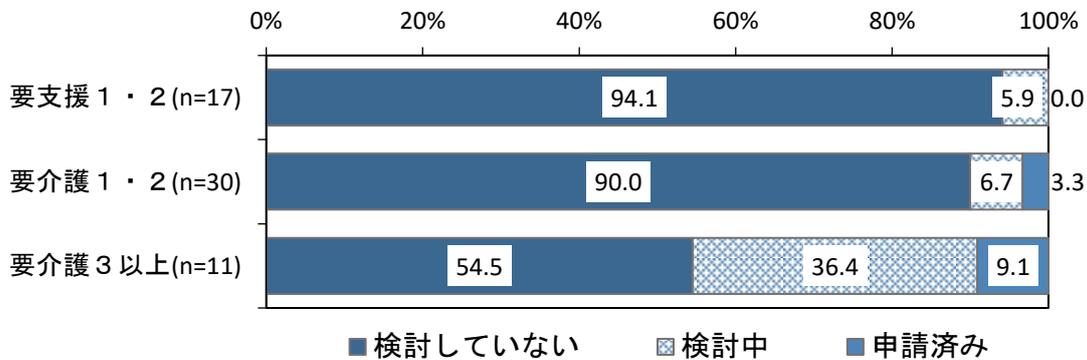
図表Ⅱ-3-4-14 要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）



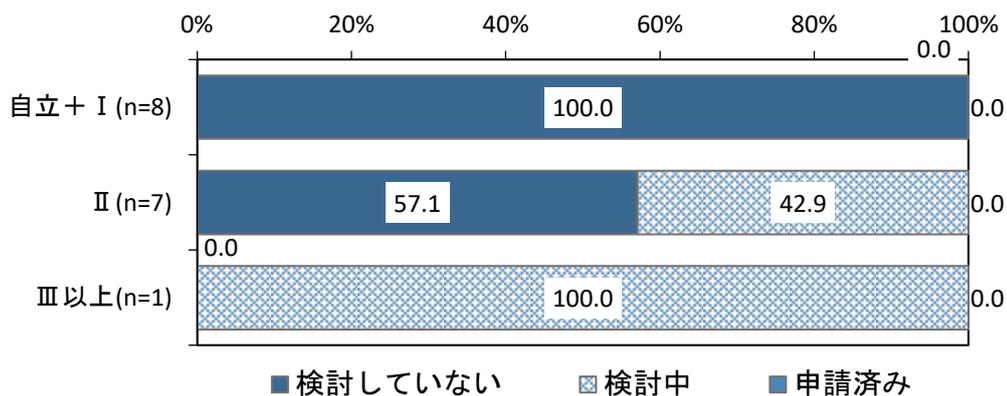
図表Ⅱ-3-4-15 要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



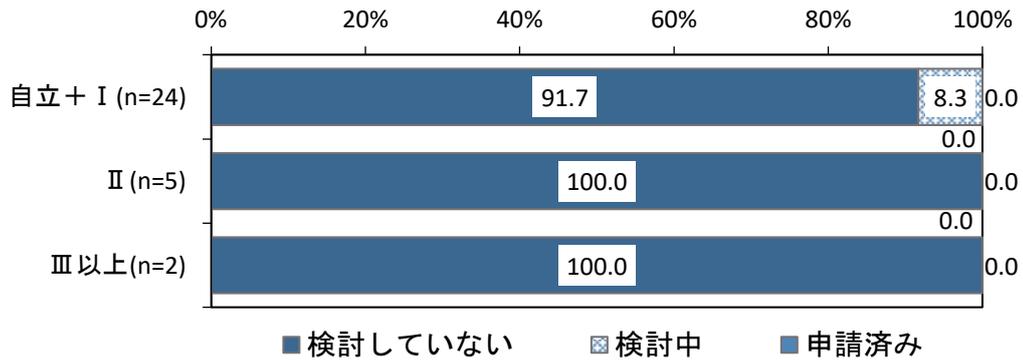
図表Ⅱ-3-4-16 要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）



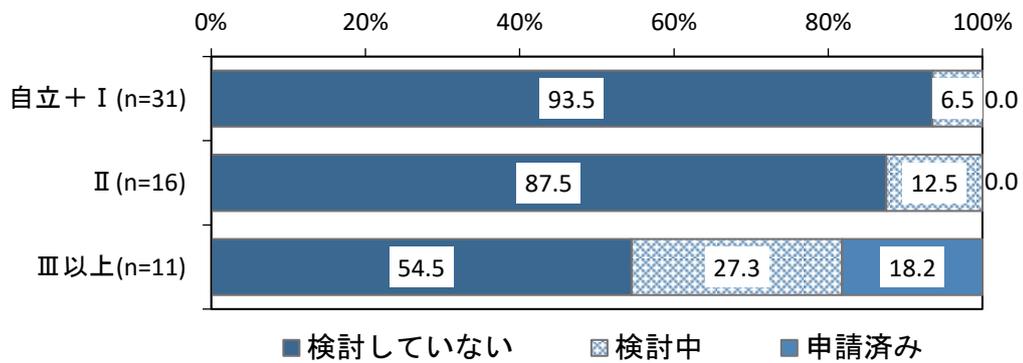
図表Ⅱ-3-4-17 認知症自立度別・施設等検討の状況（単身世帯）



図表Ⅱ-3-4-18 認知症自立度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



図表Ⅱ-3-4-19 認知症自立度別・施設等検討の状況（その他の世帯）



5. 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援

ここでは、医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの検討につなげるための集計を行っています。

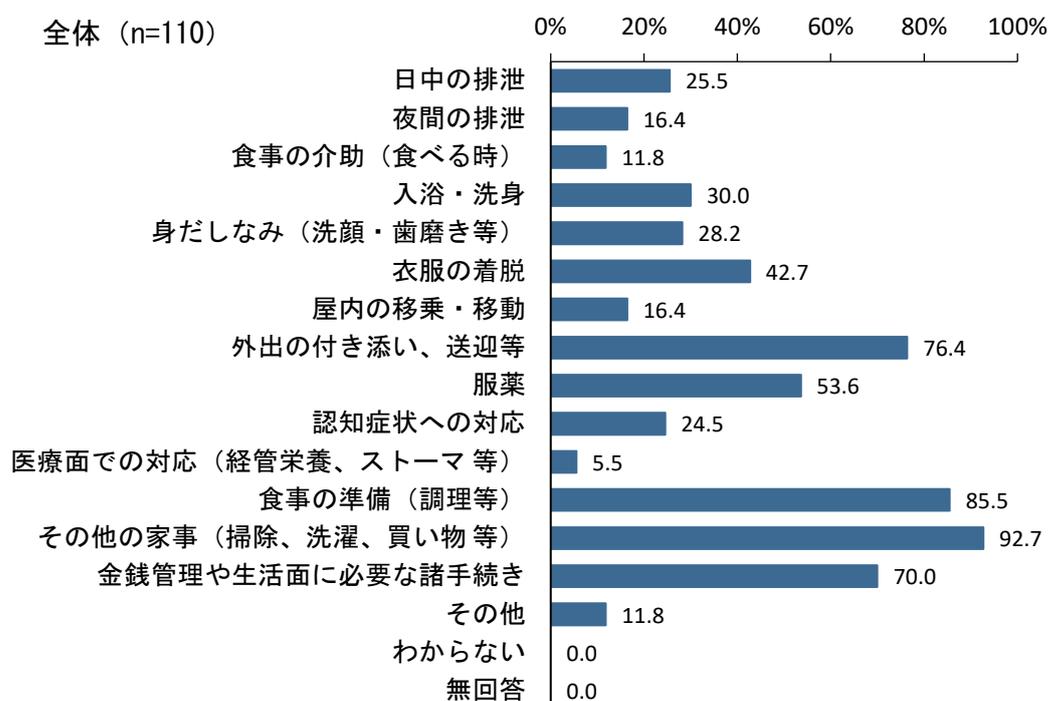
(1) 基礎集計

「主な介護者が行っている介護」をみると、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」は5.5%となっています（図表Ⅱ-3-5-1）。

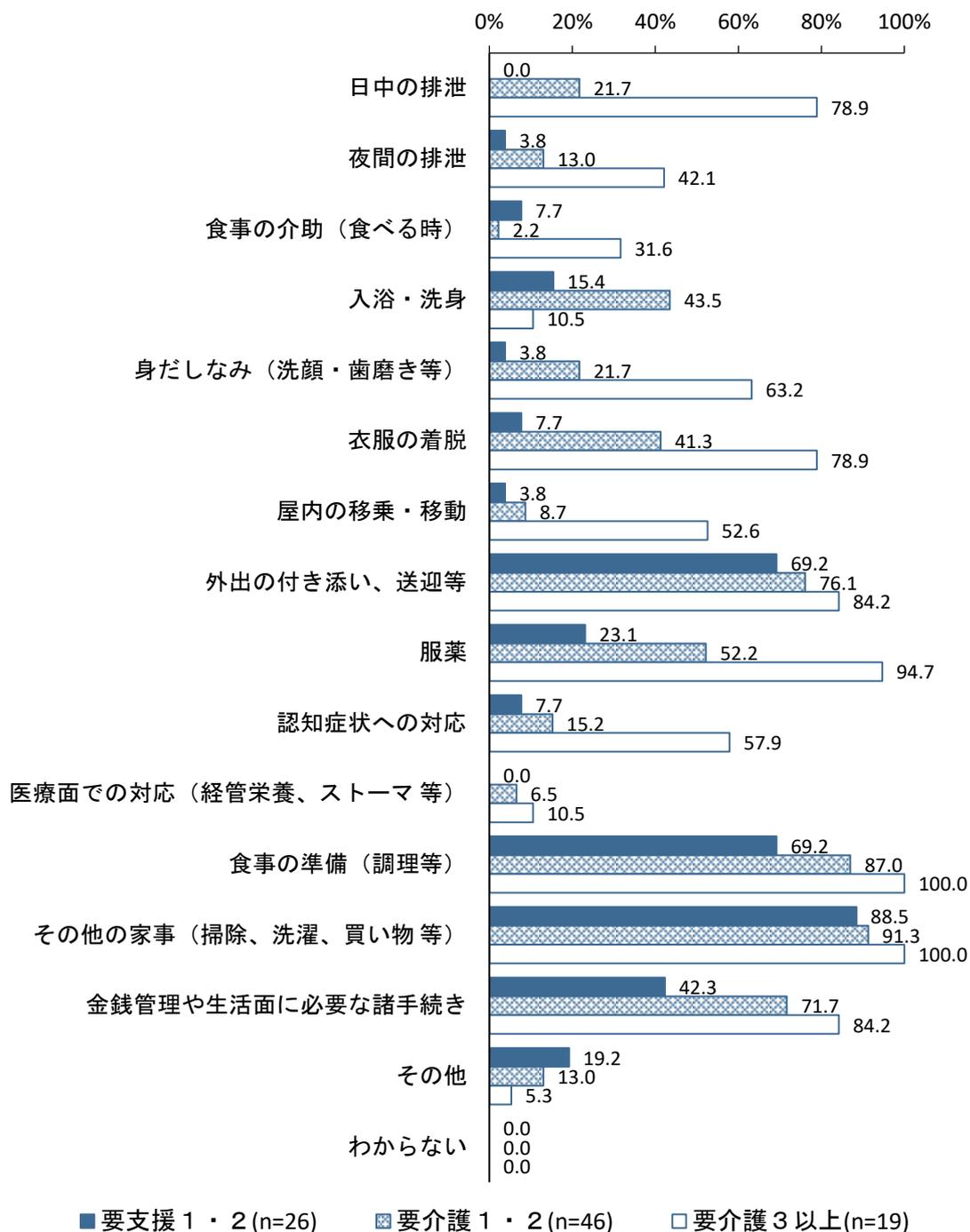
また、要介護度別にみると、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」は、要支援1・2で0.0%、要介護1・2で6.5%、要介護3以上で10.5%となっています（図表Ⅱ-3-5-2）。

なお、要介護3以上について、世帯類型別にみると、主な介護者が「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」を行っている割合は、単身世帯では0.0%、夫婦のみ世帯で20.0%、その他世帯で9.1%となっています（図表Ⅱ-3-5-3）。

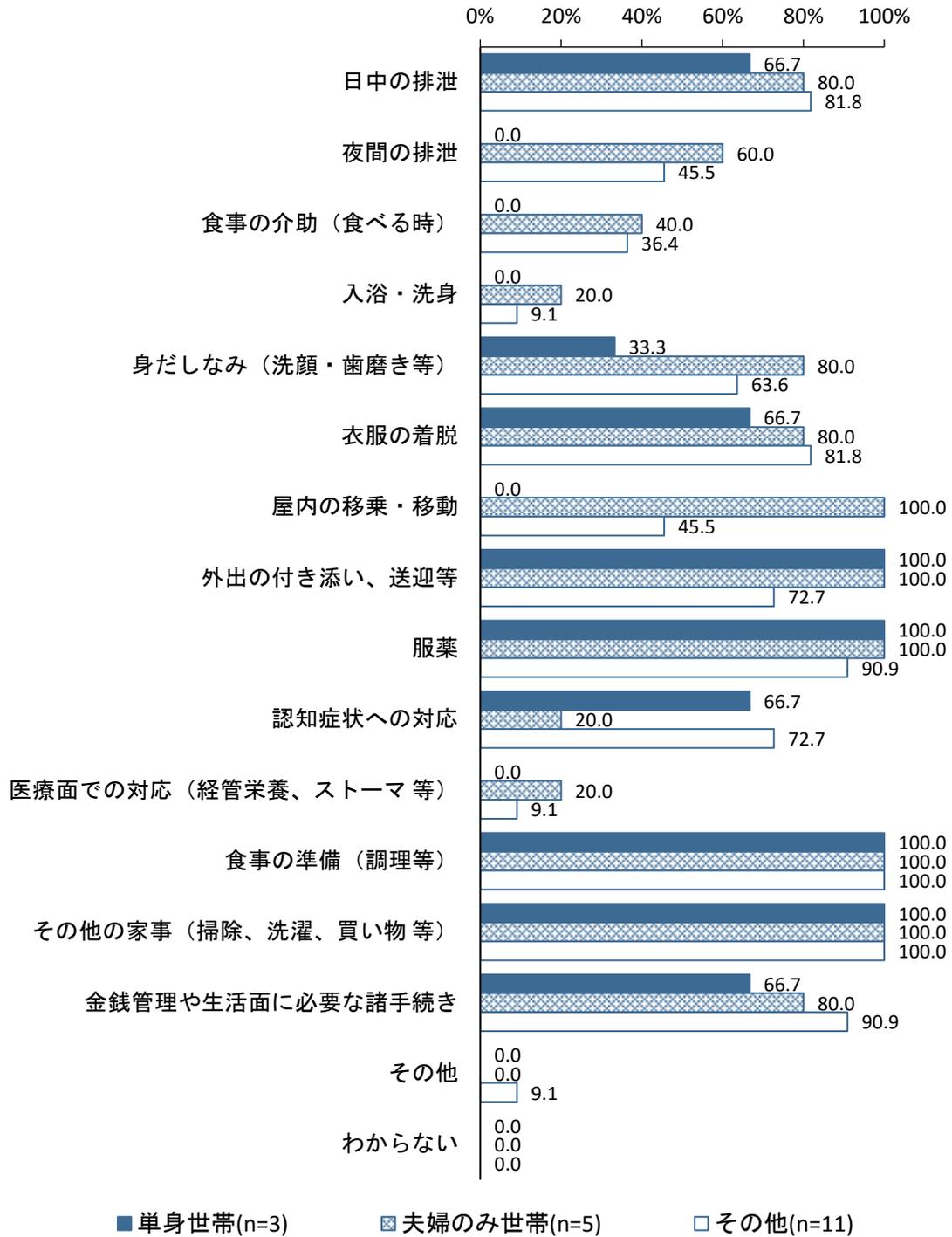
図表Ⅱ-3-5-1 主な介護者が行っている介護



図表Ⅱ-3-5-2 要介護度別・主な介護者が行っている介護



図表Ⅱ-3-5-3 世帯類型別・主な介護者が行っている介護（要介護3以上）



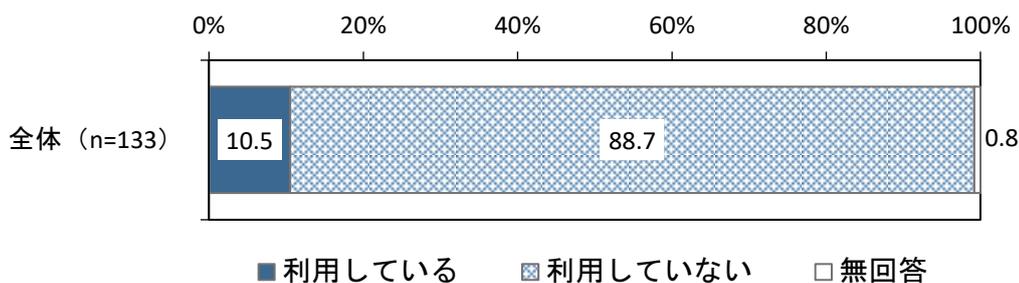
(2) 訪問診療の利用割合

訪問診療の利用の有無をみると、訪問診療の利用割合は 10.5%となっています（図表Ⅱ-3-5-4）。

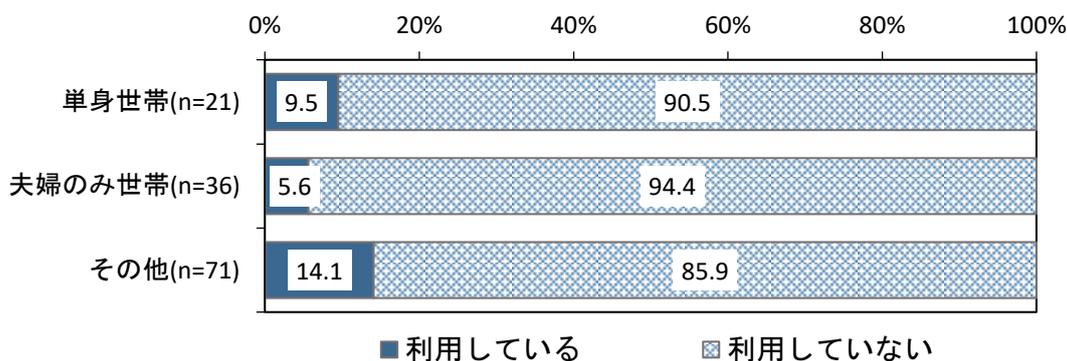
また、世帯類型別の訪問診療の利用割合は、単身世帯で 9.5%、夫婦のみ世帯で 5.6%、その他世帯で 14.1%となっており、夫婦のみ世帯であまり利用されていません（図表Ⅱ-3-5-5）。

さらに、要介護度別の「訪問診療の利用の有無」をみると、要介護5が66.7%で最も高く、要支援1で最も低く0.0%でした（図表Ⅱ-3-5-6）。

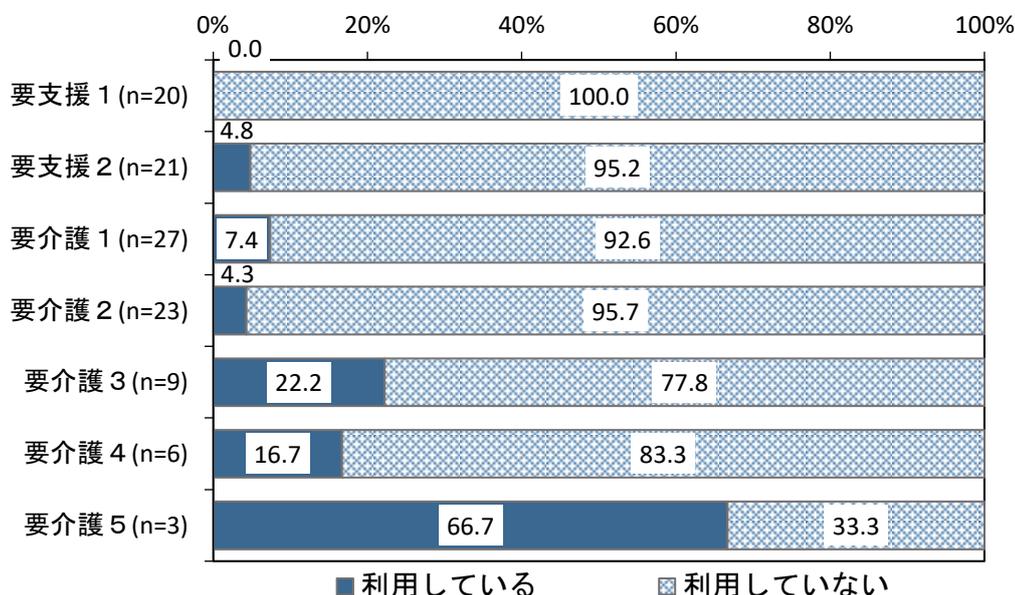
図表Ⅱ-3-5-4 訪問診療の利用の有無



図表Ⅱ-3-5-5 世帯類型別・訪問診療の利用割合



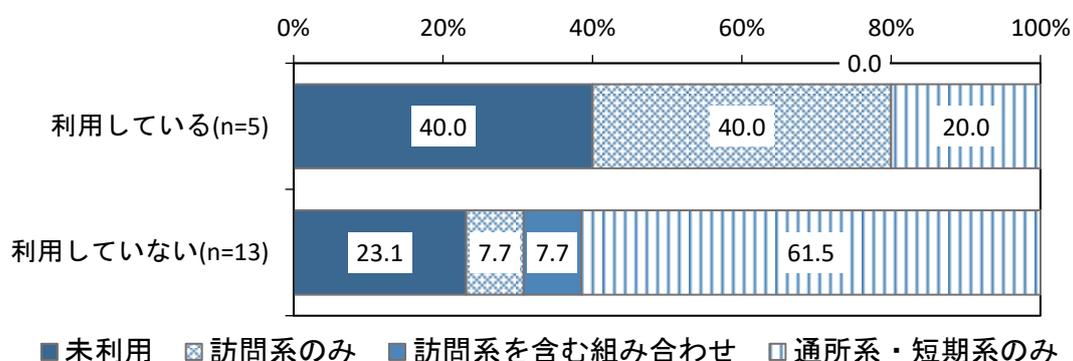
図表Ⅱ-3-5-6 要介護度別・訪問診療の利用割合



(3) 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ

訪問診療の利用の有無別に、要介護3以上のサービス利用の組み合わせをみると、訪問診療ありでは、「通所系・短期系のみ」の割合は20.0%であり、訪問診療なしの61.5%と比較して割合が低くなっています（図表Ⅱ-3-5-7）。

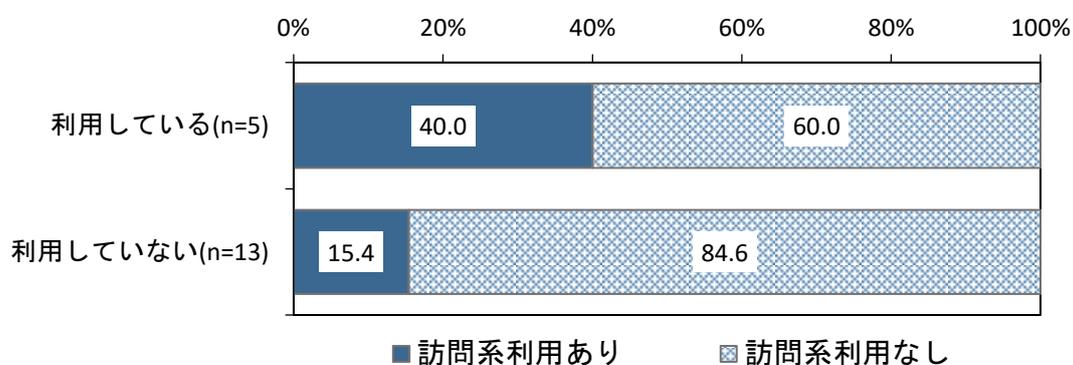
図表Ⅱ-3-5-7 訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）



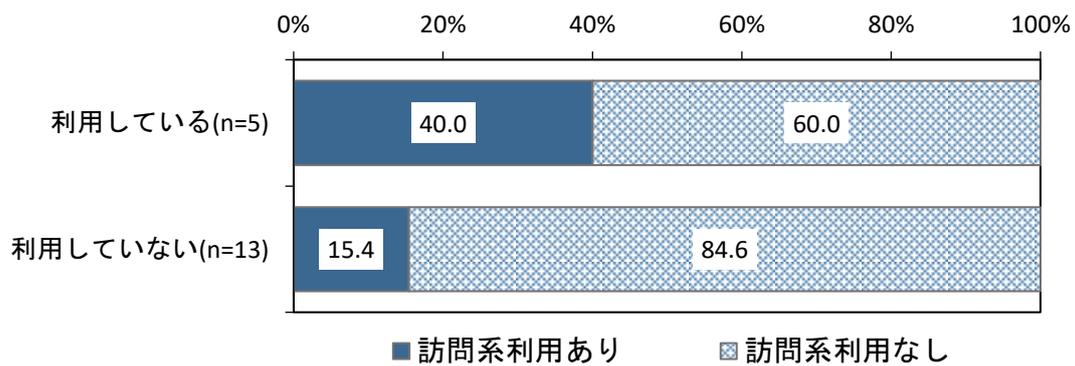
(4) 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無

訪問診療の利用の有無別に、要介護3以上について、訪問系、通所系、短期系のそれぞれの利用割合をみると、訪問診療「利用あり」では、訪問系及び通所系の利用割合が高い一方で、短期系の利用割合は少なくなっています（図表Ⅱ-3-5-8～図表Ⅱ-3-5-10）。

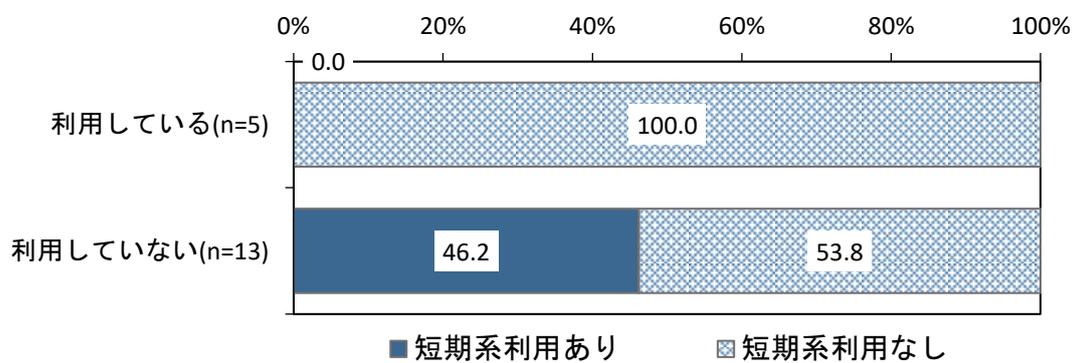
図表Ⅱ-3-5-8 訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系、要介護3以上）



図表Ⅱ-3-5-9 訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（通所系、要介護3以上）



図表Ⅱ-3-5-10 訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無（短期系、要介護3以上）



河南町 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び
在宅介護実態調査結果報告書

令和3（2021）年3月発行

発行：河南町 健康福祉部 高齢障がい福祉課
〒585-0014 大阪府南河内郡
河南町大字白木 1359 番地の6

電話番号：0721-93-2500（121）

ファックス：0721-93-4691

ホームページ：<http://www.town.kanan.osaka.jp/>